

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
俵田敦子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。 ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ③レポートを形式に則って作成できる。 ④グループワークを円滑に実施できる。 ⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。 ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。</p>			
授業の概要	<p>本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、基礎学力の育成、ポートフォリオについて 【Key Word】 建学の精神、学力、授業の受け方、ノートの取り方、ポートフォリオ 【授業概要】 基礎学力とは何か。また、基礎演習 I において建学の精神を基に基礎学力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。 高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を説明する。 【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P15～P28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p> <p>第2回 建学の精神と実践教育プログラム②：グループワーク手法、礼儀・挨拶、身だしなみの実践について 【Key Word】 建学の精神、学力、礼儀、挨拶、身だしなみ、グループワーク 【授業概要】 グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。 【教科書・参考文献】 資料配布 ①次回身だしなみの実践として制服・ケーシー（実習着）を着用するため、グループワークのまとめを行うこと。～P79 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>第3回 建学の精神と実践教育プログラム③：礼儀・挨拶の実践 - 身だしなみ - 【Key Word】 建学の精神、学力、礼儀、挨拶、身だしなみ、実践 【授業概要】 臨床の場を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。 key words: 建学の精神、学力、礼儀、挨拶、身だしなみ、実践 【教科書・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記</p>			

第4回	<p>し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>建学の精神と実践教育プログラム④：図書館の利用、ICTを活用した情報分析について</p> <p>【Key Word】 図書館利用法 情報収集・分析、ICT</p> <p>【授業概要】 図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。さらにICT（情報通信技術）を利用した情報収集・分析について実際におこなってもらおう。</p> <p>【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P57～P79</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する。</p>
第5回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑤：ディズニープロジェクト①事前学習</p> <p>【Key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ</p> <p>【授業概要】 ディズニーといえばその高い「ホスピタリティ」に定評があり、何度も足を運びたくなる場所である。そのホスピタリティはどのように育まれているのか、ディズニーと理学療法・作業療法との共通点について各自で探っていく。まず、事前学習として、各自仮説を立て、それを解く計画をたてる。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ディズニーアカデミー参加までにグループを作り、行動計画書を提出すること。提出期限は後日掲示する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム①：グループワーク手法、レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて</p> <p>【key Word】 レポートの書き方 個人情報 情報モラル</p> <p>【授業概要】 レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱い、また情報モラルについて個別的事例を挙げ学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『知のナビゲーター』P83～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回までに図書館及び大学HPから文献を検索し、各自1点以上の文献を印刷し、次回持参すること。文献は原著論文のみとする。文献検索のテーマは自由とする。 ②情報化社会における情報の取り扱いに関する問題点を二つ以上考えてくる。 ③ポートフォリオを作成する。</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム②：レポートの書き方②</p> <p>【key Word】 学士力、レポートの書き方 文献検索</p> <p>【授業概要】 各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。それをもとに、各自に事前に提出したレポートを振り返り、改善点を見出す。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『知のナビゲーター』P71～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第8回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑥：ディズニープロジェクト②</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル</p> <p>【授業概要】 東京ディズニーアカデミーにてセミナープログラム受講し、ディズニーにおけるホスピタリティについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第9回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑦：ディズニープロジェクト③</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル</p> <p>【授業概要】 事前に各自で立てた仮説をグループで検証するため、東京ディズニーシーにて視察を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回発表までに、各グループで発表用レジュメ（A4用紙1枚、パワーポイントのスライド9枚以内）を作成し提出する。 ②次回発表5分、質疑応答2分とする。各グループで発表の練習をしておくこと。 ③ポートフォリオを作成する。</p>
第10回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑧：ディズニープロジェクト④発表</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル、発表</p> <p>【授業概要】 仮説の検証結果をまとめ、発表する。また、各グループの発表を聞き、ホスピタリティ、コミュニケーションについての理解を深める。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第11回	<p>①グループ発表をもとに、各自でレポートを作成し、ポートフォリオの最終ページにファイリングし、提出する。レポートの記載方法については、授業および採点基準を参考にすること。提出日は後日掲示する。</p> <p>学士力育成プログラム③：レポートの書き方③</p> <p>【key Word】 学士力、レポートの書き方 文献検索</p> <p>【授業概要】 ディズニージャー研修のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。</p> <p>【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P71～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第12回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑨：個人情報保護について①</p> <p>【key Word】 学士力、個人情報保護、グループワーク</p> <p>【授業概要】 医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、グループワークにより個人情報保護について情報収集を行い、それらを統合し自らの解釈を行う。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回発表までに、発表用レジュメ（A4用紙1枚、パワーポイントのスライド9枚以内）を作成し、事前に提出する。提出期限は掲示する。</p>
第13回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑩：個人情報保護について②</p> <p>【key Word】 学士力、個人情報保護、発表</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、それぞれのグループでの個人情報の定義、またその扱いについて学ぶ。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第14回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑪：礼儀・挨拶・環境美化について①</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、環境美化、感染症予防、標準予防策、グループワーク</p> <p>【授業概要】 学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰も理解しているが、臨床場面（病院での環境衛生）においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回の「挨拶・礼儀、環境美化について」の発表用レジュメ（A4用紙2枚 パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日掲示する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑫：礼儀・挨拶・環境美化について②</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、環境美化、感染症予防、標準予防策、発表</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、礼儀・挨拶・環境美化の重要性を学び、自己を振り返り、今後の学生生活に活かしていく。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①1年を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。 ②ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。</p> <p>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ④内容が類似した課題は受け付けられないため、自己の努力で作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。
オフィスアワー	月曜日 16:30～17:00
評価方法	<p>レポート30% 発表30% ポートフォリオ40%</p> <p><レポート採点基準></p> <p>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点） 必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点） ②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点）</p>

	<p>③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点）</p> <p>④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点）</p> <p>⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点）</p> <p>⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点）</p> <p><発表評価基準></p> <p>①声の大きさ・明瞭度：聞きやすいこの大きさと明瞭度で発表できた（3点）</p> <p>②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点）</p> <p>③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点）</p> <p>④時間：4分30秒以上5分以内（5点） 4分以上4分30秒以内（3点） 4分未満、5分以上（1点）</p> <p>⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点） 所々不十分（3点） 不十分（1点）</p> <p><ポートフォリオ評価基準></p> <p>①ポートフォリオの基本事項が守られている</p> <p>1)全ての資料に日付が記載されている（5点）</p> <p>2)日付順にファイリングしてある（5点）</p> <p>3)全ての資料に出典が記載されている（5点）</p> <p>4)全ての資料に考察が書かれている（10点）</p> <p>②資料</p> <p>1)各階の全ての配布資料がファイリングされている（5点）</p> <p>2)自ら収集した資料がファイリングされている（10点）</p>
教科書	<p>基礎演習テキスト</p> <p>智へのステップ</p> <p>学生生活GUIDE</p>
参考書	<p>授業内で適宜紹介する。</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>効果的な教育方法について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。 ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。 ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。</p>
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。	◎			
②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。		◎		○
③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。		◎		○
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度 学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア・学士力とボランティアの関わりについて説明する。 ①目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明と記入 ②ボランティアの種類及び参加方法の説明 ③ボランティアに臨む姿勢や態度について考える 「学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア」</p> <p>[課題] ①目標シートを完成させて提出する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>		
	第2回	<p>車椅子体験 3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。 車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。 「車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク」</p> <p>[課題] ①次回のグループ発表用のレジュメ (A4用紙1枚) を指定した期日までに提出すること。詳細は後日掲示します。 ②ポートフォリオを作成する。</p>		
	第3回	<p>車椅子体験まとめ 車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有す</p>		

	<p>る。それをもとに、正しい・安全な車椅子の使用方法・介助方法を学ぶ。 「車椅子、介助者、心理・精神、発表」</p>
第4回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ボランティア講和 上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、またボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。 「ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア」</p>
第5回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。 前期の振り返り 前期に参加したボランティアについて、ポートフォリオをもとに振り返り、自分が体験したこと、学んだことについて2分間スピーチを行う。 また、夏季休暇中のボランティア活動計画を立案する 「2分間スピーチ、発表、活動計画」</p>
第6回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②夏季休暇中のボランティア活動については、活動報告書・ポートフォリオを随時記入・作成し、後期開始後に提出すること。 クリスマス会の企画 上級生から昨年度のクリスマス会の内容・様子、反省点について話を聞き、今年度のクリスマス会の内容を検討する。ボランティア委員を中心に、各専攻での企画・担当を考える。 「企画、運営」</p>
第7回	<p>[課題] ①夏季休暇中に参加したボランティア活動を踏まえて、後期のボランティア活動計画を立案する。 ②夏季休暇中に参加したボランティア活動を含めた前期の活動について、各自中間振り返り票に記入する。 ③中間振り返り票を記入した日付の所にファイリングし、ポートフォリオを提出する。 クリスマス会の企画、内容の検討 ボランティア委員を中心に、各専攻で企画を考え、クリスマス会の内容・流れを決める。 「企画、構成、グループワーク」</p>
第8回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担 クリスマス会について事前・当日の役割分担を行う。当日までのスケジュールを決め、各担当で行動計画を立てる。 「企画、役割分担、グループワーク」</p>
第9回	<p>[課題] ①各専攻の企画及び全体の企画書（予算案を含む）を作成し、提出する。 ②ポートフォリオを作成する。 ③企画書が受理され、予算が配布されてから、各グループで準備を開始すること。 ④広報担当はクリスマス会のチラシ・ポスターを作製し、広報活動を行う。詳細は後日説明する。 クリスマス会予演会① 各専攻で準備した企画を実施する。他専攻の企画に参加し、気づいたことや注意点を伝え、改善点を共有する。各企画及び全体の流れについて、次回までの修正点を確認する。</p>
第10回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 クリスマス会予演会② 前回の反省を踏まえ、クリスマス会を模擬的に実施する。各企画、全体の流れ、役割分担について再確認する。</p>
第11回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会前日に全ての準備を終了すること。 クリスマス会 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。 「地域交流、コミュニケーション、企画運営」</p>
第12回	<p>クリスマス会 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。 「地域交流、コミュニケーション、企画運営」</p>
第13回	<p>[課題] ①クリスマス会における担当の企画および全体について、良くできた点・反省点とその改善策について、各自でまとめておく。 ②ポートフォリオを作成する。 クリスマス会の振り返り、まとめ クリスマス会の取り組みを通して良くできた点、反省点とその改善策を各専攻で話し合い、まと</p>

	<p>め、両専攻で共有する。 「振り返り、改善策」</p> <p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。</p> <p>第14回 1年の振り返り（コミュニケーション、対人） 1年間のボランティア活動を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。 次回のグループ作成、課題を提示します。 「2分間スピーチ、発表」</p> <p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ボランティア活動のまとめ（自己分析・他者評価） グループ内で車椅子の介助を行う。1年間のボランティア活動で学んだことをもとに、対象者への対応、車椅子の操作を実践し、自己分析、他者評価を行う。 「自己分析、他者評価、介助技術、配慮」</p> <p>[課題] ①1年間のボランティア活動の経験を振り返って、成長報告書を記載し、ポートフォリオにファイリングする。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意すること。</p> <p>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめていきます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。 依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	月曜日 16:30～17:00
評価方法	<p>ポートフォリオ70% ボランティア参加状況18% 授業内発表12%</p> <p><ポートフォリオ採点基準></p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点） ②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点） ③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点） ④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点） ⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やかに提出できている（12点）</p> <p><ボランティア参加状況評価基準></p> <p>①年間6回以上の依頼ボランティア・継続ボランティアに参加（18点）</p> <p><授業内発表評価基準></p> <p>①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点） ②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点） 所々不十分（3点） 不十分（1点） ③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点） ④時間：1分45秒以上2分以内（3点） 1分30秒以上1分45秒以内（2点） 1分30秒以内、2分以上（0点）</p>
教科書	ボランティアハンドブック
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
野口直人・古田常人			
		作業療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造-機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ① 体の運動の要素を理解できるようになるために、骨関節についての解剖・生理を復習する。 ② 人体の運動の要素を理解できるようになるために骨格筋・神経系についての解剖・生理を復習する。 ③ 物理学、特に力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できるようになる。 ④ 上肢の運動を分析できるようになるため、肩甲帯と肩関節、肘関節と前腕、手</p>
授業の概要	<p>作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。それをもとに、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎に学ぶ。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①運動学の基盤となる生体力学について説明することができる。	◎	○	○	
②運動器の構造と機能について説明することができる。	◎	○	○	
③上肢・下肢・頭頸部・体幹の各部位の構造と運動、筋の作用について説明することができる。	◎	○	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/物理学・力学の基礎 物理学と工学からの概念(スカラー量、ベクトル量など)、ベクトルの合成授業内で資料を配布。 参考書：望月 久、棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社復習し、ベクトルの合成、分解、計算などでできるようになっておくこと。</p> <p>第2回 身体における物理・力学の視点 身体における関節、筋の働きに関して、物理学・力学的に表現、理解する。授業内で資料を配布。 教科書①：pp61-87 参考書：望月 久、棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社復習し、身体における物理学・力学的表現ができるようになること。</p> <p>第3回 物理学・力学の日常生活での視点 生活に関して、物理学・力学的視点で理解する。授業内で資料を配布。 参考書：望月 久、棚橋 信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社身体における力学の計算ができるように復習しておくこと。</p> <p>第4回 運動学の定義/身体の肢位・区分・位置・方向/身体運動の面と軸/骨・関節・筋の構造と機能 基本的立位肢位、解剖学的立位肢位、運動面、運動軸、骨格筋の構造・形状・生理作用、骨格筋の起始・停止、筋収縮、筋繊維の種類、骨の形態と連結、骨・関節の基本構造と機能、関節の分類科目の位置づけとシラバスの説明。運動学の定義を知り、学ぶ目的について理解する。 身体運動を運動学的に理解する上で必要となる肢位や身体の区分、方向、位置について学ぶ。 運動の指標となる運動面と運動軸について知る。運動器のひとつである骨の基本構造と構成成分を知り、その種類と機能について学ぶ。</p> <p>第5回 実技試験① 骨・関節の部位名称、及び標本組み立て(上肢) 鎖骨・肩甲骨からなる上肢帯の構造と位置関係を理解し、鎖骨・肩甲骨の運動について学ぶ。 肩甲上腕関節の構造を理解し、肩関節と肩複合体の運動について学ぶ。教科書①：pp100-142</p>			

	<p>参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社pp204-209 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012第8回で小テストを行う。</p> <p>第6回 上肢帯・肩関節に関する骨・関節・靭帯の基本構造と機能・役割 上肢帯の体表解剖を理解し、骨格筋の触診を通して筋作用について学ぶ。教科書①：pp100-142 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社pp204-209 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。筋の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。</p> <p>第7回 上肢帯における骨格筋の構造と作用、及び触診 上の体表解剖を理解し、骨格筋の触診を通して筋作用について学ぶ。教科書①：pp100-142 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社pp204-209 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012第8回で小テストを行う。</p> <p>第8回 肩関節における骨格筋の構造と作用、及び触診 小テスト①(肩甲帯・肩関節)を行う。 生活の中で様々な機能的な役割を有する上肢の基本的構造を理解し、その機能的な役割と特長について理解する。また、上肢と下肢の機能的な役割の違いを知る。 肘関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。教科書①：pp145-184 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社 pp204-206、214-21 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012・小テスト①の振り</p> <p>第9回 肘関節の構造と運動/小テスト①(肩甲帯・肩関節) 上腕・肘の体表解剖を理解し、骨格筋の触診を通して筋作用について学ぶ。教科書①：pp145-184 教科書②：pp140-157 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社 pp216-218 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012・Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。筋の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 ・第11回で小テスト②を行う準備をしておくこと。 ・第15回で触診の実</p> <p>第10回 上腕・肘における骨格筋の構造と作用、及び触診 前腕の体表解剖を理解し、骨格筋の触診を通して筋作用について学ぶ。教科書①：pp145-184 教科書②：pp158-204 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社pp223-23 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012・Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。筋の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 ・第11回で小テスト②を行う準備をしておくこと。 ・第15回で触診の実技試験を</p> <p>第11回 前腕における骨格筋の構造と作用、及び触診 肘関節と前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。また、手根管の構造と役割について知る。教科書①：pp187-208 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社 pp214-221 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012小テスト②の振り返りをしておくこと</p> <p>第12回 前腕・手関節・手指・母指の構造と運動/小テスト②(肘関節) 第5?11回で学んだ内容を基に、実技テストとして、骨標本を基に関節を組み立て、部位骨指標の名称を答える。指定なし実技試験① 骨・関節の部位名称、及び標本組み立て(上肢)に関して、準備しておくこと。</p> <p>第13回 前腕・手関節における骨格筋の構造と作用、及び触診 前腕の体表解剖を理解し、骨格筋の触診を通して筋作用について学ぶ。教科書①：pp187-208 教科書②：pp158-204 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社 pp223-231 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012・Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。筋の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。</p> <p>第14回 手指・母指における骨格筋の構造と作用、及び触診 手指・母指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。また、手の機能的な役割を果たす上で重要となる手のアーチを知り、具体的な把握とつまみの形態について学ぶ。教科書①：pp211-255 教科書②：pp158-204 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社pp218-223、229-235 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012実技試験(触診)に向けて準備を進めておくこと。</p> <p>第15回 実技テスト② 触診(上肢) 第5?11、13~14回で学んだ内容を基に、実技テストとして実際に触診する。指定なし・詳細は評価方法内「触診 実技テスト」を確認しておくこと。 ・実技テストは、Tシャツ・ハーフパンツ着用で臨むこと。 ・第5?11、13~14回で学んだ内容を確認し、実技練習を行うこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。 メモがしやすいうように筆記用ボードを用意しておくこと。 予習復習は欠かさないこと。 測定・検査の実技課題・テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<p>授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。</p>

オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	■筆記試験60% ■小テスト20% ■実技試験(骨・関節標本、触診)20%
教科書	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann (著), P. D. Andrew (翻訳), 有馬慶美 (翻訳), 日高正巳 (翻訳)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤元, 高橋正明編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012 ・中村隆一・齋藤宏: 基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社 ・野村巖編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012 ・荻島 秀男: 図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet ・A. I. Kapandji 著/荻島秀男 監訳/嶋田智明 訳: カパンディ 関節の生理学 ・By J. Castaing: 図解関節・運動器の機能解剖 (上巻・下巻) ? ・望
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>脳血管障害では運動麻痺に伴う動作・行為の障害がみられ、また整形外科では、骨折・頸椎症などに基づく、上肢の機能低下がみられ、疾患の把握や回復経過、及び生活行為への栄養を分析するために運動学的視点が重要である。私は、一般病院、及び大学病院にて、脳血管障害、整形外科疾患を中心に作業療法士として働き、実践経験を有している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
保健医療とリハビリテーションの理念	作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。</p> <p>〔到達目標〕 ①リハビリテーションについて簡潔に説明することが出来る。 ②リハビリテーションの諸段階について説明できる。 ③WHO分類について理解し、説明することが出来る。 ④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することが出来る。 ⑤ライフステージにおける障害特性と疾病ごとのリハビリテーションについて概要を理解できる。</p>
授業の概要	高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。本講義ではWHO分類に基づく障害の考え方、現代社会におけるリハビリテーション医療の目的と目標を学び、チーム医療における作業療法士の役割を確認する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①リハビリテーションについて簡潔に説明することが出来る。			○	
②リハビリテーションの諸段階について説明できる。	○			
③WHO分類について理解し、説明することが出来る。		○		
④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することが出来る。			○	
⑤ライフステージにおける障害特性と疾病ごとのリハビリテーションについて概要を理解できる。		○		
授業計画	第1回	リハビリテーションの歴史と理念、目的 disability, impairment, WHO, rehabilitation, 障害と機能障害についての考え方についてと、リハビリテーションの歴史について学ぶとともに、rehabilitationの理念について理解をする。 ①学生のためのリハビリテーション医学概論 P.1～5教科書の該当ページを読んでから受講すること。		
	第2回	リハビリテーションにおけるノーマライゼーションの考え方 ノーマライゼーションと自立生活活動について、様々なエピソードや歴史的変遷から学ぶ。 ①学生のためのリハビリテーション医学概論 P.6～13教科書の該当ページを読んでから受講すること		
	第3回	ICF, ICIDHとは 国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) について説明する。また、身近な対象者を例にあげ、ICFに当てはめて考える (グループワーク)。 ①学生のためのリハビリテーション医学概論 P.35～44次回までに発表用資料 (レジュメ) を準備し、発表の練習を行う		
	第4回	グループワーク発表 グループワークで話し合ったICFのまとめを発表する。別途指示小テスト		
	第5回	医学的リハビリテーション、リハの諸段階		

	<p>医学的リハビリテーションの概要を説明し、リハビリの病期・諸段階を学ぶ。①学生のためのリハビリテーション医学概論 P.15～24、②杉原素子編：作業療法学全書第1巻，作業療法概論，P.175～205②の該当ページに目を通しておくこと</p> <p>第6回 リハビリテーションにおける評価と治療</p> <p>第7回 医学的リハビリテーションの過程とICF，機能的帰結の予測について教科書①のP45～127疾病ごとのリハビリテーションのグループ発表準備</p> <p>第8回 ライフステージにおける障害特性とリハビリテーション、作業療法 対象者の背景、疾患の特徴を知り、対象者のリハビリテーションの進め方について概要を知る。教科書①のP133～P152「疾病ごとのリハビリテーション」のグループ発表準備</p> <p>疾病ごとのリハビリテーション（発表） 様々な疾病ごとのリハビリテーションをグループにて調べ、発表する。別途指定した課題を遂行するために、医療系の原著論文を調べて参照する（詳細は別途指示）。小テスト</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。 ・授業の流れや雰囲気や乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループ発表など課題が事前に提示されるため、予習をしっかりと進めておくこと。
オフィスアワー	月曜日または水曜日の16:30～17:30
評価方法	小テスト30%、発表30%、期末筆記試験（論述）40% これらを基に総合的に評価する
教科書	栢森良二著：学生のためのリハビリテーション医学概論，第2版，医歯薬出版株式会社，2015 世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類，中央法規，2002
参考書	上田 敏（監修）標準リハビリテーション医学 第3版（標準医学シリーズ），医学書院，2012.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
高坂駿			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。 ②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。 ③作業分析の概要を理解・説明することができる。 ④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。</p>			
授業の概要	「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
③作業分析の概要を理解・説明することができる。	◎	◎	○	△
④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。	◎	◎	△	△
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/作業科学の誕生 key words: 作業、occupation、作業科学、作業の定義 ・科目オリエンテーション ・生活の中の作業 ・作業科学の歴史 ・作業の定義 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2-20，2017. 予習：吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017. 課題：教科書内、指定箇所の練習問題</p> <p>第2回 作業の意味 key words: 作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学 ・作業と健康との関連性 ・作業の社会的意味 ・作業の類型化 ・作業と感情 ・作業と世界との繋がり ・作業とアイデンティティ 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017. 予習：吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017. 課題：課題：教科書内、指定箇所の練習問題</p> <p>第3回 作業科学の諸概念 key words: 作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正 ・作業の階層 ・人の進化と作業 ・occupational-being、occupational rights ・作業的公正、作業的不公正 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017.</p>			

	<p>第4回 予習：吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.72-99，2017． 課題：教科書内、指定箇所の練習問題 作業科学と作業療法 key words：健康、作業療法、疾病予防、ヘルスプロモーション ・作業療法の対象と定義の変遷 ・疾病予防とヘルスプロモーション ・作業と健康に関する学術論文の紹介 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.72-99，2017． 予習：配布資料 課題：教科書内、指定箇所の練習問題。また、これまでの練習問題についてまとめ、次回講義時にレポート形式で提出する。</p> <p>第5回 作業療法の中核理論：レポート提出 key words：作業科学、MOHO、CMOP-E ・作業療法に関わる理論と枠組み ・作業療法からみた評価・治療の視点 配布資料 予習：山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）</p> <p>第6回 作業分析とは key words：作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading ・包括的作業分析 ・限定的作業分析について ・適応と段階づけとは ・身体、精神、発達、作業遂行の視点からみた作業分析に関わる理論と分析方法 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003．</p> <p>第7回 作業分析について体験する・考える（マクラメ体験） key words：包括的作業分析、adaptation、grading ・マクラメの作品を作る・運動、感覚機能、精神、認知機能に及ぼす効果・場の特性について配布資料を参考にしながら、理解する 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 次回までに、「包括的作業分析チェックリスト」の指定部分を仕上げ、持参すること。</p> <p>第8回 学んだことの振り返り：分析シート提出 key words：作業科学、作業、健康、作業分析 ・包括的作業分析チェックリストの確認 ・第1回から7回までのまとめ ・試験範囲の伝達 山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）． 「包括的作業分析チェックリスト」の提出。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。 ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。 ・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	金曜日13:00～14:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 60%（再試験あり） <input type="checkbox"/> 提出課題 20%（練習問題。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） <input type="checkbox"/> チェックリスト 20%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，2017
参考書	①中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003． ②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，2017．
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸について説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる骨関節障害の知識を得ることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①重心、姿勢の名称について答えることができる。 ②歩行周期について説明することができる。 ③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。 ④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。 ⑤上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。</p>			
授業の概要	<p>授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/姿勢、生体力学 (力の釣り合い) 姿勢、テコ (第一のテコ、第二のテコ、第三のテコ) 姿勢の名称について説明する。また、テコについて説明し、人体の中で最も多いテコについて理解する。片脚立位における力の釣り合いについて考え、中殿筋の力や股関節応力を求める。 key words: 姿勢、テコ、力の釣り合い 教科書: P3~5、12~22 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: モーメントの求め方について 片脚立位を行うときの中殿筋の役割について調べておくこと 復習: テコ</p> <p>第2回 人体における重心について 安静立位における重心位置について、その求め方を含めて解説する。重心を通る重心線について説明する。 key words: 重心、重心線 教科書: P22~25、338~339 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: 参考書「基礎運動学」のP347~352を事前に読み、重心についてまとめ重心の指標を調べておくこと。 復習: 重心、重心線</p> <p>第3回 支持基底面と重心の関係 支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。姿勢の安定性について考える key words: 支持基底面、重心、安定性 教科書: P338~345 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: 支持基底面について調べ、姿勢の安定性について考えておくこと 復習: 姿勢の安定性</p> <p>第4回 正常歩行: 歩行周期 異常歩行を観察し、歩行を観察する時の視点を学ぶ。そのうえで重複歩やケイデンスの意味を捉え、重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。各歩行周期についても学ぶ。 key words: 歩行、歩行周期、ケイデンス 教科書: P358~361 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: 参考書「基礎運動学」P380~384を読んでおくこと 復習: 本日のkey wordの内容について</p> <p>第5回 正常歩行: 下肢の関節運動と重心の移動 正常歩行の各歩行周期を説明する。各周期で行われる下肢の関節運動をまとめる。そのうえで歩行時の重心の移動を考える。 key words: 歩行周期、下肢の関節運動 教科書: P361~370 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版</p>			

第6回	<p>予習：歩行時の下肢の関節運動を考えておくこと 復習：本日のkey wordの内容について 正常歩行：歩行時の筋活動について 下肢のモーメントについて説明し、各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。 key words:歩行周期、筋活動 教科書：P364～370 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：歩行周期を説明できるようにしておくこと 復習：本日のkey wordの内容について</p>
第7回	<p>呼吸運動 胸部の構造、役割を説明し呼吸時に胸部がどのように動くか自らの体を使って確かめる。その後、肋椎関節を中心にバケツの柄運動が行われることを説明し、横隔膜の働きを理解する。 key words:呼吸、胸部、横隔膜、バケツの柄運動 教科書：P137～145 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：胸部について説明できるようにすること。 復習：本日のkey wordの内容について</p>
第8回	<p>肩複合体の運動障害 肩複合体の代表的な運動障害である脱臼や腱板損傷、肩関節周囲炎の成因、症状、理学療法について説明する。 key words:脱臼、腱板損傷、肩関節周囲炎 教科書：P172～187 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：肩関節周囲炎について調べておくこと 復習：肩複合体の運動障害</p>
第9回	<p>肘の運動障害 ADLにおいて必要な肘関節、前腕のROMについて説明し、野球肘、コーレス骨折、スミス骨折について学ぶ。 key words:野球肘、コーレス骨折、スミス骨折 教科書：P197～204 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：コーレス骨折とスミス骨折の違いを調べておくこと 復習：本日のkey wordの内容について</p>
第10回	<p>手の運動障害 手関節や手指の関節の代表的な障害について学ぶ。下垂手、鷲手、猿手、腱鞘炎やボタン穴変形、スワンネック変形、テノデーシスアクションについて解説する。 key words:下垂手、鷲手、猿手 教科書：P216～225 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 復習：本日のkey wordの内容について</p>
第11回	<p>骨盤・股関節の運動障害 トーマステストや股関節にROM制限がある場合の代償運動について考える。変形性股関節症の原因や病態について説明する。中殿筋弱体化で生じるトレンデレンブルグ徴候やデュシェンヌ現象について説明する。 key words:変形性股関節症、トレンデレンブルグ徴候、デュシェンヌ徴候 教科書：P240～248 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：変形性股関節症、臼蓋不全、THAについて調べておくこと 復習：本日のkey wordの内容について</p>
第12回	<p>膝関節の運動障害 ACL、PCLの役割や損傷時の受傷機転について解説する。また、変形性膝関節症の病態、症状、治療方法について学ぶ。 key words:ACL損傷、PCL損傷、変形性膝関節症 教科書：P259～267 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：膝関節の靭帯について調べておくこと 復習：本日のkey wordsについて</p>
第13回	<p>下腿・足根・足部の運動障害 各々の靭帯の運動制限や起こりやすい捻挫について考える。また、足部の変形とともに中枢神経障害や末梢神経障害について理解を深める。 key words:内反捻挫、外反捻挫 教科書：P286～297 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：足部の運動方向と靭帯について復習しておくこと。 復習：本日のkey wordsについて</p>
第14回	<p>頭部・頸部・体幹の運動障害 頭部の主な運動障害として後縦靭帯骨化症や脊髄損傷について解説する。また、腰部の主な運動障害として椎間板ヘルニアについて学ぶ。 key words:後縦靭帯骨化症、脊髄損傷 教科書：P100～110、125～136 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：頸椎から腰椎に存在する靭帯について調べておくこと。 復習：本日のkey wordsについて</p>
第15回	<p>運動学習 リハビリテーションの結果、動作に変化が現れた場合、その変化が運動学習によるものか否か見極める必要がある。運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解する。 key words:運動学習 教科書：P312～322</p>

	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：覚醒とパフォーマンス向上の関係について調べておくこと 復習：本日のkey wordの内容について</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。 [受講のルール] ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回、授業内容に関連した事前学習シートを提出すること。類似した事前学習シートは受け付けない。また、授業外において口頭試問を実施するため、各自アポイントメントを取ったうえで実施すること。
オフィスアワー	木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日については要予約
評価方法	筆記試験（客観）70%、口頭試問（15%）、事前学習シート（15%） 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。 事前学習シートの配点【提出5点、内容8点、文献2点】
教科書	藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂 林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢・下肢・体幹、メジカルビュー 林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット、メジカルビュー
参考書	野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院 中村隆一：基礎運動学第6版補訂 医学書院
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
古田恒人 野口直人			
		作業療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造－機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①体の運動の要素を理解できるようになるために、骨関節についての解剖・整理を復習する。 ②靭帯の運動の要素を理解できるようになるために骨格筋・神経系についての解剖・整理を復習する。 ③筋の触診を行い、位置を特定し、作用を説明することができる。 ④姿勢・補講について運動学的に分析を行い、説明することができる。</p>
------------	--

授業の概要	作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。この授業では、ひとの動作や活動を運動学的観点で分析し、評価・治療に必要な身体の構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎として、触診を通して下肢・頭頸部・体幹の構造、及び骨格筋の作用と運動を学ぶことを目的とする。また、姿勢や歩行について運動学的分析を基に学ぶことを目的とする。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①体の運動の要素を理解できるようになるために、骨関節についての解剖・整理を復習する。	◎	○	○	△
②靭帯の運動の要素を理解できるようになるために骨格筋・神経系についての解剖・整理を復習する。	◎	○	○	△
③筋の触診を行い、位置を特定し、作用を説明することができる。	◎	○	○	△
④姿勢・補講について運動学的に分析を行い、説明することができる。	◎	○	○	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／股関節の構造と運動①</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨指標、関節構造と運動科目の位置づけとシラバスの説明。 骨盤・下肢帯の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 <p>教科書：pp523-588</p> <p>第2回 股関節の構造と運動②</p> <ul style="list-style-type: none"> 関節を動かすための筋の働きに関して、筋の構造的特徴、収縮のメカニズム、収縮様態、力学的側面での筋の出力について理解する。 股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 <p>教科書：pp523-588</p> <p>第3回 股関節の構造と運動③</p> <ul style="list-style-type: none"> 股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 <p>教科書：pp523-588</p> <p>第4回 膝関節の構造と運動①</p> <ul style="list-style-type: none"> 膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 <p>教科書：pp590-650</p>
------	---

第5回	膝関節の構造と運動② ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 教科書：pp590-650
第6回	膝関節の構造と運動③ ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 教科書：pp590-650
第7回	足関節の構造と運動① ・足関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・足のアーチについてその構成と役割について学ぶ。 教科書：pp651-712
第8回	足関節の構造と運動② ・足関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・足のアーチについてその構成と役割について学ぶ。 教科書：pp651-712
第9回	脊柱（頸椎・胸椎・腰椎）の構造と運動 ・脊柱（頸椎・胸椎・腰椎）の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・顎関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、咀嚼運動について学ぶ。顔面の運動における表情筋の作用を知る。 教科書：pp371-398
第10回	筆記試験・実技試験 ・第1～9回で学んだ内容を基に、筆記試験・実技試験を行う。 ・筋の触診を行うため動きやすく肌を露出しやすい服（学校ジャージ推奨）を着用すること。 【実技試験】1年生：12月5日（木）16：20～、再履修者：12月4日（水）10：30～の予定 ※筆記試験・実技試験の予定が変更となる場合は教員から連絡します。
第11回	胸郭の運動と呼吸運動／顔面・頭部の構造と運動／口腔・咽頭・喉頭の構造と嚥下運動 胸郭の骨・関節・靭帯の構造を理解し、呼吸運動について学ぶ。顎関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、咀嚼運動について学ぶ。顔面の運動における表情筋の作用を知る。教科書①：pp371-398 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社 pp274-279、283-286 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012本日の講義内容に関して、復習しておくこと。
第12回	姿勢の分類と安定性 投球フォームの動作に関して、各関節の①肢位変化、②運動、③関与する指定しない課題行為を動作工程、相分け、肢位、運動、筋活動、収縮様態の視点で分析し、報告する。
第13回	歩行：歩行周期と運動学分析① 姿勢の分類とその安定性に関わる重心と支持基底面の関係、抗重力筋の筋作用について学ぶ。参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社教科書①：pp331-360 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012姿勢の分類、支持基底面と安定の関係など復習し、理解しておくこと。
第14回	歩行：歩行周期と運動学分析② ヒトの移動運動のひとつである歩行について、歩行周期を理解し、歩行時の重心移動や身体各部位の運動について学ぶ。教科書①：pp548-585 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社pp361-372 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012講義で示す歩行に関する基礎的な知識に関して、復習しておくこと。
第15回	運動学習 歩行周期を理解した上で、歩行時の筋活動・床反力について知る。また、小児と高齢者の歩行の特徴、歩行と走行の比較について学ぶ。教科書①：pp548-585 参考書：中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社pp378-392、397-402 参考書：伊藤元、高橋正明 編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学 第3版、医学書院、2012歩行に関して、バイオメカニクスの視点で理解を進めること。異常歩行の原因を理解し、その模倣ができるようになること。
受講生に関する情報および受講のルール	・補講や動作分析では実際に身体を動かすため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージ・筆記用ボードを用意しておく。 ・講義資料などを使用し予習・復習は欠かさないこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	■筆記試験60% ■小テスト20% ■実技試験（触診）20%
教科書	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann（著），P. D. Andrew（翻訳），有馬慶美（翻訳），日高正巳（翻訳） ②新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014
参考書	・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学．医学書院，2012 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社 ・野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学．第3版，医学書院，2012 ・荻島 秀男：図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet ・A. I. Kapandji 著／荻島秀男 監訳／嶋田智明 訳：カパンディ 関節の生理学

<p>実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング</p>	<p>・By J.Castaing：図解関節・運動器の機能解剖（上巻・下巻）</p> <p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実施しながら、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
-------------------------------------	--

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法を学ぶにあたり、知っておかなければならない基礎知識を自ら調べ、簡潔に説明できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①作業療法がどのような専門職か説明することができる。 ②作業療法の歴史、原理、理論、対象、領域、病期、圏域について説明することができる。 ③作業療法過程について述べるすることができる。 ④基本的な発表方法を身につける。 ⑤レポートをまとめることができる。</p>
授業の概要	<p>本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、専門性の核となる「作業（occupation）」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学ぶ。前半は、教科書に沿って、作業療法の定義や歴史、原理・理論、対象、領域、病期、作業療法過程、教育について体系的に学習する。後半は、病院見学を通して基本的な作業療法実践を説明できるように取り組む。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①作業療法がどのような専門職か説明することができる。	◎	△	○	○
②作業療法の歴史、原理、理論、対象、領域、病期、圏域について説明することができる。	◎	△	○	○
③作業療法過程について述べるすることができる。	◎	◎	○	○
④基本的な発表方法を身につける。	○			
⑤レポートをまとめることができる。	○			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／作業療法とは／作業療法士の養成課程について 作業療法の定義、作業療法士の養成課程専門性の核となる「作業療法」の定義について学ぶ。また、作業療法士の養成課程について学び、自身が作業療法士となるための課程を知り、必要なことの枠組みを学ぶ。</p> <p>第2回 作業療法士の歴史／職能組織・専門職組織 作業療法の歴史と制度的変遷、先人たちの思考を理解し、日本の作業療法の現状と課題を知る。その上で今後作業療法に期待される活動について学ぶ。また、作業療法に関連する制度、診療報酬について学ぶ。 また、社会における作業療法士の貢献をより推し進めるために大切な役割を担う職能団体の機能と組織を知る。</p> <p>第3回 作業療法の実際 作業療法の現状と社会的な位置づけを踏まえて、作業療法の原理、理論、対象、領域、病期等について説明することができる。</p> <p>第4回 作業療法過程 作業療法過程（処方、スクリーニング、評価、作業療法計画立案、作業療法実施、作業療法計画の修正、作業療法の修了）の内容を学び、作業療法実践の流れを理解する。</p> <p>第5回 病院見学指導／課題発表の準備 病院見学へ向けての準備、心構えについて学ぶ。 また、作業療法がどのような専門職であるのかを他者（家族、友人、地域住民、中高生など）に説明することを想定して、資料を作成し発表する課題の準備を行う。</p>			

	<p>第6回 病院見学 グループに分かれ病院を見学を行う。作業療法とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて、具体的に（どのような対象者に、どのような場所で、どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする。教科書②p2-41 「第1章 見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと。</p> <p>第7回 病院見学 グループに分かれ病院を見学を行う。作業療法とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて、具体的に（どのような対象者に、どのような場所で、どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする。教科書②p2-41 「第1章 見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと。</p> <p>第8回 課題発表「作業療法を説明しよう」 資料作成と発表を通して作業療法がどのような専門職なのかを学ぶ。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりとすること。〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。 学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 60% <input type="checkbox"/> 発表 20% <input type="checkbox"/> レポート 20%
教科書	<p>①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論. 協同医書出版</p> <p>②大野義一郎：感染対策マニュアル第2版. 医学書院”</p>
参考書	吉川ひろみ 著：作業って何だろう 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2008
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。作業療法の基本的な概念に基づき臨床業務を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
野口直人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の治療で用いられることの多い作業活動の技法を習得し、それらを各種障害に対して治療的に応用していくための実践方法について学習します。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>① 作業活動の基礎技法を用いて作品を制作できる。 ② 作業活動の特性を治療場面への応用について説明できる。 ③ 作業活動を提供するために必要な準備や道具の管理・提供方法を述べることができる。 ④ 作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択することができる。</p>			
授業の概要	<p>・作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。 ・作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
① 作業活動の基礎技法を用いて作品を制作できる。	◎	○	△	○
② 作業活動の特性を治療場面への応用について説明できる。	○	○	△	◎
③ 作業活動を提供するために必要な準備や道具の管理・提供方法を述べることができる。	◎	○	△	○
④ 作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択することができる。	◎	○	△	○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／革細工①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具、材料、工程、デザイン・講義の流れや目的、到達目標などの授業概要についての説明 ・革細工の道具やその使用方法、材料の説明 ・本のデザインを参考にし、作品（ハンコ入れ）のデザインをする <p>教科書：pp. 34-51</p> <p>第2回 革細工②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のデザインを参考にし、作品（ハンコ入れ）のデザインをする ・デザインを元に型紙づくりを行う <p>教科書：pp. 34-51</p> <p>第3回 革細工③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる ・革細工における適応・段階づけの説明 <p>教科書：pp. 34-51</p> <p>第4回 革細工④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回作成したデザインを元にトレーシング、カービング、スタンピング、モデリングを行ってみる ・革細工における適応・段階づけの説明 <p>教科書：pp. 34-51</p> <p>第5回 革細工⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に染色、穴あけ、金具付け、レーシングを施す ・革細工における適応・段階づけの説明 			

第6回	教科書：pp.34-51 作業特性の分析（革細工） ・包括的作業分析の視点と方法に関する説明
第7回	【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること 作業特性の分析（革細工） グループ内の意見交換を交え、革細工における包括的作業分析チェックリストを作成する
第8回	【課題】包括的作業分析チェックリストを仕上げ 作業特性の分析（革細工） グループ内の意見交換を交え、革細工における包括的作業分析チェックリストを作成する
第9回	【課題】包括的作業分析チェックリストを仕上げ 調理計画 ・計画に基づき、各グループで調理活動を体験する ・調理道具や調理方法に関して、片手作業における適応・段階づけに関して考察する 教科書：pp.193-199
第10回	調理活動① ・計画に基づき、各グループで調理活動を体験する ・調理道具や調理方法に関して、片手作業における適応・段階づけに関して考察する
第11回	【課題】調理活動の作業特性についてレポート作成（締め切りは講義終了1週間以内） 【準備】次回までに毛糸を6玉程度購入しておくこと 調理活動② ・計画に基づき、各グループで調理活動を体験する ・調理道具や調理方法に関して、片手作業における適応・段階づけに関して考察する
第12回	【課題】調理活動の作業特性についてレポート作成（締め切りは講義終了1週間以内） 【準備】次回までに毛糸を6玉程度購入しておくこと 調理活動：レポート ・計画に基づき、各グループで調理活動を体験する ・調理道具や調理方法に関して、片手作業における適応・段階づけに関して考察する
第13回	【課題】調理活動の作業特性についてレポート作成（締め切りは講義終了1週間以内） 【準備】次回までに毛糸を6玉程度購入しておくこと 織物① ・織物に用いる道具や織り機（織美絵）の使用方法について ・織美絵のセッティング 教科書：pp.143-145
第14回	織物② ・経糸のセッティング ・捨て織り糸・緯糸のセッティング ・織物における適応・段階づけの説明 教科書：pp.143-145
第15回	織物③ ・捨て織り糸・緯糸のセッティング ・捨て織り・織り ・織物における適応・段階づけの説明 教科書：pp.143-145
第16回	織物④ ・織り、捨て織り、作品の仕上げ ・織物における適応・段階づけの説明 教科書：pp.143-145
第17回	織物⑤ ・織り、捨て織り、作品の仕上げ ・織物における適応・段階づけの説明 教科書：pp.143-145
第18回	【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること 作業特性（織物） ・織物における包括的作業分析チェックリストの作成 ・織物における適応・段階づけの方法について補足説明
第19回	【課題】配布資料包括的作業分析チェックリストを上げること。 【準備】参考書として運動学の教科書を持参すること エコクラフト① ・エコクラフト、籐細工に用いる道具・手順 ・編み方の説明・クラフトテープの計測とカット 教科書：pp.86-96
第20回	エコクラフト② ・かごの底をねじり編みで編む ・カゴのサイドを素編み、追いかかけ編み、よろい編みで編む ・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明 教科書：pp.86-96
第21回	エコクラフト③ ・かごの底をねじり編みで編む ・カゴのサイドを素編み、追いかかけ編み、よろい編みで編む ・エコクラフトにおける適応・段階づけの説明

	<p>教科書：pp. 86-96</p> <p>第22回 作業特性（エコクラフト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコクラフトにおける包括的作業分析チェックリストの作成 ・エコクラフトにおける適応・段階付けの方法について補足説明 <p>【課題】 配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。 【準備】 参考書として運動学の教科書を持参すること</p> <p>第23回 モザイク①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モザイクに関する道具・材料・作成方法の説明 ・モザイクの作品をデザインする ・タイルのカット <p>教科書：pp. 116-120</p> <p>第24回 モザイク②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定 ・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明 <p>教科書：pp. 116-120</p> <p>第25回 モザイク③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインに基づき、割ったタイルを接着剤で固定 ・石膏を流し、作品を仕上げる ・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明 <p>教科書：pp. 116-120</p> <p>第26回 作業特性の分析（モザイク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モザイクにおける包括的作業分析チェックリストの作成 ・モザイクにおける適応・段階づけの方法について補足説明 <p>【課題】 配布資料包括的作業分析チェックリストを仕上げること。 【準備】 参考書として運動学の教科書を持参すること。</p> <p>第27回 張り子①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張り子作品の下地を形成する <p>教材：配布資料</p> <p>第28回 張り子②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張り子作品の表面および仕上げの作業を行う <p>教材：配布資料</p> <p>第29回 張り子③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張り子作品の表面および仕上げの作業を行う <p>教材：配布資料</p> <p>【授業準備】 参考書として運動学の教科書を持参すること</p> <p>第30回 作業特性の分析（張り子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張り子作業における包括的作業分析チェックリストの作成 <p>教材：配布資料</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。 ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。 ・作業中は周囲に十分注意を払い、服に汚れが付くこともある（学生ジャージ推奨）。 ・肩より髪の毛が長い場合はまとめる。アクセサリーは禁止。その他、汚れて困るものはロッカーなどへ。 ・毎回掃除を行い、道具の整理・管理を必ず行う。 ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	水曜日の13～14時。その他の曜日については要予約。
評価方法	筆記試験（論述・客観）60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%、総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。
教科書	古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版。医歯薬出版株式会社，2018
参考書	①中村隆一，他：基礎運動学 第6版。医歯薬出版，2003 ②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 新版。三輪書店，2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>回復期病棟にて対象者に基礎作業療法の提供を実践してきた。また前任校では作業療法学生に気作業療法学の講義と実習を実践してきた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。</p> <p>【到達目標】 ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。 ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。</p>
授業の概要	基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①大学生として正しい日本語を理解し、場面に応じて使い分けすることができる。	○	△	△	○
②リハビリ職として質の高い医療を提供するための対応力や判断力を併せ持つことができる。	○	○	○	○
③グループ活動の中で、計画的に進め、積極的な活動ができる。	△	○	○	○
④国際福祉機器展に興味を持ち、最先端の機器を見学し、興味を持つことができる。	○	○	△	○
⑤グループ発表に向けた準備と、工夫した発表を行うことができる。	○	○	○	○

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム 1：科目オリエンテーション 学士力、建学の精神基礎演習Ⅱの位置づけやボランティア活動Ⅱとの関連性についてレクチャーを行う。また、学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ。基礎演習テキスト、学生生活GUIDE基礎演習Ⅰおよびボランティア活動Ⅰの振り返りをしておくこと。</p> <p>第2回 学士力育成プログラム1：1) 敬語 スキルアップ！日本語力（大学生のための日本語練習帳）P5-30 敬語・文法・語彙力の基礎的知識を学ぶ。配布資料以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p> <p>第3回 学士力育成プログラム2：2) 文法 スキルアップ！日本語力（大学生のための日本語練習帳）P32-56 言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。配布資料以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
------	--

第4回	<p>学士力育成プログラム3：3) 語彙力・言葉の意味 スキルアップ! 日本語力(大学生のための日本語練習帳) P58-82 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
第5回	<p>学士力育成プログラム4：4) 表記・漢字 スキルアップ! 日本語力(大学生のための日本語練習帳) P84-96 小テスト 事前に配布した資料の復習を十分に行い理解しておくこと。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム5：1) リハビリテーション職種のマネジメント 現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。 ①第一印象に二度目は無い P12-14 ②タイムマネジメントができない P41-43</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム6：2) リハビリテーション職種のマネジメント 現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。 ①利用者は何を求めているのか P18-20 ②多職種連携を成功させるコツは? P21-23</p>
第8回	<p>学士力育成プログラム7：1) 国際福祉機器展の事前学習 国際福祉機器展の概要、過去の展示会の状況などを理解する。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/第44回 国際福祉機器展 H.C.R. 2017での学外学習後に、学習の成果をグループごとにプレゼンテーションする。 各グループで、当日に見学・学習する内容を明確にしておくこと(事前学習が重要である)。</p>
第9回	<p>学士力育成プログラム8：2) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第10回	<p>学士力育成プログラム9：3) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム10：4) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム11：5) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第13回	<p>学士力育成プログラム12：6) 国際福祉機器展の振り返り 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第14回	<p>学士力育成プログラム13：7) 国際福祉機器展の振り返り 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R. 2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム2：基礎演習まとめ 第1回～第14回までの建学の精神と実践教育プログラムと学士力育成プログラムを通して学んだ事のまとめをおこなう。ここでは、今まで学んだ事を整理し、各グループにて口頭で自分の考えを説明することができる。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。
オフィスアワー	木曜日の13時以降。また、可能な日については授業時に指示する。
評価方法	レポート60%(国際福祉機器展課題20%、リハビリテーション職種のマネージメント20%)、国際福祉機器展プレゼンテーション30%、日本語能力テスト30%、
教科書	基礎演習テキスト、学生生活GUIDE、スキルアップ! 日本語力、リハビリテーション職種のマネージメント。
参考書	参考書については、授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p>

アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。

アクティブラーニング要素

- 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。 ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。 ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。 ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。 ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる</p>
授業の概要	医療従事者をを目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係				
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。	◎			
②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。	○	△		△
③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。	○		○	○
④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。	○			◎
⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる		△	◎	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/ポートフォリオとは</p> <p>【授業概要】 ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。</p> <p>【key words】 ボランティア、目標、学士力、ポートフォリオ</p> <p>【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。</p>
	第2回	<p>マナー</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける挨拶、敬語、身だしなみについて、社会人としての心構えに加え、医療従事者としての態度や対象者への関わり方の実践について説明する。</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、挨拶、敬語、身だしなみ</p> <p>【教科書・参考文献】</p>

第3回	<p>シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身だしなみについて体験学習を行うため、授業態度として適切な服装を調べた上で参加すること。</p> <p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおける電話対応、来客対応、訪問マナーについて、社会人としての基礎対応に加え、医療従事者としての態度など医療や介護施設スタッフの一員として相手に与える影響を考へる機会を作りながら説明する。 【key words】 ビジネスマナー、電話対応、来客対応、訪問マナー 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 案内などを体験学習するため、大学の設備や教室の配置を学生ハンドブックなどで確認しておくこと。</p>
第4回	<p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおけるメール作成、文書作成、FAX送信について、臨床実習やボランティア参加を想定した作成例を提示しながら、文章作成方法や送信方法を説明する。 【key words】 ビジネスマナー、文書作成 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器を持参すること。</p>
第5回	<p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおけるハウレンソウ、個人情報保護について、法令などを提示しながら、チーム医療の中で必要な情報の取り扱い方法について説明する。 【key words】 ビジネスマナー、ハウレンソウ、個人情報保護 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人情報保護法について調べておくこと。</p>
第6回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 コミュニケーション技法の基礎について、対人援助職における必要性を踏まえて、臨床実習における対象者との面接で行う対話方法や環境設定について説明する。 【key words】 コミュニケーション、面接、積極的質問 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問診や初回面接で質問する内容を調べておくこと。</p>
第7回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 第6回で学んだコミュニケーション技法を活用し、1対1の面接(テーマ:現在抱えている問題)を体験しながら学習する。面接でのやりとりを記録し、逐語録を作成し、第8回で分析する資料を作成する。 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【教科書・参考文献】 シラバス、第6回の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接の記録に使用する録音機器を持参する。次回の授業までに逐語録を作成してくること。</p>
第8回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 第7回で作成した逐語録を見ながら、面接時の、自身の応答の傾向を分析する。 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【教科書・参考文献】 シラバス、第7回で作成した逐語録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で作成した逐語録を印刷準備して授業に参加すること。</p>
第9回	<p>講話：学生ボランティア経験について 【授業概要】 挨拶・礼儀・環境美化、ボランティア・これまでのボランティア経験と臨床との繋がり等に関して、各専攻の先輩からの体験談を聞き、今後のボランティア活動の取り組みについて内省する。 【key words】 ボランティア経験、目標 【教科書・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動記録簿を見直し、未記入の欄があれば埋めておくこと。</p>
第10回	<p>資料の作成方法 【授業概要】 分かりやすいプレゼンテーションを行うための資料作成の基礎(パワーポイント等を中心に)を学ぶ。</p>

	<p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 分かりやすい資料作成の条件などが記載されている資料を印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】ディベート・ディスカッション。調べてきた用語を他者に説明し合う。共有した知識をもとに、第12回で発表する資料をパワーポイントで作成する。</p> <p>資料の作成方法 【授業概要】 第10回で共有し知識をもとに、プレゼンテーション用資料を作成する。</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回スムーズに発表ができるように、発表スライドの確認や発表の際の役割分担などを話し合っておくこと。</p> <p>資料の作成方法 【授業概要】 第10・11回で準備したプレゼンテーションを、4人一組のグループで行う。グループ内で各プレゼンテーション用資料に対し、良かった箇所や改善案を挙げる。</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に配布資料を行う場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>グループワークの進め方 【授業概要】 与えられたテーマに基づき、グループワークのプロセスを学ぶ。</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー分類、構造化 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティアについて自信の考えを整理しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 与えられたテーマに基づき、グループワークを行う。作業を役割分担し、各グループメンバーから出た意見をカテゴリー化し、構造化して発表資料を作成する。</p> <p>グループワークの進め方 【授業概要】 与えられたテーマに基づき、第13回でまとめた内容を発表し、グループ間で意見交換を行う。</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー化、構造化 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に資料を配布する場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>学んだことの振り返り 【授業概要】 第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。</p> <p>【key words】 目標、ボランティア 【教科書・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に係る情報〕 A4クリアブック(40ポケット)を用意 〔受講のルール〕 積極的なボランティア活動の実践が前提である。 ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	各専攻担任より指示
評価方法	ポートフォリオ30%、授業内課題など40%、ボランティア参加30%
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006 尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解、サンクチュアリ出版、2010
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、院内での接遇マナーインストラクター（株式会社ウィ・キャン）を取得し、接遇サービス向上の研修や啓発を行ってきた実務経験を活かし、医療従事者としての態度について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
---------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位 (30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔・野口直人			
		作業療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的・目標 (大目標)]</p> <p>人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する。そして、人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・機能を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。</p> <p>[達成目標 (小目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。 2) セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる。 3) 重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定できる。重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる。 4) 体重を用いてこの原理で重心の位置を測定することができる。 5) 筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。また肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定できる。 6) 筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる。 7) 健常者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学 (教科書) に記載されている運動分析手順にそって分析ができ、動作分析に必要な表現ができる。 8) 学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する。 9) 3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析を学ぶ。 10) 運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化炭素呼出量を測定できる。呼吸機能を理解し、その評価を実施できる。
------------	---

授業の概要	ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われている。このひとの動きの基礎となる、姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

①人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析できるようになる。	△	○	◎	
--	---	---	---	--

②人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・機能を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。		◎	○	△
--	--	---	---	---

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、形態計測1</p> <p>【授業概要】 授業オリエンテーションとして、授業目標の確認や実習スケジュールの確認を行う。個人実習として、形態計測をペアで計測し合う。肢長、周径、身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。</p> <p>【key words】 形態計測、体格</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き (個人実習用)、基礎運動学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける身体計測の結果を記入しておくこと。</p> <p>第2回 形態計測2, 筋力評価</p>
------	---

第3回	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回に引き続き、形態計測を実施。 ・身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価する。 ・肢位の違いによる握力の計測、連続握力測定による筋持久力を評価する。 <p>【key words】 形態計測、体格、筋力測定</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける身体計測の結果を記入しておくこと。</p> <p>姿勢評価</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢計測装置(デジタルカメラ、重心動揺計、体重計など)を使用して各自の姿勢を計測する。 ・セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明する。 ・重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定する。 ・重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を理解する。 ・体重を用い、てこの原理で重心の位置を測定する。 <p>【key words】 姿勢計測、重心動揺、重心、セグメント</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習が行える服装で参加すること。個人レポートにおける重心動揺・セグメントなど必要な部分の結果を記入しておくこと。</p>
第4回	<p>解析方法について1</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～3回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。 ・クラス全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析(t検定、相関)の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。 <p>【key words】 平均値、標準偏差、t検定、相関分析</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人レポートを提出。</p>
第5回	<p>基本動作分析/筋電図/筋機能解析装置</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習。被験者を選出し、基本動作、筋の働きを機器を使って計測および分析をする。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 ・健常者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学(教科書)に記載されている運動分析手順にそって分析する。 <p>【key words】 基本動作分析、筋電図、筋機能解析</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。</p>
第6回	<p>〃</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、基本動作、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 ・健常者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学(教科書)に記載されている運動分析手順にそって分析する。 <p>【key words】 基本動作分析、筋電図、筋機能解析</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)、基礎運動学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。</p>
第7回	<p>〃</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5,6回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、基本動作、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 ・健常者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学(教科書)に記載されている運動分析手順にそって分析する。 <p>【key words】</p>

第8回	<p>基本動作分析、筋電図、筋機能解析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。 解析方法について2 【授業概要】 ・第5回～7回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【key words】</p>
第9回	<p>基本動作、筋電図、筋機能解析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートを提出できるように準備しておくこと。 運動学習1 【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。 ・学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。 【key words】 運動学習、学習曲線、熟練 【教科書・参考文献】</p>
第10回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。 運動学習2 【授業概要】 ・第9回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。 ・学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。 【key words】 運動学習、学習曲線、熟練 【教科書・参考文献】</p>
第11回	<p>配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。グループレポートが提出できるように準備していくこと。 【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。 呼吸機能評価/3次元動作分析 【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、呼吸機能、動作を計測および分析する。 ・3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析する。 ・運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定する。 ・呼吸機能を理解し、その評価を実施する。 【key words】</p>
第12回	<p>呼吸曲線、3次元動作解析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。グループレポートが提出できるように準備していくこと。 【アクティブラーニングについて】 機器や実習方法の説明後、役割分担と議論を行いながら実習を進めていく。 // 【授業概要】 ・第11回に引き続き、グループ学習。被験者を選出し、呼吸機能、動作を計測および分析する。 ・3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析する。 ・運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定する。 ・呼吸機能を理解し、その評価を実施する。 【key words】</p>
第13回	<p>呼吸曲線、3次元動作解析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。グループレポートが提出できるように準備していくこと。 解析方法について3 【授業概要】 ・第9回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【key words】</p>

	<p>第14回</p> <p>平均値、標準偏差、t検定、相関分析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。 解析方法について4 【授業概要】 ・第9回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・次回発表できるように発表資料を作成する。 【key words】 平均値、標準偏差、t検定、相関分析 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。次回発表できるように準備をすること。</p> <p>第15回</p> <p>発表 【授業概要】 ・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。 【key words】 発表、質疑応答 【教科書・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートの提出</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを用意しておくこと。 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。 課題の提出は、原則としてデータ収集、あるいは解析方法の指導後2週間後の17時、担当教員に提出すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他
授業外時間にかかわる情報	解析方法などは授業内で説明するが、解析し、結果・考察を導き出すためには、解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる。グループで協力し、理解を深めること。
オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> レポート70% (個人レポート50%、グループレポート20%) <input type="checkbox"/> 演習課題30%
教科書	実習手引きの配布。
参考書	授業の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、健常成人や高齢者に対する基礎研究活動(上肢協調運動機能、筆圧と把持圧との関係、転倒リスクの要因の検討など)を行ってきた実務経験を活かし、機器を用いた動作や作業を分析する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
宮寺亮輔			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。 ②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。 ③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。 ④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。 ⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。</p>
授業の概要	ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。 実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。	◎	○		
②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。	◎	○		
③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。		△	◎	○
④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。	◎		○	△
⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。			◎	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／文献抄読</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目オリエンテーション。授業目的と各回の授業の進行について説明する。 ・作業科学、治療理論、治療的適応・作業科学に関連する文献検索。 ・調べた文献を要約し、他者に説明する。 <p>【key words】</p> <p>基礎作業学、文献検索</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>大学で文献検索をする手段を調べておくこと。</p> <p>【アクティブラーニングについて】</p> <p>自らの興味に基づいた文献を検索し、その内容を要約し、ディスカッションをする。</p> <p>第2回 文献抄読</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回に引き続き、検索した文献を抄読していく。 ・作業科学に関連する文献検索・抄読。 <p>【key words】</p> <p>基礎作業学、作業科学、文献検索</p> <p>【教科書・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 意図した文献を検索する方法や検索した文献を整理する方法を調べて参加する。 【アクティブラーニングについて】 自らの興味に基づいた文献を検索し、その内容を要約し、ディスカッションをする。 文献抄読：レポート 【授業概要】 ・第2回に引き続き、検索した文献を抄読し、他者に説明できるまでを準備する。 ・作業科学に関連する文献検索・抄読作業科学関連の文献について調べ、自己の考えをまとめる。 【key words】 基礎作業学、作業科学、文献検索 【教科書・参考文献】</p>
第4回	<p>シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己の文献について要約する項目を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 自らの興味に基づいた文献を検索し、その内容を要約し、ディスカッションをする。 木工 【授業概要】 ・個人作業。木工（製図）。 ・集成材を用いた作品の木取り図および完成図を方眼紙に書き出す。 【key words】 木工、製図 【教科書・参考文献】</p>
第5回	<p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 48-57, 2012. ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 製図が終わらなかつた者は次回までに提出すること。 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。 木工 【授業概要】 ・木工作業で使用する道具およびその使用方法、手順等に関する説明。 【key words】 木工、製図、木取り、墨付け 【教科書・参考文献】</p>
第6回	<p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 48-57, 2012. ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。 木工 【授業概要】 ・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。 ・木工における適応・段階づけの説明。 【key words】 木工、製図、木取り、墨付け、切断 【教科書・参考文献】</p>
第7回	<p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 48-57, 2012. ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。 木工 【授業概要】 ・デザインに基づき、木取り、墨つけ、木材の切断をする。 ・木工における適応・段階づけの説明。 【key words】 木工、木取り、墨付け、切断 【教科書・参考文献】</p>
第8回	<p>①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 48-57, 2012. ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。 木工 【授業概要】 ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う ・木工における適応・段階づけの説明 【key words】 木工、加工、仮組、くぎ打ち</p>

第9回	<p>【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57，2012。 ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。 木工 【授業概要】 ・切断し終えた部材の加工、組み立て、仕上げを行う・木工における適応。 ・段階づけの説明。 【key words】 木工、加工、仕上げ 【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57，2012。 ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 切断作業に入っていくため、木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 全学生が同じ材料を使用。その材料で製作できる木工品を調べて、作業を遂行する。</p>
第10回	<p>作業特性の分析（木工） 【授業概要】 ・完成作品を互いに鑑賞する。 ・木工作业における包括的作業分析チェックリストの作成。 【key words】 木工、作業特性の分析 【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 48-57，2012。 ②深見悦司：週末木工術。成美堂出版編集部，2008。 ③配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、エプロン・ジャージ・タオル持参、陶芸のデザインを考えてくる。次回までに、包括的作業分析チェックリストを作成しておく。 【アクティブラーニングについて】 自らが仕上げまで行った作品について、他者と意見交換を行い、作業の特性や作品の段階付けなどを分析する。</p>
第11回	<p>陶芸 【授業概要】 ・個人作業。陶芸を開始。 ・陶芸の進行の概要説明、用いられる道具や技法に関する説明。 【key words】 陶芸 【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 66-80，2012。 ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken，2009。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。</p>
第12回	<p>陶芸 【授業概要】 ・各工程（土練り～形成）での作成方法。 ・作成のポイントについての説明、形成作業。 ・陶芸における適応・段階づけの説明。 【key words】 陶芸、形成、土練り 【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 66-80，2012。 ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken，2009。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。</p>
第13回	<p>陶芸 【授業概要】 ・各工程（土練り～形成）での作成方法。 ・作成のポイントについての説明、形成作業。 ・陶芸における適応・段階づけの説明。 【key words】 陶芸、土練り、形成 【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，pp. 66-80，2012。 ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken，2009。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。</p>
第14回	<p>陶芸 【授業概要】 ・高台作り、装飾、修正について説明。</p>

第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・高台作り、装飾、修正を行う。 ・素焼きをする上での注意点を説明する。 <p>【key words】 陶芸、高台作り、装飾、乾燥</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012. ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること。修正に使用する布巾を用意すること。素焼きと本焼きの際の温度管理について事前学習しておくこと。</p> <p>陶芸</p> <p>【授業概要】 ・釉掛けについての説明と釉掛け。 ・本焼きについての説明。</p>
第16回	<p>【key words】 陶芸、釉掛け、本焼き</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012. ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 作品の形状に合わせて、満遍なく釉掛けするために必要な環境設定を検討しておくこと。</p> <p>作業特性の分析（陶芸）</p> <p>【授業概要】 ・完成作品を互いに鑑賞する。 ・陶芸作業における包括的作業分析チェックリストの作成。</p>
第17回	<p>【key words】 陶芸、作業特性の分析</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、pp. 66-80, 2012. ②河上清：基礎からわかるはじめての陶芸。Gakken, 2009.</p> <p>③配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 自らが仕上げまで行った作品について、他者と意見交換を行い、作業の特性や作品の段階付けなどを分析する。</p> <p>木版画</p>
第18回	<p>【授業概要】 ・協同作業。木版画を開始。 ・デザインを決め、下絵の作成をする。 ・下絵をトレーシングペーパーに写す、ベニヤ板への模写。 ・木版画における適応・段階づけの説明。</p> <p>【key words】 木版画、下絵、模写</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル、医歯薬出版株式会社。pp. 58-65, 2012.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自下絵のデザインを事前に検討しておくこと。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 4人で1つの作品を製作。他者と意見交換を行い、作品を構成していく。</p> <p>木版画</p>
第19回	<p>【授業概要】 ・デザインを決め、下絵の作成をする。 ・下絵をトレーシングペーパーに写す、ベニヤ板への模写。 ・木版画における適応・段階づけの説明。</p> <p>【key words】 木版画、下絵、模写</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル、医歯薬出版株式会社。pp. 58-65, 2012.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 木くずが出ることを想定した服装で参加すること。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 4人で1つの作品を製作。他者と意見交換を行い、作品を構成していく。</p> <p>木版画</p>
第20回	<p>【授業概要】 ・前回に引き続き、グループメンバーと調整を図りながら、彫りの作業を進める。 ・木版画における適応・段階づけの説明。</p> <p>【key words】 木版画、彫刻</p> <p>【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル、医歯薬出版株式会社。pp. 58-65, 2012.</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 木くずが出ることを想定した服装で参加すること。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 4人で1つの作品を製作。他者と意見交換を行い、作品を構成していく。</p> <p>木版画</p>

	<p>【授業概要】 ・前回に引き続き、グループメンバーと調整を図りながら、彫りの作業を進める。 ・木版画における適応・段階づけの説明。 【key words】 木版画、彫刻 【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社, pp. 58-65, 2012. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 木くずが出ることを想定した服装で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 4人で1つの作品を製作。他者と意見交換を行い、作品を構成していく。</p>
第21回	<p>木版画 【授業概要】 ・刷りの準備、刷り（4～6枚）、タイトル付け、仕上げ。 ・作品のタイトルを決める。 ・木版画における適応・段階付けの説明。 【key words】 木版画、刷り、仕上げ 【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社, pp. 58-65, 2012. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 墨を扱うことを想定した服装で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 4人で1つの作品を製作。他者と意見交換を行い、作品を構成していく。</p>
第22回	<p>作業特性の分析（木版画） 【授業概要】 ・完成した作品を互いに鑑賞する。 ・木版画作業における包括的作業分析チェックリストの作成。 【key words】 木版画、作業特性の分析 【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社, pp. 58-65, 2012. ②配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 チェックリストが仕上がらなかった者は、次回までに仕上げしておく。 【アクティブラーニングについて】 自らが仕上げまで行った作品について、他者と意見交換を行い、作業の特性や作品の段階付けなどを分析する。</p>
第23回	<p>個別作業予定表作り 【授業概要】 ・個人作業。個別作業を開始。 ・事例提示および事例に提供する作業活動について考える。 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までに作成した作品や作業特性の分析レポートを振り返り、製作する作品を検討しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。</p>
第24回	<p>個別作業予定表作り 【授業概要】 ・予定表通りに製作を開始。 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【教科書・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文献検索および個別作業の予定表の作成予定表が仕上がらなかった者は仕上げ提出すること。 個別作業に用いる材料、道具の購入をしておく。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。</p>
第25回	<p>個別作業 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。必要に応じて、他者と意見交換をして作品の装飾等を検討。</p>
第26回	<p>個別作業 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える不足している材料・道具は持参する。</p>

	<p>【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。</p> <p>第27回 個別作業 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。 【key words】 個別作業、事例、作業予定表 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。</p> <p>第28回 個別作業 【授業概要】 ・各々で計画、準備した作業を計画に沿って進める。 ・他者が行っている作業を見学して、作業特性を考える。 【key words】 個別作業、事例 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自の製作スタイルに合わせた服装で参加すること。必要に応じて道具を追加してもよい。 【アクティブラーニングについて】 自由製作。自ら作業予定表作成から完成まで計画して遂行していく。</p> <p>第29回 計画の振り返り 【授業概要】 ・完成した作品を互いに鑑賞する。 ・作業終了者から、個別作業振り返りシートの作成に入る。 【key words】 個別作業、事例、段階付け 【教科書・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作業特性のレポートは期末試験前までに提出すること。 【アクティブラーニングについて】 自らが仕上げまで行った作品について、他者と意見交換を行い、作業の特性や作品の段階付けなどを分析する。</p> <p>第30回 学んだことの振り返り 【授業概要】 ・これまで学んだことの総括。 ・作業分析シートの振り返り。 ・試験範囲の伝達。 【key words】 作業特性の分析、適応・段階付け、振り返り 【教科書・参考文献】 ①古川宏監修：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版株式会社 2012</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。 ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照にすること。 〔受講のルール〕 ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。 ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>月・火曜日の9～12時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（論述・客観）60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%、総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。</p>
<p>教科書</p>	<p>古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012</p>
<p>参考書</p>	<p>①中村隆一，他：基礎運動学 第6版。医歯薬出版，2003 ②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 新版。三輪書店，2017</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ アクティブ・ラーニング</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p>

【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。

アクティブラーニング要素

- 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
牛込祐樹・古田常人・野口直人			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解し、身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。 ②評価の妥当性・信頼性について説明することができる。 ③身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げることができる。 ④各検査項目の基本的な方法を理解し、実践することができる。</p>
------------	---

授業の概要	<p>作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、生活の基盤となる身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。	◎	○		
②評価の妥当性・信頼性について説明することができる。	◎	○		
③身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げることができる。	◎	○		
④各検査項目の基本的な方法を理解し、実践することができる。	◎	◎	△	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／評価概論／意識の評価 評価、ICF、観察、検査、測定、妥当性、信頼性作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理について学ぶ。また、目的とする内容を適切に評価するために重要となる評価の妥当性・信頼性について学ぶ。 対象者の全身状態を知る手がかりとなる意識の評価について学ぶ。</p> <p>第2回 関節可動域測定①：関節可動域測定について意識の評価／バイタルサインの測定／形態計測／反射検査 関節の可動範囲を測定する関節可動域測定の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。基本的な測定手順・注意事項・角度計の扱い方を学ぶ。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の触診を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。</p> <p>第3回 関節可動域測定②：グループ学習 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。</p> <p>第4回 関節可動域測定③：グループ学習 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。</p>
------	---

第5回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 関節可動域測定④：グループ学習 上肢・手指・下肢・頸部体幹の関節可動域測定の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第6回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査①：徒手筋力検査（MMT）について 徒手的に抵抗を与え筋力を測定する徒手筋力検査（MMT）の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。基本的な測定方法・手順、判定基準、注意事項を学ぶ。また、標準化された機器を用いた握力・ピンチ力測定について学ぶ。
第7回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査②：徒手筋力検査（MMT）グループ学習 徒手筋力検査（MMT）の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第8回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査③：徒手筋力検査（MMT）グループ学習 徒手筋力検査（MMT）の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第9回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査④：徒手筋力検査（MMT）グループ学習 徒手筋力検査（MMT）の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第10回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査⑤：徒手筋力検査（MMT）グループ学習 徒手筋力検査（MMT）の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第11回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 筋力検査⑥：徒手筋力検査（MMT）グループ学習 徒手筋力検査（MMT）の実技を通して測定方法を学ぶ。実際に測定できることを目標とする。
第12回	知覚検査①：知覚検査について／簡易知覚検査 生活の中で行われる各種動作を遂行する上で、運動機能とともに重要となる知覚・感覚の評価の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。簡易知覚検査の測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。
第13回	Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 知覚検査②：識別知覚検査／識別能検査 識別知覚検査、識別能検査の測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。
第14回	筋緊張検査／反射検査 脳血管疾患などに伴う筋緊張異常の程度を知る筋緊張検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。
第15回	神経経路や中枢神経系の診断として用いられる反射検査（腱反射・病的反射）の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。各測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。 Tシャツ・ハーフパンツ着用で授業に臨むこと。身体各部の検査を行なうため動きやすく肌を露出しやすいものであること。 バランス機能検査／リーチ機能検査／まとめ 基本動作・日常生活動作の基盤となる座位・立位の姿勢を保つバランス機能とリーチ機能の検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。各測定方法を理解し、実際に測定できることを目標とする。
受講生に関わる情報および受講のルール	・実技を行うので、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・測定、検査の実技テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 〔野口〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 50% <input type="checkbox"/> 関節可動域測定 実技テスト 20% <input type="checkbox"/> 徒手筋力検査（MMT） 実技テスト 20% <input type="checkbox"/> 簡易知覚検査 実技テスト 10%
教科書	①標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版, 医学書院, 2017 ②新・徒手筋力検査法 原著第9版, 協同医書出版社, 2014
参考書	社団法人 日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 第3巻 作業療法評価学, 協同医書出版社, 2009
実務経験のある教員による授業科目/ア	授業担当教員

<p>クティブ・ラーニング</p>	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 身体機能に関する評価を臨床業務として行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
-------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。 ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。 ③脳血管疾患と頭部外傷の違いを説明することができる。</p>			
授業の概要	<p>本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①脳血管疾患に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。	◎	○		
②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。	◎	○		
③脳血管障害で行う主たる評価の目的と方法を行える。	◎	◎	○	
④脳血管障害で行われる主たる治療理論を理解できる。	◎	◎	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本的事項の復習。 脳血管障害、ICF、作業療法の流れ学ぶ事項の確認、学習課題の抽出を行った後、ICFや作業療法の流れについて復習する。また、脳血管障害についての復習を行う。 また、第3回の学習に向けて、事前に「連合反応、共同運動、ブルンストロームステージテスト」について調べたことをレポートとしてまとめる。予習：上記教科書ページを確認する。 復習：上位・下位運動ニューロン、錐体路障害について、脳血管障害について、クリニカルパス、脳の可塑性について調べる（第3回提出）。</p> <p>第2回 脳血管障害の各病期における作業療法の流れについて学ぶ Cerebral Vascular Accident (CVA)に対するOTの各病期ごとの流れを把握できるように学習する。また、クリニカルパスで全体の流れを把握する。各病期のOTの役割について。</p> <p>第3回 共同運動と連合反応について学ぶ。 上位運動ニューロン障害の特徴について動画を通じて臨床像を学ぶとともに、そのメカニズムについて理解する。レポート提出（詳細は第1回目参照）。配布資料をよく読んでおくこと</p> <p>第4回 中枢性運動麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ。 中枢性運動麻痺の回復過程について学ぶとともに、末梢性麻痺との違いについても学ぶ。又、その評価であるBr, Stageや上田による12段階法について知る。配布資料をよく読むこと。第6回目にBr, Stageの小テストを行う。</p> <p>第5回 中枢神経障害による運動麻痺の回復（前回の続き） 不随意運動、運動失調について 中枢神経障害による運動麻痺の回復とその過程について復習する。また、不随運動についてその分類について学ぶ。次回 Br, Stage の小テスト</p> <p>第6回 不随意運動、失調について、Br, Stageテストの小テスト 不随意運動について分類や原因について学び、実際の動画を見て臨床像をイメージできるようにする。 Br. stageテストを中心にここまでの学習状況について小テストで確認する。</p>			

	<p>第7回 具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど CVA急性期におけるOTの実際について学ぶ。バイタルチェックなどのリスク管理の他にポジショニングについては実際に行いながら学ぶ。また、pusher syndromeについても学ぶ。予習しておくこと（第9回までに麻痺の回復ステージに応じた治療を各班で考えておく）</p> <p>第8回 具体的介入法・亜急性期～回復期：神経筋促通法や最新の機器を用いたリハビリテーションなどについて、特徴と適応について調べる 機能回復訓練の適応について学ぶとともに、実技を行いながらそのポイントを学ぶ。予習しておくこと（第9回までに麻痺の回復ステージに応じた治療を各班で考えておく）</p> <p>第9回 具体的介入法・回復期：上位運動ニューロン障害に対するアプローチについて調べたことを発表する 上位運動ニューロン障害によって生じる運動麻痺の回復段階に応じActivity の選定方法について学ぶ。 また、各グループで調べたことを発表する。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」</p> <p>第10回 具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、手指の基本的機能と書字訓練 上肢機能をreach, grasp, move, position, release, に分けてそれぞれどのように分析し、アプローチを考えるか実技を通して学ぶ。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」</p> <p>第11回 具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、ADLに配慮したアプローチ Activityレベルの問題とその背景にあるBody functions & structures レベルの問題との関連について片麻痺のADLへのアプローチについて考える。第12回までに「頭部外傷の分類、TBIにおける症状（CVAとの違いを含む）、高次脳機能障害を調べる」</p> <p>第12回 脳血管障害の各病期におけるOTの役割 CVAにおけるOTの役割について考えるとともに、CVAケースに対する評価項目についてDiscussionする。回復段階に応じた身体機能のアプローチについて復習してまとめる</p> <p>第13回 外傷性脳損傷における作業療法 頭部外傷と脳挫傷の分類、症状、CVAとの症状の違い、高次脳機能障害について学ぶ。課題提出（詳細は第11回を参照）</p> <p>第14回 外傷性脳損傷の続き、OTの流れ（脳血管障害のモデルケースを通して学ぶ） 頭部外傷のOTの流れについて学ぶとともに、高次脳機能障害の代表的な症状について学ぶ。期末試験の準備をし、わからない点をまとめておく</p> <p>第15回 病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。本科目のまとめ。 今までの重要な項目やKey Word について復習と確認を行う。また、CVA患者の動画を見て痙縮、連合反応、共同運動など専門用語を用いて現象を説明する。期末試験の準備をし、わからない点などをまとめておく</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。 実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。 授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。途中で小テストの実施も予定している
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約
評価方法	<p>■筆記試験（□論述 ■客観） □レポート □口頭試験 ■実技試験 □その他</p> <p>評価配分：筆記試験70%、実技試験30%</p>
教科書	長崎 重信（編集） 身体障害作業療法学 改訂第2版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）メジカルビュー社
参考書	山口 昇/玉垣 努 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院（第3版） 菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社 千田富義 編 『リハ実践テクニク 脳卒中』 メジカルビュー社 Ortrud Eggers 著 『エガース・片麻痺の作業療法』 協同医書出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 一般病院、及び大学病院等で、脳血管障害に対する作業療法実践を行っていた。</p> <p>アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。</p> <p>②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。</p> <p>③精神科領域における作業療法評価（情報収集・観察・面接・集団・検査）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。</p> <p>④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。</p> <p>⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。</p> <p>⑥地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。</p>			
授業の概要	精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。	◎	○	△	
②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。	◎	○	△	
③精神科領域における作業療法評価（情報収集・観察・面接・集団・検査）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。	◎	○	△	
④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。	◎	○	△	
⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。	◎	○	△	
⑥地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
授業計画	第1回 科目オリエンテーション/こころの病と精神科			

第2回	<p>key words: 精神科医療、精神科リハ、精神科OT、ストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院の概要や雰囲気、対象となる方などを理解する為、動画を観る ・精神科リハビリテーション、作業療法に関する説明 <p>大西 暢夫：ひとりひとりの人、精神看護出版 予習：全書 精神障害 pp.3-36、配布資料</p> <p>精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状：レポート提出</p>
第3回	<p>key words: モラルトリートメント、Pine1、呉秀三、クロルプロマジン、宇都宮事件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先史、諸外国における精神科医療の歴史 ・日本の精神科医療の歴史と関連する法律 <p>全書 精神障害 pp.3-36 配布資料レポート：日本精神科医療・OTの現状・課題と今後の展望（次回、講義時に提出） 予習：全書 精神障害 pp.45-75</p> <p>精神科作業療法と精神障害者を地域で支える仕組み</p>
第4回	<p>key words: メンタルヘルス、入院形態、施設基準、障害者総合支援法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスとメンタルヘルスについて ・精神障害者に関わる法律、制度 ・精神科OTの施設基準 ・ACTの取り組みについて <p>全書 精神障害 pp.45-75 配布資料 次週、ICFの教科書を持参すること。</p> <p>作業療法と精神障害領域における評価</p>
第5回	<p>key words: ICF、精神機能、評価、作業療法プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科リハビリテーションの目的 ・精神機能とは ・作業療法プロセス ・作業療法評価とは <p>配布資料、国際生活機能分類 pp.58-68 予習：全書 精神障害 pp.75-79・pp.315-318</p> <p>作業療法の基本的な視点と方法(作業・作業活動を介した回復支援・生活支援)</p>
第6回	<p>key words: リカバリー、エンパワメント、ストレングス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リカバリーモデル、ストレングスモデル、エンパワメントについて ・目的、手段としての作業 ・OTプログラムの指針 <p>全書 精神障害 pp.75-79・pp.315-318 予習：全書 精神障害 pp.89-111</p> <p>作業療法の基本的実践論(治療構造と実践形態/実践のプロセス)</p>
第7回	<p>key words: 治療構造、実践形態、個別作業療法、集団作業療法、評価の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神機能OTの治療構造と実践形態について ・個別作業療法と集団作業療法について ・作業療法評価の流れ <p>全書 精神障害 pp.89-111 予習：全書 精神障害 pp.112-130</p> <p>作業療法の基本的実践論(病期に応じた生活支援：急性期、回復期、生活期、予防期)</p>
第8回	<p>key words: 病期、リカバリー、作業療法の目的、協働、地域包括ケアシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症の回復過程 ・病期におけるリハビリテーションおよび作業療法の目的 ・多職種協働とクリティカルパス ・地域包括ケアシステムとは <p>全書 精神障害 pp.112-130 予習：標準 OT評価学 pp.468-477</p> <p>精神機能作業療法評価の基礎(情報収集)</p>
第9回	<p>key words: 情報収集、作業、他職種情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法評価の流れと評価の概要 ・対象者を評価する際に必要な基本的情報とその収集方法について ・観察の視点とその具体的方法 <p>標準 OT評価学(第3版) pp.468-477 予習：標準OT評価学(第3版) pp.482-485</p> <p>精神機能作業療法評価の基礎(面接法)</p>
第10回	<p>key words: 構造化面接、面接の手順、面接事項、環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接の目的と留意点 ・面接の実施方式について ・面接の手順について ・様々な場面・環境で面接を行ってみる <p>標準OT評価学 pp.482-485 予習：標準 評価法 pp.478-482</p> <p>精神機能作業療法評価の基礎(観察法)</p>
第11回	<p>key words: 作業観察、自然観察法、実験観察法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察の目的と留意点 ・観察の方法 ・作業観察を行ってみる <p>標準OT評価学 pp.478-482 予習：標準 評価法 pp.498-504</p> <p>精神機能作業療法評価の基礎(集団評価法)</p>
第12回	<p>key words: 集団評価、集団構造、集団レベル、集団適応、集団凝集性、集団力動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団評価の視点とその方法 <p>標準 評価法 pp.498-504 予習：標準 OT評価学 pp.486-497</p> <p>精神機能作業療法評価の基礎(検査法)</p>
	<p>key words: 検査法、評価尺度、質問紙、妥当性・信頼性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法評価に関わる検査法の実際

	<p>標準 OT評価学 pp.486-497 予習：全書 精神障害 pp.222-235 精神障害者の自立支援とチーム医療・チームケア（遠藤） key words:就労支援、地域生活支援、まちづくり、社会資源、ケアマネジメント ・就労支援の実際 ・まちづくりによる地域生活支援 全書 精神障害 pp.222-235 講義終了後に地域社会資源の調査を宿題。 第13回の講義時に調べた地域資源の発表予定。</p> <p>第14回 障害福祉サービスとケアマネジメントの基礎（遠藤） key words:就労支援、地域生活支援、まちづくり、社会資源、ケアマネジメント ・地域生活における障害福祉サービスを調べ発表し、情報共有をしケアマネジメントの基礎を学ぶ。 全書 精神障害 pp.210-240 地域の障害福祉サービスの一覧を調査し、発表を行い情報共有する。</p> <p>第15回 精神障害者の地域移行支援～退院支援の仕組みとコツ～（遠藤） key words:就労支援、地域生活支援、まちづくり、社会資源、ケアマネジメント ・精神保健福祉領域の社会的背景を振り返り、地域生活支援の在り方について学ぶ。 全書 精神障害 pp.222-235 様々なフィールドに興味を持つこと</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕 ・予習復習をしっかりとる。 ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義終盤で実施予定。 〔受講のルール〕 ・講義は欠席のないようにする。 ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。 ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月曜日16:00～17:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 70%（再試験あり。） <input type="checkbox"/> レポート 30%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	①日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害，2010. ②岩崎テル子他（編）：作業療法評価学，第3版．医学書院，2017.
参考書	①小林夏子（編）：標準作業療法学，精神機能作業療法学，第2版．医学書院，2014. ②香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—，第2版．医歯薬出版，2014.
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当する。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①代表的なADL・IADL評価法を説明することができる。 ②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。 ③基本動作の観察ポイントを挙げるができる。 ④評価結果をまとめることができる。</p>			
授業の概要	ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①代表的なADL・IADL評価法を説明することができる。	◎			
②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。	◎	◎		
③基本動作の観察ポイントを挙げるができる。	◎	◎		
④評価結果をまとめることができる。	◎	◎		
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／ADLとは 科目オリエンテーションで科目の位置づけとシラバスの説明を行います。ADL・IADLの定義について学ぶ。 「運動、動作、行動、活動、行為、BADL、IADL」 P1～28</p> <p>第2回 ADLの評価とは 評価と作業療法計画について学びます。また、代表的なADL評価法を学びます。 P15～28 「作業療法の流れ、ICF」 予習：作業療法入門で学んだ作業療法の流れについて見直しておく 課題：トップダウン・ボトムアップアプローチについて各自調べておく</p> <p>第3回 ADL評価法（Barthel Index, FIM） できるADLの評価法として代表的なBarthel Indexの評価項目、採点について具体的に学ぶ。また、FIMの評価尺度についても学ぶ。 「Barthel Index, FIM」 P29～32 予習：Barthel IndexとFIMの違いを調べる 復習：各項目の点数の違いを整理する</p> <p>第4回 ADL評価法（FIM 運動項目） FIMの運動項目であるセルフケア、排泄コントロール、移乗について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。「FIM（運動項目）」 復習：各項目の点数の違いを整理する</p> <p>第5回 ADL評価法（FIM 運動項目） FIMの運動項目である移乗、移動について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。 「FIM（運動項目）、FIM（認知項目）」 復習：各項目の点数の違いを整理する</p> <p>第6回 ADL評価法（FIM 認知項目） FIMの認知項目であるコミュニケーションについて評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。</p>			

	<p>「FIM（認知項目）」 復習：各項目の点数の違いを整理する</p> <p>次回小テスト 小テスト、IADL評価法（老研式、FAI、AMPS） 第6回までの範囲の小テストを行う。 また、Barthel Index、FIM以外のADL・IADLの評価法について概要を学ぶ。 「老研式、FAI、寝たきり度、AMPS」 P32～47</p> <p>第8回 AMPS（運動技能）① AMPSの運動技能の身体的位置（Body Position）と物の獲得と把持（Obtaining and Holding Objects）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。 「身体的位置、物の獲得と把持」 課題：プリントの例題を解く。</p> <p>第9回 AMPS（運動技能）② AMPSの運動技能の自己と物の移動（Moving Self Objects）と遂行の維持（Sustaining Performance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。 「自己と物の移動、遂行の維持」 課題：プリントの例題を解く。</p> <p>第10回 AMPS（プロセス技能）① AMPSのプロセス技能の遂行の維持（Sustaining Performance）と知識の適用（Applying Knowledge）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。 「遂行の維持、知識の適用」 課題：プリントの例題を解く。</p> <p>第11回 AMPS（プロセス技能）② AMPSのプロセス技能の空間と物の組織化（Organizing Apace and Objects）と遂行の適応（Adapting Paeformance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。 「空間と物の組織化、遂行の適応」 課題：プリントの例題を解く。</p> <p>第12回 動作分析①メモのとり方、評価のポイント 動作の観察、記録の方法を学ぶ。実際に被験者、動画を使い動作分析を行う 「メモ、記録、工程」 課題：動作分析のまとめを次回提出。</p> <p>第13回 動作分析①起き上がり動作 基本動作の起き上がり動作を分析し、動作に必要な諸機能について学ぶ。 「工程分析、支持基底面、体重支持面、重心」 課題：動作分析のまとめを次回提出。</p> <p>第14回 動作分析②片麻痺の寝返り動作 片麻痺患者さんの寝返り動作を体験し、評価・指導のポイントを学ぶ。 「支持基底面、体重支持面、重心、筋緊張」 課題：動作分析のまとめを次回提出。</p> <p>第15回 次回小テストを行う。 小テスト、ADL・IADL評価のまとめ 小テストを行う。また、作業療法士が行うADLの評価のポイントを学ぶ。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	実習の際は動きやすい服装で受講すること。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。スマホ・タブレット・デジカメ等、静止画・動画が撮影できる機器を準備すること。授業に関係のないものの持ち込みを禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	小テスト10% 筆記90%
教科書	濱口豊太編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院, 2014
参考書	伊藤利之, 江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際. 医歯薬出版, 2011
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 作業療法に関わる社会保障制度について、各法律の定義・内容を理解することを目的とする。 [授業の到達目標] ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。 ②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。 ③作業療法に関わる関連法規の概要と規程施設について説明することができる。
授業の概要	地域リハビリテーションにかかわる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実践に必要な基礎知識、主に社会保障制度と社会福祉関連を学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。	◎			
②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。	◎			
③作業療法に関わる関連法規の概要と規程施設について説明することができる。	◎			

授業計画	第1回	科目オリエンテーション、地域リハビリテーションとは、日本の社会保障制度 科目オリエンテーションを行い、地域作業療法入門Ⅱ、地域作業療法実習Ⅱとの関連を説明する。日本の社会保障制度について定義、対象者、内容を説明する。 「CBR、地域リハビリテーション、社会保障制度」 次回、健康保険証を各自持参すること。また、病院等を受診した際の診療明細書があれば持参すること（学生本人のものでなくても可）。
	第2回	社会保険、医療保険制度について 社会保険制度の一つ、社会保険の仕組みを説明する。その内の医療保険のしくみや種類、内容を学ぶ。 「社会保険制度、医療保険、現物給付、償還払い」 復習：医療保険の仕組みを見直しておく
	第3回	診療報酬について 医療保険における診療報酬について、医療費の仕組みとリハビリテーション料について学ぶ。 「医療費明細書、疾患別リハビリテーション料」 課題：第5回までに「障害者総合支援法」について各自調べる
	第4回	後期高齢者医療制度について 日本における高齢者医療について、対象、仕組み等を学ぶ。 「後期高齢者医療制度」 復習：後期高齢者医療制度の保険料の仕組みについて見直す 課題：次回までに、障害者総合支援法について各自調べ、まとめておくこと。調べた内容を使用し、授業を進めます。
	第5回	社会福祉について 日本における社会保険（医療保険を除く）について学び、日本の各種保障や福祉について考えます。特に障害者総合支援法については、各自が調べたことをもとに、日本の福祉の変遷、今後について学びます。 「障害者総合支援法、支援費制度、措置制度」 復習：障害ごとの福祉法についても復習しておく
	第6回	障害者雇用制度について 障害者雇用について、事業主・対象者のそれぞれについて学びます。 「障害者雇用促進法、法定雇用率、納付金制度」

	<p>第7回 課題：次回までに、精神機能作業療法で学んだ入院形態や病院・病棟等を復習しておくこと。精神科領域における地域作業療法について精神科病院に勤務する作業療法士を講師に迎え、精神科病院における地域リハビリテーションについて学びます。 「リワーク、デイケア」</p> <p>第8回 次回小テストを行います。 小テスト、地域リハビリテーションのまとめ 小テストとまとめを行います。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	関連法規を学ぶ上で、難しい専門用語が多く出てくる。その為、自己学習を積極的に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループ発表では指定時間、レジユメの提出を厳守し、わかりやすい工夫を行うこと。
オフィスアワー	月曜日16:10～17:30
評価方法	小テスト10% 筆記試験90%
教科書	特に指定しない
参考書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論. 第7版増補, 医歯薬出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法入門で学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれらを学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。 ②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してることができる。 ③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。</p>
授業の概要	作業療法士が働いている医療機関（身体機能障害領域を中心とした病院）での3日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。	◎			
②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してすることができる。	○	○		
③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。				◎
授業計画	第1回	事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理など） 事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理）本科目のオリエンテーションを行う。また、実習の際に起こりうる事故の可能性について理解するとともに、リスク管理、特に感染症に対する基本的な知識を確認し、実習時に配慮する点などを学ぶ。適切な情報管理の方法についても学ぶ（特に個人情報の保護について）。配布プリント、指定教科書①大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院①の教科書にて、スタンダードプレコレーションについて調べておく。		
	第2回	事前オリエンテーション、リスク管理（転倒、コミュニケーション、バイタル確認など） 実習の際に起こりうる事故の可能性について理解するとともに、事故を防ぐ為に必要な知識や配慮などについて学ぶ。特に、転倒や車椅子からの転落など、気をつける点について説明。また、患者とのコミュニケーション上の注意点や、実際に触れる際の注意点なども学ぶ。配布プリント、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部実習の手引き 指定教科書①大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院実習の手引きに目を通しておくこと		
	第3回	学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 デイリーレポートの他に、各病院からの課題		
	第4回	学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 デイリーレポートの他に、各病院からの課題		
	第5回	学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 デイリーレポートの他に、各病院からの課題		
	第6回	学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。 デイリーレポートの他に、各病院からの課題		

	<p>第7回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第8回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第9回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第10回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第11回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第12回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第13回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第14回 学生は指定された県内の各病院施設へ3日間で見学実習にて学ぶ。デイリーレポートの他に、各病院からの課題</p> <p>第15回 実習のまとめ・発表 各自、実習で体験したことをまとめ、セミナーで発表する。発表資料、スライドなどの作成</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業内で配布する各種実習書類
授業外時間にかかわる情報	実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他、実習期間の前後は随時受け付け
評価方法	課題レポート65%、実習への参加態度・発表・実習先評価25%、振り返りシート10%
教科書	大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版、医学書院
参考書	京極真・鈴木憲雄(編著)：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック、誠信書房。 市川和子(編)：標準作業療法学-専門分野、作業療法臨床実習とケーススタディ、医学書院。 実習の手引きと配付資料
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴・野口直人			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、基本的評価技法の知識を習得するとともに、様々な対象者に実践するための基本的技能が修得できる。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。 ②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。 ③各検査手技を自己学習を通して正確に行うことができるようになる。</p>
授業の概要	作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①作業療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。	○	○		
②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。	○			
③各検査手技を自己学習を通して正確に行うことができるようになる。	◎			

授業計画	第1回	科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。 全人間の側面、評価と診断、ICF医師が行う評価、すなわち診断と作業療法で行う評価の違いは何かを考える。作業療法における評価やその手順について学ぶとともに、検査結果を解釈することの意味について考える。 本授業で扱うプリント等をまとめる方法について、確認する。教科書②澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス、医歯薬出版P.2～15教科書指定か所に目を通してから受講すること
	第2回	情報収集、面接 面接の目的や環境設定の工夫、位置関係やコミュニケーション手法について学ぶ。面接における一般的注意事項についても学ぶ。また、カルテなどからの情報収集の目的と手法について考える。教科書①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院P.46～61教科書指定か所に目を通してから受講すること
	第3回	観察について 作業療法における重要な評価手段の一つである観察について学ぶ。対象者について、様々な観察場面から多面的にみて情報を得るための手法について学ぶ。教科書①P.55～61、P.457～465教科書指定か所に目を通してから受講すること
	第4回	脳神経、協調性の検査 脳神経の検査方法について、実技を通して学ぶ。また、協調性障害と協調性の検査についても学ぶ。教科書①P.172～199、P.166～171教科書指定か所に目を通してから受講すること MFTとSIASについて配布プリントで予習しておくこと
	第5回	脳卒中機能評価法SIAS、脳卒中上肢機能検査MFT、ブルンストロームステージテスト、上田による片麻痺機能テスト SIASとMFT、Br. stageテスト、上田による片麻痺テストについて概要を理解(復習)するとともに、それらのテストを実施するうえで必要となる知識と技術を習得する。配布プリント等を基に復習し、STEFについての予習すること。特にブルンストロームステージテストとMFTは第10回の実技試験対象項目となる。
	第6回	簡易上肢機能検査：STEF STEFについて概要を理解するとともに、実際に検査を行うことで、実施方法を身につける。また、STEFの実施を通して、レクチャーの重要性、観察の視点についても学ぶ。特に、検査の実施だ

	<p>けでなく、遂行時の動作の質についても評価する。STEFについてのプリントSTEFについてのプリント（事前配布）を呼んでから参加すること。次回、TUG、FR、片脚立位などのプリントを予習しておくこと。</p> <p>第7回 介護予防：TUG、片脚立位、ファンクショナルリーチ、HDS-Rなど 介護予防事業で用いられることの多い簡便な評価指標について学ぶとともに、実技を通してその実施スキルを身につける。また、HDS-Rの概要についても学ぶ。HDS-Rについては、第10回に実技試験を実施する。 次回のASIAによるISCSCIについて予習すること。</p> <p>第8回 脊髄損傷者に対する検査法（ASIA-ISCSCI） ASIAによるISCSCIの評価シートを用いて脊髄（頸髄）損傷者に対するスクリーニング評価を実技を通じて学ぶ。また、感覚検査とMMTについて復習する。教科書①P.360～371 ISCSCIについて復習しておくこと。 配布プリントコース立方体組み合わせテストの予習。</p> <p>第9回 コース立方体組み合わせテスト コース立方体組み合わせテストの実施方法について学ぶとともに、実際に学生同士で一部を実施することで、実践のためのスキルを身につける。また、HDS-Rの概要についても学ぶ。配布プリントコース立方体組み合わせテストについて復習</p> <p>第10回 第9回までに学んだ内容に対する振り返り 指定された項目についてこれまでの学習状況を確認するために、実技試験を実施する。</p> <p>第11回 トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ、COPMやAMPSについて クライアント中心実践のための測定ツールである。COPMやAMPSについて理解する。配付資料を復習すること。</p> <p>第12回 うつ、活動性、意欲、セルフエフィカシー、QOLの尺度について。意識・覚醒レベルの評価。 意欲や気分、自己効力感など目に見えにくい対象の評価について学ぶ。また、意識に対する評価も行う。配布資料配布資料を復習すること</p> <p>第13回 精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる ICFの分類項目を用いて精神機能障害を構造的に捉える。また、見学次週で見たケースまたは周囲の人について、実際にICFの項目に当てはめて考えてみる。世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類、中央法規。2002ICFについて、1年次のリハビリテーション入門の授業を基に振り返りをしてから参加すること</p> <p>第14回 作業療法評価計画、評価の流れ、検査結果の解釈 作業療法における評価計画について学ぶ。また、作業療法における評価について、得られた結果を統合し解釈するまでの過程について学ぶ配布プリント等授業内容の復習</p> <p>第15回 作業療法における評価・評価のまとめ 本科目で学んだ事の総まとめ。作業療法における評価とは？について、再度振り返り考える。今までの資料をまとめる今までの資料をまとめる</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。 実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習などを行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。 また、各講義で配布する資料などはファイルにまとめて期末に提出すること。
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約
評価方法	期末筆記試験50%、中間評価実技テスト30%、実施評価のまとめファイル提出課題20%
教科書	①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院 ②澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス。医歯薬出版
参考書	日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学。協同医書出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
宮寺亮輔・野口直人・柴田全利			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、整形外科疾患や内部障害に対する基本的な知識や作業療法の流れについて学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①整形外科疾患や内部障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。 ②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。 ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。</p>
授業の概要	本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら理論を学習する。また、内部障害の作業療法の基本的な流れも学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①整形外科疾患や内部障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。	◎	○		△
②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。	◎		○	
③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。	◎		○	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び／クリニカルパス</p> <p>【授業概要】 骨折に対する作業療法この授業の位置づけについて、理解する。わが国における高齢化、それに伴う転倒、骨折件数の増加など、身体機能作業療法を取り巻く社会的な背景について理解する。また、整形外科疾患に対する作業療法士の役割についてディスカッションを通して考える。骨折に対する作業療法を実践する際に必要となる評価で特徴的な物について学ぶ。また、クリニカルパスについて知るとともにそのメリット・デメリットについて学ぶ。</p> <p>【key words】 骨折、クリニカルパス</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 216～231、P. 47～49</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 216～231、P. 47～49課題を別途提示、物理療法についてのレポート</p> <p>第2回 関節可動域訓練の治療原理</p> <p>【授業概要】 拘縮と強直の違いや関節可動域訓練の治療原理について学ぶ。また、凹凸の法則についても学ぶ。</p> <p>【key words】 拘縮、強直、関節可動域</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 216～231、P. 47～49</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 216～231、P. 47～49を事前に読んでおくこと。P. 76～86関節可動域について復習。</p> <p>第3回 関節可動域練習の実際、筋力増強訓練の治療原理</p>
------	--

	<p>【授業概要】 ROMの治療原理を踏まえた上でのROMexについて実技を通して学ぶ。ひも巻き法などの浮腫への対応方法についても学ぶ。また、筋力状況訓練の治療原理について学ぶ。</p> <p>【key words】 関節可動域、浮腫、筋力訓練</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 76～86</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 76～86 ROMの実技は各自で練習すること、筋力増強練習について用語を復習すること。</p> <p>第4回 筋力増強練習の治療原理とその実際（物理療法レポート事前提出）</p>
	<p>【授業概要】 筋力増強練習の治療原理について理解するとともに、実施上の注意点について知る。また、実践するための実技を身につける上での注意点などについても学ぶ。廃用症候群とその対応について学ぶ。</p> <p>【key words】 筋力訓練、廃用症候群</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 87～98</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 87～98等尺性、等張性、等速性、求心性、遠心性筋収縮と開放運動連鎖OKC、閉鎖運動連鎖CKCについても復習しておく。物理療法について予習しておく。</p> <p>第5回 物理療法について①（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）</p>
	<p>【授業概要】 各物理療法の概要、適応、禁忌、実施上の注意点などについて、実際に機器を用いながら行う。</p> <p>【key words】 物理療法、適応、禁忌</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 136～149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 136～149事前提示した課題レポート。機器の取り扱い上注意を十分に復習しておくこと。次回小テスト</p> <p>【アクティブラーニングについて】 実際の機器の操作方法を理解し、実際に体験しながら物理療法の効果について学ぶ。</p> <p>第6回 物理療法について②（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）</p>
	<p>【授業概要】 各物理療法の概要、適応、禁忌、実施上の注意点などについて、実際に機器を用いながら行う。</p> <p>【key words】 物理療法、適応、禁忌</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 136～149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 136～149事前提示した課題レポート、機器の取り扱い上注意を十分に復習しておくこと。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 実際の機器の操作方法を理解し、実際に体験しながら物理療法の効果について学ぶ。</p> <p>第7回 治療① 上腕骨折や下肢骨折者、THA後の介入の実際</p>
	<p>【授業概要】 実践的なROMexが実施できるように、実技を通してROMex実施上の注意点や治療者の身体の使い方について学ぶ。また、上下肢の各ストレッチ方法についても実技を通して学ぶ。Total Hip Arthroplasty：THA後のリハやADL指導上重要な点について学ぶ、禁忌肢位への指導なども学ぶ。</p> <p>【key words】 関節可動域、ストレッチ、THA、禁忌肢位</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 126～123</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 126～123熱傷と関節リウマチについて予習すること。</p> <p>第8回 治療② 熱傷や関節リウマチ</p>
	<p>【授業概要】 熱傷や関節リウマチのある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ実践的なROMexが実施できるように、熱傷や関節リウマチの特性を踏まえた実施方法について学ぶ。別途配布プリント等</p> <p>【key words】 熱傷、関節リウマチ</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 298～309、P. 240～254</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 298～309、P. 240～254内部障害について予習すること。</p> <p>第9回 治療③ 熱傷や関節リウマチ、SEL、多発性筋炎など</p>
	<p>【授業概要】 熱傷や関節リウマチのある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ実践的なROMexが実施できるように、熱傷や関節リウマチの特性を踏まえた実施方法について学ぶ。別途配布プリント等</p> <p>【key words】 熱傷、関節リウマチ</p> <p>【教科書・参考文献】 P. 298～309、P. 240～254、P. 255-259</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 298～309、P. 240～254、P. 255-259内部障害について予習・復習すること。</p> <p>第10回 治療④ 内部障害のある人へのアプローチ（呼吸器・循環器）</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>内部障害のある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ。 【key words】 内部障害、適応 【教科書・参考文献】 P. 376～439 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 376～439内部障害について予習すること。</p> <p>第11回 治療⑤ 内部障害のある人へのアプローチターミナル (代謝異常と)</p> <p>【授業概要】 内部障害のある人に対する身体機能へのアプローチについての概要を学ぶ。 【key words】 内部障害、適応、ADL 【教科書・参考文献】 P. 376～439 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 376～439腕神経損傷について予習すること。</p> <p>第12回 末梢神経損傷に対する作業療法①</p> <p>【授業概要】 腕神経叢損傷における分類、特徴について知るとともに、OTとしての評価や治療方法について学ぶ。 【key words】 腕神経叢損傷、神経支配、筋力訓練 【教科書・参考文献】 P. 261-278、123-130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 261-278、123-130知覚再教育について予習すること。次回小テスト。</p> <p>第13回 末梢神経損傷に対する作業療法② 学習確認小テスト</p> <p>【授業概要】 腕神経叢損傷に対する作業療法について学ぶ。また、知覚再教育についても学ぶ。ここまでの学習状況について小テストを実施。 【key words】 腕神経叢損傷、神経支配、筋力訓練 【教科書・参考文献】 P. 261-278、123-130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P. 261-278、123-130肩関節周囲炎や腰痛、OAについて予習すること</p> <p>第14回 肩関節周囲炎、腰痛、変形性関節症</p> <p>【授業概要】 各疾患の特徴について復習するとともに、作業療法士としての評価や治療の流れについて学ぶ。 【key words】 肩関節周囲炎、腰痛、変形性関節症 【教科書・参考文献】 P. 232-238。配布プリントあり。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリントと教科書P. 232-238当該範囲を復習しておくこと。</p> <p>第15回 身体機能に対する作業療法を実践するための基本的手技などのまとめをする。</p> <p>【授業概要】 座学と実技のまとめを行う。基本的な治療原理や治療者の立ち位置など、本授業内で学んだことを復習する別途指定したとおり本科目のまとめをしておくこと。 【key words】 身体機能作業療法、治療原理、振り返り 【教科書・参考文献】 教科書と配布プリント</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。 実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。 授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。</p> <p>そのほかに、課題レポートと小テストがあるため、準備を進めること。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約</p>
評価方法	<p>■筆記試験（□論述 ■客観）、■その他 評価配分：筆記試験60%、授業内演習課題・小テスト40%</p>
教科書	<p>山口昇／玉垣努 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院 （第3版）</p>
参考書	<p>菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社 長崎重信 編 『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』 メジカルビュー社(第2版)</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展</p>

開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。

アクティブラーニング要素

- 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。 ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。 ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。 ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。 ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践およびケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。</p>
------------	--

授業の概要	ICFに基づいた精神疾患における評価～目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。	◎	◎	○	
②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。	◎	◎	○	
③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。	◎	◎	○	
④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践およびケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。	○	◎	◎	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/精神障害領域における作業療法評価 key words: OT評価、ICF、目標指向的アプローチ、目標設定 ・精神科作業療法における評価および支援の流れと実際 ・退院支援に必要な基本的視点と考え方 配布資料 予習：標準 評価学 pp.515-518</p> <p>第2回 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 key words: 参加制約、認知機能障害、ドパミン経路 ・統合失調症の症状や障害特性、生活障害について ・統合失調症の評価のポイントについて 標準 評価学 pp.515-518</p>
------	---

第3回	<p>予習：標準 評価学 pp.518-520</p> <p>気分(感情)障害</p> <p>key words: うつ病、躁病、扁桃体、ストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気分障害の評価項目・方法および留意点の説明 ・気分(感情)障害患者に関する動画の視聴 <p>標準 評価学 pp.518-520</p>
第4回	<p>予習：標準 評価学 pp.529-533</p> <p>精神作用物質使用による精神および行動の障害</p> <p>key words: 依存、耐性、共依存、身体機能評価、離脱症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症候群の特性と評価の一般的枠組み(アルコール依存を中心に) ・依存症患者に関する動画の視聴 <p>標準 評価学 pp.529-533</p>
第5回	<p>予習：標準 評価学 pp.520-522</p> <p>神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害</p> <p>key words: 防衛機制、不安障害、EPA系、主観性評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経症性障害の分類について ・逃避・闘争反応、ホルモンの働きについて ・強迫性障害に関する動画の視聴 <p>標準 評価学 pp.520-522</p>
第6回	<p>予習：標準 評価学 pp.522-525</p> <p>成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害</p> <p>key words: 認知、感情、対人関係機能、衝動制御</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティ障害の種類と特徴 ・人格障害の問題領域と作業療法の目的、評価のポイント ・人格障害に関する動画の視聴 <p>標準 評価学 pp.522-525</p>
第7回	<p>予習：標準 評価学 pp.525-527</p> <p>生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群</p> <p>key words: 拒食、過食、失感情症、窃盗症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理的障害の内容、評価の一般的枠組み ・摂食障害患者に関する動画の視聴 <p>標準 評価学 pp.525-527</p>
第8回	<p>てんかん</p> <p>key words: 意識障害、発作症状、二次障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てんかんの分類とその内容、評価の一般的枠組み ・てんかん患者に関する動画の視聴 <p>配布資料</p>
第9回	<p>標準 評価学 pp.544-551各疾患の評価方法をよく復習しておくこと。</p> <p>作業に焦点を当てた評価</p> <p>key words: 興味関心チェックリスト、COPM、CAOD、SOPI、OQ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の役割と作業の評価 ・NPI興味関心チェックリスト、COPM、CAODをペア学習にて実施する。 <p>配布資料得られた評価結果をレポート形式にてまとめておく。極力欠席することがないようにする。</p>
第10回	<p>課題：自分自身の「参加」についてまとめる。(次回持参)</p> <p>精神科領域における参加・活動の評価</p> <p>key words: 社会参加、生活能力、LASMI、協会版ケアアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の社会参加、参加制約状況について考える。 ・LASMIの実施手順の説明。 ・LASMIのD/I/Wの領域をペア学習により、評価する。 <p>配布資料得られた評価結果をレポート形式にてまとめておく。極力欠席することがないようにする。</p>
第11回	<p>精神科領域における心身機能の評価：レポート提出</p> <p>key words: 精神機能チェックリスト、BPRS、RAS</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習にて、お互いの精神機能についてチェックリストに沿って評価を行う。 <p>配布資料第9～11回で行った評価結果をレポート形式にてまとめる。極力欠席することがないようにする。</p>
第12回	<p>精神障害のOT評価グループワーク(遠藤)</p> <p>key words: 事例演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通してケースのOT評価やアセスメント、ケアマネジメントの視点について考える。 ・境界性人格障害への対応 <p>全書 精神障害 p.161</p> <p>前期講義の調査資料を持参すること</p>
第13回	<p>精神障害のOT評価(野中式事例検討)(遠藤)</p> <p>key words: OT評価、アセスメント、ケアマネジメント</p> <p>野中式事例検討を行い、ケースの全体像を把握する。</p> <p>全体像の把握とストレングスの視点を学び、課題やニーズの焦点化をする。</p> <p>全書 精神障害 p.135など</p> <p>前期講義の調査資料を持参すること</p>
第14回	<p>精神障害者のケアマネジメントの基礎(遠藤)</p> <p>key words: ケアマネジメント、サービス等利用計画、ケア会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者のケアマネジメントの基礎を学ぶとともに、ケア会議の在り方、運営方法について学ぶ。 <p>全書 精神障害 p.135など</p> <p>前期講義の調査資料を持参すること</p>
第15回	<p>学んだことの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだことの総括・試験範囲の伝達

	期末試験に向け、これまで講義で学んだ内容を総復習すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習復習をしっかりとる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。 ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義終盤で実施予定。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は欠席のないようにする。 ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。 ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月曜日16:00～17:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 70%（再試験あり） <input type="checkbox"/> レポート 30%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	<p>①日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害，2010.</p> <p>②岩崎テル子他（編）：作業療法評価学，第3版．医学書院，2017.</p>
参考書	<p>①吉川ひろみ（訳）：COPM，カナダ作業遂行測定．大学教育出版，2014.</p> <p>②「臨床精神医学」編集委員会：精神科臨床評価マニュアル（2016年版）．アークメディア，2016.</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ADLやIADLを改善・向上するために必要な評価と介入の知識を身につける。また、障害別の評価・介入の方法を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①作業療法におけるADLの治療理論について説明することができる。 ②基本動作・ADLの評価の視点を理解し、その介助方法、作業療法の介入ポイント・方法を説明することができる。 ③動作改善の代償方法としての自助具について理解し、対象者・使用目的を設定し、自助具を交換作成することができる。 ④作業療法士が自助具を作成する際の注意点について説明することができる。 ⑤各種福祉用具の名称・使用目的を説明することができる。 ⑥住宅改修にかかわる法律および福祉用具とのかかわりを説明できる。</p>
授業の概要	ADLやIADLを改善・向上するためには、運動機能と動作・活動の関係に留意した評価が必要となり、その後機能の改善・回復または代償動作・手段の検討が必要となります。本講義では障害別の評価をもとに、対象者にとって必要な治療・介入について学びます。また、介入方法の1つとして考えられる自助具について、実際に製作することで適応や応用について学びます。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法におけるADLの治療理論について説明することができる。	◎			
②基本動作・ADLの評価の視点を理解し、その介助方法、作業療法の介入ポイント・方法を説明することができる。	◎	◎		○
③動作改善の代償方法としての自助具について理解し、対象者・使用目的を設定し、自助具を交換作成することができる。	◎	◎		○
④作業療法士が自助具を作成する際の注意点について説明することができる。	◎			○
⑤各種福祉用具の名称・使用目的を説明することができる。	◎			
⑥住宅改修にかかわる法律および福祉用具とのかかわりを説明できる。	◎			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション／ADLの評価と治療 ADL評価から治療の流れを確認し、ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。 「作業療法の流れ、治療理論、活動・参加、オペラント行動」 P15～25, P48～56 課題：グループワークのつづきを完成させる		
	第2回	ADLの治療理論 ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。具体的な動作・活動について、ICFの心身機能・		

	<p>身体構造、活動に分け、それに対する練習・訓練をグループで考えまとめる。 「オペラント行動、部分練習、基礎練習、EBOT」 P15～26, P48～56</p>
第3回	<p>国際生活機能分類（ICF）を持参すること。 障害別ADL：脳血管障害の基本動作（寝返り・起き上がり）の介助方法と介入 通常の寝返り・起き上がり動作をグループで分析し、片麻痺を想定した動作と比較する。寝返る方向、麻痺の状態による工程、手順や気をつける点をグループでまとめる 「支持基底面、体重支持面、重心、麻痺側管理」 P57～78</p>
第4回	<p>課題：グループワークのつづきを完成させる 障害別ADL：脳血管障害の基本動作（起き上がり、立ち上がり）の介助方法と介入 片麻痺の起き上がり動作の工程・手順や気をつける点を学ぶ。また、ベッドからの立ち上がり動作をグループで分析し、片麻痺の対象者の評価・指導ポイント、介助方法を学ぶ。 「支持基底面、重心移動、手すり」 P57～78</p>
第5回	<p>復習：片麻痺患者さんの介助方法を練習する 障害別ADL：脳血管障害の基本動作（移乗）の介助方法と介入 片麻痺を想定したベッド・車椅子間のtransferを軽介助と全介助をグループで体験し、動作分析する。 「transfer、重心指導、骨盤、支持基底面、手すり」 P57～78</p>
第6回	<p>復習：片麻痺患者さんの介助方法を練習する 準備：次回の授業で以下のものを使用します。各自で用意すること。 ○飲み物（ペットボトル、水筒） ○スプーンで食べる物（ゼリー・ヨーグルト・カレー・炒飯等） ○普段使用しているスプーン（コンビニ等で配布されるプラスチック製は×） 食事動作の評価と介入 食事動作を分析し、動作に必要な身体・精神機能についてまとめる。上肢における道具の使用・操作、片麻痺・高齢者への配慮点についてまとめる。 「姿勢、上肢操作性、食形態、道具」 P83～120</p>
第7回	<p>準備：次回ジャージ（上）またはジャンパーのような上着を用意する 更衣動作の評価と介入 更衣動作を分析し、動作に必要な身体・精神機能についてまとめる。また、片麻痺の対象者を中心に、上衣・下衣・装具の着脱について評価のポイント、配慮すべき点等を学ぶ。 「衣服の形状、素材、動作手順、麻痺側管理」 P121～138</p>
第8回	<p>排泄動作の評価と介入 車椅子でのトイレ動作を分析する。動作に必要な身体・精神機能、また配慮すべき点について学ぶ。 「支持基底面、手すり、羞恥、排尿・排便コントロール」 P139～157</p>
第9回	<p>障害別ADL：関節リウマチのADL 関節リウマチについて、関節保護の観点から、可能な動作、避けなければならない動作、ADLの介入・治療を学ぶ。 「RA、関節保護、エネルギー保存、変形」 課題：第11回までに自助具作成の企画書をグループごとに提出し、作成の許可を得ること。企画書には対象者の設定、材料、費用、作成方法を記す。その後、作成に必要な材料を購入すること。</p>
第10回	<p>入浴動作の評価と介入 入浴動作の動作分析を行う。浴室で行われる洗体・洗髪、立ち座り動作、またぎ動作などについてグループでまとめる。また、浴室内で使用する福祉用具・自助具を学ぶ。 「浴槽の高さ、手すり、動作手順、清拭」 P158～170</p>
第11回	<p>課題：第11回までに自助具作成の企画書をグループごとに提出し、作成の許可を得ること。企画書には対象者の設定、材料、費用、作成方法を記す。その後、作成に必要な材料を購入すること。 自助具①（自助具作製） 作業療法で制作・使用される代表的な自助具を説明し、対象者に合わせた自助具をグループで作成する。 「自助具、素材、衛生、安全」</p>
第12回	<p>課題：第13回までに自助具を完成させ、発表用ポスターを製作しておくこと。ポスターのひな形はデータにて渡します。 福祉用具①（装具、補装具） 補装具の分類・種類、上肢装具を中心に学ぶ。また、福祉用具の種類や給付についても学ぶ。 「義肢、装具、スプリント、自助具、福祉用具」 P281～291</p>
第13回	<p>自助具②（ポスター発表、自助具のまとめ） 学会のポスター発表の形式で行い、学生間での評価を行う。</p>
第14回	<p>授業開始前に、合同教室の黒板・壁を使用し、ポスターを掲示し、その前に、自助具を展示すること。 「ポスター発表、質疑応答」 福祉用具②（移動に関する福祉用具） 移動補助具である車椅子、杖、歩行器、歩行車の種類について学び、それぞれの特徴・対象について整理する。 「車椅子、杖、歩行器、歩行車」</p>

	<p>P292～300 機能訓練室</p> <p>第15回 住宅改修、職業関連活動、まとめ</p> <p>環境を整備することはADL・IADL自立に向けて介入の1手段である。屋内や屋外における様々な段差等に目を向け、それらを改善する方法やそこにかかわる他職種について学ぶ。また、職業リハビリテーションの流れを説明し、OTおよび他職種のかかわり・評価について学ぶ。 「住宅改修、介護保険」 P301～343</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	「ひとと暮らしⅠ」での内容をもとに進めるため、授業で使用した資料やノートを準備しておくこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	基本動作の分析では、グループでの動作分析を行うため、動きやすい服装で受講すること。自助具作製では事前に企画書を提出し、その後作製の準備を行う。発表までに自助具を完成させ、発表用のポスターを各グループで作成する。
オフィスアワー	月曜日16:10～17:30
評価方法	筆記80% 自助具20%
教科書	濱口豊太編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院, 2014. WHO: ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－. 中央法規, 2008.
参考書	伊藤利之, 江藤文夫編：新版日常生活活動 (ADL) 評価と支援の実際. 医歯薬出版, 2011.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法の原理に基づく治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①作業療法の原理について説明できる。 ②治療としての「作業」の意味について説明できる。 ③作業療法における理論について説明できる。 ④作業療法理論に基づく、対象者理解・介入について理解する。</p>
------------	--

授業の概要	<p>ひとは日常生活や学習、趣味、仕事の場において「作業」を行う。個人の考えや主張は動作を実現する手や全身を使って表現され、その人らしさが社会における自らの存在を証明する。「作業」は生きることそのものであり、作業療法士はその対象となるひとが自己の望む作業に取り組めるように治療・指導・援助する専門職である。従って作業療法士は①作業は人間にとって不可欠である②作業は内的・外的要請に応じて変化する③作業療法士は健康と幸福増進のために作業を治療の手段として使用できる、という原則に基づく対応しなければならない。本講義では</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法の原理について説明できる。	◎	○	△	△
②治療としての「作業」の意味について説明できる。	○	○	△	△
③作業療法における理論について説明できる。	◎	○	○	△
④領域別作業療法における目的と目標、方法について説明できる。	◎	○	○	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、作業療法理論、体系① 作業療法的介入の原理、作業療法介入の形態、作業遂行の連続性概念と治療理論の関係、運動療法体系身体障害における介入原理、形態、作業療法の連続性概念について、概要を説明する。また、それぞれの理論に関して、ケースを通して検討する。教科書p17-22</p> <p>参考文献 鎌倉矩子 作業療法の世界 第2版 三輪書店2004 日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害」 協同医書出版 2014年 大嶋伸雄 編 「身体障害領域の作業療法」 中央法規 2012年理解を促すための問題を資料</p> <p>第2回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練①可動域制限の原因/治療理論 関節可動域の制限要因の概要。及び可動域制限が日常生活に及ぼす影響を検討する。また、可動域訓練の原理原則を説明する。人の触り方について。教科書p22~33</p> <p>参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。</p> <p>第3回 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練②治療実践 自動運動・他動運動・自己他動運動などの基本的な関節可動域訓練、及び構成運動や副運動の関節モビライゼーションの演習を行う。教科書p22~33</p>
------	---

第4回	<p>参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練③治療実践 解剖学・運動学、及び神経生理学に基づくストレッチの演習、及びactivityを利用した関節可動域訓練を検討する。教科書p22～33</p>
第5回	<p>参考文献 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。 作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練①：筋力低下の原因 筋力低下の原因についてそのメカニズムを力学的、神経生理学的、解剖学的観点より説明する。また、脊髄損傷におけるザンコリー分類、上肢末梢神経損傷と筋力低下の関係について問題を解きながら理解を促す。教科書 p 34～38本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。</p>
第6回	<p>作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練②増強訓練理論 筋力増強訓練の原理原則などについて概要を説明し、負荷量の設定、実際の方法を演習する。また、MMTレベルに合わせた徒手的、及びアクティビティを使った訓練方法を検討する。教科書 p 34～38実習ができる服装で参加すること。</p>
第7回	<p>作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練③事例に基づく筋力増強訓練 筋力増強訓練の原理原則などについて概要を説明し、負荷量の設定、実際の方法を演習する。また、MMTレベルに合わせた徒手的、及びアクティビティを使った訓練方法を検討する。教科書 p 34～38実習ができる服装で参加すること。</p>
第8回	<p>作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練①知覚障害の原因 中枢性、抹消性などの疾患の違いによる知覚障害の見られ方を解剖学的見地から説明する。資料を配布する。本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。</p>
第9回	<p>作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練② 治療理論 知覚再教育訓練の方法を説明し、体験する。資料を配布する。本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。</p>
第10回	<p>作業療法における治療理論1 [生体力学的理論] 協調性訓練 協調性障害の原因について説明し、協調性障害に対する基本的訓練を体験する。教科書p38～43本日の講義にて、それぞれ設問を用意しておくので、確認しておくこと。 実習ができる服装で参加すること。</p>
第11回	<p>作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 基本原則 発達の神経学的視点から導き出された理論について、ボバースにより提唱された神経発達理論について学ぶ。Stage毎のアプローチについて検討する。教科書p43～47実習ができる服装で参加すること。 Stage ないし エガースの回復状況に合わせて訓練方法を検討する。</p>
第12回	<p>作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 環境適応的アプローチ① 環境適応の概要について説明し、環境適応に基づく演習をこなす。教科書p48～49実習ができる服装で参加すること。</p>
第13回	<p>作業療法における治療理論2 [神経発達理論NDT] 環境適応的アプローチ② 環境適応理論に基づき、アクティビティの特徴・難しい点などを検討し、その改善方法を提案する。教科書p48～49作業療法における治療理論4 [感覚統合理論]</p>
第14回	<p>作業療法における治療理論3 [認知運動療法] 認知運動療法に関する基本的理論について概要を説明する。資料を配布する。</p>
第15回	<p>参考書 中里瑠美子 片麻痺の人のためのリハビリガイド 感じることで動きが生まれる 2017 中里瑠美子 片麻痺の作業療法 QOLの新しい次元へ 2015基本的理論を理解するために、配布資料を中心に確認し、必要に応じて参考書などに目を通し復習しておくこと。 作業療法における治療理論4 [感覚統合理論] エアーズにより提唱された感覚統合理論を紹介し、評価治療への応用について学ぶ。資料を配布する。実習ができる服装で参加すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。 ・シラバスを確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	実技試験、レポート、発表など授業外に準備する必要がある。その為、計画的に準備を進めること。
オフィスアワー	月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	筆記40%、レポート20%、発表20%、実技試験20%
教科書	長崎重信 編 身体障害作業療法学 改訂第2版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト） メジカルビュー社 2015

<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害」 協同医書出版 2014年 ・大嶋伸雄 編 「身体障害領域の作業療法」 中央法規 2012年 ・古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年 ・古川宏 編 「作業療法のとらえかた2」 文光堂 2011年 ・中里瑠美子 片麻痺の人のためのリハビリガイド 感じることで動きが生まれる 2017 ・中里瑠美子 片麻痺の作業療法 QOLの新しい次元へ 2015 ・鎌倉矩子 作業療法の世界 第2版 三輪書店2004
<p>実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>一般病院、大学病院にて、作業療法の実践を行っていた。主に脳血管障害、整形外科疾患に関わっていたが、そこでは関節可動域、筋力増強、知覚再教育などの機能向上のための技術が必須であり、日々実践を行っていた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法に関わる介護保険制度、介護保険サービスについて理解し、地域で生活する対象者の取り巻く環境、その中で行われている作業療法士の仕事、作業療法の可能性を理解する。</p> <p>[達成目標] ①介護保険制度の概要 ②介護保険制度のサービス内容を説明することができる。 ③地域リハビリテーションの現状を説明することができる。</p>			
授業の概要	高齢者に対する地域リハビリテーション、地域作業療法にかかわる制度や支援、他職種との連携について学び、対象者を取り巻く環境や生活上の不便、援助することについて考えていきます。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①介護保険制度の概要を説明することができる。	◎			
②介護保険制度のサービス内容を説明することができる。	◎			
③地域リハビリテーションの現状を説明することができる。	◎			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、介護保険導入の背景、保険者・被保険者について 介護保険が導入される背景を説明し、従来の福祉、老人医療の問題点から介護保険の目的を学ぶ。また、介護保険法における保険者とその役割を学ぶ。 「措置制度、保険者、被保険者」</p>		
	第2回	<p>スマホを使います。 介護保険の財源構成について 介護保険の被保険者を説明し、それぞれの保険料、その徴収、財源構成等を学ぶ。 「住所地主義、保険料、財源構成、調整交付金」</p>		
	第3回	<p>介護認定について 介護保険サービス利用にあたり必要な介護認定について、申請から判定結果が出るまでの流れを学ぶ。 「認定調査、1次判定、介護認定」</p>		
	第4回	<p>次回小テストを行う。 小テスト、介護保険サービスについて 小テストを行う。 介護認定後のサービス利用について学ぶ。また、居宅・施設・地域密着型等の各種サービスについて学ぶ。 「予防給付、介護給付、保健福祉事業」 課題：次回までにグループで担当の介護保険サービスについて調べ学習を行い、資料を作成し提出する。詳細は授業内で説明します</p>		
	第5回	<p>介護保険サービス①訪問・通所系サービス 訪問・通所系サービスについて、グループで作成した資料をもとにまとめる。 「通所介護、通所リハ、訪問介護、訪問リハ、訪問看護」 課題：発表時の質問で答えられなかったものを、次回までに説明用の資料を作成し、提出する。</p>		
	第6回	<p>介護保険サービス（グループ発表）②施設系サービス 施設系サービスについて、グループで作成した資料をもとにまとめる。 「介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域密着型」 課題：発表時の質問で答えられなかったものを、次回までに説明用の資料を作成し、提出する。</p>		
	第7回	<p>地域リハビリテーションの実際①居宅サービス事業の作業療法</p>		

	<p>在宅介護支援センターにおける作業療法、地域リハビリテーションについて、外部講師を招きご講義いただく。 「地域包括ケア、訪問リハ、通所リハ、活動・参加」</p> <p>第8回 次回小テストを行う。 小テスト、介護予防、まとめ 介護保険サービスについて的小テストを行う。 介護予防事業について説明し、地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を考える。 「介護予防事業、地域包括ケアシステム、」</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	グループでの調べ課題があるため、提出期限を厳守すること。また、わかりやすい資料作りを心がけ、質問に答えられるように準備すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループでの調べ学習については、内容・形式は授業内で提示する。
オフィスアワー	月曜日16:10～17:30
評価方法	小テスト20% 筆記試験80%
教科書	授業内に適宜紹介する
参考書	授業内に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
高坂駿			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設を見学し、地域との関わりにおける専門職の役割、業務内容などを学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕 ①病院や施設を利用している患者様や職員とコミュニケーションを取ることができる。 ②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。 ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。 ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。</p>
授業の概要	精神科病院・クリニックへの見学実習を行う。主に精神科病院のリハビリテーション部門、デイケアを見学させていただく。見学後は各々の視点から興味・関心の高かった事柄に対し考察し、レポートにまとめる。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①病院や施設を利用している患者様や職員とコミュニケーションを取ることができる。	◎	◎	◎	
②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。	◎	○		
③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。	○	○	◎	○
④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。	○	○	◎	○

授業計画	<p>第1回 事前オリエンテーション① 基本的態度、個人情報保護、リスク管理・実習の参加にあたり、実習の流れ、実習生の基本的態度、個人情報の扱い、その他注意事項について説明。 ・精神医学・精神機能OT学で行った知識に関して事前課題を行う。 ・見学実習に関わる各種書類を記入する。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 見学実習参加前に事前課題を提出する。</p> <p>第2回 事前オリエンテーション② ・実習の参加にあたり、実習の流れ、実習生の基本的態度、個人情報の扱い、その他注意事項について説明。 ・精神医学・精神機能OT学で行った知識に関して事前課題を行う。 ・見学実習に関わる各種書類を記入する。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 見学実習参加前に事前課題を提出する。</p> <p>第3回 病院・施設見学(1日目) 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。</p>
------	---

第4回	病院・施設見学（1日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第5回	病院・施設見学（1日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第6回	病院・施設見学（1日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第7回	病院・施設見学（2日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第8回	病院・施設見学（2日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第9回	病院・施設見学（2日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第10回	病院・施設見学（2日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第11回	病院・施設見学（3日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第12回	病院・施設見学（3日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第13回	病院・施設見学（3日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第14回	病院・施設見学（3日目） 見学させていただく精神科病院の各部署において見学実習を行う。 教科書の指定なし。事前に必要な文献等を探しておく。 実習施設にデイリーノート、実習経験表、出欠表など必要書類および課題の提出を必ず行うこと。
第15回	学んだことの振り返り：レポート提出 ・各病院、部署、施設で学んだことを振り返る。 ・各書類（出欠表、実習経験表、名札、成績表、目標シート）を提出する。 ・期限までに、個人レポートの作成をし、提出する。また、修正のある者は、修正後に再提出をする。
受講生に関わる情報 および受講のルール	実習中は動きやすい服装と上履きを用意する(実習先の指定により変更する場合もある)。 実習前・実習中は各自、体調管理をしっかり行い、欠席のないようする。 ご協力いただいている患者様や病院・施設のスタッフに失礼がないよう、一人ひとりが服装・態度などに十分注意を払うこと。 個人情報保護や鍵の管理などリスク管理に十分に配慮すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	その他
授業外時間にかかわ る情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	木曜日16:30～17:30。質問等に関しては随時受ける。
評価方法	<input type="checkbox"/> 事前課題 20% <input type="checkbox"/> 実習成績 20% <input type="checkbox"/> レポート・レジュメ 30%(期限内に提出されない場合は総合評価の対象とならない。) <input type="checkbox"/> デイリーノート 30%(期限内に提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
教科書	なし。

参考書	精神医学・精神機能作業療法学・心理学等で扱った教科書を参考とすること。また、不足があれば自身で購入すること。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
悴田敦子			
地域作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内発表において理解を深めることを目的とします。また、実習を通して自己のコミュニケーションに対して考えることを目的とします。</p> <p>[到達目標] ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。 ②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明することができる。 ③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。 ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。</p>
------------	---

授業の概要	作業療法士が勤務している介護老人保健施設において、3日間の見学実習を行います。見学、体験を通して介護老人保健施設を理解し、そこを利用する方や作業療法を受けている対象者について学び、介護老人保健施設の作業療法について理解します。また、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内にて発表を行います。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。	◎			
②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明	○	◎		
③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。		◎		◎
④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。	○			○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、実習オリエンテーション、リスク管理、守秘義務 守秘義務、リスク管理、感染症予防、介護老人保健施設介護老人保健施設見学にあたり、実習の手引きに基づき事前指導を行います。作業療法学生として大切な守秘義務、リスク管理等について説明します。また、実習関連書類の提出手続きを行います。 「リスク管理、感染症予防、守秘義務」</p> <p>第2回 準備：実習の手引き、印鑑（シャチハタでないもの）、自家用車届に必要な書類のコピー 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。 実習ノートを毎日実習先に提出する。 実習終了後速やかに、評価表、出欠席表、実習経験表、実習ノートを提出すること。 実習レポート・発表用レジュメは実習終了後作成し、指定の期日までに提出する。 お礼状は担当教員のチェック後、投函すること。</p> <p>第3回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第4回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p>
------	--

	<p>第5回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第6回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第7回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第8回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第9回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第10回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第11回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第12回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第13回 介護老人保健施設における3日間の実習を行います。</p> <p>第14回 実習のまとめ、発表 施設での実習のまとめを各自発表する。 「介護老人保健施設、作業療法の流れ、要介護者、要支援者」</p> <p>第15回 実習のまとめ、発表 施設での実習のまとめを各自発表する。 「介護老人保健施設、作業療法の流れ、要介護者、要支援者、高齢者」</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>第1回科目オリエンテーションへ参加しないもの、実習前の提出物に不備があったものは実習参加はできない。</p> <p>実習中は各施設指定の服装で参加する。</p> <p>交通手段については決定次第、各自手続きをとること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<p>実習施設の情報収集、交通手段等、実習開始前に必要なこと、また実習中の時間外学習については、第1回科目オリエンテーションにて説明します。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日16:10～17:30</p> <p>ただし実習中は随時対応します。</p>
評価方法	<p>実習への参加が評価の前提となる。</p> <p>実習先評価10%、実習ノート20%、レポート40%、学内での発表30%</p>
教科書	特に指定しない
参考書	地域作業療法入門、身体機能作業療法学、作業療法評価学の教科書及び資料等を参考とする。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①ひとが学習をする意味・意義について理解、説明することができる。 ②提示された課題の達成へ向け、自身で思考・検討をすることができる。 ③提示された課題の達成へ向け、グループメンバーと協調的に対話を進めることができる。 ④グループワークを通して、学習した成果をまとめ、その内容を他者に伝えることができる。 ⑤講義での自身の取り組みの姿勢や、取り組んだ経過・結果について客観的に振り返りを行うことができる。</p>
------------	---

授業の概要	総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「ディベート」をグループワーク等を通して身につけていく。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項				
--	--	--	--	--

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①ひとが学習をする意味・意義について理解、説明することができる。	◎	○	○	
②提示された課題の達成へ向け、自身で思考・検討をすることができる。	○	◎	◎	◎
③提示された課題の達成へ向け、グループメンバーと協調的に対話を進めることができる。	○	◎	◎	○
④グループワークを通して、学習した成果をまとめ、その内容を他者に伝えることができる。	○	◎	◎	◎
⑤講義での自身の取り組みの姿勢や、取り組んだ経過・結果について客観的に振り返りを行うことができる。	○	◎	◎	◎
⑥				
授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／学力について (小島・山口・高坂)</p> <p>シラバス、ポートフォリオ、学力シラバスの説明、ポートフォリオの説明と評価基準、大学生における学力について理解する。</p> <p>配布資料 ポートフォリオ作成</p> <p>第2回 学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1 (山口)</p> <p>学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p>			

第3回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2（山口） 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p>
第4回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3（山口） 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p>
第5回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループに分かれ、社会的課題について問題抽出をし、課題解決案について話し合う。</p>
第6回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 前回授業の話し合いに沿い、課題解決案の策定に必要と思われる資料について収集する。 【課題】時間内に情報を集め終えなかった場合は、次回までに集めて持ち寄る。</p>
第7回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑥：問題解決型学習1-3（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 資料収集で得られた情報を持ち寄り、グループ討議を行う。 【準備】調べた資料について、グループメンバーで共有できるよう準備し、持ち寄る。</p>
第8回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑦：問題解決型学習1-4（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 資料収集やグループ討議で挙げた内容をまとめ、発表準備を行う。 【課題】次回までに資料を完成させ、発表ができるよう準備を進めておく。</p>
第9回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑧：問題解決型学習1-5（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループでまとめたものをプレゼンテーションする。</p>
第10回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑨：問題解決型学習2-1（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループに分かれ、社会的課題について問題抽出をし、課題解決案について話し合う。</p>
第11回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑩：問題解決型学習2-2（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 前回授業の話し合いに沿い、課題解決案の策定に必要と思われる資料について収集する。 【課題】時間内に情報を集め終えなかった場合は、次回までに集めて持ち寄る。</p>
第12回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑪：問題解決型学習2-3（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 資料収集で得られた情報を持ち寄り、グループ討議を行う。 【準備】調べた資料について、グループメンバーで共有できるよう準備し、持ち寄る。</p>
第13回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑫：問題解決型学習2-4（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 資料収集やグループ討議で挙げた内容をまとめ、発表準備を行う。 【課題】次回までに資料を完成させ、発表ができるよう準備を進めておく。</p>
第14回	<p>配布資料 ポートフォリオ作成 学習統合プログラム⑬：問題解決型学習2-5（小島・高坂） 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループでまとめたものをプレゼンテーションする。</p>

	配布資料 ポートフォリオ作成 第15回 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ（小島・山口・高坂） これまでの授業の振り返り（振り返りシートの記入等） 配布資料 全てのポートフォリオ提出
受講生に関わる情報および受講のルール	グループワークが多いので休まないこと。 ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	毎週水曜日16:00～17:00
評価方法	■ポートフォリオ30% ■レポート15% ■授業内発表（態度・資料）20% ■ルーブリック評価（自己評価・他者評価）20% ■振り返りシート15%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
宮寺亮輔（山口智晴・悴田敦子・牛込祐樹）			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文を読むことができるようになる。 ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。 ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。 			
授業の概要	A～Dの4班に分かれ、各教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①論文を読むことができるようになる。		△	◎	○
②自分の意見を論理立てて発言できるようになる。	○		◎	
③他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。	◎		△	○
④				
⑤				
⑥				
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 【授業概要】 ・オリエンテーション。今後の授業の進め方について説明する。 【key words】 研究計画、文献抄読 【教科書・参考文献】 研究法pp10-32、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3回までに論文を探しておく。原則的に文献は英語または日本語のいずれかによる原著論文とする（場合によっては総説論文でも認める）。</p> <p>第2回 文献検索の方法について、学術論文の分類について 【授業概要】 ・文献検索の基本的な方法やマナー、論文の分類について学ぶ。 【key words】 文献検索、文献レビュー、データベース 【教科書・参考文献】 研究法pp10-32、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3回までに論文を探しておく。原則的に文献は英語または日本語のいずれかによる原著論文とする（場合によっては総説論文でも認める）。 【アクティブラーニングについて】 各自興味がある分野について、検索エンジンや文献データベースを利用して、意図した文献を探し当てる。</p> <p>第3回 文献の抄読について 【授業概要】</p>			

	<p>・文献抄読の基本について学ぶ。 ・批判的に読むことの重要性を実際の論文抄読を通して体験し、新たな研究の発想につなげることの重要性を学ぶとともにその楽しさを実感する。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 研究法pp10-32、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自ら探し当てた文献を要約し、他者に説明できるようにしておくこと。 【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 目標の確認1 (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班) 【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会。 ・各担当教員と共に、学習目標を確認する。各自で見つけた興味のある文献を担当教員と班員に配布し、読み深める。各教員の指示に従い、プレゼンテーションの準備をする。各自の持ち時間は一人45分であり、構成をよく考えておくこと。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク1-① (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班) 【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク1-② (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班) 【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク1-③ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班) 【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク1-④ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班) 【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。 【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー 【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	

第9回	<p>【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 目標の確認2 (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会。グループ2巡目。 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p>【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー</p> <p>【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第10回	<p>【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク2-① (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p>【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー</p> <p>【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第11回	<p>【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク2-② (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p>【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー</p> <p>【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第12回	<p>【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク2-③ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p>【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー</p> <p>【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第13回	<p>【アクティブラーニングについて】 各自興味があり探し当てた文献を他者に説明し、意見交換を行う。 ワーク2-④ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。文献抄読会 ・各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。 ・単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。</p> <p>【key words】 文献抄読、批判的文献レビュー</p> <p>【教科書・参考文献】 各自で探し当てた文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回から発表できるように、文献を人数分印刷準備しておくこと。</p>
第14回	<p>発表</p> <p>【授業概要】 ・これまでに学んだことについてまとめ、各自が次年度に行いたい卒業研究に向けて得られたことをどの様に活かしたいと考えているかについてプレゼンする。</p> <p>【key words】</p>

	<p>卒業研究、研究計画 【教科書・参考文献】 研究法pp122-130、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学生作成資料各自で発表の準備をすること。 【アクティブラーニングについて】 研究計画の中で文献抄読をすることの意義について、他者と意見交換をする。</p> <p>第15回 科目のまとめ 【授業概要】 ・これまでに学んだことについてまとめ、各自が次年度に行いたい卒業研究に向けて得られたことをどの様に活かしたいと考えているかについてプレゼンする。 ・研究計画についての振り返り。 ・今後の卒業研究の進め方の説明。 【key words】 卒業研究、研究計画 【教科書・参考文献】 研究法pp122-130、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学生作成資料各自で発表の準備をすること。本科目で学んだことをまとめるこれまでまとめた学習成果を提出する。 【アクティブラーニングについて】 研究計画の中で文献抄読をすることの意義について、他者と意見交換をする。</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】 教室指定をするので確認しておくこと。資料を整理するためのA4クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。 【受講のルール】 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>水曜日の16:30～17:30</p>
<p>評価方法</p>	<p>各ワークへの取り組み50% 発表30% ポートフォリオの作成20%</p>
<p>教科書</p>	<p>竹田徳則，大浦智子（編）：作業療法研究法，医歯薬出版株式会社，2017.</p>
<p>参考書</p>	<p>鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店 第1版</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、健常成人や高齢者に対する基礎研究活動（上肢協調運動機能、筆圧と把持圧との関係、転倒リスクの要因の検討など）を行ってきた実務経験を活かし、研究計画の立て方などについて実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。また、医学領域の研究論文を読解する際に必要となる統計学の基本事項について、理解することができる。</p> <p>〔到達目標〕 ①研究の種類（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。 ②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。 ③研究論文で用いられる基本的な統計手法について理解することができる。</p>
授業の概要	作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①研究の種類（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。	○		◎	
②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。			○	
③研究論文で用いられる基本的な統計手法について理解することができる。	◎			

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション。作業療法における研究とは。研究倫理について。研究の目的、研究倫理、不正行為、利益相反、インフォームド・コンセント研究を始めるにあたっての基本的な知識、研究の目的、作業療法と研究について、理解する。また、研究を実施するうえで重要となる研究倫理について、その基本的な事項を学ぶ。指定教科書P. 10～P. 17教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第2回 研究の種類、対象者とアウトカム、研究計画 研究疑問に応じた研究の種類を理解するとともに、研究対象者の選定方法について学ぶ。アウトカム指標の種類と選択についても学ぶ。また、研究計画の立案と計画書について学ぶ。指定教科書P. 18～33教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第3回 研究の種類とデザイン①量的研究、調査票の設計、質的研究 観察研究と介入研究を例に量的研究について学ぶとともに、調査票を用いた研究と質的研究について実例を通して学び、各研究デザインのメリットデメリットについて理解する。指定教科書P. 34～54教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第4回 研究の種類とデザイン②混合法、事例研究、文献研究 事例研究における様々なスタイルのデザインを事例を通して学ぶ。また、尺度開発における信頼性と妥当性の概念について学ぶ。また、文献研究のなかでも、システマティックレビューとメタアナリシスについて学ぶ。指定教科書P. 55～75教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第5回 統計解析の基本① 統計的仮説検定の基本について学ぶとともに、二群間の比較と分散分析について学ぶ。指定教科書P. 76～88教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第6回 統計解析の基本② 相関分析の基本について学ぶとともに、重回帰分析の基本を学ぶ。また、それらの統計手法を用いた実際の論文を読むことで、統計手法の意味を理解する。指定教科書P. 89～98教科書の該当ページに目を通してから受講すること</p> <p>第7回 統計解析の基本③</p>
------	--

	疫学分野で用いられることが多い統計手法について理解するとともに、因子分析の考え方を学ぶ。指定教科書P.99～112教科書の該当ページに目を通してから受講すること 第8回 学会発表、論文執筆について、まとめ、小テスト 学会発表のための基本的な手続きや抄録作成について学ぶ。 また、論文執筆の基本事項についても理解する。指定教科書P.122～139教科書の該当ページに目を通してから受講すること
受講生に関する情報および受講のルール	OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。 主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループごとの発表もあるため、メンバーと協力して準備すること。
オフィスアワー	水曜日16:30～17:30（その他、必要があれば受け付ける。但し、事前に確認をとること）
評価方法	■期末レポート35%、■授業内小テスト30%、■授業内発表課題35%
教科書	竹田徳則，大浦智子(編)：作業療法研究法，医歯薬出版株式会社，2017.
参考書	鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴			
作業療法評価学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 認知機能障害のある人に対する作業療法評価の様々な手法について、概要を学ぶとともに実際に評価方法を体験しながら実施方法を学び、評価の基本的な実施方法を習得する。</p> <p>〔到達目標〕 ①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。 ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。 ③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。</p>
授業の概要	高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。	○			
②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。	○	○		
③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。	○			○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 高次脳機能、行政定義、高次脳機能障害の概要について、知識の習得状況を確認し学ぶべき課題を抽出する。高次脳機能障害の定義について、行政的定義や医学的定義の違いなどを理解する。高次脳機能障害を引き起こす原因疾患などについて、復習をする。配布プリント配布プリントの通り、ポートフォリオ作成（高次脳の学術的定義と行政的定義）</p> <p>第2回 attention に対する評価 注意機能障害の分類について学ぶとともに、注意障害の評価について実技を通して学ぶ。また、意識やorientationについても学ぶ。教科書①日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法学全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版 P. 20～22、P. 100～112、P. 176～190</p> <p>第3回 Unilateral Spatial Neglectのアセスメント USNについての一般的知識を確認するとともに、USNに対する評価、また、行動から観察する際のPointも学ぶ。教科書①P. 20～22、P. 100～112別途示した通り、ポートフォリオについて予習と復習をまとめる。</p> <p>第4回 Agnosiaに対するアセスメント 失認、特に視覚性失認の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義の中では、実際にVPTAを実践する中で、視覚性認知について学ぶ。また、色彩や相貌の認知、パレイドリアなどにも触れ、レビー小体型認知症など視覚性認知と関連する疾患についても併せて理解を深める。教科書①P. 16～18、別途配付資料視覚性失認について復習してから受講すること。</p> <p>第5回 Aphasiaに対するアセスメント Aphasiaの分類と各症状の概要について学ぶとともに、実際にSLTAを用いて言語評価について学ぶ。教科書①P. 198～P. 211ポートフォリオAphasia復習、Aplaxia予習、Gerstmann Syndromeについて予習する</p> <p>第6回 Aplaxia, Gerstmann syndromeに対するアセスメント</p>
------	--

	<p>失行症などの行為の障害についてその概要を復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義では、SPTAを実際に実施することで、行為の障害の分類について理解を深める。また、ゲルストマン症候群、構成失行、着衣失行についても復習し、頭頂葉の働きについて理解を深め、文献から最新のリハビリテーションについても学ぶ。教科書①P11～15、P. 138～163教科書の該当範囲を読み、行為の障害について復習してから受講すること。</p> <p>第7回 Memoryに対するアセスメント 記憶障害の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。また、記憶障害に対する文献から、最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。また、RBMTやWMS-Rを実際に実施することで、記憶の分類やそのリハについて理解を深める。教科書①P. 23～25、P. 190～198記憶障害について復習してから受講すること。</p> <p>第8回 executive functionに対するアセスメント 高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。教科書①P. 27～31、P. 121212～217指定範囲と配布プリントについて復習してから受講すること。</p> <p>第9回 Social Behavior Disorders / Anosognosia に対するアセスメント 高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。教科書①P. 27～31、P. 121212～217指定範囲と配布プリントについて復習してから受講すること。</p> <p>第10回 Wechsler Adult Intelligence Scale-III WAIS-IIIをはじめとした全般的認知機能の評価する指標を実践し、そこから全般的認知機能についての理解を深める。配布プリント配布プリントの復習、ポートフォリオ作成</p> <p>第11回 認知症の評価 認知症について観察からの評価、面接での認知症検査などについて学ぶ。②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する配布プリントの復習、ポートフォリオ作成</p> <p>第12回 Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴 アルツハイマー病の特徴とその評価について理解を深める。アルツハイマー病患者の生活機能障害の特徴についても学ぶ。②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する指定範囲の復習、ポートフォリオ作成</p> <p>第13回 DLB、VD、FTLD、iNPHの評価 アルツハイマー病以外の進行性神経疾患による認知症や、正常圧水頭症、脳血管性認知症などの特徴を知り、その評価手法を実際のケースを基に理解する。事例のMRIから、各認知症疾患のMRI画像の特徴も理解する。②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する指定範囲の復習、ポートフォリオ作成</p> <p>第14回 認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメント 認知症の人を地域で支える。仕組みやそこでOTとして必要となる評価について学ぶ。②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照する指定範囲の復習、ポートフォリオを完成させ提出する準備を進める</p> <p>第15回 本科目のまとめ 認知機能低下による生活障害について学ぶとともに、就労支援についても学ぶ。そこで必要となる質的なアセスメントについて学ぶ。その後まとめを行う。また、認知機能障害がある人の実生活上の問題点とここまで学んだ各アセスメント結果とを結びつけて考えられるように、検査結果の解釈についてまとめる。また、検査にこだわらずに観察から認知機能障害についてアセスメントするための視点について、再度確認する。②小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版の教科書と追加配布プリントを参照するポート</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各科目において予習を前提としている。ポートフォリオは各単元の予習と復習を含む。
オフィスアワー	水曜日16:00～17:30 (木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談)
評価方法	期末筆記試験50%、各講義の予習と復習のまとめ課題の提出50%
教科書	日本作業療法士協会監修/瀧雅子編集：作業療法学全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版 小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版
参考書	鈴木孝治(編)：高次脳機能障害領域の作業療法～プログラム立案のポイント～、中央法規
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p>

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">■プレゼンテーション□実習、フィールドワーク□アクティブラーニングは実施していない |
|--|---|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
北爪浩美・菊池智広・古田恒人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることが出来るようになる事を目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。 ②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。 ③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。 ④</p>
授業の概要	発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。	◎	◎	○	○
②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。	○	◎	◎	○
③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。	○	◎	◎	◎
④対象児のの将来像までを見据えた生活上の提案をすることができる。	◎	◎	◎	◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、発達過程における作業療法の理念と役割 生活障害、評価、運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能人間の一生における発達過程と各発達段階での「作業」の役割と意義の理解、それぞれの過程で生じる疾患の障害の成り立ちや回復過程の基本知識、作業療法に必要な評価、治療、援助について講義する。教科書：pp1-36発達スクリーニング検査について調べる。</p> <p>第2回 発達過程作業療法における評価と治療の実践課程 発達過程における作業療法の実践課程として、評価、作業療法計画、実施方法、効果判定、フォローアップの流れについて講義する。教科書：pp27-48 参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第3回 発達過程の基礎知識と治療への応用 運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能の発達の関連性について講義する。また、社会参加としての集団活動、就学と作業療法との関わりについて考察する。教科書：pp49-68 参考文献 ①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>第4回 発達の評価・検査バッテリー 運動発達の評価として作業療法場面で用いる評価について、概要と実施方法を学ぶ。(運動発達、姿勢、筋緊張、反射・反応、運動年齢検査、エアハルト発達学的把持能力評価参考文献</p>			

第5回	<p>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>作業療法評価に必要な運動発達の見点（0～12か月）</p> <p>運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業（遊び）について提案する。参考文献</p> <p>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p>
第6回	<p>作業療法評価に必要な運動発達の見点（1歳～6歳）</p> <p>運動発達の流れについて、月齢指標をつなぐ筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を講義する。その上で運動発達から遊びの発達についての関連を考察し、提供する作業（遊び）について提案する。参考文献</p> <p>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p>
第7回	<p>②感覚統合Q&A：土田玲子監修。協同医書出版。2013</p> <p>感覚統合理論と認知機能の発達</p> <p>感覚統合機能についての概要と評価、解釈。検査バッテリーを使用し体験する。参考文献</p> <p>①作業療法学全書改訂第3版第3巻作業療法評価学：日本作業療法士協会監修。協同医書出版。2009</p> <p>②感覚統合Q&A：土田玲子監修。協同医書出版。2013</p>
第8回	<p>対応行動の発達と注意機能①</p> <p>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67</p>
第9回	<p>対応行動の発達と注意機能②</p> <p>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。教科書pp60-67</p>
第10回	<p>学習と社会性の発達と評価</p> <p>いわゆる発達障害、知的発達障害の学習と社会性の発達との関連を例に、子どもの学習、社会性の発達について考察する。教科書pp129-19①</p>
第11回	<p>地域における発達支援と特別支援教育①</p> <p>発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211</p>
第12回	<p>地域における発達支援と特別支援教育②</p> <p>発達過程においては、常に作業療法実践の場は地域生活の中である。子どもを取り囲む環境や教育制度について学び、作業療法士の役割を確認する。教科書pp197-211</p>
第13回	<p>疾患別作業療法の実践①脳性麻痺</p> <p>作業療法の対象疾患として最も多い脳性麻痺について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp91-105</p>
第14回	<p>疾患別作業療法の実践②神経筋疾患</p> <p>作業療法の対象疾患としてみられる神経筋疾患について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp118-124</p>
第15回	<p>疾患別作業療法の実践③発達障害</p> <p>作業療法の対象疾患として近年非常に多くなっている発達障害について、臨床像を把握し、作業療法評価と治療について学ぶ。教科書pp129-159</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。 ・シラバスを確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験100%
教科書	<p>日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害。協同医書出版社。2010</p> <p>日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 3. 作業療法評価学。協同医書出版社。2009</p>
参考書	シラバス参照のこと。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
北爪浩美・勝野恵・山口敦子・六本木温子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 発達過程における作業療法の対象疾患とその症状、作業療法の目的と方法について理解し、実施する能力を身につけることを目的とする。 〔到達目標〕 ①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。 ②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について説明できる。 ③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。
授業の概要	近年、特別支援教育については、教育あるいは医療、福祉領域において、その取り組みがめざましく発展し、対象児の可能性を広げるために取り組んでいる。本講義では乳児期から青年期を対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。	○	◎	○	○
②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について領域別に説明できる。	○	◎	○	◎
③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。	○	◎	◎	◎
授業計画	第1回 発達障害領域での作業療法の理念と役割 発達過程作業療法、ICF、脳性麻痺、ADS, LD、ADHD近年における発達障害領域における対象児の変化について 「発達障害」の捉え方について教科書：p 1-10、 91～ 第2回 発達過程作業療法における障害の概要①肢体不自由 ビデオによる障害像の把握、 胎児期の発達と身体図式、障害との関わり教科書pp91-129 第3回 発達過程作業療法における障害の概要②肢体不自由 作業療法治療の考え方 乳児期～幼児期の運動発達の把握と作業療法教科書pp91-129 第4回 発達過程作業療法における障害の概要③発達障害 近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。 教科書pp129-160 第5回 発達過程作業療法における障害の概要④発達障害 近年、作業療法の対象疾患として社会からのニーズが高い、いわゆる発達障害について、疾患の概要と発達過程、症状と生活上の困難を具体的に講義、紹介し、作業療法の関わりを考察する。 教科書pp129-160 第6回 地域における発達支援 発達過程作業療法の対象となる子どもの地域での生活について、特別支援教育体制や療育体制などの支援を含めて講義し、作業療法士の視点、関わり方のスタンスを考察する。特に、群馬県の			

第7回	現状について深く理解する。教科書197-211 発達過程作業療法の実際①小児病院での作業療法 小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。 国家試験発達期治療学の問題についての考察
第8回	発達過程作業療法の実際②小児病院での作業療法 小児病院での作業療法の実際について、外部講師として作業療法士をお呼びし、講義して頂く。 国家試験発達期治療学の問題についての考察
第9回	発達過程作業療法の実際③在宅での作業療法 在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士をお呼びし、講義して頂く。教科書：p 91-106
第10回	発達過程作業療法の実際④在宅での作業療法 在宅での作業療法の実際について、外部講師として訪問看護ステーションに勤務する作業療法士をお呼びし、講義して頂く。
第11回	発達過程作業療法の実際⑤地域クリニックでの作業療法 地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。
第12回	発達過程作業療法の実際⑥地域クリニックでの作業療法 地域の小児科クリニックでの作業療法について、対象者の概要と作業療法の実際について講義する。
第13回	発達過程作業療法の実際⑦地域での作業療法 群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。
第14回	発達過程作業療法の実際⑧地域での作業療法 群馬県作業療法士会の取り組みを中心に、県内の特別支援教育体制と作業療法士の関わり、全国的な取り組みの流れについて講義する。
第15回	発達過程作業療法の課題 今後の発達過程領域における作業療法の課題について、現状を踏まえた上で考察し、現実的な作業療法士の関わり方について考察する。
受講生に関する情報 および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しません。 〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能
評価方法	レポート100%
教科書	日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社, 2010
参考書	シラバスを参照すること。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
山口智晴・悴田敦子			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 加齢とともに起こる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。 ②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。 ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。 ④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。 ⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。 ⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。</p>
授業の概要	高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。	○			○
②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。	○			
③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。	○			
④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。	○		○	
⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。			○	
⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。			○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、わが国における高齢社会について考える 高齢者、高齢化率、高齢者福祉高齢者の定義などについて確認すると共に、わが国における社会構造の変化と施策の変遷について学ぶ。P. 8～16 ・第5回までに、高齢者の生活についてのインタビュープリントを準備する (祖父母の生活について) ・次回までに高齢者に関する社会制度 (P. 29～32) について、担当か所を調べて発表の準備をする。 ・次回までにP. 33～38の「高齢期の作業療法」について読んでおく (予習)</p> <p>第2回 社会制度と高齢期の作業療法 各担当で調べた社会制度について発表を聞いて理解を深めると共に、わが国の高齢者福祉施策の変遷について更なる理解を深める (P. 29～32)。 また、高齢期の作業療法 (P. 33～38) について理解を深める。 ・次回、高齢期の一般的特徴 (P. 39～50) を予習 (教科書を見ておく) ・次回、第1～2回の範囲で小テスト</p> <p>第3回 高齢期の一般的特徴 第1回小テスト</p>			

	<p>加齢による心身の様々な変化につながる生理的、身体的変化と特徴的な疾患などについて学ぶ。運動器系は、転倒リスクとからめて理解する。 P. 39～50</p> <p>第4回 高年齢期に多い疾患について 第2回小テスト 呼吸器疾患、内分泌系、神経系の変化、特徴、症候、疾患について学ぶ。運動器系は、転倒リスクとからめて理解する。P46～54、60～65</p> <p>第5回 高年齢期作業療法の過程について 高年齢期の心理、精神機能の特性をインタビュー結果と合わせて理解する。 第12回目で実施する内容について確認（各グループ、サロン参加日前までに企画書を作成し、内容の許可を得た上で準備を進めること）</p> <p>第6回 一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法 第3回小テスト 一般高齢者に対する作業療法や介護予防に対する作業療法について学ぶ</p> <p>第7回 認知症の定義と分類について ①認知症とは何か？認知症の疫学、若年性認知症について学ぶ。また、②アルツハイマー型認知症、③レビー小体型認知症について、発表を通して学ぶ。</p> <p>第8回 認知症の分類と症状 ④血管性認知症、⑤前頭側頭型認知症、⑥treatable dementia、⑦BPSD ; Behavioral and Psychological Symptoms of Dementiaについて学ぶ。 ・認知症に関する事項については国家試験の過去問題を中心に第11回目の講義で第④回小テストを実施する</p> <p>第9回 認知症に関する評価について、アルツハイマー型認知症の実際 認知症に関する評価指標について学ぶ アルツハイマー型認知症に関するドキュメントなどを見て、症状や進行についての実際について学ぶ。 ・次回の内容（P. 130～145を予習する）</p> <p>第10回 認知症高齢者の作業療法 認知症に対する作業療法について考え方を学ぶ。P130～145 ・次回 回想法を行うので、子どもの時に遊んだおもちゃ、小さい時の写真など思い出の品を持ってきてください</p> <p>第11回 認知症高齢者の作業療法（回想法） 第4回小テスト 薬物療法、非薬物療法について考える。 非薬物療法の回想法は、グループでロールプレイを行う。</p> <p>第12回 健康高齢者、地域在住高齢者の作業療法 前橋市中央地区の高齢者向けサロンに参加し、各グループで考えた歌体操を説明から実施まで行う。その後はサロンの企画に参加し、参加者と交流を図る。第15回でサロン参加のまとめを行うため、各グループで実施した内容や参加者の様子、グループや各自の反省点などをまとめておくこと</p> <p>第13回 症例検討（認知症高齢者）① 認知症高齢者の症例検討を行う。ICFを使用し、問題点、利点を考える（グループワーク）。</p> <p>第14回 症例検討（認知症高齢者）② 認知症高齢者の症例検討を行う。ICFを使用し、問題点、利点を考える（グループワーク）。</p> <p>第15回 健康な高齢者のOT、まとめ 高齢者向けサロンへの参加後、グループでの振り返りを行う。また、それぞれのグループでの反省点を共有し、健康な地域で生活する高齢者を理解する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください 小テストを実施するため、こまめに学習の振り返りなどを実施してください サロンでの実践などもあるため、グループ学習が多く計画されています。できる限り欠席がないようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	グループ発表では、レジユメの作成・提出、発表準備行ってください。 高齢者向けサロンに参加するため、グループでの歌体操の準備を行ってください
オフィスアワー	月曜日16：10～17：30
評価方法	筆記試験35%、小テスト・課題レポート等35%、サロンでの企画・運営とその実践報告・振り返り30%
教科書	松房利憲・新井健五編：標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学。第3版，医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p>

<p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない
--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるが考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。</p> <p>[到達目標] ①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。 ②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。 ③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うことができる。</p>
授業の概要	<p>作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。	◎	○		
②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。	◎	○		
③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うことができる。	◎	○		
④基本的なスプリントの作製技術を理解し、実際に作製することができる。	◎	○	△	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／義肢装具学総論 義肢、装具、スプリント、切断・離断、義手の種類義肢、装具、スプリントの定義を説明し、義肢（切断）について説明する。また、義手の種類を確認する。</p> <p>第2回 義手の分類・名称・構造・機能について 義手の分類から各部位パーツの名称を説明する。また、各義手、断端長で必要となるパーツとその特徴を教科書、資料を使用し説明する。</p> <p>第3回 義手のチェックアウト 断端ケアを復習し、義肢装着法を説明する。又、上腕、前腕義手の適合検査を説明する。</p> <p>第4回 スプリント作製のための基礎知識 スプリントにおける基本的な目的や評価、素材、道具、デザイン、3点固定、力学、コストの取り方などについて学ぶ。</p> <p>第5回 スプリント作製の流れ スプリント製作における基本的な手順について、hand-base splintを作製しながら学ぶ。スプリントの適応と目的を考え、対象者の状態に合わせたスプリントの選択、デザインの決定について学ぶ。</p> <p>第6回 スプリント作製①：radial-bar type cock-up splint radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>第7回 スプリント作製②：radial-bar type cock-up splint radial-bar type cock-up splintをpinch and wrap法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p>
------	--

	<p>第8回 スプリント作製③: thumb-hole type cock-up splint thumb-hole type cock-up splintをdrape法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>第9回 スプリント作製④: thumb-hole type cock-up splint thumb-hole type cock-up splintをdrape法で製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>第10回 スプリント作製⑤: dynamic splint hand-baseにアウトリガーを取り付け、dynamic splintを作製する。</p> <p>第11回 スプリント作製⑥: check out 作製したスプリントについて、適切に装着するために各部のチェックを行い、安全かつ効果的に装着するための方法を学ぶ。</p> <p>第12回 装具とは/ 上肢装具についてスプリント製作 (短対立装具) ① 装具の特徴やスプリントとの違いについて説明する。 上肢装具について、構造・目的・適応と合わせて説明する。 短対立スプリントを製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>第13回 頸部・体幹装具についてスプリント製作 (短対立装具) ② 頸部・体幹装具について、構造・目的・適応疾患と合わせて説明する。 短対立スプリントを製作する。使用目的、適応症状を説明する。</p> <p>第14回 下肢装具について 下肢装具について、目的、種類、パーツの名称を説明し、AF0は片麻痺と合わせて適応を説明する。</p> <p>第15回 下肢切断と義足 下肢の切断、離断と適合義足について説明する。下腿義足はソケットの種類を見本を用いて説明する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。 ・スプリント製作では各自タオルを用意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習を欠かさないこと
オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時 (変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約
評価方法	筆記試験 70% レポート 30%
教科書	社団法人 日本作業療法士協会 監修: 作業療法学全書 改訂第3版 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学, 協同医書出版社, 2012
参考書	日本整形外科学会. 日本リハビリテーション医学会監: 義肢装具のチェックポイント第8版, 医学書院, 2014
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。臨床場面にてスプリントを作製し、装具療法を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹・宮寺亮輔			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。 ②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。 ③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。</p>			
授業の概要	作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。	◎	○		△
②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。	◎	△	○	
③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。	○		◎	△
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／内部障害における作業療法実践①循環器疾患 科目オリエンテーションと科目の位置づけ、シラバスの説明を行う。 循環器疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第2回 内部障害における作業療法実践②呼吸器疾患／腎疾患 呼吸器疾患、腎疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第3回 がんにおける作業療法実践 がんにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第4回 熱傷における作業療法実践 熱傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第5回 骨・関節疾患における作業療法実践 骨・関節疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第6回 関節リウマチにおける作業療法実践 関節リウマチにおける評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。</p> <p>第7回 末梢神経損傷における作業療法実践 末梢神経障害における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応</p>			

第8回	<p>じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 腱損傷における作業療法実践 腱損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。</p>
第9回	<p>また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践① 【授業概要】 脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。 【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法 【教科書・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでおくこと。脳血管障害の作業療法評価をよく復習して参加すること。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。</p>
第10回	<p>脳血管障害・脳外傷における作業療法実践② 【授業概要】 前回に引き続き、脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。 【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法 【教科書・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでおくこと。脳血管障害の作業療法評価をよく復習して参加すること。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。</p>
第11回	<p>脳血管障害・脳外傷における作業療法実践③ 【授業概要】 脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。 【key words】 脳血管障害、脳外傷、作業療法 【教科書・参考文献】 教科書：pp162-190 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでおくこと。脳血管障害の作業療法評価をよく復習して参加すること。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。</p>
第12回	<p>脊髄損傷における作業療法実践① 【授業概要】 脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。 【key words】 脊髄損傷、残存機能、作業療法 【教科書・参考文献】 教科書：pp191-214 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脊髄損傷の作業療法評価をよく復習して参加すること。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。</p>
第13回	<p>脊髄損傷における作業療法実践② 【授業概要】 前回に引き続き、脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを検討し、その情報を統合及び報告する方法を学ぶ。 【key words】 脊髄損傷、残存機能、作業療法</p>

	<p>【教科書・参考文献】 教科書：pp191-214 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 脊髄損傷の作業療法評価をよく復習して参加すること。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。 次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。 神経変性疾患における作業療法実践</p> <p>【授業概要】 神経変性疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 【key words】 神経変性疾患、作業療法、環境設定、予後予測</p> <p>【教科書・参考文献】 教科書：pp336-374 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回より神経変性疾患における作業療法実践を検討する。神経変性疾患の病態について今までの授業で習った事を復習しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時教員へ報告・相談を行う。 神経・筋疾患における作業療法実践</p> <p>【授業概要】 神経・筋疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。 また、模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援を検討する。 【key words】 神経・筋疾患、作業療法、残存機能</p> <p>【教科書・参考文献】 教科書：pp336-374 参考書：菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学んだことの総括。試験範囲の伝達を行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	予習復習は欠かさないこと。 授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習復習を欠かさないこと 初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	〔牛込・宮寺〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	筆記試験 60% 演習課題 40%
教科書	①標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版. 医学書院, 2018
参考書	菅原洋子 編集：作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害 第3版、協同医書出版社、2008
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】身体障害領域で作業療法士として勤務する中で、脳血管障害患者、整形疾患患者、神経・筋疾患患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
高坂駿・遠藤真史			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①各疾患における作業療法の課題と目的について理解・説明できる。 ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。 ③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。 ④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。 ⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。 ⑥精神障害者に対する生活移行（定着）支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。</p>
------------	--

授業の概要	ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①各疾患における生活課題と作業療法の目的について理解・説明できる。	◎	◎	○	△
②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。	◎	◎	○	○
③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。	◎	◎	○	○
④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。	◎	◎	○	△
⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。	◎	◎	○	○
⑥精神障害者に対する生活移行（定着）支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／精神科作業療法に関する理論・モデル・技法 key words: 治療構造論、森田療法、精神療法、認知行動療法 リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ 全書 精神障害 pp. 287-323、配布資料 予習：全書 精神障害 pp. 287-323</p> <p>第2回 精神科作業療法に関する理論・モデル・技法 key words: 運動療法、認知リハビリテーション、作業理論 精神科リハビリテーションに関わる各種基礎理論を学ぶ 全書 精神障害 pp. 287-323、配布資料 復習：リハビリテーション及び作業療法に関わる、各種理論や技法について</p> <p>第3回 作業を用いたリハビリテーション key words: 作業活動、リカバリー、社会参加、就労</p>			

	<p>・「人生、ここにあり！」のDVDを鑑賞し、精神障害者のリハビリテーションについて考える。 新日本映画社：「人生、ここにあり！」 課題：次回までに感想文を提出。 予習：全書 精神障害 pp.133-140</p> <p>第4回 各精神疾患に対する作業療法① key words: 作業療法、作業、介入 ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにて調べる。教科書や各種関連書、文献を参考にする。 次回までに、担当の疾患に対する作業療法について、文献等を調べてくる。</p> <p>第5回 各精神疾患に対する作業療法② key words: 作業療法、作業、介入 ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにてまとめる。教科書や各種関連書、文献を参考にする。</p> <p>第6回 各精神疾患に対する作業療法③ key words: 作業療法、作業、介入 ・各疾患に対する作業療法について、グループワークにてまとめる。教科書や各種関連書、文献を参考にする。 次回までに、担当の疾患に対する作業療法について、ポスターにまとめてくる。</p> <p>第7回 各精神疾患に対する作業療法④ key words: 作業療法、作業、介入 ・各疾患に対する作業療法について、グループで発表する。 ・発表時は、学会のポスター発表形式に場のセッティングを行う。教科書や各種関連書、文献を参考にする。 予習：配布資料</p> <p>第8回 健康を高めるための行動変容技法 key words: 行動変容技法、認知行動療法、運動療法 ・行動変容とは ・喫煙、肥満、運動、不眠などに対する行動変容技法 予習：配布資料</p> <p>第9回 司法精神医療における作業療法 key words: 医療観察法、指定入（通）院医療、anger management、MDT ・医療観察法の概要と指定入院（通院）医療について ・指定入院（通院）医療機関の役割とOTプログラムについて ・司法精神医療に関する動画の視聴 全書 精神障害 pp.243-256 予習：ACT、オープンダイアログ、ピアサポートの概要について調べ、理解しておくこと。</p> <p>第10回 地域で精神障害者を支える仕組み key words: Assertive Community Treatment、オープンダイアログ、ピアサポート ・ACTの取り組みの概要について ・オープンダイアログの取り組みの概要について ・ピアサポートプログラムの概要について 配布資料</p> <p>第11回 精神障害者の地域移行支援、定着支援①（遠藤） key words: 地域相談、改正精神保健福祉法、退院支援 ・精神保健福祉の動向と法改正 ・地域支援についての振り返り ・長期入院患者の退院支援 ・事例検討会 全書 精神障害 pp.203-228 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。</p> <p>第12回 精神障害者の地域移行支援、定着支援②（遠藤） key words: 退院促進、就労支援、地域生活支援 ・地域と医療の連携について ・就労支援の具体的な取り組み ・事例を通じたケアマネジメント 就労、服薬、住まい、暮らし方についての論点整理 全書 精神障害 pp.221-241 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。</p> <p>第13回 精神障害者のケアマネジメント（遠藤） key words: ケアマネジメント、相談専門員、サービス利用等利用計画作成 ・精神障害者のケアマネジメントの計画演習 ・グループ発表 ・シェアリング ・まとめ 全書 精神障害 pp.103-129 精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。</p> <p>第14回 精神障害領域における作業療法介入・研究 key words: 健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法 ・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について 配布資料 次回、これまでのすべての資料を持参すること。</p> <p>第15回 学んだことの振り返り ・これまで学んだことの振り返り ・試験範囲の伝達、質疑応答これまでの講義の内容について、よく復習しておくこと。</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・予習復習をしっかりとる。 ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。 ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定。 [受講のルール]</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は欠席のないようにする。 ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。 ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月曜日17:00～18:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 60%（再試験あり） <input type="checkbox"/> 感想文 10%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） <input type="checkbox"/> 発表・資料 30%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）
教科書	①日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害，2010. ②岩崎テル子他（編）：作業療法評価学，第3版，医学書院，2017.
参考書	①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—，第2版，医歯薬出版，2014. ②障害者福祉研究会（編）：国際生活機能分類，2002. ③日本行動医学会（編）：行動医学テキスト，2015.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
宮寺亮輔・芦原大			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為（作業）工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。 ②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。 ③姿勢や行為から課題設定の理由が説明できる。 ④対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。</p>
------------	--

授業の概要	<p>ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。	○	◎	△	
②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。	◎	△		○
③姿勢や行為から課題設定の理由が説明できる。	◎	△		○
④対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。		○	△	◎

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション、姿勢と動作、姿勢分析、動作分析</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目オリエンテーション。授業目標と授業の進め方について説明する。 ・姿勢、動作、分析、工程、アライメント姿勢観察、動画、写真の利用について。 ・重心位置の理解。 ・作業姿勢の評価について。 <p>【key words】</p> <p>姿勢、動作、重心</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>基礎運動学p297-313, 347-377</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>各自の身体で演習する。動作を測定しやすい格好で参加すること。</p> <p>【アクティブラーニングについて】</p> <p>ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p> <p>第2回 座位姿勢の評価（不良座位姿勢の原因の特定）</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙骨座り姿勢の原因やその姿勢による身体への影響について、良姿勢や他の不良姿勢と比較しながら説明する。 <p>【key words】</p> <p>仙骨座り姿勢、不良姿勢</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>基礎運動学p347-377, 高齢者のシーティング。PPTの講義。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

第3回	<p>該当ページを良く読んで参加すること。 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p> <p>シーティングの理論</p> <p>【授業概要】 ・シーティングの目的および力学背景について説明をする。 ・褥瘡予防の観点からシーティングの医療福祉分野における位置付けを説明する。</p> <p>【key words】 シーティング、力学、褥瘡予防</p> <p>【教科書・参考文献】 基礎運動学p19-46, 347-377, 高齢者のシーティング。PPTでの講義</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の資料を良く読んで参加すること。</p>
第4回	<p>シーティングの実際①（身体寸法計測、座位機能評価、車椅子の選定）</p> <p>【授業概要】 ・調整前の車椅子乗車姿勢の評価後、身体寸法計測および座位機能評価を実施し、推奨姿勢から車椅子の選定までを体験する。</p> <p>【key words】 シーティング、身体寸法計測、座位機能</p> <p>【教科書・参考文献】 作業療法評価学p71-77, 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：マジヤ（金属）、ゴニオメータ、バインダ（板などでも良い）2枚。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
第5回	<p>シーティングの実際②（車椅子の調整）</p> <p>【授業概要】 ・第4回で計測した結果に基づいて、選定した車椅子を調整する。</p> <p>【key words】 シーティング、身体寸法、座位機能</p> <p>【教科書・参考文献】 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラ型）、マジヤ（金属）、ゴニオメータ、工具（ラチェットレンチ、ドライバーなど）。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
第6回	<p>シーティング後の適合評価①（座位機能）</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、Hofferの座位能力分類、ズレ度を使用。</p> <p>【key words】 シーティング、適合評価、座位機能</p> <p>【教科書・参考文献】 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラ型）、マジヤ（金属）、差し金。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
第7回	<p>シーティング後の適合評価②（上肢機能）</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、簡易上肢機能評価（simple test for evaluating hand function; STEF）を使用。</p> <p>【key words】 シーティング、適合評価、上肢機能</p> <p>【教科書・参考文献】 作業療法評価学p182-190, 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラ型）、マジヤ（金属）、STEF。</p> <p>【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
第8回	<p>シーティング後の適合評価③（ADL, QOL）</p> <p>【授業概要】 ・第5回で調整した車椅子に乗車し、座位評価手法を使用して適合評価する。 ・評価手法は、5m駆動、ADL評価（FIMなど）、QOL評価（痛みの評価（Visual analog scale;VAS）など）を使用。</p> <p>【key words】 シーティング、適合評価、ADL</p> <p>【教科書・参考文献】 作業療法評価学p235-290, 高齢者のシーティング</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペアグループで演習。使用用具：車椅子（モジュラ型）、マジヤ（金属）、テープ（目印）、定規。</p> <p>シーティングについてレポート課題を提示する。 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
第9回	<p>上肢協調運動に対する作業療法①（姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の評価）</p> <p>【授業概要】 ・姿勢変化に伴う上肢（協調運動）機能への影響を説明する。 ・上肢協調運動機能の評価方法、評価指標について説明する。</p> <p>【key words】 シーティング、上肢協調運動</p> <p>【教科書・参考文献】</p>

第10回	<p>作業療法評価学p159-164, 姿勢調節障害の理学療法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用道具: ボールペン(0.5mm芯)、ハンダー。 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p> <p>上肢協調運動に対する作業療法②(姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の治療) 【授業概要】 ・姿勢変化に伴う上肢(協調運動)機能への影響について検討する。 ・上肢協調運動機能に応じた課題設定を検討する。 ・グループワークで進め、発表ディスカッションを行う。 【key words】 シーティング、上肢協調運動 【教科書・参考文献】</p> <p>作業療法評価学p159-164, 姿勢調節障害の理学療法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議し、その内容を発表する。</p>
第11回	<p>姿勢制御の理論 【授業概要】 ・姿勢制御のメカニズムを説明し、姿勢制御を発揮する作業療法場面を紹介する。 【key words】 姿勢制御、作業療法 【教科書・参考文献】</p>
第12回	<p>基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法。PPTでの講義 【課題・予習・復習・授業準備指示】 11回までに学習した姿勢についてレポート課題を提示する。</p> <p>移動支援技術の実際①(視覚情報処理機能と移動機能の関係) 【授業概要】 ・視覚情報処理機能の役割を説明した上で、主体的生活行為における移動機能の支援方法を検討する。 【key words】 視覚情報処理機能、移動機能、生活行為 【教科書・参考文献】</p>
第13回	<p>基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法。PPTでの講義 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを良く読んで参加すること。</p> <p>移動支援技術の実際②(課題から考えるバランス機能の理解、転倒回避能力の促通方法) 【授業概要】 ・視覚情報処理機能、移動機能、自己のバランスの理解の相互関係について説明した上で、転倒回避能力を向上させるプログラムを検討する。 【key words】 転倒回避能力、移動機能、生活行為 【教科書・参考文献】</p>
第14回	<p>基礎運動学p117-167, 姿勢調節障害の理学療法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動、動作分析から作業療法を考える①(芦原) 【授業概要】 ・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考える。 【key words】 姿勢、行動、動作介助 【教科書・参考文献】</p>
第15回	<p>基礎運動学p297-313, 347-377, 姿勢調節障害の理学療法, その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。PPTでの講義 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きやすい格好で参加すること。今までの配布資料等を良く読んで参加すること。 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p> <p>行動、動作分析から作業療法を考える②(芦原) 【授業概要】 ・講義を通じて実施してきた動作や姿勢の分析について、理学療法士・作業療法士の視点から治療に繋げる方向性を考察、発表する。 ・総括。 【key words】 姿勢、行動、動作介助 【教科書・参考文献】</p> <p>基礎運動学p297-313, 347-377, 姿勢調節障害の理学療法, その他必要に応じて各自で参考文献を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回でディスカッションした内容の発表、期末レポート採点基準の説明。 【アクティブラーニングについて】 ペアで体験しながら学習する。測定結果について、ペアで討議する。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>【受講生に関する情報】 ・授業で配布する資料の予備は保管しません。</p> <p>【受講のルール】 ・姿勢観察しやすい(身体貼付するマーカーなどが確認しやすい)服装で参加すること。 ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式

授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	月・火曜日の午前中。時間は事前に申し出ること。
評価方法	レポート50% 演習課題50%
教科書	中村隆一他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2003 岩崎テル子他：作業療法評価学. 医学書院, 2009
参考書	廣瀬秀他：高齢者のシーティング第2版. 三輪書店, 2014 奈良勲他：姿勢調節障害の理学療法第2版. 医歯薬出版株式会社, 2012
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動の基本となる座位姿勢を支援する手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 作業療法のひとつの領域であるHand Therapyについて基礎知識、評価、プログラムを学ぶ。また、上肢を中心とした整形外科疾患・手外科疾患に対する作業療法の理解を深め、作業療法士としての臨床的な知識・技術を身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき上肢機能を捉えることができる。 ②Hand Therapyの視点から、上肢機能へのアプローチを考えることができる。 ③整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができる。</p>
授業の概要	Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき評価を行い、上肢機能へのアプローチを考えることができるように学ぶ。また、整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができるように臨床的な知識・技術を修得する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係				
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①Hand Therapyの視点から、解剖・運動・生理学に基づき上肢機能を捉えることができる。	◎	◎		○
②Hand Therapyの視点から、上肢機能へのアプローチを考えることができる。	◎	◎		○
③整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyプログラムを考えることができる。	◎	◎	△	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 科目の位置付けとシラバス、授業の進め方について説明する。</p> <p>第2回 作業療法におけるHand Therapy：基礎知識① 手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。</p> <p>第3回 作業療法におけるHand Therapy：基礎知識② 手を評価、アプローチするうえでの必要となる基礎知識を解剖・運動・生理学を振り返りながら学ぶ。</p> <p>第4回 作業療法におけるHand Therapy：評価① 作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。</p> <p>第5回 作業療法におけるHand Therapy：評価② 作業療法士としてHand Therapyの具体的な評価を体系的に学ぶ。</p> <p>第6回 作業療法におけるHand Therapy：治療① 作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。</p> <p>第7回 作業療法におけるHand Therapy：治療② 作業療法士としてHand Therapyの具体的な戦略と方法について学ぶ。</p> <p>第8回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy総論 整形外科疾患・手外科疾患に対するHand Therapyの概要について学ぶ</p> <p>第9回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論① 整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第10回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論②</p>
------	--

	<p>整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第11回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論③ 整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第12回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論④ 整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第13回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑤ 整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第14回 整形外科疾患・手外科疾患におけるHand Therapy：疾患別各論⑥ 整形外科疾患・手外科疾患の各疾患におけるHand Therapyについて学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ 科目のまとめを行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習復習は欠かさないこと。
オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	レポート 100%
教科書	①標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版. 医学書院, 2016
参考書	授業内で適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。臨床場面にてHand Therapyを行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
宮寺亮輔・古田常人・牛込祐樹			
作業療法評価学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 作業療法評価の過程を理解し、対象者理解に必要な情報を入手・整理できるようにする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。 ②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。 ③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。 ④対象者理解に必要な観察および検査測定のための説明でき、計画・実施環境の手配ができる。 ⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。 ⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。</p>
授業の概要	<p>作業療法評価の実施から対象者の全体像理解に至るまでのプロセスを模擬的に経験するために、事例検討に必要な情報が入手できるように働きかけながら学習する主体的学習方法（アクティブラーニング）を用いる。課題提示からグループにて実施方法を検討し、適宜、グループ毎に指導・助言を行う。またクラス全体での発表を通じて、全体的指導を行う。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。	◎			
②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。	○	△	◎	
③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。	△	◎	○	
④対象者理解に必要な観察および検査測定のための説明でき、計画・実施環境の手配ができる。		◎	○	
⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。		◎	△	○
⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。	◎		△	

授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション／第1事例（作業療法依頼内容）の提示 【授業概要】 ・オリエンテーション、ICF、COPM、作業療法介入プロセスモデル本科目で学習することを明らかにする。 ・作業療法における評価の位置づけについて理解を深める。 ・作業療法評価を構造的に捉えるための視点について学ぶ。 【key words】 作業療法処方箋、作業療法評価過程 【教科書・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作業療法処方の流れについて事前学習しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第2回 対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】</p>
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・事例（作業療法依頼内容）の提示。 ・依頼内容から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。 <p>【key words】 作業療法処方箋、作業療法評価過程 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p>
第3回	対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。 【key words】 作業療法評価過程、作業療法評価計画 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。
第4回	対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 【key words】 作業療法評価計画、検査測定、情報収集 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。
第5回	対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価計画、検査測定、情報収集 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。
第6回	対象者の全体像を作成 【授業概要】 ・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価過程、全体像 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。グループでまとめた意見をレジюмеに記載していく。
第7回	対象者の全体像を発表／フィードバック 【授業概要】 ・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。 【key words】 作業療法評価過程、全体像 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。グループでまとめた全体像を発表する。
第8回	第2事例の提示：対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・事例（2事例目）の提示。

	<p>・事例から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。 【key words】 作業療法処方箋、作業療法評価過程、作業療法評価計画 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第9回 対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。 【key words】 作業療法評価過程、作業療法評価計画 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献を用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第10回 対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価計画、検査測定、情報収集 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第11回 対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価計画、情報収集、検査測定 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第12回 対象者理解のための手立てを検討・実施 【授業概要】 ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価計画、情報収集、検査測定 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。</p> <p>第13回 対象者の全体像を作成 【授業概要】 ・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。 ・必要に応じて評価計画を修正する。 【key words】 作業療法評価過程、全体像 【教科書・参考文献】 随時必要資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。 【アクティブラーニングについて】 グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。グループでまとめた意見をレジюмеに記載していく。</p> <p>第14回 対象者の全体像を発表／フィードバックおよび総括</p>
--	--

	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。 ・指導者（教員）より総括。 <p>【key words】</p> <p>作業療法評価過程、全体像</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>随時必要資料を配布する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答、期末課題レポートについて説明【アクティブラーニングについて】</p> <p>グループによるディスカッション。グループで役割分担し、教員に事例について情報収集していく。グループでまとめた全体像を発表する。</p> <p>第15回 口頭試問</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1、2事例を通して得られた内容について口頭試問を行う。 ・授業資料の持ち込み可。 <p>【key words】</p> <p>作業療法評価過程、全体像</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>配布済み</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>各自グループで共有した資料を整理しておくこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。</p> <p>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォン（調べ学習以外の用途）は机上に出さない。</p> <p>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>グループ内での役割分担を遂行できるよう、各自学習が必要となる。対象者理解のために必要な情報、知識は、これまでに学んだことの復習だけでなく、新たな知識、学内で教わっていない部分も多々あるので、自ら積極的な学習が求められる。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日の16時30分～17時30分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。</p>
評価方法	<p>レポート・口頭試問(60%)、演習課題(40%)により総合的に評価する。</p>
教科書	<p>なし。随時必要資料を配布する。</p>
参考書	<p>随時紹介する。</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、患者情報をとりまとめ、他職種とともに患者の生活行為をマネジメントする手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
悴田敦子			
作業療法評価学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。</p> <p>[到達目標] ①作業療法の過程を説明することができる。 ②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。 ③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。 ④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式で記録することができる。</p>
------------	---

授業の概要	ケーススタディーを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法の過程を説明することができる。	◎			
②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。	◎	◎		
③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。	◎	○		
④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式で記録することができる。	◎	◎		○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて 基本的な作業療法の流れについて学び、具体的な評価項目や評価方法を理解する。 「作業療法評価、評価項目」 P10～15</p> <p>第2回 記録について 評価実習で行われるケースの記録について客観と主観に分けて学びます。実際に得た情報の意味、扱いを理解する。 「客観、主観、情報収集」</p> <p>第3回 ケーススタディー：動作分析のポイント ケースの映像から、動作分析を行い、記録する。動作分析の際のメモや記録について説明する。 「記録、動作分析」 課題：次回までにデイリーノート形式で記録しまとめる。</p> <p>第4回 ケーススタディー：動作分析 動作分析の準備を各自行う。片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録・発表する。 原因や理由についてADLにつなげた考察を話し合う。 「姿勢、筋緊張、片麻痺、動作分析」 課題：次回までにデイリーノート形式で記録する。</p> <p>第5回 ケーススタディー：記録、動作分析</p>
------	---

	各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。 また、片麻痺ケースの寝返り動作、起き上がり動作の映像から、動作分析を各自行い、記録する。 課題：次回までにデイリーノート形式で記録する。
第6回	ケーススタディー：動作分析 片麻痺ケースの映像から、動作分析を各自行い、記録する。数名に発表してもらい、他ADLとのつながりについて考え話し合う。 課題：次回までにデイリーノート形式で記録する。
第7回	ケーススタディー：記録、動作分析 各自持参したデイリーノートを学生間で回覧し、査読・コメントを行う。 また、動作分析を行い、記録する。数名が動作分析を発表し、評価の視点を共有する。 課題：次回までにデイリーノート形式で記録する。
第8回	ケーススタディー：動作分析、評価計画 前回の記録を各自で回覧し、書き方、用語の使用を確認する。 また、評価計画立案について学ぶ。 課題：評価計画立案をまとめる。
第9回	ケーススタディー：評価計画立案、情報収集、面接 前回の評価計画案を学生間で確認する。評価計画の立案のポイントと内容選択等について説明する。 面接による情報収集項目を確認する。 課題：ケースノートに記録する
第10回	ケーススタディー：情報収集、身体機能面評価 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。 課題：ケースノートに記録する
第11回	ケーススタディー：記録、情報収集、身体機能面評価、動作分析 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。 課題：ケースノートに記録する
第12回	ケーススタディー：情報収集、身体機能面評価、動作分析 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、評価計画に基づき、評価結果等情報を整理し記録する。 課題：ケースノートに記録する
第13回	ケーススタディー：動作分析、情報収集、評価 ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ICFを使用し、評価項目、問題点、利点を整理する。 課題：ケースノートに記録する
第14回	レポート・レジュメについて ケースノートを提出し、学生同士で査読を行う。また、ケースレポート、発表用レジュメについて学び、各自で作業療法目標を設定する。
第15回	ケース発表 各自まとめた内容を発表し、それぞれの評価の視点、問題点、目標を学び、自己と比較検討する。
受講生に関わる情報および受講のルール	ケーススタディーでは各自ファイルを用意し、授業終了後にまとめること。まとめたものを次回授業で使用するため、忘れることのないようにすること。 問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	動作分析、ケーススタディーを行った際は、次回授業までにデイリーノートまたはケースノートの形式でまとめる。教員からの査読・コメントは随時受け付けます。
オフィスアワー	月曜日16:10~17:30
評価方法	提出物 100% (ケースレポートまたはレジュメ形式)
教科書	1) 岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第3版. 医学書院 2) 山口昇・玉垣努編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院 3) 障害者福祉研究会編：ICF国際生活機能分類, 国際障害分類改定版, 中央法規
参考書	隈元庸夫：症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作. ヒューマン・プレス. 2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
古田常人			
作業療法治療学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業目的] 高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を活用できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。 ②MTDLPを用いて作業に焦点を当てたアセスメントを実施することができる。 ③MTDLPを用いて作業に焦点を当てた合意目標の設定をすることができる。 ④MTDLPを用いて作業に焦点を</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。 ・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるよう自身でも一連のプロセスを経験する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。	◎			○
②健常高齢者に対する介護予防の考え方および具体的方法に関して理解・説明することができる。	◎	◎	○	○
③地域ケア会議の概要およびその方法について理解し、実践することができる。	◎	○	○	○
④MTDLPを用いて対象者のアセスメントを実施することができる。	◎	◎	○	◎
⑤MTDLPを用いて対象者のプランを作成することができる。	◎	◎	○	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは 地域包括ケアシステム 地域包括支援センター 自立支援地域包括ケアシステムについての概要を説明し、地域包括支援センターの役割、及び自立支援の考え方について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第2回 総合支援事業/介護予防 総合支援事業を外観し、介護予防事業について説明する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第3回 介護予防演習 介護予防で行われている評価に関して、理解し演習を行う。資料を配布する。生活行為分析のレポート。A41枚程度。 次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第4回 介護予防実践演習① 介護予防で行われる生活支援、身体機能の維持・向上訓練資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第5回 介護予防実践演習②</p>
------	--

	<p>認知症予防のための生活や運動に関する指導の演習を行う。自主グループの運営・支援について、検討する。資料を配布する。次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。</p> <p>第6回 模擬地域ケア会議演習① 地域ケア会議についての概要を説明し、地域ケア会議の流れ、必要な視点、専門職の役割について説明する。ケア会議の事例に関して検討し、ケア会議のシミュレーションを行う。資料を配布する。次回模擬ケア会議を行う準備を行っておくこと。</p> <p>第7回 模擬地域ケア会議演習② 模擬ケア会議を行う。司会、ケアマネによる事例紹介、及び検討課題の提示、各専門職（PT, OT, ST, 管理栄養士、薬剤師など）による助言、及び質問。情報を整理し、目標・方針の設定を行う一連の流れを経験する。資料を配布する。発表後の質疑応答を踏まえ、情報を整理し、レポートを提出。</p> <p>第8回 生活行為向上マネジメントとは① 生活行為向上マネジメント（MTDLP）導入の経緯 MTDLPの概要（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント、改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.8-18，2014。予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014</p> <p>第9回 生活行為向上マネジメントとは② 生活行為向上マネジメント（MTDLP）導入の経緯 MTDLPの概要（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.8-18，2014。予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014</p> <p>第10回 マネジメントツールの使い方① 各シートを学生同士で聞き取る（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.18-21，2014予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014。事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第11回 マネジメントツールの使い方② 各シートを学生同士の問題で記入する。（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.21-32，2014予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014。事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第12回 マネジメントツールの使い方③ グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014。事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第13回 マネジメントツールの使い方④ グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料予習：（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント，改訂第2版。（社）日本作業療法士協会，pp.41-46，2014。事例を読み、MTDLP各シートの記載方法を予習しておく。</p> <p>第14回 各領域における生活行為向上マネジメントの活用 グループに分かれて、MTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える配布資料 MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。</p> <p>第15回 学んだことの振り返り 1～14回までの総括 試験範囲の伝達これまでの配布資料MTDLP各シートを実践できるように理解、復習しておく。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが中心となる。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。
オフィスアワー	〔古田〕月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	評価配分：発表50%，課題50%。詳細はシラバスを参照すること。
教科書	（社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント。（社）日本作業療法士協会2014
参考書	①一般社団法人日本作業療法士協会（編著）：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント。医歯薬出版株式会社，2015。 ②吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう，作業科学入門，第2版。医歯薬出版株式会社，2017。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p>

一般病院位にて高齢者の作業療法を行い、また訪問リハビリ、老人保健施設など地域での高齢者支援を実践していた。また、埼玉県ふじみ野市における認知症初期集中支援チーム員として活動し、加えて埼玉県三芳町の地域ケア会議に参加して助言を行っている。

アクティブラーニング要素

- 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
牛込祐樹			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床場面で評価、介助を具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。 ②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。 ③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。 ④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。</p>
授業の概要	作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係				
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。	◎	◎		
②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。	◎	◎		
③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。	◎	◎		
④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。	◎	◎		
授業計画	第1回	科目オリエンテーション/臨床に立つ上での準備・心構えについて 科目の位置づけとシラバスの説明。科目内で行う実践的な評価、介助の練習の方法について説明する。		
	第2回	臨床実践：バイタルサイン測定① 実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。 実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。		
	第3回	臨床実践：バイタルサイン測定② 実際の臨床場面（実習場面）を想定してのバイタルサイン測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。 実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。		
	第4回	臨床実践：初回面接・起居移乗介助① 実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。 実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。 実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。		
	第5回	臨床実践：初回面接・起居移乗介助②		

	<p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての面接を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての起居・移乗動作を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第6回	<p>臨床実践：関節可動域測定①</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第7回	<p>臨床実践：関節可動域測定②</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての関節可動域測定を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第8回	<p>臨床実践：MMT①</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第9回	<p>臨床実践：MMT②</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての筋力検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第10回	<p>臨床実践：簡易知覚検査①</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第11回	<p>臨床実践：簡易知覚検査②</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての簡易知覚検査を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第12回	<p>臨床実践：片麻痺機能検査①</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第13回	<p>臨床実践：片麻痺機能検査②</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定しての片麻痺機能を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第14回	<p>臨床実践：ADL評価・介助（更衣）①</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
第15回	<p>臨床実践：ADL評価・介助（更衣）②</p> <p>実際の臨床場面（実習場面）を想定してのADL評価・介助を実施する。そのために必要な準備と起こりうるリスクを把握し、その対応策を検討し、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを行い、具体的な方法・手順で実践できるように学ぶ。</p> <p>実技が中心になるため、Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に臨むこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージなどを用意しておくこと。</p> <p>メモがしやすいうように筆記用ボードを用意しておくこと。</p> <p>予習復習は欠かさないこと。 授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習復習を欠かさないこと
オフィスアワー	[牛込] 月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	ポートフォリオ 100%
教科書	特になし
参考書	<p>①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学. 第3版. 医学書院. 2017</p> <p>②才籾栄一 監：PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト. 第1版. 金原出版株式会社. 2011</p> <p>③大野義一郎：感染対策マニュアル. 第2版. 医学書院</p>

<p>実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング</p>	<p>④里宇明元 監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習. 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2015</p> <p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。知識・技術を有しているだけでなく、臨床場面で実践応用しながら臨床業務を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
-------------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が個人に与える影響を知ることで、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解する。 ②作業療法における集団活用について説明することができる。 ③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。</p>
授業の概要	<p>ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひととのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解できる。	◎	◎	○	△
②作業療法における集団活用について説明することができる。	◎	◎	○	△
③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。	◎	◎	○	○
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／集団の基礎① 集団、場 (トポス) ・今後の講義日程と内容 ・集団と場に関する基礎知識 ・集団評価ひとと作業・場 新版 1章 (pp.10-18) 輪読 次回の講義までに、集団評価の基礎的な評価について教科書を熟読する。</p> <p>第2回 集団の基礎② 調べ学習・プレゼン資料の作成 範囲に応じ、各プレゼンテーションの担当を決め、集団療法を実施するために必要な基礎知識・技術についてまとめる。 ひとと作業・場 新版 2~4章 (pp.20-68) 課題：次回の講義までに集団と場に関する基礎知識・集団評価についてプレゼン資料をまとめる。</p> <p>第3回 集団の基礎③ ・集団と場に関する基礎知識・集団評価の内容に関するプレゼンテーション ひとと作業・場 新版 2~4章 (pp.20-68) 課題：次回までに教科書付表の集団評価チェックリストの内容について確認し、理解しておく。</p> <p>第4回 集団の見学・評価① 事業所にて、児童の集団を、集団および個の関わり観点から評価する。 課題：次回の講義までに、集団評価表、集団内個人評価表をまとめる。</p> <p>第5回 集団の見学・評価② ・集団と場に関する基礎知識についてプレゼンテーションを行う。 ひとと作業・場 新版 pp.2-58 課題：次回の講義までに集団の治療的利用に関して、プレゼン資料をまとめておく。</p> <p>第6回 集団評価の結果報告と考察 ・第4~5回で行った集団評価について報告をし、フィードバックを受ける。 課題：次回の講義までに集団の治療的利用に関して、プレゼン資料をまとめておく。</p>			

	<p>第7回 集団の治療的活用 ・集団の治療的利用に関するプレゼンテーション ひとと作業・場 新版 5~7章 pp.70-143 課題：次回の講義までに、児童に対する集団プログラムについて文献を探しておく。</p> <p>第8回 模擬集団プログラム計画の立案① ・発達障害をもつ児童に対する集団プログラムについて、調べた文献を参考に、プログラム案を作成、発表する。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義までに、集団プログラムについて計画書の構成を考慮しておく。</p> <p>第9回 模擬集団プログラム計画の立案② ・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書をまとめる。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義までに、集団プログラムに関して計画書を作成しておく。</p> <p>第10回 模擬集団プログラム計画の立案③ ・発達障害をもつ児童に対する、集団プログラムについて、計画書のフィードバックを受ける。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義までに、計画書でフィードバックを受けた点を修正する。</p> <p>第11回 模擬集団プログラム計画の立案④ ・場面設定を行い、学内で模擬プログラムを実施、計画の修正を行う。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義の3日前までに、計画の修正を行い、集団プログラム計画書を担当教員に提出する。</p> <p>第12回 集団プログラムの実施① ・児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義までに、治療プログラムに関する評価結果をまとめておく。</p> <p>第13回 集団プログラムの実施② ・児童に対する集団プログラムを実施し、結果を評価する。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：次回の講義までに、治療プログラムに関する評価結果をまとめておく。</p> <p>第14回 集団プログラムの結果報告と考察 ・実施したプログラムについて、ディスカッションを基に考察する。また、フィードバックを受ける。 ひとと作業・場 新版 pp.146-179 課題：プログラムの評価結果や運営方法について、フィードバックを受けた内容を加味し、レポートにまとめる。</p> <p>第15回 学んだことの振り返り ・集団、場の治療的効果や実際のプログラム評価、運営について振り返る。 1~14回までの内容について、復習しておくこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料の予備は保管しない。 ・授業日程等は変更になる場合がある。その場合は、随時連絡する。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 ・対象者の評価や治療に対し、真摯な姿勢で臨むこと。 ・授業中、近隣の施設を利用させていただくこともあるため、私服は動きやすく華美でないものとする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。
オフィスアワー	木曜日17:00~18:00。時間については事前に申し出ること。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業内提出課題 30% (プレゼンテーション、集団評価シート、集団プログラム計画) <input type="checkbox"/> 集団プログラムへの取り組み30% (参加しなかった場合は総合評価に含めない) <input type="checkbox"/> レポート 40% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
教科書	山根寛他 (著) : ひとと集団・場一ひとの集まりと場を利用する一, 第2版, 三輪書店, 2007.
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士国家資格及び高齢期・精神科領域の臨床経験を有する教員が担当。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
山口智晴			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。 〔到達目標〕 ①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。 ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。 ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。
授業の概要	認知機能障害に伴う社会生活障害の評価とアプローチについて学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。	○	○		
②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。	○			○
③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。		◎	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション。 高次脳機能障害者の暮らしぶり。 認知機能障害をどの様に捉えるか（DSM-5など） DSM-5、認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）科目オリエンテーション。 認知機能低下による生活機能障害をどのようにとらえるか、ICFやDSM-5などから理解をすすめる。 また、オレンジプランなどの最近の制度について知る配布資料範囲を復習、ポートフォリオを作成</p> <p>第2回 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①： 注意・記憶について 注意障害や記憶障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。①淵雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5 『高次脳機能障害障害』第3版。 協同医書出版 P.176～198教科書指定範囲の予習課題の提示</p> <p>第3回 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②： 失認・半側空間無視について 失認や半側空間無視についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。教科書①P.81～120教科書指定範囲の予習、ポートフォリオ</p> <p>第4回 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③： 失語・失書など言語障害について 半側空間無視(続き) 失語症を中心とした言語関連の障害についての概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。教科書①P.198～211教科書指定範囲の予習、ポートフォリオ</p> <p>第5回 課題作成に向けた指導 認知症に対するリハビリテーションについて各自が調べる課題を提示し、どの様に準備を進めるか確認する。 詳細は講義時に配布する。 配付資料参照プレゼンテーション準備</p> <p>第6回 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④： 失行・行為の障害について 失行症などの行為の障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。教科書①P.138～163教科書指定範囲の予習</p>			

	<p>第7回 高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤： 前頭葉症状、行動と感情の障害について 前頭葉の障害による社会的行動障害や行動と感情障害の概要について復習するとともに、それらに対する具体的な介入方法について学んでいく。P.163～175教科書指定範囲の予習、ポートフォリオ、各グループ発表の準備</p> <p>第8回 認知症患者の暮らしぶり。認知症の非薬物療法（リハビリテーション含む）について 認知症に対する非薬物療法の定義や分類、そのエビデンスなどについて担当学生が調べ発表する。それを元に、補足の講義と議論を行い、理解を深める教科書②小川敬之編 認知症の作業療法—エビデンスとナラティブの接点に向けて第2版。医歯薬出版。のほかに非薬物療法の文献を探す 教員からも随時紹介する担当学生準備、ポートフォリオ</p> <p>第9回 認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入 認知症の行動・心理症状BPSDの定義と、その軽減に向けた代表的な介入方法について学ぶ。環境調整や本人へのアプローチ、家族支援など幅広い視点を持つことの重要性について学ぶ。教科書②以外に、International Psychogeriatrics Associationのホームページで入手できるガイドラインを参照担当学生準備、ポートフォリオ</p> <p>第10回 認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導 認知症の家族支援やケアの方法について調べるとともに、その有用性に関する文献も紹介しながら理解を深める教科書②のほかに、参考文献を紹介する担当学生準備、ポートフォリオ</p> <p>第11回 認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度 各自調べてまとめる 高次脳機能障害と認知症に関する社会資源について、各自で調べて学ぶ次随時指示する担当学生準備、ポートフォリオ</p> <p>第12回 認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係 認知症患者（特に若年性認知症者）や高次脳機能障害患者に対する就労支援関連の社会資源について次随時指示する各自調べて担当者が発表</p> <p>第13回 認知機能障害のある方への社会資源③ 成年後見制度 権利擁護に関わる制度 認知症患者や高次脳機能障害患者に対する成年後見制度などの権利擁護関連について調べる次随時指示する担当学生準備、ポートフォリオ</p> <p>第14回 認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど 群馬県内の高次脳機能障害支援拠点機関や認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェなどの社会資源について調べてまとめる。また、具体的な活用方法についても調べる。次随時指示する期末課題の提出準備</p> <p>第15回 まとめ 本科目のまとめを行う。 ポートフォリオを完成させる。配布プリント参照期末課題の提出準備</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識（2年次までの知識）は、各自復習しておくこと。特に解剖学（脳と神経15回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。基本的に毎回の予習と復習を前提に進める。
オフィスアワー	水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約
評価方法	ポートフォリオ50%、 授業内発表課題50%
教科書	日本作業療法士協会監修/淵雅子編集：作業療法全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版、協同医書出版 小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版、協同医書出版
参考書	石合純夫 著 『高次脳機能障害』（医歯薬出版株式会社） 本田哲三 編 『高次脳機能障害のリハビリテーション -実践的アプローチ-』第2版（医学書院） 鈴木孝治ほか編 『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④（医歯薬出版社） その他、随時講義の中で紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(15)	必修
担当教員			
山口智晴・3学年担任			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①守秘義務について説明することができ、実行できる。 ②リスク管理について説明することができ、実行できる。 ③評価における統合と解釈が行える。 ④担当した症例について、文章にまとめるとともに報告し、これらを基にして考察を深めることができる。</p>
授業の概要	臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。また、事例の統合と解釈を通して、評価プロセスの理解を深めることができる。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①守秘義務について説明することができ、実行できる。	◎			
②リスク管理について説明することができ、実行できる。	◎			
③評価における統合と解釈が行える。		○	○	
④担当した症例について、文章にまとめるとともに報告し、これらを基にして考察を深めることができる。			○	○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション／守秘義務について 個人情報、守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える。またその具体的な方法を説明する。配布資料指定教科書と実習の手引きに目を通しておくこと。</p> <p>第2回 リスク管理（感染症対策など） 医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明する。大野義一郎：感染症対策マニュアル第2版. 医学書院スタンダードプレコーションについて復習しておくこと。</p> <p>第3回 守秘義務、感染症対策に関するテスト 守秘義務、感染症対策に関する知識の確認をおこなう。大野義一郎：感染症対策マニュアル第2版. 医学書院実施内容を復習すること</p> <p>第4回 評価計画の立案 講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。</p> <p>第5回 評価計画の立案 講義前までに提示された事例を通して評価計画の立案を行うこと。</p> <p>第6回 統合と解釈 事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。配布プリント統合と解釈について復習し、学習内容をまとめておくこと。</p> <p>第7回 統合と解釈 事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。配布プリント統合と解釈について復習し、学習内容をまとめておくこと。</p> <p>第8回 統合と解釈 事例を通して評価における統合と解釈の方法を検討する。配布プリント統合と解釈について復習</p>			

	<p>し、学習内容をまとめておくこと。</p> <p>第9回 臨床評価実習指導の心構え 臨床評価実習実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。実習の手引き実習の手引きをもとに復習しておくこと</p> <p>第10回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 臨床評価実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと</p> <p>第11回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 臨床評価実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと</p> <p>第12回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと</p> <p>第13回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料各自で自分の課題を整理し、振り返りを行うこと</p> <p>第14回 臨床評価実習Ⅰの課題整理 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。実習の手引きセミナー発表資料振り返りシートの作成準備</p> <p>第15回 臨床評価実習を振り返る実習報告 臨床評価実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。振り返りシート振り返りシートの作成準備</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 報告では発表用レジュメを用意しておくこと。</p> <p>【受講のルール】 報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	実習の手引きを熟読すること。また、各配置先病院の情報を事前に収集するとともに、各種評価指標の用紙などのファイリングや評価手法の練習などに取り組んでおくこと
オフィスアワー	水曜日16:00～17:30（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談）
評価方法	講義内での課題作成と評価指標のファイリング40%、評価に関わる最低限の実技テスト（バイタルチェックやROM・MMT計測など指定された項目）40%、実習の振り返りシートの作成20%、
教科書	大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版。医学書院 障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版
参考書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	3単位(135)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。 ③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。 ④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。 ⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。</p>
------------	--

授業の概要	学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。	◎			
②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。		◎		
③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。		○	○	○
④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。			○	○
⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。			○	○
授業計画	3週 臨床評価実習 学生は各自割り当てられた病院・施設にて臨床評価実習を実施してくる。			
受講生に関わる情報および受講のルール	作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は別途、臨床実習の手引きに記載してある通り（実習全のオリエンテーションにて確認する）。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各病院施設で指定された通り。			
授業外時間にかかわる情報	各病院施設で指定された通り（デイリーノートとケースノート、レジユメの作成）。			
オフィスアワー	各病院施設で指定された通り。			
評価方法	◆出席（出席時間数要件：4/5以上）			

	<p>◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70% ※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、 がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。 ◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30% 再受験の取り扱い：無</p>
教科書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き 大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 臨床実習の手引き
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	3単位(135)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。 ③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。 ④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。 ⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。</p>
------------	--

授業の概要	学生は指定された実習先で3週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。	◎			
②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。	○	◎		
③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。	○	○	○	○
④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。	○		○	○
⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。	○		○	○
授業計画	3週 臨床評価実習 学生は各自に割り当てられた病院・施設にて臨床評価実習を実施してくる。			
受講生に関わる情報および受講のルール	作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は別途、臨床実習の手引きに記載してある通り（実習全のオリエンテーションにて確認する）。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各病院施設で指定された通り			
授業外時間にかかわる情報	各病院施設で指定された通り（デイリーノートとケースノート、レジユメの作成）			
オフィスアワー	各病院施設で指定された通り			
評価方法	◆出席（出席時間数要件：4/5以上）			

	<p>◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70% ※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、 がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。 ◆学内セミナー発表及びレポート作成等の課題取り組み：30% 再受験の取り扱い：無</p>
教科書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業専攻 臨床実習の手引き 大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業専攻 臨床実習の手引き
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。</p> <p>【到達目標】 ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。 ②社会人としてのマナーを身につける。</p>
授業の概要	総合演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自身自身を客観的に捉え直す機会とする。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。	△	△	◎	
②社会人としてのマナーを身につける。	△	△	◎	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について授業の流れと建学の精神について説明を行う。 課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。</p> <p>第2回 進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ 就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。</p> <p>第3回 進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座① 就職活動に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>第4回 進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座② 就職活動に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>第5回 進路・資格取得プログラム④：求人票の見方 求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見てもみる。 気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。</p> <p>第6回 進路・資格取得プログラム⑤：情報収集① 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。</p> <p>第7回 進路・資格取得プログラム⑥：情報収集発表② 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。</p> <p>第8回 進路・資格取得プログラム⑦：自己分析① 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。</p> <p>第9回 進路・資格取得プログラム⑧：自己分析② 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。</p> <p>第10回 進路・資格取得プログラム⑨：履歴書① 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。</p> <p>第11回 進路・資格取得プログラム⑩：履歴書② 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。</p> <p>第12回 進路・資格取得プログラム⑪：面接① 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。</p> <p>第13回 進路・資格取得プログラム⑫：面接②</p>
------	--

	<p>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。</p> <p>第14回 進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編） 卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。</p> <p>第15回 進路・資格取得プログラム⑭：まとめ これまでの振り返りとポートフォリオを用いた自己評価を行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。</p> <p>【受講のルール】 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	予習復習を欠かさないこと。 科目内で学んだことを踏まえて、計画を立てて就職活動を進めること。
オフィスアワー	〔午込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	□ポートフォリオ 100%
教科書	学校法人昌賢学園：進路の手引き
参考書	授業内で適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。その中で作業療法部門主任として、人事に携わり求人活動を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
古田常人・高坂駿・野口直人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 事例を通して、根拠に基づき、作業療法実践プロセスを理解する。 〔到達目標〕 1) 限られた情報・観察から対象者の基本能力・応用的能力を把握し、対象者に必要な絞った評価計画を立案できる。 2) 対象者の全体像を構造的に理解できる。 3) 対象者に必要な作業療法目標を設定し、具体的な作業療法計画を立案できる。
授業の概要	さまざまな領域・病期・生活をもった複数の対象者に対し、作業療法過程を模擬体験し、実践能力を高められる。特に、スクリーニングからの絞った評価、作業療法評価から得られる全体像の把握、作業療法計画立案を繰り返し体験し、作業療法の流れを考えられる力を身につける。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①臨床評価実習での経験を基に、興味あるテーマを見つけ出すことができる。	◎	◎	◎	○
②自分の意見を論理立てて発言できるようになる。	○		◎	◎
③他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。	◎		◎	◎
④ファシリテーターとしてディスカッションを運営できるようになる。	◎		◎	◎

授業計画	第1回	オリエンテーション／事例A①評価計画立案 オリエンテーション本事業の進め方について説明。 評価計画、評価結果の読み取り、全体像の把握と目標設定、目標に基づく治療方針と具体的な治療方法の検討の作業療法プロセスの確認する。資料を配布する。事例プロフィールを提示する。各グループで、事例Aについての必要な評価とその目的・理由を検討する。事例Aに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。最後には、事例Aの評価結果を提示する。
	第2回	事例A②評価・全体像の整理 事例Aの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足りない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。
	第3回	事例A③目標設定 整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Aの長期目標と短期目標を設定する。事例Aに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えること。
	第4回	事例A④治療計画 事例Aにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。事例Aに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。 次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。
	第5回	事例A⑤発表 各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。 事例Bプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備して

	<p>おくこと。</p> <p>第6回 事例B①評価計画立案 各グループで、事例Bについての必要な評価とその目的・理由を検討する。事例Bに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。最後には、事例Bの評価結果を提示する</p> <p>第7回 事例B②評価・全体像の整理 事例Bの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足りない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。</p> <p>第8回 事例B③目標設定 整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。事例Bに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えること。</p> <p>第9回 事例B④治療計画 事例Bにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。事例Bに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。</p> <p>第10回 事例B⑤発表 各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。事例Cプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。</p> <p>第11回 事例C①評価計画立案 各グループで、事例Cについての必要な評価とその目的・理由を検討する。事例Cに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。最後には、事例Cの評価結果を提示する</p> <p>第12回 事例C②評価・全体像の整理 事例Cの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足りない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。</p> <p>第13回 事例C③目標設定 整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。事例Cに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えること。</p> <p>第14回 事例C④治療計画 事例Cにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。事例Cに関する疾患における大学で利用している教科書・授業資料全般を利用すること。次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。</p> <p>第15回 事例C⑤発表／学んだことの振り返り 各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。これまでの総括を行う。疑問点はそのままにせず積極的に質問し、解消すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 教室指定をするので確認しておくこと。</p> <p>【受講のルール】 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。
オフィスアワー	<p>[高坂] 木曜日16:00～17:00。その他の曜日においては要予約。</p> <p>[古田] 月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約</p> <p>[野口] 月曜日17時～18時は随時。その他の曜日においては要予約。</p>
評価方法	■発表 50% ■提出資料 50%
教科書	なし。随時資料を配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>主たる担当者は、一般病院、大学病院にて勤務し、脳血管障害、整形外科疾患を中心に作業療法の実践を行っていた。また、訪問リハビリやデイケア、及び認知症初期集中支援チーム員として活動し、高齢者支援の実践も行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <p>臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。適切な治療プログラムの選択ができるようになることを目的とする。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行うことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①守秘義務について説明することができ、実行できる。 ②リスク管理について説明することができ、実行できる。 ③適切な治療プログラムを立案・実施できるようになる。 ④臨床総合実習における課題の整理と情報の共有を行い、作業療法における一連の過程の理解を深めることができる。</p>
------------	--

授業の概要	臨床で求められる守秘義務(情報管理)やリスク管理(感染症対策など)について再確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。事例を通して、治療プログラムの立案・実施について検討する。臨床総合実習で学んだ内容についての振り返りを行い、課題の整理と情報の共有を行う。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー(DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①守秘義務について説明することができ、実行できる。	△	○	○	
②リスク管理について説明することができ、実行できる。	△	○	○	
③適切な治療プログラムを立案・実施できるようになる。	○	○		○
④臨床総合実習における課題の整理と情報の共有を行い、作業療法における一連の過程の理解を深めることができる。	○	○		△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/リスク管理・守秘義務について 臨床総合実習臨床総合実習の流れ、取り組み方について説明する。 臨床実習におけるリスク管理、守秘義務について確認する。</p> <p>第2回 治療プログラム立案の基本的な考え方 治療プログラムの立案、実施に関する基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>第3回 事例を通じた治療プログラムの実践 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>第4回 事例を通じた治療プログラムの実践 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>第5回 事例を通じた治療プログラムの実践 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>第6回 事例を通じた治療プログラムの実践 作業療法における治療プログラム、方法、手段の考え方について事例をとって検討する。</p> <p>第7回 臨床実習指導者会議に向けての心構え 臨床実習指導者会議の中で、実習指導者と面談を実施する。そのための心構えと準備を行う。</p> <p>第8回 臨床総合実習Ⅰにおける心構え・準備 臨床総合実習Ⅰの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。</p>
------	--

	<p>第9回 臨床総合実習Ⅰの課題整理① 臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。</p> <p>第10回 臨床総合実習Ⅰの課題整理② 臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。 事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>第11回 臨床総合実習Ⅰの課題整理③ 臨床臨床実習Ⅰ終了後、自分の課題を整理し次回実習に向けて解決していく。 事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>第12回 臨床総合実習Ⅱにおける心構え・準備 臨床総合実習Ⅱの実施にあたり、必要な準備や心構えについて説明する。</p> <p>第13回 臨床総合実習Ⅱの課題整理① 臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。</p> <p>第14回 臨床総合実習Ⅱの課題整理② 臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。 事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p> <p>第15回 臨床総合実習Ⅱの課題整理③ 臨床臨床実習Ⅱ終了後、自分の課題を整理し、作業療法士としての臨床実践に向けて解決していく。 事例発表を行うことで、自身の振り返りと他者との情報共有を行う。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	【受講生に関わる情報】 積極的に参加し、自ら情報を収集すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	・予習復習は欠かさないこと
オフィスアワー	〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約
評価方法	■ポートフォリオ100%
教科書	大野義一郎：感染対策マニュアル第2版. 医学書院
参考書	山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版. 三輪書店 里宇明元 監：自信がもてる！リハビリテーション臨床実習第1版. 医歯薬出版株式会社
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
作業療法専攻教員			
	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表までを行う。</p> <p>〔到達目標〕 作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。また、各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。</p>
授業の概要	作業療法セミナーや臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。		○	◎	◎
②各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。		○	○	
③研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。			◎	◎
授業計画	第1回	オリエンテーション 流れ、スケジュール卒業研究の流れと、スケジュールを確認する。		
	第2回	研究テーマの検討 研究テーマを検討する。		
	第3回	〃 卒業研究計画を立案し、申請書を提出する。		
	第4回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。		
	第5回	卒業研究計画の立案 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。		
	第6回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。		
	第7回	〃 テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。		
	第8回	〃		

第9回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 //
第10回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第11回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 //
第12回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 //
第13回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 //
第14回	テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく。 //
第15回	中間発表 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
第16回	// 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
第17回	// 研究経過を発表し、研究の方向性を確認する。
第18回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導） 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第19回	// 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第20回	// 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第21回	// 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第22回	// 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第23回	// 中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する。
第24回	卒業研究発表会 研究としてまとめた成果を発表する。
第25回	卒業研究発表会 研究としてまとめた成果を発表する。
第26回	// 研究としてまとめた成果を発表する。
第27回	研究論文の最終調整 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
第28回	// 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
第29回	// 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
第30回	// 研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（随時担当教員と相談のうえで進める）
授業外時間にかかわる情報	本科目では、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。
オフィスアワー	各教員に問い合わせること
評価方法	「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。
教科書	担当教員より随時指示
参考書	担当教員より随時指示
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
---------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(15)	必修
担当教員			
古田常人			
基礎作業療法学	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療従事者としての管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的などの基本を身につける。 〔到達目標〕 ・日本作業療法士協会の定める倫理綱領を学び、遵守することができる。 ・医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。 ・作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。 ・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。
授業の概要	多くの作業療法士は、その役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門として組織に所属する。組織を形成する一員としての基本的な考え方を学び、作業療法士として地域貢献する意味について理解する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。	◎	○		
②作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。	◎	○	○	○
③職業人として必要な倫理、責任について説明できる。	◎	○	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/医療倫理/倫理的ジレンマ① 管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1～2枚)。</p> <p>第2回 医療倫理/倫理的ジレンマ② 管理・運営科目オリエンテーション、医療倫理/倫理的ジレンマに関して、概要を説明する。その後倫理的ジレンマ課題に対して、ディベートを行う。随時資料を配布する。議論の結果をまとめ、自身の意見を加えレポート提出(A4、1～2枚)。</p> <p>第3回 職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動 日本作業療法士協会倫理綱領、及び職業倫理について説明する。また関連職種における倫理規定など紹介し、その必要性について考える。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第4回 職業倫理および作業療法関連法規/職能団体としての活動 日本作業療法士協会の歩みと現在の活動に関して、概要を説明。職能団体としての今後の在り方は議論する。随時資料を配布する。職能団体としての活動の必要性についてレポート提出(A4、1枚)。</p> <p>第5回 管理・運営総論① 管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、概要を説明し、そのあり方に関して議論を行う。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第6回 管理・運営総論② 管理・運営、組織マネジメントとスタッフマネジメント、リスクコミュニケーションなどについて、概要を説明し、そのあり方に関して議論を行う。随時資料を配布する。配布された資料をファイリングし、また議論における内容理解や検討が不十分な部分は関連する情報を集め、確認すること。</p> <p>第7回 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総</p>			

	<p>合支援事業など 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など基本的な情報をについて、情報提供、及び学生自身が必要な情報収集を行い、情報を整理する。随時資料を配布する。理解や情報を整理するには難しい内容であるため、要点をまとめ確認しておくこと。</p> <p>第8回 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など 作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理/診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など基本的な情報をについて、情報提供、及び学生自身が必要な情報収集を行い、情報を整理する。随時資料を配布する。理解や情報を整理するには難しい内容であるため、要点をまとめ確認しておくこと。</p>
<p>受講生に関わる情報および受講のルール</p>	<p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
<p>毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる情報</p>	<p>社会の中で、求められる作業療法士像は、刻々と変化してきている。その為、新聞やニュースなどの情報に常に目を光らせ、社会における医療・福祉の問題に興味、疑問を持つてほしい。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>月曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する） その他の曜日においては要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>レポート60%、発表40%</p>
<p>教科書</p>	<p>随時資料を配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論. 協同医書出版 亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第2版. メジカルビュー社 里村恵子 編集： 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法概論 改訂第2版 メジカルビュー社 2015</p>
<p>実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>一般病院、大学病院等で作業療法の実践を行ってきた。また埼玉県作業療法士会の理事を行い、認知症支援の担当理事として、認知症支援の研修などの組織化運営を担った。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
悴田敦子			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ケーススタディーを通し、様々な作業療法手段を考え、目標に合わせた治療計画を立案することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。 ②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。 ③作業療法目標を具体的にあげることができる。 ④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。 ⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。</p>
授業の概要	ケーススタディーを通し、対象者の目標に合わせた様々な作業療法手段を学びます。また、具体的な設定、かかわり方も学びます。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。	○	◎		
②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。	○	◎		
③作業療法目標を具体的にあげることができる。	○	◎		
④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。	○	◎		
⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。	○	◎		△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ケーススタディー：評価計画立案 評価計画、評価ケースを提示し、その対象者に合わせた評価計画を立案する。各自の評価計画を他者に説明し、意見交換を行います。 課題：ケースノート作成・記録</p> <p>第2回 ケーススタディー：評価 評価結果、各種情報から問題点・利点をあげていきます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第3回 ケーススタディー：基本動作 座位姿勢における動作について学びます。また、座位姿勢保持のアプローチについて実技を通し学びます 課題：ケースノートに記録</p> <p>第4回 ケーススタディー：基本動作 立位姿勢における動作と移動動作について学びます。また、それぞれのアプローチについて実技を行います。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第5回 ケーススタディー：ADL動作 食事動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第6回 ケーススタディー：ADL動作</p>
------	---

	<p>更衣動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第7回 ケーススタディー：ADL動作 排泄動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第8回 ケーススタディー：ADL動作 整容動作について動作分析を通し、アプローチについて学びます。ケースノートに記録</p> <p>第9回 ケーススタディー：神経疾患 神経疾患のケースの各種情報を整理し、評価計画を立案します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第10回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの動作分析から評価計画について考えます。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第11回 ケーススタディー：神経疾患 各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第12回 ケーススタディー：神経疾患 各種評価結果からケースの問題点抽出、目標設定を行い、発表します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第13回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第14回 ケーススタディー：神経疾患 ケースの作業療法目標に合わせ、治療プログラムを立案し、各自の考えを発表し説明します。 課題：ケースノートに記録</p> <p>第15回 ケース発表、まとめ 各自でまとめたケースについて発表します。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>作業療法手段を体験することが多いため、動きやすく、触診しやすい服装で参加してください。 ケーススタディーをグループまたは個人で行います。ケースノートを用意し、毎回提出してください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわ る情報	<p>授業時に指示する</p>
オフィスアワー	<p>月曜日16：10～17：30</p>
評価方法	<p>レポート100%</p>
教科書	<p>障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類. 国際障害分類改定版, 中央法規出版</p>
参考書	<p>川平和美：標準 理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第3版. 医学書院 岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院</p>
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
山口智晴			
作業療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 住宅改修のプランニングができるようになる、また建築に関連する知識を深め、作業療法の実践に活かすための知見を得ることができる。</p> <p>[到達目標] ①住宅改修の手順を示すことができる。 ②家屋を計測し、図示できる。 ③基本的な改修方法を示すことができる。 ④基本的な改修プランを立案することができる。 ⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。</p>
------------	--

授業の概要	障害を持って住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修に必要な建築関連の基礎知識を学ぶとともに、具体的なプランを立案できるようになる。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①住宅改修の手順を示すことができる。	○			
②家屋を計測し、図示できる。	○			
③基本的な改修方法を示すことができる。		○		
④基本的な改修プランを立案することができる。			○	○
⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。	○			

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/環境整備 住環境整備の意義社会の中での住宅、高齢社会の住環境のあり方、わが国の住宅事情教科書2～26ページ教科書の指定範囲を確認</p> <p>第2回 発表に向けた学習と指導 第3回～7回は学生によるプレゼンテーションを中心に学びを進める。そのため、まとめのポイントやプレゼンテーションの進行などについて要点を説明するプレゼン準備</p> <p>第3回 介護保険制度における住環境整備 介護保険制度における住宅改修の基本と課題、福祉用具について学ぶ教科書28～43プレゼン準備</p> <p>第4回 住環境整備の進め方と留意点 住環境整備の流れや進め方における留意点などについて理解を深める教科書46～78プレゼン準備</p> <p>第5回 建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮① 建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方・みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。教科書222～249ページプレゼン準備</p> <p>第6回 建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮② 建築知識の基本として、建築用語や図面の書き方・みかたについて学ぶ。また、住環境整備の際に必要な基本的配慮事項を学ぶ。教科書249～299ページプレゼン準備</p> <p>第7回 住環境整備と建築関連法規 集団規程による建築制限や単体規定による建築制限について学ぶ教科書300～304プレゼン準備</p> <p>第8回 住宅改修提案書_説明</p>
------	--

第9回	課題の説明指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案書_作成 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める
第10回	そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案書_作成 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める
第11回	そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案書_作成 各自住宅改修提案書を作成する。別途指示課題を各自作業して進める
第12回	住宅改修提案書_作成 各自住宅改修提案書を作成する。指定教科書を参考に課題を進める
第13回	そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案プレゼンテーション 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める
第14回	そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案プレゼンテーション 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める
第15回	そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める 住宅改修提案プレゼンテーション、本科目のまとめ 住宅改修提案を発表しディスカッションを行う。指定教科書を参考に課題を進める そのほか、疾患別住宅改修に関する文献を検索して利用すること課題を各自作業して進める
受講生に関わる情報 および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・デジカメやスマホで撮影した写真データをパソコンに取り込み、加工ができる環境、電子メールのやり取りができる環境を準備すること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。基本的には個人やグループ での授業外課題も多く含まれるため、積極的な取り組みが求められる。
オフィスアワー	水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日においては要予約
評価方法	発表課題50%、提出課題50%
教科書	野村勲・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論. 第2版. 三輪書店
参考書	木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 岡村英樹：OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかななくても住宅改修を成功させる本. 三輪書 店
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、高崎市や前橋市、太田市などの 介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケ アマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長なども務めてい る。 また、福祉住環境コーディネーター1級を保持し、建築士や福祉用具販売業者等との連携ネット ワークを有する。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。 (1)施設全体の概要説明 組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。 (2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明 理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学(職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど)を行う。 (3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介 職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。 (4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。 (5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。 (6)ケース検討会議などへ見学・参加。 (7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。 (8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。 (9)実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。 (10)担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。 (11)事例報告としてレポートにまとめ提出する。			
授業の概要	作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して理解することができる。	○	◎	○	
②疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて実習指導者の指導の元、知ることができる。	○	◎	○	△
③専門職として守るべき基本事項を理解する。	◎	◎	◎	
授業計画	第1回 実習期間：6月から8週間 第2回 第3回 第4回			

	第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
受講生に関わる情報 および受講のルール	臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。 臨床実習の手引きを熟読すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。 実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。
授業外時間にかかわ る情報	臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。 実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。
オフィスアワー	担任および各実習担当の教員に適宜確認すること
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70% ※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。 学内評価：発表30%
教科書	特になし
参考書	特になし
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	8単位 (360)	必修
担当教員			
牛込祐樹			
臨床実習	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。 (1)施設全体の概要説明 組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。 (2)リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明 理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。 (3)作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介 職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。 (4)各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。 (5)疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。 (6)ケース検討会議などへ見学・参加。 (7)各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。 (8)専門職として守るべき基本事項を学ぶ。 (9)実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。 (10)担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。 (11)事例報告としてレポートにまとめ提出する。
授業の概要	作業療法士が関与する医療機関や老人福祉施設、福祉施設などにおいて作業療法全体にわたって総合的、統合的に行う実習である。臨床実習指導者の行う評価・作業療法介入の観察、指導を受けながら作業療法介入の実施を経験する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
---	--

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して理解することができる。	○	◎	○	
②疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて実習指導者の指導の元、知ることができる。	○	◎	○	△
③専門職として守るべき基本事項を理解する。	◎	◎	◎	
授業計画	第1回 実習期間：9月から8週間 第2回 第3回 第4回			

	第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
受講生に関わる情報 および受講のルール	臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの単位修得が必要となる。 臨床実習の手引きを熟読すること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	実習期間中は、学生は実習指導者に適宜質疑を行うこと。 実習の進捗については、担任および実習担当教員、実習指導者間で実習地訪問等で共有し、連携を図る。
授業外時間にかかわ る情報	臨床総合実習指導を踏まえて、計画的に実習準備を進めること。 実習期間中は、時間を効率的に使い、体調管理に努めること。
オフィスアワー	担任および各実習担当の教員に適宜確認すること
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70% ※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。 学内評価：発表30%
教科書	特になし
参考書	特になし
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 身体障害領域の一般病院にて、作業療法士として12年間の臨床業務に携わった経験を有する。 その中で臨床実習指導者として多くの実習指導を行っていた経験が、科目内で活かされている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ 小林雄斗			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。 ②運動時の筋収縮様態を説明することができる。 ③各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べるすることができる。 ④各関節運動の主動作筋を列挙することができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、各関節の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学ぶ。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動の基礎 身体各部位の名称、運動面と運動軸、運動方向の名称 運動学、身体各部位、骨、運動面、運動軸、運動方向人が骨折をした場合のような変化が生じるか、身体的、精神的側面から考える機会を設け、運動学や解剖学、生理学を学ぶことの重要性を説明する。身体各部位の名称、骨の名称、運動面、運動軸、運動方向、姿勢の名称について学ぶ。 key words: 運動軸、運動面、身体各部位 教科書: P 1 ~ 8 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: 骨の名称 復習: 身体各部位、運動面、運動軸、姿勢について</p> <p>第2回 関節の構造と運動について 骨格標本を用いてヒトの体の関節を確認する。可動関節の構造について、図示しながら解説する。可動関節の種類と運動方向との関連性を説明する。 key words: 可動関節、半関節、不動関節 教科書: P 26 ~30 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版予習: 可動関節の部位を骨格標本で示せるようにしておくこと 復習: 関節の構造、種類</p> <p>第3回 筋の収縮のメカニズムについて、顔面の運動に作用する筋 骨格筋の収縮のしくみを解説し、筋線維のタイプ、張力、筋収縮の種類について説明する。腕立て伏せ動作と懸垂動作の筋収縮の違いを考える。また、表情筋や咀嚼に関わる筋について自らの体を使って理解する。 key words: 筋収縮、筋線維、表情筋、咀嚼筋 教科書: P 31~43、60~73 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版 予習: 筋の収縮メカニズム (フィラメント滑走説) を図を含めて調べておくこと 復習: 筋収縮、張力</p> <p>第4回 肩複合体の運動① 肩甲上腕関節の形状、靭帯の付着等について模型を用いて解説。そして、靭帯が緊張する運動方向を確認。また、肩甲上腕関節の安定性を高めるためにローテーターカフが存在することや、これらの筋の起始、停止、作用を説明する。その後、高く上肢を挙上するためには胸鎖関節や肩鎖関節が関与することを体を使って学ぶ。 key words: 肩甲上腕関節、ローテーターカフ、運動方向 教科書: P158~171 参考書: 中村隆一: 基礎運動学 第6版予習: 肩甲上腕関節がなぜ球関節に分類されるのか調べておくこと</p> <p>第5回 肩複合体の運動② 胸鎖関節によって、上肢帯と上肢が体幹と連絡することを学び、胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節の構造と運動を解説。その後、肩関節の屈曲、外転に作用する筋を自らの体を使いながら学ぶ。 key words: 胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節</p>
------	--

第6回	<p>教科書：P158～171 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版予習：胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節における骨の連結を調べるとともに自らの体を使い触診できるようにしておくこと 復習：上肢帯の関節と運動について 課題：口頭試問チェック表の振り返りを行い、シートを提出すること</p> <p>肩関節の筋とその作用 肩関節の外転時に肩甲骨の上方回旋が生じることを体で理解し、肩甲上腕リズムについて説明する。肩関節の伸展、内転、外旋、内旋の運動時に作用する筋を自らの体を使いながら学ぶ。 key words: 肩関節、運動、作用筋、肩甲上腕リズム 教科書：P158～171</p>
第7回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：肩関節の運動を自ら行い説明できるようにすること 復習：肩関節の運動とその筋の作用について</p> <p>肩甲骨周囲の筋とその作用 肩甲骨の運動に関与する筋の起始と停止を確認した後、肩甲帯の運動を行いながら主動筋について学ぶ。 key words: 肩甲帯、運動、作用筋 教科書：P167～168</p>
第8回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：肩甲帯の運動を自ら行い説明できるようにすること 復習：肩甲帯の運動とその筋の作用について</p> <p>肘関節の運動、前腕の運動 骨格標本の模型を使い、肘関節の構造を理解し、肘角やヒューター線、ヒューター三角について、解説する。その後、肘関節の屈筋、伸筋や前腕の回内・回外筋について、自らの体を使いながら理解を深める。 key words: 肘関節、肘角、ヒューター線、ヒューター三角 教科書：P188～196</p>
第9回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：肘関節の運動について自らの体を使って説明できるようにすること。 復習：本日のkey wordの内容について</p> <p>手関節の構造と運動について 手根骨の配列を確認し、骨標本を使って橈骨手根関節の形状と位置、手根中央関節の形状と位置を確認する。その後、手関節の運動方向について、身体を動かしながら理解する。 key words: 手根中央関節、橈骨手根関節、手関節、運動 教科書：P205～215</p>
第10回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：橈骨手根関節の関節構造について調べておくこと。また、近位手根骨列と遠位手根骨列を説明できるようにすること。 復習：本日のkey wordの内容について</p> <p>手指の関節の構造と運動について 手関節の運動の主動筋を筋の走行を確認しながら理解する。その後、手指の関節の位置と形状を説明し、その運動方向について体を使いながら理解する。 key words: 手指関節、運動 教科書：P205～215</p>
第11回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：自らの体を使って手指の関節を触診できるようにすること 復習：本日のkey wordの内容について 課題：口頭試問チェック表の振り返りを行い、シートを提出すること</p> <p>骨盤・股関節の運動について 骨盤の骨構造について説明し、その後ヤコビー線、スカルパ三角、ローザーネラトン線を解説する。股関節の構造、靭帯の働きを骨標本を用いて理解する。 key words: 骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザーネラトン線 教科書：P226～235</p>
第12回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：骨盤および股関節が何の骨によって構成されているか調べておくこと 復習：本日のkey wordsについて</p> <p>股関節の運動に作用する筋 体を動かしながら各運動方向について理解する。骨標本を用いて筋の起始停止を確認しながらテープを貼り作用を理解する。 key words: 股関節、運動、作用筋 教科書：P235～239</p>
第13回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：股関節の運動を自らの体を使って説明できるようにしておくこと 復習：本日のkey wordsについて</p> <p>膝関節の運動 関節の模型を用いながら膝関節の構造や運動、FTAについて説明する。特に、関節包内運動や回旋運動について学ぶ。 key words: 膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA 教科書：P249～258</p>
第14回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：膝関節が運動するときの関節包内運動について調べておくこと 復習：本日のkey wordsについて</p> <p>距腿関節の構造、足部の運動について 各自標本を用いて距腿関節の構造や距骨下関節、ショパール関節を確認し、底背屈時の腓骨の動きを理解する。また、足部の運動である外返し、内返し、外転、内転、回外、回内を理解する。 key words: 距腿関節、距骨下関節、ショパール関節、運動 教科書：P268～285</p>
第15回	<p>参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 予習：距腿関節の構造と運動について調べておくこと 復習：本日のkey wordsについて</p> <p>頭部、頸部、体幹の運動について</p>

	<p>頭蓋骨と環椎を連結する環椎後頭関節、頸椎間を連結する正中環軸関節、外側環軸関節、椎間関節について骨格標本を用いながら解説する。関節を補強する靭帯についてや関節の運動方向については自らの体を使って理解する。</p> <p>key words:環椎後頭関節、環軸関節、椎間関節、運動</p> <p>教科書:P 83～ 99、111～124</p> <p>参考書:中村隆一:基礎運動学 第6版</p> <p>予習:環椎後頭関節と環軸関節の各関節面を調べておくこと</p> <p>復習:本日のkey wordsについて</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> 解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。 授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回、授業内容に関連した事前学習シートを提出すること。類似した事前学習シートは受け付けない。また、授業外において口頭試問を実施するため、各自アポイントメントを取ったうえで実施すること。
オフィスアワー	木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日については要予約
評価方法	筆記試験(客観)70%、口頭試問(15%)、事前学習シート(15%) 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。事前学習シートの配点【提出5点、内容8点、文献2点】
教科書	藤縄理編:シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂 林典雄:機能解剖学的触診技術 上肢・下肢・体幹. メジカルビュー 林典雄:動画でマスター!機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット. メジカルビュー
参考書	野村嶺編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院 中村隆一:基礎運動学第6版 医学書院
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位 (15)	必修
担当教員			
小島俊文			
	理学療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	リハビリテーションとは何か、その概要について理解することがこの科目の目標である。リハビリテーションを支える思想、またその領域と諸段階を学び、どのような専門職が何を担っているのかを知る。さらにリハビリテーションを提供する様々な施設、それらを動かす関連法制度を知る必要がある。1年前期の8コマではあるが、理学療法士として必須であるリハビリテーションの知識について、身につける。			
授業の概要	医療やリハビリテーション領域の土台となる基礎的な知識を学び、今後の理学療法の学習へ役立てる			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①リハビリテーションの概要について理解する。	◎	○	○	△
②リハビリテーションを支える思想、またその領域と諸段階について理解する。	◎	○	○	△
③リハビリテーションにどのような専門職が何を担っているのか理解する。	◎	○	○	△
④リハビリテーションを提供する様々な施設、それらを動かす関連法制度について理解する。	◎	○	○	△
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/リハビリテーションの定義と目的 【key word】 リハビリテーション・連想・体験 【授業概要】 リハビリテーションという言葉から連想されること、自身の体験や学びを基にリハビリテーションについて考えをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業中に論述してもらいますので考えてきてください。 【アクティブラーニング】 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p> <p>第2回 ノーマライゼーション・IL運動・QOL 【key word】 ノーマライゼーション・IL運動・QOL 【授業概要】 ノーマライゼーションからIL運動まで、リハビリテーションの根幹となる思想について学ぶ。さらにQOLの説明や自立の意味についてを考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ノーマライゼーションとは何か、自立とは何か、事前に考えてきてください。 【アクティブラーニング】 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p> <p>第3回 障害とは・国際疾病分類 (ICD) ・国際生活機能分類 (ICF) 【key word】 障害・ICD・ICF 【授業概要】</p>			

	<p>WHOの定義をもとに、障害とは何か、どのようにとらえればよいかを考える。さらに障害の分類ができることで、障害の構造を把握する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害とは何か、事前に考えてきてください。 【アクティブラーニング】 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。 障害者の心理・リハビリテーションの諸段階 【key word】 People with special needs・障害受容・障害適応 【授業概要】 「自分の障害が自分自身の人間としての価値を低めるものではない」という認識について、障害受容の過程をふまえて解説する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「障害」を負ったとき、人はどのような感覚を持つでしょうか？事前に考えてきてください。 【アクティブラーニング】 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p>
第4回	
第5回	<p>自身の持つ障害者像 【key word】 障害・パラリンピック・障害者像 【授業概要】 パラリンピックの映像を見て、自身の障害者像がどう変わったか考えます。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パラリンピックとは、競技種目、競技者の障害やその程度について、事前に調べてきてください。 【アクティブラーニング】 リハビリテーションの対象 【key word】 対象者・歴史・高齢化 【授業概要】 リハビリテーションの始まりとその対象者について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リハビリテーションの歴史について事前に考えてきてください。 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p>
第6回	
第7回	<p>リハビリテーションの課程とその手段 【key word】 医学的リハビリテーション・急性期・回復期・生活期 【授業概要】 リハビリテーションの課程とその手段について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 急性期リハビリテーション・回復期リハビリテーション・生活期リハビリテーションについて事前に調べてきてください。 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p>
第8回	<p>リハビリテーション関連職種とその役割・チームアプローチ 【key word】 リハビリテーション関連職種・チームアプローチ・処方 【授業概要】 リハビリテーション関連職種とその役割・チームアプローチについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リハビリテーション関連職種には何があるか事前に調べてきてください。 プレゼンテーション・ディスカッション：授業中に他者と発表し合います。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>1年前期の授業ということで、学習者としての態度、自ら考え学ぶための学習方法とその習慣について、大学生としての基本的な姿勢についてしっかり築き上げていてもらいたい。 [復習支援] オフィスアワーを上手に活用してください。わからないことがあったら、すぐに解決するそんな習慣を身につけてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	<p>コメントシート方式</p>
授業外時間にかかわ る情報	<p>授業終了後には、復習をしてください。次回の授業で確認テストを行います。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日16：30～</p>
評価方法	<p>客観試験100点満点で行うが、授業態度や発言等も勘案し、総合的に判断するものである。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>入門リハビリテーション概論 中村隆一 編 医歯薬出版</p>
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p>

グ	<p>具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない
---	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。</p> <p>[到達目標] ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。 ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。 ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。 ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。 ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。 ⑥リハビリテーション</p>
------------	---

授業の概要	15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律 理学療法士および作業療法士法、欠格事項、守秘義務理学療法士法より、理学療法の定義、理学療法士を取り巻く環境、決められた法を学びます。理学療法の定義について考えてください。授業中に発表していただきます。key words:理学療法士法、欠格事項、守秘義務</p> <p>第2回 理学療法の対象 理学療法の目的は何か。具体的な対象疾患の紹介と、基本的動作能力とADLとQOLについて解説を行う。理学療法士が活躍している場所について発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:ADL、QOL、理学療法領域</p> <p>第3回 理学療法の治療手段 治療手段としての運動療法、物理療法、義肢装具、ADLについて解説します。また病期と理学療法の目的の違いについて解説を行います。義肢装具、ADLについてその意味を説明できるようにしておいてください。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:運動療法、物理療法、義肢装具</p> <p>第4回 リハビリテーションチームと理学療法部門 リハビリテーションチームの構成員とそれぞれの専門性について解説を行います。リハビリテーションチームの構成員について、列挙できるよう準備をしてください。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:チームケア、パラメディカル</p> <p>第5回 理学療法士の活動分野 疾患ごとの領域や病期、さらに保険制度による違いによって職場や仕事内容が変わってきます。それらの現状を具体的に紹介し、学生に将来の自分の理学療法士像を考えてもらいます。また自分の将来の理学療法士像を発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:病期、領域</p> <p>第6回 医療事故と理学療法 医療事故に関する各用語の説明を行います。ハインリッヒの法則を解説し、医療事故を防ぐためのヒヤリハット対策の大切さを説明します。医療事故の例を調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:医療事故、医療過誤、ヒヤリハット</p> <p>第7回 感染予防 標準予防策と感染経路別予防策について解説を行います。また実際の手洗いに大切さについて、実習を通して体験してもらいます。感染症について調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:スタンダードプリコーション、感染経路</p> <p>第8回 理学療法に関連する各法律 理学療法に関する各種保険制度の概略と関連法について解説を行います。自分（親）が加入している医療保険の種類を調べて発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:医療保険、介護保険</p> <p>第9回 理学療法における障害のとりえ方</p>
------	--

	<p>ICFを中心とした障害の捉え方について学びます。障害とは何か、考えをまとめてきてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:ICIDH、ICF</p> <p>第10回 理学療法と評価 理学療法過程の説明と、理学療法評価について解説を行います。またPDCAサイクルと理学療法過程について説明を行います。理学療法士が行う検査測定項目を調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:理学療法評価、統合と解釈、問題点</p> <p>第11回 運動療法と関連機器 運動療法とは何かを説明します。運動療法の具体的な方法と、運動療法に用いる機器の説明を行います。運動療法の具体的な方法について調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:運動様式、運動療法機器</p> <p>第12回 物理療法と関連機器 物理療法とは何かを説明します。物理療法の具体的な方法と、物理療法に用いる機器を体験しながら学びます。物理療法の機器について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:温熱療法、光線療法、牽引療法</p> <p>第13回 理学療法と義肢装具 義肢および装具の説明を行います。また歩行補助具とは何か、その使い方や調節の仕方、実際に補助具を扱いながら解説を行います。杖の種類について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:義肢、装具</p> <p>第14回 理学療法と日常生活活動 日常生活活動（ADL）について、IADLとの違いも含め解説を行います。さらに最終目標としてのQOLの向上とADLとの関連について解説を行います。日々行う身の回りの活動をあげましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。key words:ADL、APDL、IADL</p> <p>第15回 理学療法と倫理 日本理学療法士協会から出されている倫理規定の内容を紹介し、それぞれの項目ごとにその意義を解説します。医療従事者として必要な倫理観を知り、理解し、身に付けていただきます。前回授業の振り返り小テストを行います。key words:各倫理規定の紹介</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]および[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。 ・その回の課題については必ず行ってくる。授業中に発表していただくが、課題を忘れることで他の受講生に迷惑をかけることを認識しておくこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回授業の復習を行うこと。復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 100% ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	特に定めなし。必要に応じ資料を配布する。
参考書	理学療法概論 奈良勲編 医歯薬出版
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必須	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。 [到達目標] ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。 ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。 ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。
授業の概要	対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①解剖学知識を自分の言葉で説明できる。	○	○	○	△
②対象者に不快を与えない触知ができる。	○	○	○	△
③触診によって得られた情報を解釈できる。	○	○	○	△

授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 科目オリエンテーション / 触診の基本 触診、体表解剖、ハンドリング、ランブリカルグリップ 1. 基本的立位肢位と解剖学的肢位 2. 運動の面・軸・方向 3. 姿勢の表し方 4. 触診を行う際の指のあて方 1～4について、臨床でどのように用いるか具体的な例を示し説明する。 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P1~P13。</p> <p>第2回</p> <p>2. 肩甲上腕関節に関わる筋 ① 1. 肩甲上腕関節に関わる筋 棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋、について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P153~P201。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p> <p>第3回</p> <p>3. 肩甲上腕関節に関わる筋 ② 2. 肩甲上腕関節に関わる筋 三角筋、大胸筋、広背筋、烏口腕筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P153~P201。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p> <p>第4回</p> <p>4. 肩甲胸郭関節に関わる筋 1. 肩甲胸郭関節に関わる筋 僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋、小胸筋、前鋸筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P138~190。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p> <p>第5回</p> <p>5. 肘関節に関わる筋に関わる筋 1. 肘関節に関わる筋と手関節および手指に関わる筋 上腕二頭筋、上腕筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、方形回内筋、回外筋について触</p>
------	--

	<p>診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P 2 2 3～2 6 0。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 6 回	<p>6. 手関節および手指に関わる筋 ① 1. 手関節および手指に関わる筋 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、示指伸筋、小指伸筋、長母指伸筋、短母指伸筋、について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P 2 6 1～3 0 4。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 7 回	<p>7. 手関節および手指に関わる筋 ② 1. 手関節および手指に関わる筋 長母指外転筋、浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、短母指屈筋、短母指外転筋、母指内転筋、母指対立筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、背側骨間筋、掌側骨間筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P 3 0 5～3 4 1。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 8 回	<p>股関節に関わる筋 ①（上肢の範囲 小テスト、授業終了後ポートフォリオ提出） 1. 股関節に関わる筋 腸腰筋、腸骨筋、大腰筋、縫工筋、大腿筋膜張筋、中殿筋、小殿筋、大殿筋、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 1 4 0～1 6 5。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 9 回	<p>股関節に関わる筋 ② 1. 股関節に関わる筋 梨状筋、大腿方形筋、上双子筋、下双子筋、内閉鎖筋、長内転筋、恥骨筋、大内転筋について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 1 6 6～1 7 9。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 0 回	<p>股関節と膝関節に関わる筋 ① 1. 膝関節に関わる筋 大腿直筋、内側広筋、外側広筋、中間広筋、膝蓋上包、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 1 8 0～P 2 0 4。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 1 回	<p>股関節と膝関節に関わる筋 ② 1. 膝関節に関わる筋 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋長頭、大腿二頭筋短頭、薄筋、膝窩筋について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 0 5～P 2 2 6。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 2 回	<p>足関節および足部に関わる筋 ① 1. 足関節および足部に関わる筋 前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋、腓腹筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 2 7～P 2 4 6。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 3 回	<p>足関節および足部に関わる筋 ② 1. 足関節および足部に関わる筋 長趾屈筋、長母趾屈筋、長腓骨筋、短腓骨筋、長母趾外転筋、短母指屈筋、母趾内転筋、短趾屈筋、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 4 6～P 2 6 6。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 4 回	<p>胸郭に関連する諸組織（下肢の範囲 小テスト、授業終了後ポートフォリオ提出） 1. 胸郭に関連する諸組織 腰方形筋、胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、腕神経叢、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 6 7～P 2 8 5。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
第 1 5 回	<p>脊柱に関連する諸組織 1. 脊柱に関連する諸組織 腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腰部多裂筋、について触診を実施。 1 の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 8 6～P 3 1 1。</p>

	当日の実施する範囲について学習しておくこと。
受講生に関する情報 および受講のルール	[服装指定] 男性：半袖、短パン、女性：半袖、短パン [学習方法] デルトマグラフで皮膚に直接書き込みながら学習を進めていきます。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	木曜日16:30~17:30
評価方法	筆記試験60%, ポートフォリオ20%, 小テスト20% (2回) の総合評価にて判定。筆記試験が60点に達していない場合は再試験対象とする。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 林 典雄 (執筆) MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢 林 典雄 (執筆) MEDICAL VIEW
参考書	図解 四肢と脊椎の診かた Stanley Hoppenfeeld著 野島元雄監訳 医 歯薬出版
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。 アクティブラーニング要素 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・新谷益巳			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①姿勢を体位や構えで説明することができる。 ②バイオメカニクスの基礎的知識を理解し、動作を専門用語を使用して説明することができる。 ③立ち上がり動作を運動学的に説明することができる。 ④寝返り・起き上がり動作を運動学的に説明することができる。 ⑤歩行動作を運動学的に説明することができる。 ⑥引用文献を用いて考察することができる。</p>			
授業の概要	授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、姿勢、重心、バランスについて 【柴】 姿勢、体位、構え、バランス・人間の行動、姿勢、運動、動作の理解 ・姿勢を体位や構えで表現 ・線画作成から立位保持の特徴・支持基底面・重力・床反力・身体重心・圧中心の理解 ・姿勢アライメントや支持基底面・身体重心とバランスの関連について理解 key words:姿勢、体位、構え、バランス、姿勢 教科書：運動学テキストp3 p22 / 動作分析臨床活用講座p14 / 運動療法学p337 / 臨床運動学p31 予習：上記指定された教科書から”姿勢”、”バランス”について確認しておくこと 予習：各関節の関節運動について復習しておくこと 復習・課題：線画を描けるようにしておくこと</p> <p>第2回 姿勢・立位バランス ※課題シート（姿勢・重心動揺） 【柴】 ・姿勢制御・バランスの考え方について理解 ・安定性限界について理解 ・重心動揺計を使った重心位置の確認 key words:姿勢制御、バランス、重心動揺計 教科書：運動学テキストp313 / 運動療法学p308 / 臨床運動学p41 / 動作分析臨床活用講座p14 課題：課題シートを提出のこと「姿勢・立位バランスについて」 姿勢：体位・構え・支持基底面・重心位置等を推測して記載 立位バランス：重心動揺計の測定結果から課題に取り組む ※詳細は授業中に提示（2週後を提出期限とする）</p> <p>第3回 生体力学の基礎・スクワット動作① 【柴】 ・運動の法則、重心の位置、重心と支持基底面、カウンターウェイト、力（力の合成）、重力、加速度、床反力 ・力の釣り合い、テコ、力のモーメント（トルク）、モーメントアーム（レバーアーム） ・力のモーメントと関節モーメント、リバースアクション、カウンターウェイト key words:力の釣り合い、テコ、カウンターウェイト、重力、床反力 教科書：運動学テキストp13、24、p318、331 / 運動療法学p2、7 / 臨床運動学p1、30 / 動作分析臨床活用講座p14、28予習：1年時の物理学の内容を復習しておく 課題：バイオメカニクスに関連する問題を提示</p> <p>第4回 生体力学の基礎・スクワット動作② 【柴】 ・人体の線画を描く ・スクワット動作の各関節の角度変化を考える ・スクワット動作から各関節の関節モーメント、収縮様式を考える ・静止肢位での重力と床反力の釣り合いと各関節レベルでの釣り合いを理解 key words:スクワット動作、関節モーメント、重力 教科書：運動学テキストp13、24、p318、331 / 運動療法学p2、7 / 臨床運動学p1、30 / 動作分析臨床活用講座p14、28</p>			

第5回	<p>床活用講座p14、28 予習：1年時の物理学の内容を復習しておく 課題：バイオメカニクスに関連する問題を提示</p> <p>生体力学の基礎・スクワット動作③表面筋電図を用いたスクワット動作 ※課題シート 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋電計を使用してスクワット時の活動電位を測定 スクワット時の収縮様式、関節モーメントを理解 <p>key words:スクワット動作、筋電計、関節モーメント 教科書：運動学テキストp13、24、p318、331/運動療法学p2、7/臨床運動学p1、30/動作分析臨床活用講座p14、28 課題：課題シート「スクワット時の表面筋電図測定」 基礎知識、考察課題に取り組む ※詳細は授業中に提示（2週後を提出期限とする）</p>
第6回	<p>生体力学の基礎・腕立て伏せ動作 表面筋電図 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋電計を使用して腕立て伏せ動作時の活動電位を測定 腕立て伏せ動作時の収縮様式、関節モーメントを理解 <p>key words:腕立て伏せ動作、筋電計、関節モーメント 教科書：運動学テキストp13、24、p318、331/運動療法学p2、7/臨床運動学p1、30/動作分析臨床活用講座p14、28</p> <p>予習：腕立て伏せ動作を5相（開始肢位>重心下方移動>床上肢位>重心上方移動>終了肢位）に分け、各相の関節運動（肩甲帯、肩関節、肘関節、手関節）を列挙すること。2相、4相で活動している筋とその筋の収縮様式について考えておくこと。</p>
第7回	<p>立ち上り動作観察、動作分析① 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる被験者の姿勢差異の理解 立ち上り動作から動作観察、動作分析の違い、方法を理解する 相分け、運動学的説明、運動時の関節モーメントの理解 <p>key words:立ち上がり動作、観察、関節モーメント、重力 教科書：運動学テキストp329、338/運動療法学p2、7/臨床運動学p53、57/動作分析臨床活用講座p2、5、p122、166復習：動作観察、動作分析の違い、動作の運動学的な説明、相分けの考え方 予習：立ち上り動作のメカニズム</p>
第8回	<p>立ち上り動作観察、動作分析② 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる被験者の動作差異の理解 立ち上り動作のメカニズム 立ち上り動作での筋活動の予測 <p>key words:立ち上がり動作、観察、関節モーメント、重力 教科書：運動学テキストp329、338/運動療法学p2、7/臨床運動学p53、57/動作分析臨床活用講座p2、5、p122、166課題：立ち上り動作の異なる条件2種類と確認する筋を検討してくる</p>
第9回	<p>立ち上り動作観察、動作分析③ ※課題シート 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる被験者の動作差異の理解 立ち上り動作のメカニズム 立ち上り動作での筋活動の予測 <p>key words:立ち上がり動作、観察、関節モーメント、重力、筋活動 教科書：運動学テキストp329、338/運動療法学p2、7/臨床運動学p53、57/動作分析臨床活用講座p2、5、p122、166 課題：課題シート「立ち上り動作」について ※基礎知識、考察課題は授業時に提示</p>
第10回	<p>寝返り・起き上がり動作観察、動作比較、動作分析① 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝返り動作の特徴を捉える 寝返り動作のメカニズムについてポイントを理解する 寝返り動作の相分けを実施し、動作観察の準備をする 動作観察・動作比較を理解する 自身や他者（健常者）の動作の左右差がわかる 寝返り動作の遂行能力を予測する <p>key words:寝返り動作、観察、関節モーメント、重力 教科書：運動学テキストp329、338/運動療法学p2、7/臨床運動学p43、52/動作分析臨床活用講座p2、5、p30、119復習：寝返り動作を観察する</p>
第11回	<p>寝返り・起き上がり動作観察、動作比較、動作分析② ※課題シート 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 起き上がり動作の特徴を捉える 起き上がり動作のメカニズムについてポイントを理解する 片麻痺患者を想定した起き上がり動作について考える <p>key words:起き上がり動作、観察、関節モーメント、重力 教科書：運動学テキストp329、338/運動療法学p2、7/臨床運動学p43、52/動作分析臨床活用講座p2、5、p30、119 課題：課題シート「起き上がり動作、寝返り動作について」 ※基礎知識・考察課題は授業時に提示</p>
第12回	<p>歩行動作①：正常歩行と異常歩行 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正常歩行周期の確認 正常歩行の関節運動・筋出力 正常歩行におけるストラテジー 一般的な異常歩行 10m歩行検査 <p>key words:正常歩行、歩行周期、関節運動 教科書：1年次配布プリント（歩行）/運動学テキストp339、351/運動療法学p2、7、355、369/臨床運動学p53、76/動作分析臨床活用講座p2、5、p168、239 予習：歩行周期を復習しておくこと 復習：10m最大歩行速度の測定を実施し、歩行速度、ケイデンスを算出する（3名）</p>
第13回	<p>歩行動作②：歩行評価 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行観察 ストラテジーの観察 ロコモーター・パッセンジャーの観察 歩行動作の比較 <p>key words:歩行、観察、ロコモーター、パッセンジャー</p>

	<p>第14回 教科書：1年次配布プリント（歩行）／運動学テキストp339、351／運動療法学p2、7、355、369／臨床運動学p53、76／動作分析臨床活用講座p2、5、p168、239 正常歩行、異常歩行動作について予習・復習しておくこと 歩行動作③：歩行観察、歩行分析 ※課題シート 【柴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行分析の方法を理解 ・異常歩行 ・股関節疾患／片麻痺患者の歩行分析を実施 <p>key words:異常歩行、観察、片麻痺患者</p> <p>第15回 教科書：1年次配布プリント（歩行）／運動学テキストp339、351／運動療法学p2、7、355、369／臨床運動学p53、76／動作分析臨床活用講座p2、5、p168、239 課題：レポート課題「歩行動作について」 ※基礎知識・考察課題は授業時に提示 機器を用いた歩行分析 【新谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VICONを使用した歩行分析を実施 ・バイオメカニクスを元にした正常歩行について理解する <p>key words:正常歩行、観察、VICON</p> <p>教科書：1年次配布プリント（歩行）／運動学テキストp339、351／運動療法学p2、7、355、369／臨床運動学p53、76／動作分析臨床活用講座p2、5、p168、239 復習：前期試験範囲の確認をし、学習を進める</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること ・実習については学校指定ジャージを着用すること <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと ・類似した課題シートと判断された場合や提出期限を過ぎた場合、いかなる理由においても減点（合計点×50%）とする ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終わることができない場合、授業時間外で行うこととする</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16時～17時（その他の曜日については要予約）</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）50%、課題シート50%（計5回、各10%）の総合評価にて判定するが、筆記試験が60点以上であることが前提となる。 課題シート[内容4点、考察4点、文献2点 なお、考察には必ず引用文献を用いること。各回6点以上となるまで再提出が必要となる。]</p>
<p>教科書</p>	<p>藤縄理・編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 第2版、南江堂、2015 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学、中山書店、2015 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー、2013</p>
<p>参考書</p>	<p>月城慶一ら・訳：観察による歩行分析、医学書院、2015 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂、2014 潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014 石井慎一郎ら：基礎バイオメカニクス入門 第2版、医歯薬出版、2015 中村隆一 他：基礎運動学 第6版、医歯薬出版 中村隆一 他：臨床運動学 第3版、医歯薬出版 他：必要に応じて授業内に提示します</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ アクティブ・ラーニング</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定スキルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定スキルを身につける。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査測定技能を修得する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。	◎	○	○	△
②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。	◎	○	○	△
③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。	◎	○	○	△
④理学療法における検査・測定スキルを身につける。	◎	○	○	△
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明 評価方法の説明など) 理学療法評価とは、理学療法の過程 【key word】 講義の受け方、理学療法評価、理学療法の過程 【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明をする。 理学療法評価(意義・目的、流れ、検査・測定、統合と解釈、リハビリテーション医療における評価の意義)、理学療法の過程など、評価の基礎について学ぶ。 模擬対象者との模擬面接、模擬検査を通し、情報収集のしかたについて演習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp14～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、持参すること。 テキストp14～16に目を通してこること。</p> <p>第2回 理学療法評価の進め方(理学療法における障害の捉え方、障害モデル、ICIDH、ICF) 【key word】 障害モデル、ICIDH、ICF 【授業概要】 理学療法における障害の捉え方、障害モデル、ICIDH、ICFについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp17-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストp17～24に目を通してここと。 【アクティブラーニング】 グループワーク・ディスカッション：前回の演習で得られた結果を基に、ICIDH、IDFに当てはめ、対象者の障害像、全体像を把握のしかたについて話し合う。</p>			

第3回	<p>医療面接と情報収集に必要なコミュニケーション</p> <p>【key word】 コミュニケーション、傾聴、共感</p> <p>【授業概要】 医療面接、フィジカルアセスメント、Vital Sign、スクリーニングを行う際に欠かせない、コミュニケーションの7つの道具について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント：コミュニケーションの7つの道具 テキストp33～38</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp35表2傾聴の方法、p36表3医療面接での質問法に目を通してこくこと。</p> <p>【アクティブラーニング】 演習：学生同士で傾聴のしかた、質問のしかたに関するトレーニングを行う。</p>
第4回	<p>意識障害・全身状態、バイタルサインの評価1</p> <p>【key word】 意識レベル、JCS、GCS</p> <p>【授業概要】 意識障害、覚醒レベルの判定、定量的評価法（①JCS、②GCS、③ECS）、意識変容の評価指標について学ぶ。</p> <p>バイタルサインの測定演習を行い、得られた結果について考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp49-64</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp49～64に目を通してこくこと。</p> <p>【アクティブラーニング】 演習：学生同士で脈拍、血圧測定、呼吸数の測定について演習する。</p>
第5回	<p>意識障害・全身状態、バイタルサインの評価2</p> <p>【key word】 意識障害、バイタルサイン</p> <p>【授業概要】 前回授業の意識障害について確認テストを実施する。 バイタルサインの測定演習を行い、得られた結果について考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp49-64</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 及第点に満たないものは課題の実施、提出を課す。</p> <p>【アクティブラーニング】 演習：学生同士で脈拍、血圧測定、呼吸数の測定について演習する。</p>
第6回	<p>医療面接と情報収集1</p> <p>【key word】 統合と解釈、問題解決指向的評価、EBPT</p> <p>【授業概要】 ①情報収集や問診、医療面接、理学療法評価を経て、膨大な情報の整理を行う過程が「統合と解釈」の過程であることを学ぶ。 ②検査測定の実施は評価のための評価ではなく、問題解決指向的であることを認識する。この認識により、実施する検査測定項目の抽出は目的であることを学ぶ。 ③「統合と解釈」はEBPTに基づき行われるべきであることを学ぶ。 医療面接における具体的な質問法を理解したうえで、医学的情報、社会的情報の質問項目について、面接の過程を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp33-48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp33～48に目を通してこくこと。</p>
第7回	<p>医療面接と情報収集2</p> <p>【key word】 社会的情報、住環境情報、家族構成図</p> <p>【授業概要】 社会的情報における住環境情報（間取り図）、家族構成図の記載方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp43～48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp43～48に目を通してこくこと。</p>
第8回	<p>痛みの評価1</p> <p>【key word】 痛みの定義、痛みの役割、痛みの分類</p> <p>【授業概要】 痛み（定義、役割、分類）について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp155～157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp155～157に目を通してこくこと。</p>
第9回	<p>痛みの評価2</p> <p>【key word】 痛みの臨床的評価尺度、VAS、NRS、FPS、MPQ</p> <p>【授業概要】 運動器に関連した疼痛評価の進め方（問診・観察、運動検査、触診検査）について学ぶ。</p>

第10回	<p>痛みの臨床的評価尺度の段階と判定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp155-p162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp155～162に目を通してこること。 姿勢・形態計測1 【key word】 抗重力姿勢、重心線、異常姿勢 【授業概要】 ヒトの抗重力姿勢の特徴や姿勢評価の意義、手順、観察ポイントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp126～130に目を通してこること。 【アクティブラーニング】 演習：学生同士で、立位姿勢（正面、側面、後面）でのアライメント観察を行い、重心線の位置やランドマークについて確認する。その中で確認できた左右差等の理由について検討する。</p>
第11回	<p>姿勢・形態計測2 【key word】 体格指数、BMI、ローレル指数 【授業概要】 体格指数（①BMI、②ローレル指数、③カウプ指数）の種類、算出式、判定基準、適応範囲について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp131表2体格指数に目を通してこること。 【アクティブラーニング】 演習：学生自身の体格指数について計算式により算出し、得られた結果より判定、その意義について考察する。</p>
第12回	<p>姿勢・形態計測3 【key word】 四肢長、断端長、脚長差 【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢長の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp132-p140 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp132-p140に目を通してこること。 【アクティブラーニング】 演習：学生同士で、四肢長の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（脚長差）が起こる理由について検討する。</p>
第13回	<p>姿勢・形態計測4 【key word】 四肢周径、断端周径、筋委縮 【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢周径の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp132-p140 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp132-p140に目を通してこること。 【アクティブラーニング】 演習：学生同士で、四肢周径の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（筋委縮、筋肥大等）が起こる理由について検討する。</p>
第14回	<p>深部腱反射検査 【key word】 深部腱反射、反射弓、病的反射 【授業概要】 反射の種類と深部腱反射、病的反射の検査方法について学び、反射検査の演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp163-p172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 生理学で学んだ反射の定義、反射弓、反射の種類、深部腱反射の経路について復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 演習：学生同士で、深部腱反射検査の実際を行い、実施上の注意事項、増強法の有無による差異を検討する。</p>
第15回	<p>感覚検査 【key word】 感覚の伝導路、デルマトーム、末梢神経皮膚支配 【授業概要】 感覚障害の起こるしくみと疾患ごとの特性について学ぶ。 感覚の伝導路、デルマトーム、感覚障害について学び、感覚検査の演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>テキストp141-p154 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 生理学で学んだ感覚の定義、分類について再確認し理解を深めておくこと。 【アクティブラーニング】 演習：学生同士で、感覚検査の実際を行い、デルマトーム、末梢神経支配領域との一致について検討する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法的基本的な検査・測定の基礎知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、自身の身体を用いて思考してもらう場面やデモンストレーションを行う場面では、積極的な態度で臨むこと。 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、大学指定体操着、または指定の服装を着用すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントシート方式
授業外時間にかかわる情報	<p>各検査・測定の技能向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。</p>
オフィスアワー	火曜日16時30分～
評価方法	筆記試験100%ではあるが、授業に臨む姿勢や課題、小テスト等の結果を加味し、総合評価を行う。
教科書	潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社
参考書	<p>①柴 喜崇ら 編：ADL，羊土社 ②細田多穂 監：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト，南江堂 ③田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂 ④津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版 ⑤林典雄 著：運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版 ⑥市橋 則明 編：運動療法学—障害別アプローチの理論と実際</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定のスルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定のスルを身につける。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学 I で学んだ評価の目的、意義、方法、流れ)を基軸をしつつ、各種検査方法を学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。	◎	○	○	△
②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。	◎	○	○	△
③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。	◎	○	○	△
④理学療法における検査・測定のスルを身につける。	◎	○	○	△
授業計画	<p>第1回 【関節可動域検査】科目オリエンテーション 関節可動域検査の基礎</p> <p>【key words】 関節可動域検査、最終域感 (end feel)、関節可動域制限因子</p> <p>【授業概要】 ①講義の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明する。 ②関節可動域検査の基礎 (関節可動域とは、正常な関節可動域の条件、関節可動域検査の目的、最終域感 (end feel)、関節可動域制限の因子、関節可動域検査の手順、関節可動域検査の留意点等) について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 事前準備資料を配布するので熟読し、準備して受講すること。 関節可動域検査の基礎について確認テストを行うので、事前学習を十分に行って臨むこと。 【アクティブラーニング】 ディスカッション：確認テストの間違った内容について正答を作り、他者に説明し合う。</p> <p>第2回 【関節可動域検査】肩関節・肘関節・前腕・手関節の関節可動域検査</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子</p> <p>【授業概要】 関節可動域検査 (肩関節・肘関節・前腕・手関節) 技術を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 ②上肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。</p>			

<p>第3回</p>	<p>※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 【関節可動域検査】 肩甲帯の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 関節可動域検査（肩甲帯）技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 ②上肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
<p>第4回</p>	<p>【関節可動域検査】 股関節・膝関節・足関節・足部の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 関節可動域検査（股関節・膝関節・足関節・足部）技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 ②下肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
<p>第5回</p>	<p>【関節可動域検査】 実技小テスト（関節可動域検査） 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 関節可動域検査（上肢・下肢）技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 ②関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 関節可動域検査実技小テスト</p>
<p>第6回</p>	<p>【関節可動域検査】 実技小テストの振り返り、頸部・体幹の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 ①実技小テストの振り返り ②関節可動域検査（頸部・体幹）技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 ②下肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実技小テストの振り返り、頸部・体幹の実習を行う。</p>
<p>第7回</p>	<p>【徒手筋力検査】 プレテスト・徒手筋力検査の基礎 【key words】 関節運動方向と主動筋・筋の起始停止・MMT 【授業概要】 ①徒手筋力検査プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行い、1年時の解剖学・運動学の学習の確認を行う。 ②徒手筋力検査の基礎（MMTとは、意義、目的、判定基準、信頼性、代償運動、固定と抵抗、手順、注意点）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-226 テキスト②p1-20 【課題・予習・復習・授業準備】 プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行うので、1年時の解剖学・運動学の学習について確認しておくこと。 プレテストでできなかった内容をまとめ、次回提出すること。 【アクティブラーニング】 プレテスト</p>

第8回	<p>【徒手筋力検査】MMTにおける代償運動について</p> <p>【key words】 代償運動・再現性・固定と抵抗</p> <p>【授業概要】 ①徒手筋力検査においてみられる代償運動を防止するための検査肢位、固定と抵抗の部位や大きさについて整理する。 ②代償運動の出やすい関節運動を行い、現象の出方と出やすい理由について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p204-208</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 実施範囲を熟読の上、受講すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
第9回	<p>【徒手筋力検査】徒手筋力検査の基礎</p> <p>【key words】 最大筋力・固定と抵抗・掛け声</p> <p>【授業概要】 ①徒手筋力検査において、対象者の最大の筋力を発揮させるにはどのようにしたらよいか考え、その方法について習得する。 ②代償運動を防ぐ固定のしかた、抵抗のかけ方、説明のしかた、掛け声のかけ方を整理する。 ③アームレスリングを例にとり、声掛けに仕方によって力の発揮のされ方が変化することを理解し実践する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-226 テキスト②p1-20</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 実施範囲を熟読の上、受講すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
第10回	<p>【徒手筋力検査】上肢のMMT</p> <p>【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動</p> <p>【授業概要】 ①デモンストレーション ②上肢MMTの実技演習 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②109-166</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 上肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
第11回	<p>【徒手筋力検査】肩甲骨のMMT</p> <p>【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動</p> <p>【授業概要】 ①デモンストレーション ②肩甲骨MMTの実技演習 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p82-108</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 肩甲骨のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
第12回	<p>【徒手筋力検査】下肢のMMT</p> <p>【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動</p> <p>【授業概要】 ①デモンストレーション ②下肢MMTの実技演習 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p205-269</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 下肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
第13回	<p>【徒手筋力検査】頸部・体幹のMMT</p> <p>【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>①デモンストレーション ②頸部・体幹MMTの実技演習 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p205-269 【課題・予習・復習・授業準備】 頸部・体幹のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 【徒手筋力検査】実技小テスト（徒手筋力検査） 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 徒手筋力検査（上肢・下肢・頸部・体幹）技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 ※実技小テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。実技小テストが終わった後は振り返りを行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 ②徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【アクティブラーニング】 徒手筋力検査実技小テスト 【徒手筋力検査】実技小テストの振り返り 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 ①実技小テストの振り返り ②期末テストについての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備】 ①実技小テストの振り返りをまとめておき受講すること。 ②期末テストについての説明を行うので、教科書、配布資料の整理し持参すること。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実技小テストの振り返りを行う。</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定の基礎知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、デモンストレーション・実技演習場面では、積極的態で臨むこと。 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、大学指定体操着または指定の服装を着用すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントシート方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>実技小テストの実施や再テストの実施は、授業時間外に行う場合がある。各検査・測定の技能向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。 ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火・金曜日の放課後</p>
<p>評価方法</p>	<p>小テスト40%（関節可動域検査実技20%・徒手筋力検査実技20%）、筆記試験60% 総合評価は実技試験が60%以上であることが前提となる。</p>
<p>教科書</p>	<p>①潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社 ②津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版</p>
<p>参考書</p>	<p>①柴 喜崇ら 編：ADL、羊土社 ②細田多穂 監：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂 ③田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂 ④林典雄 著：運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版 ⑤市橋 則明 編：運動療法学一障害別アプローチの理論と実際</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニ ング</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p>

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> プレゼンテーション
<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない |
|--|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	理学療法における治療技術の基礎を身につける。 ①主要なキーワードを自分の言葉で説明ができる。 ②正常と異常について説明ができる。 ③評価と結び付けて運動プログラムを説明できる。
授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の考え方の基礎について学ぶ

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。	○	○	○	
②正常と異常について説明できる。	○	○	○	
③評価と結びつけて運動プログラムを説明できる。	○	○	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 運動療法とは インフォームドコンセント、力源分類、治療訓練理学療法において重要な部分を占める運動療法の定義、目的、対象、運動療法の種類、運動療法の特性から運動療法の実施主体が誰であるのか、禁忌事項、インフォームドコンセントの重要性について理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P2～16。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く (P16)。</p> <p>第2回 運動の必要性と効果 運動は生理機能すべてを動員する総合的な働きであり、運動の過不足は人の生理機能に大きな影響を与えることを理解し、疾患に伴う、一次的障害に加え、二次的障害があることを理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P17～27。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く (P28)。</p> <p>第3回 運動療法の順序 重力が生体に与える影響を考慮しながら姿勢交換をはかり、筋収縮を伴う運動、筋収縮を伴わない運動、起居・移動動作、ADL訓練へと進める運動療法の流れを理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P29～37。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く (P37)。</p> <p>第4回 関節可動域訓練 (1) 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで上半身の評価を行い、関節可動域訓練 (他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動) 後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P136～143。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く (P143)。</p> <p>第5回 関節可動域訓練 (2) 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで下半身の評価を行い、関節可動域訓練 (他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動) 後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P136～143。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。</p>			

第6回	<p>不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（前回、終わらない所を実施）。 関節の機能と障害 人が円滑に運動できるのは、運動器を構成する各器官が機能し、協調して働いているためである。その関節を構成する骨の構造と機能について理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P121～134。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P135）。</p>
第7回	<p>トレーニングの基礎的原理 運動は人の生理機能すべてを動員する総合的な機能であり、運動を行うことはこれらすべての機能を刺激することである。効果的な運動療法を行うためには、科学的な根拠に基づく適切な運動処方が必要不可欠である。これら運動療法を行う際の基本的な理論を理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P38～44。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P45）。</p>
第8回	<p>筋の機能と障害 第1回～第7回までの範囲で小テストを実施する。授業終了後にポートフォリオの提出。 骨格筋の機能と障害について理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P155～163。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P163）。</p>
第9回	<p>筋力増強訓練（1） 安全で効果的な筋力増強訓練を行うために必要な、医学的根拠に基づく適切な動作設定を理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P164～176。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P177）。</p>
第10回	<p>筋力増強訓練（2） 適切な運動設定のために必要な知識を習得する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P164～176。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（前回、終わらない所を実施）。</p>
第11回	<p>筋持久力増強訓練 筋持久力とは、筋力と並び質の高い動作を可能とするために必要不可欠なものである。筋力と、筋持久力、全身持久力と筋持久力の違いをそれぞれ理解する。また、筋持久力を決定する要因と影響を与える因子について理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P188～197。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P197）。</p>
第12回	<p>随意運動と運動制御モデル 随意運動のメカニズムについて理解する。また、運動制御に対応した中枢神経系について理解する。 標準理学療法学 P57～73。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。</p>
第13回	<p>運動制御と運動学習 運動制御理論と問題点について理解する。また、姿勢制御のメカニズムと感覚統合について理解する。 標準理学療法学 P75～94。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。</p>
第14回	<p>機能（統合）訓練の位置づけ 機能（統合）訓練を理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P280～296。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P296）。</p>
第15回	<p>障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺 第8回～第14回までの範囲のテストを実施する。授業終了後にポートフォリオの提出。 対麻痺、四肢麻痺のリハビリテーションは最大限の機能回復とADL獲得、個人の最高のQOL獲得を目標としている。理学療法は運動療法を中心とした内容ではあるが、活動制限へのアプローチとしてADL指導や装具療法は必要不可欠である。ここでは、対麻痺者、四肢麻痺者の理学療法のなかでの運動療法の流れを理解する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P330～342。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。 不十分な者は事前学習を個人で進めること。 学習到達度自己評価問題を解く（P342）。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。 解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。</p>

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	運動療法学実習 I に繋がる内容のため、十分な理解が必要となるため、ポートフォリオに整理を毎回行うことをして下さい。また、小テストについては授業内で範囲を説明しますので自己学習を進めて下さい。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験60%、ポートフォリオ30%、小テスト10%（2回）の総合評価にて判定。筆記試験が60点に達していない場合は再試験対象とする。
教科書	細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト、南江堂
参考書	奈良 勲：標準理学療法学、運動療法学（総論）、医学書院、2010 第12回、第13回時に使用 市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際、文光堂、2015
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的 理学療法における治療技術の基礎を身につける。</p> <p>到達目標 ①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①に関連した主要な治療技術を実行できる。 ③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。</p>
授業の概要	運動療法学 I の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、体験して身につける。この科目で学んだことは、今後運動療法学、理学療法技術論へつながる科目である。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。	○	○	○	
②①に関連した主要な治療技術を実行できる。	○	○	○	
③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。	○	○	○	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / リラクゼーションテクニック ストレス、闘争・逃避反応、呼吸法、自律訓練法、ストレッチング、身体運動、マッサージリラクゼーションテクニックの基本的な考え方を理解し、その代表的なテクニックによる身体的変化を確認する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P38～45。</p> <p>第2回 実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 ストレッチング(上肢) ストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する。また、注意点についても説明することができる。また上半身のストレッチングを実施する。 理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73 (各自でコピーをしておくこと)。 実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>第3回 理学療法学ゴールドマスター・テキストの指定ページをコピーしておくこと。 ストレッチング(下肢) ストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する(下半身のストレッチングを実施する)。また、注意点についても説明することができる。 理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73 (各自でコピーをしておくこと)。</p> <p>第4回 実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 運動療法による関節可動域の維持と改善 (1) 上肢 上肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P144～154。 実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p>			

第5回	<p>運動療法による関節可動域の維持と改善 (2) 下肢 下肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P144～154。</p>
第6回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域制限が何によって起こるのかを知るために、その病態について学ぶ。そして、その病態に応じた運動療法を選択し、現在、関節可動域制限に対して効果があるといわれているものを適切に選択肢する。</p> <p>15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト：運動療法学P23～32。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p>
第7回	<p>15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト、運動療法学P23～32をコピーしておくこと。</p> <p>姿勢変化と生体反応の実際 臥位からの姿勢変化に伴う血圧変化などの生体応答を計測する方法を理解する。そのために、ティルトテーブルとがっじアップベッドを用いて反応を確認する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P78～92。</p>
第8回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>疾患別の運動療法 (治療体操) 第1回～第7回までの範囲で小テストを実施する。授業終了後にポートフォリオを提出。</p> <p>治療体操の歴史的背景や理論的背景を理解する。また、各治療体操が対象となる疾患を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P248～265。</p>
第9回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>運動療法による筋力の維持と増強 (1) 上肢 安全に上肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～186。</p>
第10回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>運動療法による筋力の維持と増強 (2) 下肢 安全に下肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～186。</p>
第11回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>運動療法による筋力の維持と増強 (3) 体幹 安全に体幹の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～186。</p>
第12回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>筋力低下に対する運動療法 筋力低下の分類を理解し、その原因を判断することができる。次に、筋力低下が認められる筋に対して運動療法が立案することができ、その運動を学生間で実施することができ、運動指導からリスク管理までを学ぶ。</p> <p>運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂：P221～228。</p>
第13回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>運動療法による持久力の維持と改善 持久力の概念について理解し、運動負荷試験と運動処方が実施できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P110～120。</p>
第14回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>運動療法による筋持久力練習 筋持久力増強訓練のプログラム作成上の注意点を理解し、実際にプログラムを立案する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P192～197。</p>
第15回	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>障害別機能 (統合) 訓練 対麻痺・四肢麻痺に対しての実際 第8回～第14回までの範囲で小テストを実施する。授業終了後にポートフォリオを提出。</p> <p>対麻痺・四肢麻痺者の日常生活での基本動作は、受傷前の運動様式とは異なり、動作の習得には時間を要す。また、対麻痺・四肢麻痺者がADLを最大限に自立するためには、ベッドから起き上がり、座位となり、車いす上で安定した座位を保持することが望まれる。学生は実際に背臥位から起き上がり、起き上がりから座位、座位から車いすへの移乗、車いす操作までの動作が自ら可能</p>

	となり、これらの動作を指導できることを目標とする。 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P343～351実技。
受講生に関わる情報 および受講のルール	服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます） 学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。 解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	復習学習：技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験60%、ポートフォリオ30%、小テスト10%（2回）の総合評価にて判定。筆記試験が60点に達していない場合は再試験対象とする。
教科書	細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト、南江堂、2010、第1回、第4回、第5回、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第13回、第15回
参考書	柳澤 健：理学療法学ゴールド・マスター・テキスト運動療法学、MEDICALVIEW、2010 第2回、第3回、第14回時に使用 市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際、文光堂、2015 第6回、第12回時に使用
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①エビデンスに基づいた評価の選択・実施について説明できる。 ②観察式・質問式評価のメリット・デメリットを説明できる。 ③ADL評価の意義、評価手順を説明できる。 ④評価から得られた結果を統合し解釈することができる。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①	○			◎
②	○		○	
③	○		○	
④		○		○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション ～科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）と評価～ 【key word】科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）理学療法における評価の重要性について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPT日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/Minds（マインズ）ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.phpEvidenc 上記のkeywordsや参考URLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>第2回 意欲・自己効力感の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】意欲・自己効力感の評価、主観的幸福感、Quality of life：QOL 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏，下田信明 編集：リハビリテーション基礎評価学，羊土社 pp.111-121, pp306-312 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/</p> <p>第3回 気分（うつ・不安）・思考の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】気分（うつ・不安）・思考 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏，下田信明 編集：リハビリテーション基礎評価学，羊土社 pp.102-110 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/</p> <p>第4回 ADL ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】ADL 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏，下田信明 編集：リハビリテーション基礎評価学，羊土社 pp.283-305 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。</p>
------	---

	<p>一般社団法人日本老年医学会ホームページ ADLの評価法 https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/tool_03.html 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/</p>
第5回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ①～ 【key word】 観察に基づくADL 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp313-323 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第6回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ②～ 【key word】 観察に基づくADL 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp313-323 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第7回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ③～ 【key word】 観察に基づくADL 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp313-323 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第8回	<p>IADL ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】 IADL 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 283-305 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ ADLの評価法 https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/tool_03.html 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/</p>
第9回	<p>高次脳機能障害の評価① ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】 高次脳機能障害 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 71-101 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 渡邊修:病院で行う高次脳機能障害リハビリテーション. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 21(11): 1060-1068, 2012. 渡邊修:高次脳機能障害. Medical Practice 27(10): 1691-1695, 2010</p>
第10回	<p>高次脳機能障害の評価② ～障害別の具体的な方法～ 【key word】 高次脳機能障害 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 71-101 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 渡邊修:病院で行う高次脳機能障害リハビリテーション. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 21(11): 1060-1068, 2012. 渡邊修:高次脳機能障害. Medical Practice 27(10): 1691-1695, 2010</p>
第11回	<p>認知症の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】 認知症 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 認知症に関する予習をして授業に臨むこと。</p>
第12回	<p>転倒予防の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】 転倒予防 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 転倒予防に関する予習をして授業に臨むこと。</p>
第13回	<p>フレイルの評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key word】 フレイル 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html フレイルに関する予習をして授業に臨むこと。</p>
第14回	<p>各種ガイドラインとアウトカム評価指標 ～評価結果の解釈と予後予測のポイント～ 【key words】 予後予測 評価結果の解釈と予後予測のポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会</p>

	<p>http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.c.or.jp/n/top.php 第1回から第13回までの内容を復習して授業に臨むこと。 評価における統合と解釈 ～グループワーク～</p> <p>【key word】統合と解釈 評価における統合と解釈を、他者に伝える意義について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.c.or.jp/n/top.php 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）60% レポート40% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。</p>
<p>教科書</p>	<p>潮見泰藏，下田信明 編：PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第1版増補。 羊土社 大塚俊男，本間昭 監修：高齢者のための知的機能検査の手引き．ワールドプランニング</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜紹介する。</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニ ング</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、認知症・転倒のリスクの評価を数多く実施してきた。 また、基礎理学療法（ヒトを対象とした評価の信頼性・妥当性など）を専門としている。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 主に神経障害に関連する理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようにすることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。 ②基本的な面接・観察技法を身につける。 ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。 ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。</p>
授業の概要	主に神経障害患者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。	◎	○	○	△
②基本的な面接・観察技法を身につける。	◎	○	○	△
③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。	◎	○	○	△
④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。	◎	○	○	△

授業計画	<p>第1回 片麻痺機能検査①</p> <p>【key word】 連合反応・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 脳血管障害、片麻痺機能検査、連合反応、病的共同運動、分離運動・片麻痺機能評価を実施するための基礎知識を学ぶ。 中枢神経障害と末梢神経障害の回復過程の違いを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp49～64、p141～、p163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中枢神経のメカニズムを復習して受講すること。 【アクティブラーニング】 確認テストを行う。実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p> <p>第2回 片麻痺機能検査②</p> <p>【key word】 Brunnstrom Stage・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 ・Brunnstrom Stageの各検査方法を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp351～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に模倣できるように予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 確認テストを行う。実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
------	---

第3回	<p>片麻痺機能検査③</p> <p>【key word】 Brunnstrom Stage・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 ・片麻痺機能検査の実際を症例を想定して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp335～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、必要な検査項目を想定しておくこと。 ・検査に必要な基礎知識・技術について確認する。実際に模倣できるよう予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 プレゼンテーションをしてもらう。</p>
第4回	<p>筋緊張検査①</p> <p>【key word】 静的筋緊張・姿勢筋緊張・異常筋緊張</p> <p>【授業概要】 ・筋緊張について学び、静的筋緊張・姿勢筋緊張と異常筋緊張の違いを理解する。 ・異常筋緊張の発生機序を学ぶ。 ・動作観察・姿勢観察・触診・被動性検査などの検査の種類を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp173～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 筋緊張の発生メカニズムについて、プレゼンテーションをしてもらう。</p>
第5回	<p>筋緊張検査②</p> <p>【key word】 筋緊張・被動性検査・MAS</p> <p>【授業概要】 ・筋緊張検査に必要な知識を理解した上で、被動性検査の方法を学ぶ。 ・姿勢から静的筋緊張検査を推し量る考え方を学ぶ。 ・Modified Ashworth Scale (MAS) を使用して筋緊張を評価する。 ・筋緊張と抵抗感・エンドフィールとの関連性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 病的筋緊張の異常と疾患について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第6回	<p>片麻痺機能検査・筋緊張検査 小テスト①</p> <p>【key word】 筋緊張・被動性検査・MAS</p> <p>【授業概要】 ・小テスト：片麻痺機能検査・筋緊張検査の範囲の知識の確認 ・片麻痺機能検査・筋緊張検査の実際：実技・質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 テキストp163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。 【アクティブラーニング】 小テスト</p>
第7回	<p>観察による動作観察・分析①</p> <p>【key word】 動作観察・動作分析・姿勢観察</p> <p>【授業概要】 ・動作観察方法を学ぶ。まずは姿勢の評価から。 ・動作の特徴を捉え、模倣する。 ・動作の全体像を捉えることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第8回	<p>観察による動作観察・分析②</p> <p>【key word】 模倣・正常歩行・異常歩行</p> <p>【授業概要】 ・動作の模倣の見極め。 ・歩行動作の特徴を捉え、模倣し、全体像を捉える。 ・歩行動作のさまざまな全体像の捉え方を学ぶ。 ・専門用語を使った動作観察の表現を学ぶ。 ・異常歩行と健常者との歩行（正常歩行）の違いについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp313～ 資料を配布する</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 観察による動作観察・分析③ 小テスト②</p> <p>【key word】 姿勢観察・動作観察・動作分析 【授業概要】 ・小テスト：観察による動作観察・分析の範囲の知識・技能の確認 【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～、p163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。 【アクティブラーニング】 小テスト</p>
第10回	<p>脳神経検査 【key word】 脳神経・運動機能・感覚機能 【授業概要】 脳神経検査に必要な知識を理解し、検査測定方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp65～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳神経について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第11回	<p>協調性検査 【key word】 協調性・協調運動・運動失調 【授業概要】 協調運動障害・運動失調の違いを学ぶ。 協調性検査の方法を学び、実施する。 躯幹協調機能ステージを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp251～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第12回	<p>姿勢・平衡機能・バランス検査① 【key word】 姿勢調節・静的バランス・動的バランス 【授業概要】 姿勢調節とバランスの基礎知識を学ぶ。 バランスの理論的背景を学ぶ。 バランス評価の難易度設定方法を学ぶ。 BesTestの内容・意味を知る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 姿勢反射について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第13回	<p>姿勢・平衡機能・バランス検査② 【key word】 姿勢調節・座位バランス・外乱負荷 【授業概要】 座位バランス検査方法を学ぶ。 実際に実習を通して学ぶ（静的・動的・外乱負荷応答）。 着眼点や評価指標を学ぶ。 不安定性を検査するという目的を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p>
第14回	<p>姿勢・平衡機能・バランス検査③ 【key word】 姿勢調節・立位バランス・外乱負荷 【授業概要】 立位バランス検査方法を学ぶ。 実際に実習を通して学ぶ（静的・動的・外乱負荷応答）。 着眼点や評価指標を学ぶ。 転倒の危険性をどのように防ぐか、グループワークを行いながらディスカッションしていく。</p>

第15回	<p>体重計を使用した左右の荷重の差や不安定性を検査する目的を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 姿勢・平衡機能・バランス検査④ 小テスト③ 【key word】 BBS・FR・TUG 【授業概要】 バランスのパフォーマンステストを学ぶ。 BBS、FR、TUGを実施に実施する。 小テスト：バランス検査の知識の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。 【アクティブラーニング】 実習：学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 小テスト：バランス検査の知識の確認を行う。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①実技を行う場合は動きやすい格好（学校指定のジャージ・ポロシャツ・短パン）で準備すること ②予習を前提に講義を進める 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	コメントシート方式
授業外時間にかかわる 情報	授業概要・授業進行を確認し、予習・復習（積極的に治療室を利用し、学生同士で復習を行うこと）を怠らないこと。指定された予習以外にも、評価（検査・測定）に関連する基礎医学的な知識を学習しておくこと。また、不足している基礎的な医学知識を授業終了後に必ず確認すること
オフィスアワー	火曜日16時30分～
評価方法	筆記試験100%にて判定するが、授業進行に合わせた課題・小テスト・授業態度等を総合的にみて判断する。
教科書	潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社，2014
参考書	石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，2011 川平和美・編：神経内科，医学書院，2013 千野直一ら：脳卒中の機能評価 S I A S と F I M ，金原書店，2012 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2015 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015 奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド，文光堂，2009 市橋則明・編：理学療法評価学，文光堂，2016 月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015
実務経験のある教員 による授業科目/ アクティブ・ラー ニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を生かして講義を行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 神経障害疾患の理学療法における評価・治療技術の基礎を学ぶ。 [達成目標] ① 主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。 ② 疾患に関連した障害像を説明できる。 ③ 疾患の特性・症状・評価結果と結びつけた運動療法の考え方・介入方法を説明できる。
授業の概要	解剖学、運動学、評価学、運動療法学の学習を踏まえて、主に神経障害疾患に関する理学療法で必要となる考え方・評価・治療技術の基礎を学ぶ

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 運動療法に必要な神経の構造と機能① / 科目オリエンテーション 神経、脳、伝導路、脳機能局在、脳血流灌流分布科目の進行・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ。中枢神経系の構造についてミニテスト実施予定。 運動に関係する脳の構造と構造について学ぶ 脳血流灌流分布や運動・感覚で伝導路について学ぶ 運動学習の基礎を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ Lecture1/Lecture 2 ○中枢神経障害理学療法学テキスト。p1～ ○運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 ○解剖学で使用した教科書 ○絵で見る脳と神経 (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療)</p> <p>第2回 運動療法に必要な神経の構造と機能② 科目の進め方・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ。p17～ 運動に関係する脳の構造と構造について学ぶ。伝導路についてミニテスト実施予定。 脳血流灌流分布や運動・感覚で伝導路について学ぶ 運動学習の基礎を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ Lecture1/Lecture 2 ○中枢神経障害理学療法学テキスト ○運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 ○解剖学で使用した教科書 ○絵で見る脳と神経 (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテ-</p> <p>第3回 中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法① 運動療法施行に必要な脳卒中片麻痺の病態について学ぶ。 脳卒中片麻痺患者に対する運動療法の意義、目的、考え方を学ぶ。片麻痺の病巣と症状についてミニテスト実施予定。 脳卒中片麻痺患者に対する具体的な運動療法を学ぶ◎中枢神経障害理学療法学テキストp3?6 3 (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 復習：脳卒中中の病態を復習し、理学療法を実施するイメージできるようにすること</p> <p>第4回 中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法② 運動療法施行に必要な脳卒中片麻痺の病態について学ぶ 脳卒中片麻痺患者に対する運動療法の意義、目的、考え方を学ぶ。該当教科書を通読しておくこと。ミニテスト実施予定。 脳卒中片麻痺患者に対する具体的な運動療法を学ぶ◎中枢神経障害理学療法学テキストp3?6 3 (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ)</p>
------	--

第5回	<p>(動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 復習：脳卒中中の病態を復習し、理学療法を実施するイメージできるようにすること</p> <p>感覚障害に対する運動療法 感覚に対する受容器・伝導路について再確認する 感覚障害の分類について学ぶ。ゲートコントロールセオリーについてミニテスト実施予定。 感覚障害に対する評価を再確認する 感覚障害に対する運動療法の理論的背景を学び、具体的運動療法を理解する●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 p282? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 予習：感覚に関連する生理学・解剖学/感覚検</p>
第6回	<p>バランス障害・姿勢障害に対する運動療法① バランスに関連する要素、姿勢調節、運動制御(調節)の概念について学ぶ バランス能力を理論的背景を学ぶ 姿勢調節障害の分類を学ぶ。姿勢反射についてミニテスト実施予定。 バランス障害に対する具体的な運動療法について学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 p308?/p337? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 予習：バランスに関連する生理学</p>
第7回	<p>バランス障害・姿勢障害に対する運動療法② バランスに関連する要素、姿勢調節、運動制御(調節)の概念について学ぶ バランス能力を理論的背景を学ぶ。バランス検査についてミニテスト実施予定。 姿勢調節障害の分類を学ぶ バランス障害に対する具体的な運動療法について学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 p308?/p337? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 復習：バランス障害に対して理解</p>
第8回	<p>運動失調・協調性障害に対する運動療法 協調性、協調性障害、運動失調の違い・分類を学ぶ 小脳の機能と投射を学び、協調運動の検査についてミニテスト実施予定。 小脳による運動の誤差学習、フィードバック制御とフィードフォワード制御、運動学習の内部モデルを理解する。ミニテスト実施予定。 小脳性運動失調と症状と特徴、回復過程を学ぶ 運動失調に対する一般的な運動療法を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 p325? ◎中枢神経障害理学療法学テキスト p285? (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト</p>
第9回	<p>歩行障害に対する運動療法 歩行障害の背景を学ぶ 歩行周期とその役割を再確認する。歩行周期についてミニテスト実施予定。 さまざまな歩行評価を学ぶ。ミニテスト実施予定。 歩行障害に対する運動療法の理論を学ぶ(課題指向型・基礎・歩行能力改善トレーニング) 立脚・遊脚期の具体的な運動療法を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 p355? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) (リハビリテーション基礎評価学) 予習：歩行動作に</p>
第10回	<p>神経障害一運動療法・介入の実際 脳卒中急性期① 脳卒中中の病期別リハビリテーションの流れ、考え方、ポイントを学ぶ。土肥アンダーソンの基準についてミニテスト実施予定。 脳卒中急性期のリハビリテーション開始基準/中止基準を学ぶ ポジショニング、関節可動域練習、座位・立位耐性練習の具体的方法を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版 (石川朗・総編：理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版) (石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座) (石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨</p>
第11回	<p>神経障害一運動療法・介入の実際 脳卒中急性期② 脳卒中中の病期別リハビリテーションの流れ、考え方、ポイントを学ぶ 脳卒中急性期のリハビリテーション開始基準/中止基準を学ぶ ポジショニング、関節可動域練習、座位・立位耐性練習の具体的方法を学ぶ。正常関節可動域についてミニテストを実施する。●配布資料及び以下の教科書の関連内容</p> <p>◎細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版 (石川朗・総編：理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版) (石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座)</p>

第12回	(石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨 パーキンソン病に対する運動療法 パーキンソン病の病態、障害像を学ぶ パーキンソン病の病態を踏まえ、リスク管理、評価を学ぶ。パーキンソニズムについてミニテスト実施予定。 パーキンソン病に対する基本的な理学療法介入の方法を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 ◎細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版 (石川朗・総編：理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ) (市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版) (石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座) (石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 復習：パーキンソン病の病態を踏まえ、
第13回	高次脳機能障害に対する運動療法 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害を理解する。片麻痺障害側による高次脳機能障害のミニテスト実施予定。 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害に対する評価を学ぶ。 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害に対する理学療法アプローチを学ぶ◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 ◎中枢神経障害理学療法学テキスト ◎理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ ◎リハビリテーション基礎評価学 ※配布プリント復習：理学療法に必要な高次脳機能障害に対する知識を理解し、評価・アプローチ方法をまとめること
第14回	嚥下障害① (外部講師) 嚥下障害の概要について学ぶ 嚥下障害の評価について学ぶ。ミニテスト実施予定。 嚥下障害への介入について学ぶ配布資料/他：関連する教科書解剖学、運動学、運動療法学Ⅰ、運動療法学実習Ⅰ、理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学実習Ⅰの知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。
第15回	嚥下障害② (外部講師) 嚥下障害の概要について学ぶ 嚥下障害の評価について学ぶ。ミニテスト実施予定。 嚥下障害への介入について学ぶ配布資料/他：関連する教科書解剖学、運動学、運動療法学Ⅰ、運動療法学実習Ⅰ、理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学実習Ⅰの知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。
受講生に関わる情報および受講のルール	[服装指定] 実技の予定がある場合は指定ジャージとします(防寒対策は認めます) [学習方法] 神経障害疾患に関する基礎知識、評価、運動療法を中心に学びますので、関連した予習を進めてください 解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます
オフィスアワー	水曜日16時～17時(その他の曜日については要予約)
評価方法	筆記試験100%ではあるが、授業進行に合わせた課題・小テスト等の総合評価にて判定する。
教科書	細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版, 南江堂, 2014
参考書	石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド, 文光堂, 2014 奈良勲・監修：神経内科 第4版, 医学書院, 2013 奈良勲・監修：解剖学 第4版, 医学書院, 2015 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学, 中山書店, 2015 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座, メジカルビュー, 2013 他：必要に応じて授業内に提示します
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文・榊原清			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>中枢神経障害の理学療法における治療技術の基礎を身につける。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①疾患に関連した運動療法を中心とした治療技術を選択することができる。機能障害に対する治療技術を選ぶことができる。</p> <p>②①の主要な治療技術を立案・実行できる。</p> <p>③②について、難易度設定や効果判定評価、動作目標、機能障害を示すことができる。</p>
授業の概要	これまでの学習内容・運動療法学Ⅱの学習を踏まえて、中枢神経障害の理学療法で必要となる治療技術の基本的なものが実施できるように、身につける。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 神経障害に対する運動療法基礎：動作観察／科目オリエンテーション 動作観察、神経障害、運動療法、理学療法評価科目の進行・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ 動作観察の記録方法を復習する 脳血管障害の特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の動作の特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作に対し動作観察を実施する（課題）●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用)</p> <p>第2回 神経障害—脳卒中片麻痺の姿勢・動作の特徴 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作の観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の座位姿勢の観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の座位姿勢の動作観察を実施する（課題）●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：動作観察、運動学説明について臨床運動学実習の内容を踏まえ復習</p> <p>第3回 神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：姿勢・動作観察、運動制御、運動学習① 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作の観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上り動作の観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの動作観察を実施する（課題） 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗・歩行の動作を学ぶ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：自分</p> <p>第4回 神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：動作観察、姿勢・運動制御、運動学習② 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の歩行の特徴・観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗方法、歩行介助方法、膝折れを抑えた立ち上り動作の介助を学ぶ(実技)●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際)</p>
------	--

第5回	<p>(動作分析 臨床活用講座) 予習：自分がまとめた立ち上り動作 神経障害—基本動作に対する運動療法・介入の基礎 (移乗・立ち上がり・歩行) 上記の動作を介助する上で、必要となる技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー教科書の事前学習が必須となる。</p>
第6回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ① ・理学療法・運動療法を進める上で知っておくべき基礎的な知識を復習し、その対応について学ぶ ?神経生理学的アプローチ・・・ボバースコンセプト・PNF ・運動学習の概念を学ぶ (運動学習へ効果を及ぼす因子/運動学習の性質) ・課題指向型アプローチの概念を学び、実践する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動)</p>
第7回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ② ・理学療法・運動療法を進める上で知っておくべき基礎的な知識を復習し、その対応について学ぶ ・運動学習の概念を学ぶ (運動学習へ効果を及ぼす因子/運動学習の性質) ・課題指向型アプローチの概念を学び、実践する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：運動学習について</p>
第8回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ③ ・理学療法・運動療法を進める上で知っておくべき基礎的な知識を復習し、その対応について学ぶ ・運動学習の概念を学ぶ (運動学習へ効果を及ぼす因子/運動学習の性質) ・課題指向型アプローチの概念を学び、実践する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：理学療法における基本的な運動療法を調べる 復習：</p>
第9回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法①：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行 4グループに別れて課題指向型アプローチの考え方を元に運動療法プログラム (課題) を考える ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的な方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目標に向かい運動プログラム (課題) を検討すること</p>
第10回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法②：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行 4グループに別れて課題指向型アプローチの考え方を元に運動療法プログラム (課題) を考える・・・継続●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的な方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目標に向かい運動プログラム (課題) を検討すること</p>
第11回	<p>神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法③：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行 4グループごとにプレゼンテーションを実施 1グループ20分 ?プレゼンテーション役/PT役/患者役×2を決め、2つの運動プログラム (課題) に対して解説する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的な方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目</p>
第12回	<p>小児疾患に対する運動・理学療法①【脳性麻痺 痙直型四肢麻痺、両麻痺、片麻痺】 【key word】 脳性麻痺・痙直型・筋緊張異常</p>

	<p>【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的な痙直型（四肢麻痺、両麻痺、片麻痺）にみられる特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業内容は主にプリントを配布します。 参考：小児理学療法学テキスト、南江堂</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題①：人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで受講すること。 課題②：講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【アクティブラーニング】 人間発達学・小児科学の該当する内容の確認テストを実施します。事後、確認のディスカッションで他者と説明し合います。</p> <p>第13回 小児疾患に対する運動・理学療法②【脳性麻痺 アテトーゼ型、他】</p> <p>【key word】 脳性麻痺・アテトーゼ型・筋緊張異常</p> <p>【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的なアテトーゼ型、他にみられる特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業内容は主にプリントを配布します。 参考：小児理学療法学テキスト、南江堂</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題①：人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで受講すること。 課題②：講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【アクティブラーニング】 人間発達学・小児科学の該当する内容の確認テストを実施します。事後、確認のディスカッションで他者と説明し合います。</p> <p>第14回 小児疾患に対する運動・理学療法③【整形外科疾患】</p> <p>【key word】 二分脊椎・ペルテス病、骨形成不全症</p> <p>【授業概要】 子どもの整形外科疾患の代表的な二分脊椎・ペルテス病、骨形成不全症にみられる特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業内容は主にプリントを配布します。 参考：小児理学療法学テキスト、南江堂</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題①：人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで受講すること。 課題②：講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【アクティブラーニング】 人間発達学・小児科学の該当する内容の確認テストを実施します。事後、確認のディスカッションで他者と説明し合います。</p> <p>第15回 小児疾患に対する運動・理学療法④【ダウン症候群、DMD、他】</p> <p>【key word】 ダウン症候群・DMD・遺伝性筋疾患</p> <p>【授業概要】 ダウン症候群、子どもの遺伝性疾患の代表的なデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）・脊髄性筋萎縮症などにみられる特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業内容は主にプリントを配布します。 参考：小児理学療法学テキスト、南江堂</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題①：人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで受講すること。 課題②：講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【アクティブラーニング】 人間発達学・小児科学の該当する内容の確認テストを実施します。事後、確認のディスカッションで他者と説明し合います。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[服装指定] 実技中心になることから、運動可能な指定ジャージを指定とします（防寒対策は認めません）</p> <p>[学習方法] 体験と指導デモンストレーションをトレーニングします 解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験100%ではあるが、コメントカードの記載や、講義実習への参加度等を含めた総合評価にて判定する。
教科書	細田多穂：中枢神経障害理学療法学テキスト 第2版，南江堂，2015
参考書	市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015 細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014 奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド，文光堂，2009 市橋則明・編：理学療法評価学，文光堂，2016

	<p>月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015 石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 他：必要に応じて授業内に提示します</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体が有する自然治癒力を賦活させることができる。特に疼痛、創傷、浮腫、組織などの柔軟性を改善することができる物理的機序を学ぶ。</p> <p>授業の到達目標・期待される学習効果 ①理学療法における物理療法の位置づけが説明できる。 ②物理療法に用いられる各種エネルギーの特性を説明することができる。 ③各種物理療法の適応と禁忌が説明できる。 ④各種物理療法機器の安全な取り扱いができる。</p>
------------	---

授業の概要	物理療法とは生態に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手技である。当科目は理学療法における物理療法の位置づけを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。また実際に物理療法を経験することにより、各種機器の正しく安全な操作方法を習得する。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス・物理療法とは・物理療法の分類と歴史 物理療法、理学療法、理学療法における物理療法の位置づけを解説する。また物理療法の分類と歴史的背景を解説する。p1～物理療法とは何か、考えをまとめること。</p> <p>第2回 各種物理療法の生理的作用と治療目的・適応と禁忌 各種物理療法の生理的作用と治療目的、適応と禁忌について解説を行う。p24～温熱療法について各療法を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第3回 物理療法の適応と病態①炎症と組織の修復 物理療法が対象となる症状および疾患について説明をする。また、禁忌およびリスク管理を理解した上で、治療ガイドラインを使用することができるようになる。別途資料を配布予定。炎症について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第4回 物理療法の適応と病態②痛み 痛みのメカニズムの生理学を解説し、さまざまな物理療法を使用するための生理学的基礎を理解する。また、立証された治療効果を含む、生理学的効果のある物理療法の選択方法について学ぶ。痛みの生理的機序について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第5回 温熱療法①温熱療法概論・ホットパック・パラフィン浴 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p34～ホットパックについてその特徴を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第6回 温熱療法②ホットパック・パラフィン浴の生理的機序 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p40～パラフィン浴についてその特徴を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第7回 温熱療法③極超短波・超音波 エネルギー変換療法の種類と物理的エネルギーの違いおよび特徴について学ぶ。また臨床で使用する頻度が比較的多い超音波療法の物理的特性と理論的背景を理解する。p84～極超短波と身近な家電機器の関連を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第8回 電気刺激療法①電気刺激療法概論・経皮的末梢神経電気刺激療法 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～モーターポイントについて調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第9回 電気刺激療法②経皮的末梢神経電気刺激療法の実践 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～機能的電気刺激とは何か調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第10回 光線療法 光線療法概論・赤外線・紫外線・レーザー光線 光線の性質と分類を理解し、光線療法の種類と生理学的効果について学ぶ。p91～赤外線と紫外線</p>
------	---

	<p>の違いを調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第11回 牽引療法 頸椎牽引と骨盤牽引 牽引療法の理論的背景を理解し、患者の症状や障害に合わせた牽引療法を学ぶ。p223～直達牽引と間欠牽引の違いを調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第12回 水治療法①水治療法概論・渦流浴・気泡浴 水治療法の物理的特性と理論的背景を理解し、患者さんの状況に即した安全な水治療法について学ぶ。p189～水の物理的特性を考えておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第13回 水治療法②上肢・下肢・半座浴・全身浴 水治療法の物理的特性と理論的背景を理解し、患者さんの状況に即した安全な水治療法について学ぶ。p189～水中運動の効果について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第14回 寒冷療法①寒冷療法概論・アイスマッサージ・クリッカー・コールドパック 寒冷療法の生理学的作用について理解を深め、寒冷療法の効果を元に臨床での目的と適応について学ぶ。p47～冷却の生理的効果を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>第15回 物理療法のまとめ 物理療法のまとめを行う。各小テストを忘れずに持参すること。なし各小テストを振り返えるので忘れずに持参すること。前回の授業内容について小テストを行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習復習は必ず行うこと。 <p>[受講ルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくること。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 100% ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正：物理療法学 改訂第2版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	運動療法によって要素的な運動機能や実際の動作能力を高めていくための前段階として、疼痛や創傷などの機能・構造障害の改善を促進し、動きやすい身体状況を整える必要がある。そのための具体的な治療手段が、熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることの意味について理解し、各種機器を操作し実践することを目的・目標とする。 ①物理療法機器を安全に取り扱うことができる。 ②症状に合わせた機器の選択ができる。 ③物理療法機器の適応と禁忌ならびに使い方のオリエンテーションができる。 ④物理療法機のメンテナンスができる。
授業の概要	物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学び、同時に適切に機器の運用ができるようになることである。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	物理療法の適応と禁忌 物理療法、適応と禁忌各物理療法機器の適応と禁忌について、まとめと振り返りを行う。p1～物理療法学の授業で用いた資料で振り返りを行っておくこと
	第2回	ホットパックの実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項） ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。p34～ホットパックの適応と禁忌について復習しておくこと
	第3回	ホットパックの実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。p34～実施手順について、口頭で説明できるようにしておくこと
	第4回	寒冷療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 伝導の物理的特性を理解し、患者の状況に応じた適切な伝導冷却法の実際について学ぶ。p47～寒冷療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第5回	パラフィン浴の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項） パラフィンの物理的特性と伝導温熱法としてのパラフィン浴の特徴を理解し、患者の状況に応じたパラフィン浴の選択と実際の施行方法について学ぶ。p40～パラフィン浴の適応と禁忌について復習しておくこと
	第6回	赤外線療法と極超短波療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 赤外線、極超短波療法の基礎物理と臨床に用いる根拠を理解し、患者の状況に即した赤外線、極超短波療法の実際について学ぶ。p84～、p106～赤外線療法と極超短波療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第7回	超音波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 温熱モードと非温熱モードの設定を理解し、患者の状況に適した超音波療法を学ぶ。p130～超音波療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第8回	超音波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 温熱モードと非温熱モードの設定を理解し、患者の状況に適した超音波療法を学ぶ。p130～超音波療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第9回	低周波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項） NMESを用いた運動神経刺激の理論的背景を理解し、さまざまな治療対象に対して適切に直流、交流、パルス電流刺激装置を選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第10回	低周波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） TENSを用いた痛みのコントロールの理論的背景を理解し、痛みを制御するために直流、交流、パルス電流刺激装置を適切に選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の適応と禁忌について復習しておくこと
	第11回	牽引療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）

第12回	一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法について学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと 牽引療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第13回	一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法について学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと グループ学習① 物理療法の操作と説明
第14回	各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること グループ学習② 物理療法の操作と説明
第15回	各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること 物理療法実習のまとめ 受け持ちの物理療法機器に関する適応と禁忌、生理的効果等の国家試験類似問題を作成し、問題を出し合う。全てが対象国家試験類似問題の作成
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 ・予習復習は必ず行うこと。 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくること。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 100% ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正・他：物理療法学 改訂第2版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。 到達目標 ①義肢・装具の種類と効果（作用）の説明ができる。 ②疾患や障害にあった義肢・装具の選択ができる。 ③歩行補助具の選択と調節ができる。
------------	--

授業の概要	臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断肢位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について T字杖、多脚杖、杖の処方歩行補助具の目的や必要条件を説明しT字杖や多脚杖について実物を見ながらその特徴を解説する。また、杖の処方や主な疾患に対する杖の処方を考える。p358～予習：各種杖について調べる。key words:歩行補助具、杖
	第2回	歩行補助具、車椅子について 松葉杖や歩行器の特徴を実物を見ながら解説する。また、松葉杖の合わせ方、歩行の形式について体を動かしながら理解する。車椅子の各名称を説明する。p314～予習：車椅子について調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:杖の調節、杖の歩き方
	第3回	車椅子の採寸、チェックポイント 車椅子のアームサポートやバックサポート、レッグサポートの各種機能について実物を見ながら解説する。また、どのような目的を持ってその機能を用いるかを考える。車椅子作成に必要な身体測定を実施し、チェックポイントを解説する。p314～予習：車椅子の各種機能について調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:車椅子の構造、車椅子処方、車椅子操作
	第4回	義肢装具の概念、切断部位と切断術について 各種義肢や装具を確認し、PTとして知識を得ることの意味を考える。切断部位や原因について解説する。p1～、予習：義肢の概念について読んでおくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:切断の疫学、切断術
	第5回	切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について 切断部位の選択の一般的原則について紹介し、上肢切断、下肢切断の部位について説明する。切断術の際の血管、神経、骨、筋の処理について解説する。p47～予習：どのような切断があるか調べておくこと。復習：末梢循環障害についてまとめておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:末梢循環障害
	第6回	大腿義足ソケット（四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割）について 大腿義足の構成について説明する。差し込み式ソケット、四辺形ソケット、IRCソケットについて実際のソケットを見ながら特徴について理解する。各種膝継手に触れ、理解する。p120～予習：大腿義足ソケットについて調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:大腿義足、ソケット、膝継手
	第7回	下腿義足ソケット（PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足）について 下腿義足ソケットであるPTB、PTS、KBM、TSBソケットについて実際に見ながらその特徴を理解する。また下腿義足の足部について解説を行う。p150～予習：下腿義足について調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:下腿義足、SACH足
	第8回	その他の義足について 各義足の特徴について説明しを行う。実際の義足を手に取り、構造を把握しながらその特徴を理解する。p170～予習：その他の義足について調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:サイム切断、股義足
	第9回	義手について 義手の構成と特徴について学ぶ。p91～予習：義手の分類と構成要素を調べておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:コスメティック、機能性

第10回	<p>装具学総論、短下肢装具①</p> <p>装具の概論として目的などをまとめる。各種短下肢装具の構成、特徴、利点、欠点について班ごとにまとめる。足継手の種類を学び、その適応を整理する。p181～予習：装具総論を読んでおくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:短下肢装具、AF0、両側金属支柱</p>
第11回	<p>短下肢装具②</p> <p>下肢装具のチェックアウトの流れと項目について学ぶ。さらに短下肢装具のチェックアウト（支柱付・プラスチック製）を知る。p214～復習：プラスチック製短下肢装具、金属支柱付き短下肢装具、PTB短下肢装具の特徴、適応をまとめておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p>
第12回	<p>長下肢装具①</p> <p>長下肢装具の構成要素を解説し、短下肢装具と長下肢装具の違いを考える。長下肢装具から短下肢装具へと移行する時期の条件を考える。膝継手やストラップの特徴を捉え、坐骨支持型長下肢装具の適応をまとめる。p228～復習：長下肢装具の特徴、適応、短下肢装具へと移行する時の条件をまとめておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:膝継手、免荷装具</p>
第13回	<p>長下肢装具②と靴型装具について</p> <p>長下肢装具のチェックアウトについて説明する。また各種靴型装具の紹介をし、その適応について説明する。また、足底挿板の目的を考える。p232～復習：講義で学んだ靴型装具について復習しておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p>
第14回	<p>頸部体幹装具について</p> <p>頸部や体幹装具の各種装具について紹介し、その特徴と適応について説明する。類似した装具がある中でその違いを明確にし、適応疾患を考える。p240～復習：講義で学んだ各種装具について復習しておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:殻構造、ダーメン</p>
第15回	<p>上肢装具について</p> <p>上肢の各種装具について紹介し、その特徴と適応について説明する。類似した装具がある中でその違いを明確にし、適応疾患を考える。p192～復習：講義で学んだ各種装具について復習しておくこと。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。key words:疾患別</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくる。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 100% ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院
参考書	義肢装具学テキスト 細田 多穂 監 南江堂
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	3年次	1単位(15)	自由選択	
担当教員				
小島俊文				
添付ファイル				
授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法士としての必要な知識と技能を身に付け、臨床的問題を見出し自ら解決する能力を身につける。</p> <p>[到達目標] 学習資料を自ら探し出し、事前準備をすることができる。 グループワークにおいて積極的な発言や、リーダーシップをとることができる。 制度や場所の違いにおける理学療法の役割について説明できる。</p>			
授業の概要	この科目では、基礎的医学・理学療法を整理し、臨床的問題を解決するために必要な基礎的知識と臨床技能を再確認する。特に介護保険分野における理学療法の役割について、じっさい			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	第1回	文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う① 介護保険のしくみについて復習を行う。理学療法士が活躍している介護保険事業所と、そこでの理学療法の役割について、文献をもとにディスカッションを行う。	第2回	文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う② 介護保険のしくみについて復習を行う。理学療法士が活躍している介護保険事業所と、そこでの理学療法の役割について、文献をもとにディスカッションを行う。
	第3回	介護保険事業所（デイサービスセンター）での実習① 前橋市内のデイサービスセンターを見学し、利用者のニーズを捉えながら、理学療法士の果たす役割について、事業所に勤務する理学療法士とディスカッションを行う。	第4回	介護保険事業所（デイサービスセンター）での実習② 前橋市内のデイサービスセンターを見学し、利用者のニーズを捉えながら、理学療法士の果たす役割について、事業所に勤務する理学療法士とディスカッションを行う。
	第5回	介護保険事業所（訪問リハビリテーション）での実習① 前橋市内の訪問リハビリテーション事業所を見学し、利用者のニーズを捉えながら、自宅で行う理学療法の目的、実際の理学療法手段について学ぶ。	第6回	介護保険事業所（訪問リハビリテーション）での実習②地域ケア会議見学 前橋市内の訪問リハビリテーション事業所を見学し、利用者のニーズを捉えながら、自宅で行う理学療法の目的、実際の理学療法手段について学ぶ。
	第7回	介護保険事業所（老人保健施設）での実習③訪問理学療法見学	第8回	介護保険事業所（デイサービスセンター、居宅介護支援事業所）での実習④訪問理学療法見学
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報] ・授業の理解度を高めるためには、予習活動は必須である。決められた課題を必ず行ってくること。 ・グループにおける討議が重要となる。主体性を持って、自らグループを主導する気持ちで臨んでもらいたい。</p> <p>[受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。</p>			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式			
授業外時間にかかわる情報	介護保険に関する基本的情報は復習しておくこと。			
オフィスアワー	火曜日16：30～			
評価方法	ポートフォリオ50%、口頭試問50%			
教科書	随時、参考資料を提供する。			

参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
小島俊文			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>中枢神経障害についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的な理学療法テクニックについて経験する。</p> <p>[達成目標]</p> <p>①授業で提示した主要なキーワードを自分言葉で説明ができる。 ②中枢神経障害の理学療法の役割について説明することができる。 ③疾患の特徴や現象から、具体的な介入方法について説明することができる。</p>
授業の概要	主に脳卒中、パーキンソン病患者に対する理学療法の実際を学ぶ

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	(知識理解)	(汎用的技能)	(態度・志向性)	(統合的な学習経験と創造的思考力)
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 脳卒中、パーキンソン病、理学療法、運動療法疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考え、ディスカッションを行う。 動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する 問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書 資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第2回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション① 疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える 動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測し、プレゼンテーションを行う。 問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書 資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第3回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション② 疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える 動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する 問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考え、ディスカッションを行う。 プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考える。キーワードに関連する教科書 資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第4回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション③ 疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える 動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する。予後予測の文献を集め、各自でプレゼンテーションを行う。 問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書 資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第5回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書 配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第6回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書 配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第7回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書 配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第8回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書 配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
------	--

受講生に関わる情報 および受講のルール	[服装指定] 指定のジャージ着用とします。(防寒対策は認めます) [学習方法] 解剖・生理・運動学の知識、医学的知識、理学療法評価学、理学療法治療学の知識が獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	火曜日16時30分
評価方法	OSCE・実技課題(40%)、レポート・ポートフォリオ(60%)
教科書	指定なし
参考書	脳卒中理学療法の理論と技術 第2版, メジカルビュー, 2013 石川 齊ら・編: 図解 理学療法技術ガイド, 文光堂, 2014 福井 罔彦ら・編: 脳卒中最前線第4版, 医歯薬出版, 2009 中島雅美ら: PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版, 医歯薬出版, 2016 千田 富義ら・編: 脳卒中(リハ実践テクニック), メジカルビュー2017 潮見 泰藏: 編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版, 文光堂, 2017 椿原彰夫・編: PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション, 2016 嶋田智
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連 で2年間の実務経験を生かして講義を行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
浅野貞美・柴ひとみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。</p> <p>[到達目標] ①内部障害の定義が説明できる。 ②内部障害に対するフィジカルアセスメントについて説明できる。 ③内部障害に対するリスク管理について説明できる。 ④内部障害に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。</p>
授業の概要	運動療法学Ⅲ、理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の意義やフィジカルアセスメントを基盤とし、内部障害に対する理学療法評価・治療の実践的な方法を学ぶ。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 演習1：慢性疾患患者における炎症性サイトカイン増加が骨格筋に与える影響（文献を用いて）炎症性サイトカイン慢性疾患患者における炎症性サイトカイン増加が骨格筋に与える影響について文献を用いて学ぶ。必要文献について説明する。別途、要項配布する。</p> <p>第2回 演習2：胸部X線写真の読影方法（理論）胸部X線写真の読影方法（理論）配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第3回 演習3：胸部X線写真の読影方法（実際）胸部X線写真の読影方法（実際）配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第4回 演習4：循環器・代謝性疾患に対する理学療法（理論）循環器疾患へのリハビリテーション、糖尿病に対するリハビリテーションの応用的実践について学ぶ。配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第5回 演習5：循環器・代謝性疾患に対する理学療法（実際）循環器疾患へのリハビリテーション、糖尿病に対するリハビリテーションの応用的実践について学ぶ。配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第6回 演習6：呼吸理学療法（評価）呼吸理学療法（評価）配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第7回 演習7：呼吸理学療法（実際）呼吸理学療法の応用的実践について演習を通して学ぶ。配布資料あり。別途、要項配布する。</p> <p>第8回 演習8：演習総括、ペーパーペイシエント 演習総括、はペーパーペイシエントを用いて行う。配布資料あり。別途、要項配布する。</p>			
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 運動療法学Ⅲ・理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の知識を基盤とするため、それら科目の授業資料を本科目のポートフォリオに含め、活用する事。</p> <p>[受講のルール] ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式			
授業外時間にかかわる情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。			
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。			
評価方法	ポートフォリオ50%、レポート50%			

教科書	①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂②動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版：中山書店
参考書	随時講義内に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] スポーツ理学療法についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的なサポートについて経験する。</p> <p>[達成目標] ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。 ②スポーツ現場における理学療法の役割について説明ができる。 ③スポーツ外傷と障害の違いについて明確に理解し、各疾患における対応方法について説明ができる。</p>
------------	--

授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を基に、スポーツ理学療法で必要な知識と技術を学ぶ。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。	◎			
②正常と異常について説明できる。	◎	◎		
③評価と結びつけて運動プログラムを説明できる。	◎	◎	◎	

授業計画	<p>第1回 スポーツ障害の疫学と理学療法評価 障害、傷害スポーツ障害とスポーツ傷害の違いについて理解し、それぞれの特徴について理解する。</p> <p>第2回 資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 スポーツ外傷発生時の対応と応急処置 各スポーツ傷害について、疾患の特徴をそれぞれ説明し、アライメント不良による問題点について学ぶ。予防可能な理学療法について紹介する。</p> <p>第3回 配布資料解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 スポーツ障害の理学療法プログラム 各スポーツ傷害について、疾患の特徴をそれぞれ説明し、発生機序について学ぶ。術後のリハビリから復帰までの関わり合いについて学ぶ。</p> <p>第4回 配布資料解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 テーピングについて テーピングの目的を知り、テーピングの種類・テーピングの巻き方について学び、実際にテーピングを用いて巻くことができるようになる。 資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。</p> <p>第5回 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 足関節内反捻挫に対するテーピング① アンカー、フォースシュー 足関節内反捻挫に対するテーピングができるようになる。アンカー・フォースシュー・スターアップ・フィギア8・ヒールロックの巻き方を学ぶ。 資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。</p> <p>第6回 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 足関節内反捻挫に対するテーピング② スターアップ、エイトフィギア 足関節内反捻挫に対するテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p>
------	---

	<p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。</p> <p>浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 足関節内反捻挫に対してのテーピング③ ヒールロック，ダブルヒールロック 足関節内反捻挫に対してのテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p> <p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。</p> <p>浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 足関節内反捻挫に対してのテーピング④ 第4回～第7回まで実施してきた内容に対する実技試験</p> <p>3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。</p> <p>浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>[服装指定] Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)</p> <p>[学習方法] 基礎を学びながら、実際に体験して学びます。</p> <p>解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	実技試験(60%)、ポートフォリオ(40%)。実技試験，ポートフォリオで6割に達していない場合，再試験および再提出とする。
教科書	毎回の授業で資料を配布する。
参考書	スポーツ理学療法 浦辺幸夫(著) 医歯薬出版株式会社 スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 園部俊晴(著)，運動と医学の出版社
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称：*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
村山明彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。この定義に準拠した理学療法を実践・実証していくための方法論を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①ヘルスプロモーションの定義について述べることができる。 ②健康増進法の概要について述べるができる。 ③科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）の実践と実証について述べるができる。</p>
------------	---

授業の概要	ヘルスプロモーション理学療法（特に介護予防分野）におけるエビデンスの概要を理解し、さらにはその実践活動について学ぶ。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係				
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①	○			○
②			△	
③				◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ヘルスプロモーションの定義、健康増進法の概要 【key words】ヘルスプロモーション、健康増進法 この授業の位置づけについて理解する。ヘルスプロモーションの定義や、社会的ニーズの高さを知る。また、健康増進法の概要について学ぶ。 厚生労働省 健康日本21（総論） http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/s0.html 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.joanet.or.jp/</p> <p>第2回 ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題① 【key word】文献レビュー（和文） わが国におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。また、理解を深めるために必要な文献レビューの方法についても紹介する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/06091306/002.html ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p> <p>第3回 ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題② 【key word】文献レビュー（英文） 世界におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。また、理解を深めるために必要な文献レビューの方法についても紹介する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ Minds（マインズ）ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p> <p>第4回 地域におけるヘルスプロモーションの実践①～フレイル予防～ 【key word】フレイル 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。また、フレイル予防について学ぶ。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html フレイルに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p>
------	---

	<p>第5回 地域におけるヘルスプロモーションの実際②～転倒予防～ 【key word】 転倒予防 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。また、転倒予防について学ぶ。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyoubou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 転倒予防に関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p> <p>第6回 地域におけるヘルスプロモーションの実際③～認知症予防～ 【key word】 認知症予防 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。また、認知症予防について学ぶ。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 認知症に関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p> <p>第7回 科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）① 【key word】 統計解析 科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）を理解する上で、必要となる知識を整理する。また、統計解析の結果を解釈するための方法を学ぶ。 大阪市立大学大学院医学研究科 医療統計学 http://kwk.wpblog.jp/ 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p> <p>第8回 科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）② 【key word】 費用対効果 グループごとに、オリジナルの介護予防プログラムを、費用対効果を含めてプレゼンテーションする。 大阪市立大学大学院医学研究科 医療統計学 http://kwk.wpblog.jp/ 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ① 予習・復習は必須である。 ② 授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 〔受講のルール〕 ① 授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ② 受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シヤトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート100%
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	大渕修一，浦辺幸夫 監修，吉田剛，井上和久 編：予防理学療法学要論．医歯薬出版
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 2016年より群馬県内の市町村において、ヘルスプロモーションに寄与するための活動を行っている。 また、医療専門職向けの講習において、ヘルスプロモーションに関する講演を定期的に行っている。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位 (60)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 自立を援助する介助方法を身に付け、体験学習が円滑に実施できるようにする。地域リハビリテーションの対象者について面談から理学療法評価の一連の流れが安全・効率的に実践できる。また、地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①基本的な介助方法（起居動作から移乗動作まで）の説明と実施ができる。 ②体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。 ③情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。 ④多職種の役割を理解したうえで、連携の必要性を説明できる。</p>			
授業の概要	<p>地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する多職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 生活期における理学療法 ADLに着目して地域で生活している高齢者、障害者に対して理学療法士が関わる際に、GOLの向上を考えることはもちろんであるが、動作の専門家としてADLと身体機能の関係を考えられなければならない。よって、初回の講義では、ADL動作に対する着眼点について理解する。 key words：地域 生活期 理学療法 ADL QOL 教科書：ADL P 14 ～ 25 その他、資料配布 予習：ADL動作、基本動作について復習しておくこと</p> <p>第2回 介助方法① 起居動作 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。 key words:起居動作、バイオメカニクス、重心 教科書：ADL P 36 ～ 103 予習：教科書の事前学習が必須となる。</p> <p>第3回 介助方法② 立ちあがり 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。 key words:立ち上がり動作、バイオメカニクス、重心 教科書：ADL P 36 ～ 103 教科書の事前学習が必須となる。</p> <p>第4回 介助方法③ 移乗動作（部分介助） 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。 key words:移乗動作、バイオメカニクス、重心 教科書：ADL P 36 ～ 103 教科書の事前学習が必須となる。</p> <p>第5回 介助方法④ 移乗動作（全介助） 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。 key words:移乗動作、バイオメカニクス、重心 教科書：ADL P 36 ～ 103 教科書の事前学習が必須となる。</p> <p>第6回 体験学習① 準備 疾患の理解 検査測定実習で見学・体験させて頂いた対象者について、全体像を把握するために必要な疾患に対する理解を深める。 key words:全体像、理学療法</p>			

第7回	<p>予習：全体像を把握するために必要な疾患の特徴を調べる 体験学習② 準備 情報の整理 検査測定実習で見学・体験させて頂いた対象者について、全体像を把握するために必要な情報を整理する。 key words:全体像、理学療法</p>
第8回	<p>予習：全体像を把握するために必要な情報を挙げる 介助方法のまとめ - 起居動作から移乗動作まで - 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。 key words:起居動作、移乗動作、バイオメカニクス、重心 教科書：ADL P 36 ～ 103 教科書の事前学習が必須となる。</p>
第9回	<p>体験学習③ 検査測定実習で見学・体験させて頂いた対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。 key words:全体像、検査測定、理学療法 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出</p>
第10回	<p>体験学習④ 検査測定実習で見学・体験させて頂いた対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。 key words:全体像、検査測定、理学療法 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出</p>
第11回	<p>多職種との連携 看護師 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、看護師との連携に焦点を当て、看護師の役割を学ぶ。 key words:多職種連携、看護師、理学療法</p>
第12回	<p>多職種との連携 作業療法士 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、作業療法士との連携に焦点を当て、作業療法士の役割を学ぶ。 key words:多職種連携、作業療法士、理学療法</p>
第13回	<p>多職種との連携 言語聴覚士 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、言語聴覚士との連携に焦点を当て、言語聴覚士の役割を学ぶ。 key words:多職種連携、言語聴覚士、理学療法</p>
第14回	<p>多職種との連携 社会福祉士 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、社会福祉士との連携に焦点を当て、社会福祉士の役割を学ぶ。 key words:多職種連携、社会福祉士、理学療法</p>
第15回	<p>多職種との連携 介護福祉士 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、介護福祉士との連携に焦点を当て、介護福祉士の役割を学ぶ。 key words:多職種連携、介護福祉士、理学療法</p>
第16回	<p>行政で働く理学療法士（外部講師） 理学療法士の職域について、特に行政における理学療法士の役割とは何か。前橋市の活動を例にとりて説明する。 key words:多職種連携、行政、理学療法</p>
第17回	<p>体験学習オリエンテーション 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。今回は、今後実施される体験学習の概要を説明する。 key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：地域サービスには何があるか調べておくこと A4ファイルを用意すること 課題：体験学習を実施する施設について下調べをすること</p>
第18回	<p>体験学習 -水浴リハビリの実際- 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。 key words:地域サービス、水浴、理学療法 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をディリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p>
第19回	<p>体験学習 -水浴リハビリの実際- 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。 key words:地域サービス、水浴、理学療法 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をディリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p>
第20回	<p>体験学習 -地域サービスの実際①- 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。 key words:地域サービス、介護予防、理学療法 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をディリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p>
第21回	<p>体験学習 -地域サービスの実際①- 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。</p>

第22回	<p>key words:地域サービス、介護予防、理学療法 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p>
第23回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p>
第24回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>訪問リハビリテーションの実際（外部講師） 理学療法士の職域について、特に訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは何か。認定呼吸療法士の講義を聴講する。予習：訪問リハビリテーションについて調べてくること</p>
第25回	<p>key words:多職種連携、生活期、訪問理学療法 体験学習 ー地域サービスの実際②ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。予習：小規模多機能、認知症の方とのコミュニケーションについて調べておくこと</p>
第26回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p>
第27回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：小規模多機能、認知症の方とのコミュニケーションについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p>
第28回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：小規模多機能、認知症の方とのコミュニケーションについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p>
第29回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法 予習：小規模多機能、認知症の方とのコミュニケーションについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること</p> <p>体験学習 発表① 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p>
第30回	<p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法、発表 課題：発表用レジュメA4 1枚 予習：発表準備をすること</p> <p>体験学習 発表② 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p> <p>key words:地域サービス、多職種連携、理学療法、発表 課題：発表用レジュメ A4 1枚 予習：発表準備をすること</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>体験学習は出席を前提とするため休まず予習（実技を含む）を行った上で臨むこと。 体験学習の実習記録は、翌日の9：00までに提出すること。 内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>チャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること</p>
オフィスアワー	<p>木曜日16時～17時、その他の曜日については要予約</p>

評価方法	実技試験40% 体験学習シート30% 発表30%
教科書	柴喜崇 編集：PTOTビジュアルテキスト ADL 第1版 羊土社
参考書	授業内で適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	自由選択
担当教員			
柴ひとみ 榊原清			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 地域リハビリテーションの中の介護予防分野において、健康寿命を延伸するためにPTとして行えることは何かを考え、実践できる力を身に付ける。また、小規模多機能や訪問リハビリなどの地域サービスの実践を学び、地域における理学療法士の役割や他職種との連携を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムの仕組みについて理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①健康寿命について説明できる。 ②健康寿命を延伸する目的で、PTとして行うべきことを列挙することができる。 ③訪問リハビリの目的について説明できる。 ④地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その目的について説明ができる。</p>
------------	--

授業の概要	地域で生活する高齢者、障害者の視点に立ち、安全・安心に暮らせるような住環境の整備や活動性の維持・向上を図るために必要な戦略を学ぶ。介護保険分野や介護予防分野におけるPTの役割を明確にする。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムにおける理学療法とは 地域包括ケアシステムの重要性を再確認したうえで、介護予防分野、医療保険分野、介護保険分野における理学療法の位置づけを考える。 key words: 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 課題：地域包括ケアシステムについて調べておくこと</p> <p>第2回 訪問リハビリにおける理学療法－準備－ 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法 課題：アプローチ内容をまとめること</p> <p>第3回 訪問リハビリにおける理学療法－準備－ 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法 課題：アプローチ内容をまとめること</p> <p>第4回 訪問リハビリの実際－見学－ 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法、実習 課題：生活をみる視点をまとめること</p> <p>第5回 訪問リハビリの実際－見学－ 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法、実習 課題：生活をみる視点をまとめること</p> <p>第6回 訪問リハビリの実際－見学－ 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法、実習 課題：生活をみる視点をまとめること</p> <p>第7回 訪問リハビリの実際－見学－ 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法、実習 課題：実習内容をポートフォリオにまとめ、翌日の9時に提出すること</p> <p>第8回 訪問リハビリの実際－発表、まとめ－ 訪問リハビリのサービスを利用されている方々の生活やリハビリ内容を発表する。これにより訪</p>
------	---

	<p>問リハビリの目的を明らかにする。 key words: 地域包括ケアシステム、生活、理学療法 課題: 各班の発表をまとめておくこと、ポートフォリオの提出</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁。 体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。 内容が類似した実習記録は受け付けないため、自己の努力により作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>コメントカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>前回の復習をして授業に臨むこと。 体験学習にあたっては、事前に準備（情報収集や実技練習）をすること。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日については要予約</p>
評価方法	<p>ポートフォリオ100%</p>
教科書	<p>授業内で適宜紹介する。</p>
参考書	<p>授業内で適宜紹介する。</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
柴・小島			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床技能の実践を中心に、理学療法士として必要な「知識」「技能」「態度」を確実に身につけることが目的である。</p> <p>[到達目標] ①「感染予防」「医療面接」「リスク管理」「検査測定」について、決められた時間内に安全かつ正確に実施することができる。 ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。 ③評価に関わる検査測定技術を身に付ける事ができる。</p>
------------	---

授業の概要	近年、理学療法臨床実習においてクリニカルクラークシップ形式の実習スタイルが推奨されている。そのような中、実習に臨む学生には、患者に理学療法介入を行うための「知識」「技能」「態度」が求められる。臨床実習指導 I では実際の臨床技能の習得に着目して、実習前後の達成度を測るためにOSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/臨床実習の手引き 評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。 key words: 臨床技能、評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト 実習手引き予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p> <p>第2回 臨床技能を高めるために① 臨床においては、対象者に対面した時から理学療法が開始される。臨床技能に必要な医療面接が適切に行えるよう実践する。 key words: 臨床技能、医療面接、理学療法 当該項目を予習・復習し、ポートフォリオにまとめること</p> <p>第3回 臨床技能を高めるために② 臨床においては、対象者に対面した時から理学療法が開始される。臨床技能に必要な検査測定が適切に行えるよう実践する。 key words: 臨床技能、検査測定、理学療法 当該項目を予習・復習し、ポートフォリオにまとめること</p> <p>第4回 臨床技能を高めるために③ 臨床においては、対象者に対面した時から理学療法が開始される。臨床技能に必要な検査測定が適切に行えるよう実践する。 key words: 臨床技能、検査測定、理学療法 当該項目を予習・復習し、ポートフォリオにまとめること</p> <p>第5回 臨床技能を高めるために④ 臨床においては、対象者に対面した時から理学療法が開始される。臨床技能に必要な検査測定が適切に行えるよう実践する。 key words: 臨床技能、検査測定、理学療法 当該項目を予習・復習し、ポートフォリオにまとめること</p> <p>第6回 臨床技能を高めるために⑤/OSCEオリエンテーション 臨床においては、対象者に対面した時から理学療法が開始される。臨床技能に必要な検査測定が適切に行えるよう実践する。 key words: 臨床技能、検査測定、理学療法、OSCE 当該項目を予習・復習し、ポートフォリオにまとめること</p> <p>第7回 評価実習の進めかた① 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。 key words: 臨床技能、評価、理学療法 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p>
------	--

第8回	<p>評価実習の進めかた②</p> <p>対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：実習の手引きを熟読しておくこと</p> <p>復習：本講義の内容をまとめておくこと</p>
第9回	<p>評価実習の進めかた③/個人情報保護</p> <p>理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について理解する。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて確認する。</p> <p>key words:臨床技能、個人情報保護、理学療法</p> <p>予習：実習の手引きを熟読しておくこと</p> <p>復習：本講義の内容をまとめておくこと</p>
第10回	<p>評価実習における提出物について</p> <p>臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジユメの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：実習の手引きを熟読しておくこと</p> <p>復習：本講義の内容をまとめておくこと</p>
第11回	<p>症例に関する情報収集について</p> <p>対象者の情報を取得する方法や各々の情報に含まれる項目について整理する。また、検査測定を行う前に各々の情報から考えられる問題点を予測することの重要性を理解する。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：各々の情報に含まれる項目について復習しておくこと</p>
第12回	<p>症例の問題点の把握</p> <p>各々の情報や検査測定結果から関連図を導き出し、統合と解釈を行ったうえで、問題点を抽出する過程について整理する。</p> <p>検査測定前に予測した問題点との摺り合せを行う。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：関連図の記載について復習しておくこと</p>
第13回	<p>症例の全体像の把握</p> <p>情報収集、検査測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定という一連の過程を経て、対象者を「生活する人」として捉えながら、全体像を把握できるようにする。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p>
第14回	<p>実習前OSCEの実施</p> <p>OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法、OSCE</p>
第15回	<p>実習前OSCEの振り返り</p> <p>OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、良かった点、改善すべき点についてまとめること</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法、OSCE</p> <p>課題：実習前OSCE振り返りシートの提出</p>
第16回	<p>評価実習に向けた目標設定</p> <p>評価実習に向け目標を立て、個々の目標を達成させるために必要な達成目標を考える。目標シートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>課題：目標シートの提出</p>
第17回	<p>レジユメ発表①</p> <p>実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：発表の準備をしておくこと</p> <p>復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p>
第18回	<p>レジユメ発表②</p> <p>実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：発表の準備をしておくこと</p> <p>復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p>
第19回	<p>レジユメ発表③</p> <p>実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：発表の準備をしておくこと</p> <p>復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p>
第20回	<p>レジユメ発表④</p> <p>実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：発表の準備をしておくこと</p> <p>復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p>
第21回	<p>レジユメ発表⑤</p> <p>実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>key words:臨床技能、評価、理学療法</p> <p>予習：発表の準備をしておくこと</p> <p>復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p>

第22回	レジュメ発表⑥ 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床技能、評価、理学療法 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと
第23回	レジュメ発表⑦ 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床技能、評価、理学療法 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと
第24回	レジュメ発表⑧ 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床技能、評価、理学療法 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと
第25回	レジュメ発表⑨ 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床技能、評価、理学療法 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと
第26回	ケースの振り返り レジュメ発表をもとに、情報収集や理学療法の検査測定結果から問題点抽出、目標設定までの評価の流れについて理解を深めることを目的とする。問題点の把握、対象者の全体像について再検討する。 key words:臨床技能、評価、理学療法、振り返り
第27回	臨床実習に向けた目標設定 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける key words:臨床技能、評価、理学療法 課題：目標振り返りシートの提出
第28回	実習後OSCEの実施 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 key words:臨床技能、評価、理学療法、OSCE
第29回	実習後OSCEの実施 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 key words:臨床技能、評価、理学療法、OSCE
第30回	実習後OSCEの振り返り OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、良かった点、改善すべき点についてまとめること key words:臨床技能、評価、理学療法、OSCE 課題：実習後OSCE振り返りシートの提出
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・実技を行うときはゲーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。 [受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	臨床技能は、度重なる練習を経て身につくものである。授業内で数回実施すれば身につくものではない。授業時間外での学習が必須となるので、PT、患者、評価者役を作り練習を重ねてほしい。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート
<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない |
|--|

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦・浅野貞美			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法関連研究の基本的な考え方、および統計解析の基礎を学び、それらを実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①理学療法関連研究の基本的な考え方を説明できる。 ②ガイドラインについて説明できる。 ③統計解析の基礎を説明できる。</p>
------------	--

授業の概要	理学療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。理学療法セミナー I では、研究の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力などを身につけることを目的とする。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①			◎	○
②	○		○	◎
③			△	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション～なぜ研究をするのか?～ 村山・浅野 【key words】科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) の概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>第2回 研究の基礎①～文献(和文・英文)を効率よく検索する～ 村山 【key words】文献レビュー 文献(和文・英文)を効率よく検索するために必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 群馬医療福祉大学図書館 http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>第3回 理学療法分野における研究の意義と目的 浅野 【key words】理学療法研究 理学療法分野における研究の意義と目的を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>第4回 研究デザインの種類 浅野 【key words】研究デザイン 研究デザインの種類を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>第5回 研究に必要な基礎知識 浅野</p>
------	---

第6回	<p>【key words】研究に必要な基礎知識 研究に必要な基礎知識について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>臨床研究の進め方① 浅野</p>
第7回	<p>【key words】臨床研究の進め方 臨床研究の進め方について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>臨床研究の進め方② 浅野</p>
第8回	<p>【key words】臨床研究の進め方 臨床研究の進め方について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>研究の基礎②～身近な例で研究デザインを考える～ 村山</p>
第9回	<p>【key words】研究デザイン 身近な例で研究デザインの概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎①～記述統計～ 村山</p>
第10回	<p>【key words】記述統計 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学によろこそ！ http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学によろこそ！ http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎②～対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定～ 村山</p>
第11回	<p>【key words】対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎③～対応のないT検定、マンホイットニーのU検定～ 村山</p>
第12回	<p>【key words】対応のないT検定、マンホイットニーのU検定 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎④～分散分析、クルスカルウォリス検定、フリードマン検定～ 村山</p>
第13回	<p>【key words】分散分析、クルスカルウォリス検定、フリードマン検定 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎⑤～相関と回帰①～ 村山</p>
第14回	<p>【key words】相関と回帰 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと</p> <p>統計解析の基礎⑥～相関と回帰②～ 村山</p>

	<p>【key words】 相関と回帰 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと まとめ～学会抄録・投稿論文の査読者の視点から～ 村山・浅野</p> <p>【key words】 研究計画、研究倫理審査 研究計画書と研究倫理審査申請書の作成の概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 山田知子：論文の書き方. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 15(1): 43-47, 2017. 西尾正輝：医学系論文における文章の書き方. デイサースリア臨床研究 1～14回目までの内容を復習し、自らの研究計画（案）をプレゼンテーションできるように準備しておくこと</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。</p> <p>〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）</p>
<p>評価方法</p>	<p>レポート40% 筆記試験60%</p>
<p>教科書</p>	<p>山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究はじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます. 羊土社 山田 実/編, 浅井 剛, 土井剛彦/編集協力: メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法「目的」と「データの種類」で簡単検索! 適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる. 羊土社</p>
<p>参考書</p>	<p>西内啓: 統計学が最強の学問である データ社会を生き抜くための武器と教養. ダイヤモンド社 新谷歩: 今日から使える 医療統計. 医学書院 森本剛: 査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析. 中山書店 柳井久江: 4stepsエクセル統計 第4版. オーエムエス出版 末吉正成, 末吉美喜: EXCELビジネス統計分析 第3版. 翔泳社</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニ ング</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 日本転倒予防学会誌（編集委員・査読者）、理学療法群馬（編集委員長・査読者）、日本予防理学療法学会 査読者、日本地域理学療法学会 査読者、日本基礎理学療法学会 査読者としての経験を有する。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> デイスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美・柴ひとみ			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 呼吸器疾患に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 「知識・理解」 ①内部障害の定義が説明できる。 ②代表的な呼吸器疾患の病態と治療が説明できる。 ③呼吸器疾患に対するリスク管理について説明できる。 ④呼吸器疾患に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。</p> <p>「思考・判断」 ①課題のテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成し発表できる。 ②プレゼンテーションにおいて専門用語を</p>
------------	---

授業の概要 代表的な呼吸器疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸リハビリテーションの意義と目的、その方法を学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、内部障害の定義・疫学・歴史的背景 オリエンテーション、内部障害の定義・疫学・歴史的背景 I. 小テスト実施 身体障害者福祉法では身体障害の領域はどのように規定されているか？ 内部障害の定義を説明しなさい。 内部障害の種類を説明しなさい。 内部障害の最近の傾向を説明しなさい。</p> <p>II. 科目オリエンテーション III. 内部障害の定義・疫学・歴史的背景配布資料あり。提出課題 課題タイトル「内部障害に対する理学療法を学ぶ重要性」 A4用紙にて作成し、授業開始チャイムが鳴る前に、授業で使用する教室の教卓の上に提出しておくこと。</p> <p>第2回 呼吸器系の解剖学・運動学 key words：呼吸器系の解剖学、運動学</p> <p>①key wordsに関する小テストの実施 ②呼吸器系の解剖学・運動学について、フィジカルアセスメントにつながるように知識を整理する。教科書該当ページその他、解剖学、運動学の教科書も参考とする。小テスト実施。</p> <p>第3回 呼吸器系の生理学（呼吸運動のメカニズム、呼吸リズムの調節） key words：呼吸運動のメカニズム、呼吸リズム、ガス交換</p> <p>呼吸運動のメカニズム、呼吸調節、ガス交換について理解する。 教科書該当ページその他、解剖学、運動学の教科書も参考とする。小テスト実施 2年次までに学習されている範囲について国試形式で出題する。</p> <p>第4回 呼吸器系の生理学（酸塩基平衡、動脈血液ガスの理解） key words：酸塩基平衡、動脈血液ガス</p> <p>酸塩基平衡、動脈血液ガスのみかたを理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようにする。教科書該当ページ。配布資料あり。提出課題あり。講義内で説明する。</p>
------	--

第5回	呼吸器系の生理学（呼吸機能測定の種類と内容、スパイロメトリー、フローボリューム曲線） key words：スパイロメトリー、フローボリューム曲線
第6回	呼吸機能測定の種類と内容、スパイロメトリー、フローボリューム曲線について理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようになる。教科書該当ページ。配布資料あり。提出課題あり。講義内で説明する。 呼吸不全の病態と呼吸器疾患 key words：呼吸不全、呼吸器疾患
第7回	呼吸不全の定義、換気障害の種類、呼吸器疾患について理解し、理学療法との関連をイメージする。教科書該当ページの他、解剖学、運動学の教科書も参考とする。小テスト実施 呼吸不全の定義、換気障害の種類、呼吸器疾患について2年次までに学習されている範囲について国試形式で出題する。 呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメント①） key words：視診、触診、聴診、打診
第8回	呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。提出課題あり。講義内で説明する。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講すること。 呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメント②） key words：視診、触診、聴診、打診
第9回	呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。提出課題あり。講義内で説明する。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講すること。 呼吸理学療法における評価（運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態） key words：運動耐容能、ADL、QOL
第10回	呼吸器疾患患者の運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態について学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。提出課題あり。講義内で説明する。 包括的呼吸リハビリテーション（コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニング） key words：呼吸リハビリテーション、包括的プログラム
第11回	コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニングについて学ぶ。配布資料あり。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講すること。 呼吸理学療法の実践 key words：呼吸理学療法
第12回	呼吸理学療法の実践について学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講すること。 呼吸理学療法基本手技（排痰法） key words：排痰法
第13回	呼吸理学療法基本手技（排痰法）について学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講提出課題あり。講義内で説明する。 呼吸理学療法基本手技（呼吸介助） key words：呼吸介助
第14回	呼吸理学療法基本手技（呼吸介助）について学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。実技あり。学校ジャージ・ポロシャツ着用にて受講すること。 酸素療法、在宅酸素療法 key words：酸素療法、在宅酸素療法
第15回	酸素療法、在宅酸素療法について学ぶ。配布資料あり。教科書該当ページを参照。提出課題あり。講義内で説明する。 COPD患者に対する呼吸リハビリテーション 呼吸リハビリテーションの内容について理解する。配布資料あり。教科書該当ページを参照。提出課題あり。講義内で説明する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実習を行う際は、白衣または大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。） 受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③講義
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

評価方法	筆記試験（客観）60% 課題20% 小テスト20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂②動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版：中山書店
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標 義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。また、主な義足のアライメントの異常や下肢装具のチェックポイントを説明できることを目的とする。

授業の概要 「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、短下肢装具の型どりを体験するとともに下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価 切断者の評価、全身、断端部、心理切断者の術前から術後のリハビリテーションの流れを紹介する。全身の評価や断端部の評価を行う際の評価項目の列挙を行うとともにそれらの意義と目的を明確にする。p47～予習：切断者の評価について、その内容を調べておくこと
	第2回	断端管理法 義足装着前理学療法 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作を安全に行う方法とその根拠について実習を通して学ぶ。p75～予習：主な断端管理法について調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第3回	早期義肢装着法と義足の適合 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作の方法とその根拠について実習を通して学ぶ。p75～予習：早期義肢装着法の利点を調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第4回	大腿義足のアライメントと異常歩行① 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p129～3つのアライメントの違いを調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第5回	大腿義足のアライメントと異常歩行② 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p132～初期屈曲角とは何か調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第6回	下腿義足のアライメントと異常歩行① 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p150～下腿義足について復習しておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第7回	下腿義足のアライメントと異常歩行① 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p150～3つのアライメントの違いを調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第8回	下肢装具のアライメントと異常歩行① 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p150～初期屈曲角について調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第9回	下肢装具のアライメントと異常歩行② 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。p150～アライメント以外の原因で起きる異常歩行について調べておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第10回	上肢装具・体幹装具・膝装具の実際 各種上肢装具や体幹装具、膝装具の特徴をまとめるとともにチェックポイントについてその理由とともに整理する。p240～予習：義肢装具学で学んだ上肢装具や体幹装具について復習しておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。
	第11回	プラスチック装具の採型① (外部講師) プラスチック製短下肢装具の採型実習を通し、装具ができるまでの過程を学ぶ。また、完成した装具を装着した場合のチェックポイントについてその理由とともに理解する。p222～復習：プラスチック製短下肢装具が完成するまでの過程とチェックポイントについて整理しておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。

	<p>第12回 プラスティック装具の採型②（外部講師） プラスチック製短下肢装具の採型実習を通し、装具ができるまでの過程を学ぶ。また、完成した装具を装着した場合のチェックポイントについてその理由とともに理解する。p222～復習：プラスチック製短下肢装具が完成するまでの過程とチェックポイントについて整理しておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。</p> <p>第13回 義肢製作所の見学① 義肢や装具の部品の作成や義足や下肢装具、体幹装具などの制作過程を見学することで義肢装具の理解を深める。なし時間の厳守と移動中の安全をはかること。前回の授業内容について、小テストを行う。</p> <p>第14回 義肢製作所の見学② 義肢や装具の部品の作成や義足や下肢装具、体幹装具などの制作過程を見学することで義肢装具の理解を深める。なし時間の厳守と移動中の安全をはかること。前回の授業内容について、小テストを行う。</p> <p>第15回 義肢装具実習のまとめ 代表的な義肢装具のまとめを行う。各回の小テストを用意しておくこと。各回の小テストの振り返りをしておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や実習、見学は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。 ・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくること。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 100% ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	義肢装具学テキスト 細田 多穂 監 南江堂
参考書	日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>			
授業の概要	中枢神経障害を呈する代表的疾患に対しての基本的な理学療法の進め方について学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 脳血管障害に対する理学療法①：脳損傷と回復/科目オリエンテーション 脳損傷の回復、予後予測・機能予測、画像所見・科目オリエンテーション ・脳損傷と回復、機能予測について理解 ・画像所見と脳の機能局在、伝導路を理解 ・基礎知識確認小テスト(神経障害理学療法学Ⅰレクチャー1?3) ◎神経障害理学療法学Ⅰ：p33? ○中枢神経障害理学療法学テキスト：p25?、p36 運動療法学：p269?予習：小テスト範囲について学習を進める 神経内科学、理学療法評価、運動療法学Ⅱ、運動療法学実習Ⅱの内容を中心に、神経疾患に関する復習をすること。授業内容を確認し、これまで学んだ内容が</p> <p>第2回 脳血管障害に対する理学療法②：Impairment / Activity Limitation評価 ・小テスト実施(小テスト範囲：神経障害理学療法学Ⅰレクチャー1?3) ・脳血管障害片麻痺に対するImpairment ・脳血管障害片麻痺に対するActivity limitation ・脳血管障害片麻痺に対する評価…SIASを含む◎神経障害理学療法学Ⅰ：p73?92 ○中枢神経障害理学療法学テキスト：p37? ・運動療法学：p269?予習：小テスト対策を実施、ICF、ADL評価(FIM、Barthel Index) 復習：ICFの理解、Impairment、Activity limitation</p> <p>第3回 脳血管障害に対する理学療法③：座位・立位 ・ポジショニング ・座位練習 ・寝返り・起き上がり練習 ・立ち上り練習。片麻痺の基本動作について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。 ・亜脱臼に対する配慮◎神経障害理学療法学Ⅰ：p83?92、p103?112 ○中枢神経障害理学療法学テキスト：p65?115、p140 ・運動療法学：p269?281、308?354 ・臨床活用講座：p30?復習：課題指向型アプローチの考え方に沿って起居動作、座位、立ち上り練習について考える ?Activity Limitationを引き起こすImpairmentを推察し、因果関係を考える</p> <p>第4回 脳血管障害に対する理学療法④：歩行 ・正常歩行・代表的な異常歩行 ・脳血管障害片麻痺患者の歩行特徴について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。 ・歩行機能に対する運動療法・介助歩行・平行棒内歩行・階段練習・装具歩行◎神経障害理学療法学Ⅰ：p113?122 ○臨床活用講座：p168? ○運動療法学：p269?281、308?354 ・中枢神経障害理学療法学テキスト：p65?154予習：正常歩行の動作分析、ロッカー機能、代表的な異常歩行とその原因、補装具 復習：歩行動作のメカニズム評価(臨床活用講座：p203?)</p> <p>第5回 脳血管障害に対する理学療法⑤：Pusher現象と半側空間無視、注意障害 ・Pusher現象について理解 ・Pusher現象の評価 ・Pusher現象に対する理学療法アプローチ ・半側空間無視について理解と理学療法アプローチについて、実際にプレゼンテーションをして</p>			

	<p>もらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意障害に対する理学療法アプローチ◎神経障害理学療法学 I : p135?144 <p>◎配布プリント(注意障害)</p> <p>◎臨床運動学p89?</p> <p>◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p155?161</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法学 : p370?385 予習 : 高次脳機能障害の病態 <p>復習 : 高次脳機能障害 (半側空間無視や注意障害) とバランス能力、日常生活との因果関係を考える</p>
第 6 回	<p>パーキンソン病の理解と理学療法① : 基本的な考え方・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病の病態について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。 ・パーキンソン病患者の姿勢・動作を捉える ・パーキンソン病の評価・理学療法の考え方を学ぶ◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p313?339 <p>◎理学療法評価学 : p455?473</p> <p>◎臨床運動学p113?</p> <p>◎配布プリント予習 : パーキンソン病の病態を理解する</p> <p>復習 : パーキンソン病の動作と病態の関連性を理解する</p>
第 7 回	<p>パーキンソン病の理解と理学療法② : 理学療法の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースからパーキンソン病に対する統合と解釈、問題点を抽出する ・病期別にパーキンソン病に対する理学療法プログラムを考える ・小テスト (パーキンソン病) ・課題 : ケース情報から課題に取り組む◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p313?339 <p>◎理学療法評価学 : p455?473</p> <p>◎臨床運動学p113?</p> <p>◎配布プリント予習 : 小テスト対策</p> <p>復習 : 統合と解釈、ゴール設定、着目点を考える</p>
第 8 回	<p>運動失調症 (脊髄小脳変性症・多系統萎縮症) の理解と理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の特徴を捉えた、リスク管理、理学療法評価 ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方 ・小テスト (運動失調) ◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p285?312 <p>◎理学療法評価学 : 協調性検査・運動失調症を中心とした内容</p> <p>◎配布プリント予習課題 : レポート (運動失調症)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク (特に理学療法施行する場合について考えるとよい) 3) 疾患・障害の理学療法評価 (特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載) 4
第 9 回	<p>頭部外傷の理解と理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の特徴を捉えた、リスク管理、理学療法評価 ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方 ・小テスト (頭部外傷) ◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p341?353 <p>◎理学療法評価学 : 高次脳機能障害</p> <p>◎配布プリント予習課題 : レポート (頭部外傷)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク (特に理学療法施行する場合について考えるとよい) 3) 疾患・障害の理学療法評価 (特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載) 4) 疾患・障害に対する理学
第 1 0 回	<p>多発性硬化症/筋萎縮性側索硬化症の理解と理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の特徴を捉えた、リスク管理、理学療法評価 ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方 ・小テスト (MS・ALS) ◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p355?366 <p>◎配布プリント予習課題 : レポート (多発性硬化症・ALS)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク (特に理学療法施行する場合について考えるとよい) 3) 疾患・障害の理学療法評価 (特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載) 4) 疾患・障害に対する理学療法評価・理学療法の
第 1 1 回	<p>筋ジストロフィー/多発性筋炎/重症筋無力症/ギラン・バレー症候群に対する理解と理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の特徴を捉えた、リスク管理、理学療法評価 ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方 ・小テスト実施 (筋ジストロフィー/ギラン・バレー症候群 等) ◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p367?377 <p>◎配布プリント予習課題 : レポート (筋ジストロフィー/ギラン・バレー症候群)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク (特に理学療法施行する場合について考えるとよい) 3) 疾患・障害の理学療法評価 (特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載)
第 1 2 回	<p>脊髄損傷の理解と理学療法① : 基本知識基本的考え方・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷に対する理学療法評価 ・脊髄損傷に対する理学療法の考え方について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p169?181 <p>◎配布プリント予習課題 : レポート (脊髄損傷)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク (特に理学療法施行する場合について考えるとよい) 3) 疾患・障害の理学療法評価 (特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載) 4) 疾患・障害に対する理学療法評価・理学療法の考え方・考慮点
第 1 3 回	<p>脊髄損傷の理解と理学療法② : 基本的考え方・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p169?181 <p>◎配布プリント予習・復習 : 脊髄損傷の病態・リスク管理について</p>
第 1 4 回	<p>脊髄損傷の理解と理学療法③ : 理学療法の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト (脊髄損傷) ・ケース情報から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方について、実際にプレゼンテーションをもらう。◎中枢神経障害理学療法学テキスト : p169?181

第15回	<p>◎配布プリント予習：小テスト対策 その他の神経障害に対する理学療法：末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷・褥瘡、排尿障害など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経障害に対する評価 ・末梢神経障害に対する統合と解釈、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、理学療法の考え方について、実際にプレゼンテーションをしてもらう。◎運動療法学：p282?291 <p>○配布プリント予習課題：レポート（末梢神経障害）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患・障害の特徴 2) 疾患・障害のリスク（特に理学療法施行する場合について考えるとよい） 3) 疾患・障害の理学療法評価（特有の評価内容や特に評価すべき内容のみを記載） 4) 疾患・障害に対する理学療法評価・理学療法の考え方・考慮点 <p>小テスト対策</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと</p> <p>[受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと ・講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用）は厳禁とする。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	<p>難易度は高めであっても臨床では普通に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと 課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある</p>
オフィスアワー	火曜日16時30分～
評価方法	筆記試験100%、授業に臨む姿勢、進行に合わせた課題・小テスト等も加味した総合評価にて判定する
教科書	細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014
参考書	<p>石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー，2013 脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013 石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 福井 閉彦ら・編：脳卒中最前線第4版，医歯薬出版，2009 中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016 千田 富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニック），メジカルビュー2017 潮見 泰藏：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017 武田 功・編</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>
授業の概要	疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 脳血管障害の理学療法ケーススタディ①：リハビリテーションの流れ/科目オリエンテーション履修済みのあらゆるキーワード・科目オリエンテーション：成績評価・授業の進め方 ・脳血管障害に対するリハビリテーションの流れを学ぶ ・急性期・回復期・生活期でのリハビリテーションの考え方の違いを学ぶ ・記録方法SOAPについて学ぶ※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I ◎中枢神経障害理学療法学テキスト ◎理学療法評価学テキスト予習：リハビリテーションの進め方、ICF分類について復習しておくこと</p> <p>第2回 脳血管障害の理学療法ケーススタディ②：情報収集・検査測定項目の選択・評価結果の解釈 ・CTなどの画像所見から得られる情報から検査を考える ・ケース情報から検査・測定項目を考える ・検査・測定項目の目的を考える □評価結果の解釈を実施する…課題 □評価結果をICFに沿って分類する…課題※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I ◎中枢神経障害理学療法学テキスト ◎理学療法評価学テキスト ◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際課題：提示された検査・測定結果の個々の解釈、検査・測定結果をICFに沿って整理する、KJ法</p> <p>第3回 脳血管障害の理学療法ケーススタディ③：統合と解釈 ・個々の検査測定結果から個々に解釈を実施する ・ICFに沿って情報を整理する ・ICFに沿って整理した情報から統合と解釈を実施する ・KJ法 □提示された情報から関連図の作成・統合と解釈を実施する…課題※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I ◎中枢神経障害理学療法学テキスト ◎理学療法評価学テキスト ◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際課題：提示されたケース情報、評価結果から障害構造の関連図を作成し、統合と解釈を実施すること</p> <p>第4回 脳血管障害の理学療法ケーススタディ④：問題点抽出、ゴール設定 ・統合と解釈を確認する ・統合と解釈から問題点の抽出、ゴール設定、プログラムを立案する ?課題指向型アプローチ □提示された情報から問題点の抽出、ゴール設定、プログラム立案を実施する※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I ◎中枢神経障害理学療法学テキスト ◎理学療法評価学テキスト</p>
------	---

第5回	<p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際課題：ケース情報、評価結果から統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案を実施すること</p> <p>脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑤：ケースに対する考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報から問題点の抽出、ゴール設定、プログラム立案を実施する ・立案したプログラムを実施する ・リハビリテーション経過・中間評価・最終評価から考察を実施する <p>□プログラム立案までを情報から考える…課題※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。</p> <p>◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I</p> <p>◎中枢神経障害理学療法学テキスト</p> <p>◎理学療法評価学テキスト</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際課題：提示されたケース情報から考察を実施すること</p>
第6回	<p>脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑥：歩行観察</p> <p>小テスト：正常歩行</p> <p>正常歩行を理解し、歩行観察・記録ができる。</p> <p>歩行観察からアセスメント（関連図を含む）ができる。※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。</p> <p>◎理学療法テキスト 臨床運動学</p> <p>◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I</p> <p>◎中枢神経障害理学療法学テキスト</p> <p>◎理学療法評価学テキスト</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際</p> <p>◎動作分析 臨床活用講座予習：正常歩行（小テスト対策）</p> <p>課題：歩行動画から歩行観察の結果記載と解釈（捉え方、異常歩行の原因に対して仮説立て）</p>
第7回	<p>脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑦：歩行観察、歩行分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース情報から考察を実施する ・正常歩行の理解 ・片麻痺患者の歩行（異常歩行）を理解 <p>□歩行動画から歩行観察の結果記載と解釈（捉え方、異常歩行の原因に対して仮説立て）・・・課題</p> <p>→具体的な理学療法プログラムを3つ以上考える※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。</p> <p>◎理学療法テキスト 臨床運動学</p> <p>◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I</p> <p>◎中枢神経障害理学療法学テキスト</p> <p>◎理学療法評価学テキスト</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際</p> <p>◎動作分析 臨床活用講座課題</p>
第8回	<p>脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑧：歩行に対する理学療法の展開・装具療法</p> <p>・歩行動画から歩行観察の結果記載と解釈（捉え方、異常歩行の原因に対して仮説立て）を実施</p> <p>？片麻痺患者に対する歩行練習を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片麻痺患者の歩行補助具・装具を考える <p>□歩行動画から歩行練習・歩行補助具、補装具を考える・・・課題</p> <p>→具体的なプログラムを考える※これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。</p> <p>◎理学療法テキスト 臨床運動学</p> <p>◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I</p> <p>◎中枢神経障害理学療法学テキスト</p> <p>◎理学療法評価学テキスト</p> <p>◎運動療法学 障害別アプローチの理論と実際</p>
第9回	<p>パーキンソン病の理学療法ケーススタディ：パーキンソン病に対する理学療法の考え方・評価・プログラム立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース情報から理学療法評価（検査・測定項目）を考える ・ケース情報から統合と解釈を実施し、問題点抽出、目標設定、プログラムを立案する ・治療プログラムが完成した学生より随時プログラムの実施について見極めを受けるこれまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。課題：プログラム立案、実施について検討し、見極めを受ける
第10回	<p>ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース情報から検査測定項目を考える上で重要なポイントを考える ・ケース情報からグループごとに検査測定項目を考え、実践する方法を検討する <p><ケース情報から実施する内容：症例：脳卒中①></p> <p>■ケース情報（1）から理学療法評価（検査・測定項目と目的）について口頭試問する。</p> <p>■ケース情報（2）から統合と解釈を実施し、問題点抽出、目標設定、プログラムを立案する症例について得られている情報から、リスク管理のあらゆる事からについて口頭試問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問 ・実技課題の提示／見極めこれまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。課題：ケース情報を元に統合と解釈、プログラムを考える
第11回	<p>ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価のプレゼンテーション <p><ケース情報から実施する内容：症例：脳卒中①></p> <p>■ケース情報（1）から理学療法評価（検査・測定項目と目的）について口頭試問する。</p> <p>■ケース情報（2）から統合と解釈を実施し、問題点抽出、目標設定、プログラムを立案する症例について得られている情報から、リスク管理のあらゆる事からについて口頭試問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問 ・実技課題の提示／見極めこれまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。課題：ケース情報を元に統合と解釈、プログラムを考える
第12回	<p>ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合と解釈、ケースからの症例レポートのFB／ケースについて各Gでのディスカッション <p><ケース情報から実施する内容：症例：脳卒中①></p> <p>■ケース情報（1）から理学療法評価（検査・測定項目と目的）について口頭試問する。</p> <p>■ケース情報（2）から統合と解釈を実施し、問題点抽出、目標設定、プログラムを立案する症</p>

	<p>例について得られている情報から、リスク管理のあらゆる事からについて口頭試問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問 ・実技課題の提示／見極めこれまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。課題：ケース情報を元 <p>第13回 ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに別れ担当するケースの情報から一連の理学療法プロセスを検討する ・理学療法プロセスのプレゼンテーションに向けた検討を行う ・理学療法（治療・介入）のプレゼンテーションに向けた検討を行う <p><ケース情報から実施する内容：症例：脳卒中①></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ケース情報（1）から理学療法評価（検査・測定項目と目的）について口頭試問する。 ■ケース情報（2）から統合と解釈を実施し、問題点抽出、目標設定、プログラムを立案する症例について得られている情報から、リスク管理のあらゆる事からについて口頭試問する。 <p>第14回 ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題⑤</p> <p>担当ケースに対するグループ発表会：1グループ30分 症例に対するの質疑応答、治療プログラムの実施 ※A3用紙1枚のレジュメを作成すること ※質問と応答にて加点これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。プレゼンテーション時間30分：10分プレゼンテーション、プログラム施行10分、質疑応答10分 ※A3一枚でレジュメを準備する</p> <p>第15回 ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題⑥</p> <p>担当ケースに対するグループ発表会：1グループ30分 症例に対するの質疑応答、治療プログラムの実施 ※A3用紙1枚のレジュメを作成すること ※質問と応答にて加点これまでの履修で使用した教科書を参考にして、考察を進める事。プレゼンテーション時間30分：10分プレゼンテーション、プログラム施行10分、質疑応答10分 ※A3一枚でレジュメを準備する</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] 高い思考力と実技能力が要求される。自力で思考展開ができ、かつ実践できるように学習を進めること。 [受講ルール] ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>治療技術の会得は繰り返しの練習が必要となる。時間外でも質問は随時受け付ける。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験100%であるが、授業に臨む姿勢、進行に合わせた課題・小テスト等の結果を加味し、総合評価にて判定する</p>
<p>教科書</p>	<p>細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014</p>
<p>参考書</p>	<p>石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I，中山書店，2011</p>
<p>実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法士国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 ①地域理学療法の概要について説明できる。 ②地域理学療法におけるキャリアラダーについて説明できる。 ③地域理学療法の対象および関連制度について説明できる。</p>
授業の概要	地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中で理学療法士に何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く制度・環境について理解を深める。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①		○	◎	
②	◎		○	
③			○	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 地域リハビリテーション総論 【key word】 地域リハビリテーション 科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuk 地域リハビリテーション、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, disability and Health) について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>第2回 地域理学療法の概念 【key word】 地域理学療法 地域理学療法の概念と、社会からのニーズの高さを理解する。 日本地域理学療法学会ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jscept/ 一般社団法人群馬県理学療法士協会ホームページ http://gunma-pt.com/?page_id=182 地域理学療法の概念について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>第3回 世界の動向とエビデンス 【key word】 エビデンス 地域理学療法における、世界の動向とエビデンスについて学ぶ。 地域理学療法診療ガイドライン http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/21_local_physiotherapy.pdf 在宅医療に関するエビデンス https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20150513_01_01.pdf 地域理学療法における、世界の動向とエビデンスに関する知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>第4回 地域理学療法におけるキャリアラダー 【key word】 キャリアラダー 地域理学療法におけるキャリアラダーを知り、将来の活躍の場を検討する一助とする。 日本地域理学療法学会 生涯学習の流れ http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/flow/ 日本地域理学療法学会 認定・専門理学療法士制度 http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/system/about/ 厚生労働省 介護支援専門員 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakun キャリアラダーについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
------	---

第5回	<p>医療保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】医療保険制度 医療保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 我が国の医療保険について http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/ 日本医師会 ホームページ https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3 医療保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第6回	<p>介護保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】介護保険制度 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET (ワムネット) 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第7回	<p>介護保険制度下での地域理学療法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】介護保険制度 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET (ワムネット) 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第8回	<p>障害者総合支援法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】障害者総合支援法 障害者総合支援法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 障害者総合支援法 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaiukahukushi/sougoushien/ 全国社会福祉協議会 障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレット http://www.shakyo.or.jp/business/pdf/pamphlet_h2704.pdf 障害者総合支援法について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第9回	<p>バリアフリー新法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】バリアフリー新法 バリアフリー新法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 国土交通省 バリアフリー新法の解説 http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/explanation/kaisetu/kaisetu_.pdf 福祉住環境コーディネーター検定試験 公式サイト http://www.kentei.org/fukushi/ バリアフリー新法について、知識を整理して授業に臨んでください。</p>
第10回	<p>健康増進法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】健康増進法 健康増進法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 健康増進法の概要 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf 消費者庁 健康や栄養に関する表示の制度について http://www.caa.go.jp/foods/index4.html 健康増進法について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第11回	<p>地域包括ケアシステム① ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第12回	<p>地域包括ケアシステム② ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第13回	<p>認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2_3.pdf 内閣官房 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ninchisho_taisaku/dail/siryoul.pdf 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p>
第14回	<p>新しい総合事業 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key word】新しい総合事業</p>

第15回	<p>新しい総合事業の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護予防・日常生活支援総合事業 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000074126.html 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 新しい総合事業の移行戦略、地域づくりに向けたロードマップ http://www.murc.jp/sp/1509/houkatsu/houkatsu_02_01_h27.pdf 新しい総合事業について、知識を整理をして授業に臨んでください。 まとめ ～教養としての社会保障制度と理学療法士に必要なポイント～ 【key word】教養としての社会保障制度 これまでの授業の振り返り 教養としての社会保障制度について考え、理学療法士に必要なポイントを理解する。 第1回目から第14回目までの授業を踏まえて、自らの考えをプレゼンテーションできるように準備してから、授業に臨んでください。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①予習・復習は必須である ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	筆記試験（客観）60% レポート40% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	河野眞 編：ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション 実践マニュアル、羊土社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く経験している。 また、生活支援理学療法を専門としている。</p> <p>アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法士国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を挙げ、どのような支援が必要かを考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。 ②生活環境支援理学療法について説明できる。 ③支援工学理学療法について説明できる。</p>
------------	---

授業の概要	地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①		◎	◎	
②	○			△
③	△			

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題 【key word】少子高齢社会の現状と課題 地域理学療法、ADL、住環境、少子高齢化地域で生活する高齢者や障害者に対し、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事は重要である。住みやすい住環境とは何か、どのように生活を改善すべきかを考える。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 2-6 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/</p> <p>第2回 ユニバーサル社会の実現の意義 小テスト① 【key word】ユニバーサル社会 ユニバーサル社会の実現の意義について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp8-10 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/</p> <p>第3回 日本の住環境の問題点 小テスト② 【key word】日本の住環境 日本の住環境の問題点について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 105-111 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 地域理学療法診療ガイドライン http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/21_local_physiotherapy.pdf 在宅医療に関するエビデンス https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20150513_01_01.pdf</p>
------	---

第4回	<p>障害のとらえ方 小テスト③</p> <p>【key word】障害のとらえ方 障害のとらえ方について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 76-82 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページhttp://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/0609</p>
第5回	<p>高齢者の健康と自立 小テスト④</p> <p>【key word】高齢者の健康と自立 高齢者の健康と自立について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 83-90 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 健康増進法の概要 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf 消費者庁 健康や栄養に関する表示の制度について http://www.caa.go.jp/foods/index4.html</p>
第6回	<p>バリアフリーとユニバーサルデザイン 小テスト⑤</p> <p>【key words】バリアフリー、ユニバーサルデザイン バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 116-146 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 国土交通省 バリアフリー新法の解説 http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/explanation/kaisetu/kaisetu_.pdf</p>
第7回	<p>高齢者向けの住宅施策の変遷と概要 小テスト⑥</p> <p>【key word】高齢者向けの住宅施策 高齢者向けの住宅施策の変遷と概要について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 11-35 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/</p>
第8回	<p>福祉住環境整備とケアマネジメント 小テスト⑦</p> <p>【key word】ケアマネジメント 福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 192-230 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/</p>
第9回	<p>生活行為別にみた安全・安心・快適な住まい 小テスト⑧</p> <p>【key word】生活行為 生活行為別にみた安全・安心・快適な住まいについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 259-306 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/</p>
第10回	<p>生活行為別にみた福祉用具の活用 小テスト⑨</p> <p>【key word】福祉用具 生活行為別にみた福祉用具の活用について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 338-390 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/</p>
第11回	<p>疾患別にみた福祉住環境整備 小テスト⑩</p> <p>【key word】福祉住環境整備 疾患別にみた福祉住環境整備について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 116-146 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/</p>
第12回	<p>障害別にみた福祉住環境整備 小テスト⑪</p>

	<p>【key word】福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 148-188 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/</p> <p>第13回 福祉住環境整備の共通基本技術 小テスト⑩</p> <p>【key word】福祉住環境整備 福祉住環境整備の共通基本技術について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 232-256 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト http://www.kentei.org/fukushi/</p> <p>第14回 福祉住環境整備の実際 - 事例検討 - グループでの発表①</p> <p>【key words】事例検討、グループワーク、プレゼンテーション グループ学習の成果を、グループごとに発表する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 392-430 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>第15回 福祉住環境整備の実際 - 事例検討 - グループでの発表②</p> <p>【key words】事例検討、グループワーク、プレゼンテーション グループ学習の成果を、グループごとに発表する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>pp. 392-430 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <p>①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境(PC・タブレット・スマートフォンなど)を整えておくこと。</p> <p>[受講のルール]</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分(その他の曜日については要予約)
評価方法	小テスト60%, レポート40%
教科書	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト<改訂4版>
参考書	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト<改訂4版>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、地域(施設・在宅)でのリハビリテーションを数多く経験している。 また、生活支援理学療法(安全管理・環境調整を含む)を専門としている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）についての理解を深める。</p> <p>[到達目標] ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べることができる。 ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。 ③高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。 ④高齢者に多い問題への対応を説明できる。 ⑤高齢者に対する理学療法のエビデンスについて説明できる。</p>
授業の概要	加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①		◎	◎	
②		○		
③				○
④		△	△	
⑤	◎			◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、超高齢社会、日本の現状と課題 【key word】超高齢社会 超高齢社会である日本の現状と課題について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/index.asp わが国の高齢者を取り巻く環境について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>第2回 高齢者の定義と認知・身体機能特性 【key word】高齢者の定義 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を口頭で述べられるように知識の整理をして授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p> <p>第3回 認知症の定義と分類、認知症の症状と評価 【key word】認知症の定義 認知症の定義と分類、認知機能低下について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の定義と分類を調べて、答えられるように準備して授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p> <p>第4回 認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入 【key word】認知症の行動・心理症状 認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ</p>
------	---

第5回	<p>http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の症状と行動について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 認知症に対するリハビリテーション 非薬物療法としての理学療法</p> <p>【key word】認知症の非薬物療法 認知症の非薬物療法としての理学療法のあり方を理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の非薬物療法について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p>
第6回	<p>高齢者のリハビリテーション ～医薬品による影響～</p> <p>【key word】医薬品による影響 リハビリにおける医薬品による影響について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本睡眠学会ホームページ http://jssr.jp/ 催眠鎮静剤、抗不安薬を服用中のリハビリ対象者に対しどのようなリスク管理が重要かを説明できるようにして授業に臨んでください。</p>
第7回	<p>高齢者のリハビリテーション ～低栄養・褥瘡～</p> <p>【key words】低栄養・褥瘡 高齢者に多い低栄養について、情報収集からの把握と、管理や関わり（褥瘡予防を含む）について理解する。 日本リハビリテーション栄養研究会ホームページ https://sites.google.com/site/rehabnutrition/ 日本理学療法士学会 栄養・嚥下理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 一般社団法人日本褥瘡学会ホームページ http://www.jspu.org/ 低栄養、褥瘡の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p>
第8回	<p>高齢者のリハビリテーション ～排尿・排便障害～</p> <p>【key word】排尿・排便障害 高齢者に多い排尿・排便障害に対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本理学療法士学会 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 正常な排尿機能について口頭で説明できるように準備して授業に臨んでください。</p>
第9回	<p>高齢者のリハビリテーション ～ロコモティブ・シンドローム～</p> <p>【key word】ロコモティブ・シンドローム ロコモティブ・シンドロームに対する評価と介入方法を理解する。 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 一般社団法人日本運動器科学会ホームページ http://www.jsmr.org/locomotive_syndrome.html ロコモティブ・シンドロームの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p>
第10回	<p>高齢者のリハビリテーション ～サルコペニア～</p> <p>【key word】サルコペニア サルコペニアに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ サルコペニアの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p>
第11回	<p>高齢者のリハビリテーション ～フレイル～</p> <p>【key word】フレイル フレイルに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ フレイルの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p>
第12回	<p>高齢者のリハビリテーション ～主観的幸福感・Quality of Life (QOL)～</p> <p>【key words】主観的幸福感・Quality of Life (QOL) 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)を理解する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p>
第13回	<p>高齢者のリハビリテーション ～介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD)～</p> <p>【key words】介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD) 介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD)を理解する。 財務省財務総合政策研究所ホームページ</p>

	<p>https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/zk102.htm 看取り・Quality of Deth (QOD)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p> <p>第14回 高齢者のリハビリテーション ～介護予防・ヘルスプロモーション～ 【key word】ヘルスプロモーション 介護予防・ヘルスプロモーションを理解する。 厚生労働省 健康日本21 (総論) http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/s0.html 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 介護予防・ヘルスプロモーションの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する転倒予防プログラムの基礎 (実践方法) を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p> <p>第15回 高齢者のリハビリテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)～ 【key word】科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) 高齢者のリハビリテーションを実施する上で、科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の必要性となることを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する転倒予防プログラムの基礎 (実践方法) を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕 ①予習・復習は必須である ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境 (PC・タブレット・スマートフォンなど) を整えておくこと。</p> <p>〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シヤトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分 (その他の曜日については要予約)
評価方法	筆記試験 (客観) 60% レポート40% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	大内尉義 編集: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学. 第4版, 医学書院 荒井秀典 編集: フレイルハンドブック-ポケット版-. ライフ・サイエンス
参考書	島田裕之 総編集, 牧迫飛雄馬, 山田実 編: 高齢者理学療法学. 医歯薬出版
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、高齢者のリハビリテーションにおける安全管理 (転倒予防など) を専門としている。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美・柴ひとみ			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がん患者に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①代表的な心血管疾患の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ②腎機能障害の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ③糖尿病の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ④がんリハビリテーションの概要とリスク管理が説明できる。</p>			
授業の概要	循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がんについて、病態に関する知識の確認を行うと共に基本的理学療法の意義と方法を学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 【key word】 講義の受け方、オリエンテーション、プレゼンテーション 【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に関するプレゼンテーションを実施する。 【事前課題】 課題タイトル：心血管疾患に対する運動療法の身体的・精神的効果について 【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド8枚以内にまとめる（うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名）。 発表時間は1人当たり2分間とする。 作成したスライドはUSBに保存して、当日持参すること。</p> <p>第2回 循環器系の構造と機能 【key word】 心臓、血管、心筋 【授業概要】 循環器系の構造と機能を理解する。 【参考図書】 解剖学、生理学、運動学の教科書参照</p> <p>第3回 循環器系の生理学 【key word】 心拍出量、心拍数、運動 【授業概要】 ①循環器系の生理学を理解する。 ②運動時の循環反応を理解する。 【参考図書】 解剖学、生理学、運動学の教科書参照</p> <p>第4回 循環関連の基礎的知識の小テスト実施（穴埋め） 心臓リハビリテーションの概要 【key word】 心臓リハビリ、ガイドライン</p>			

第5回	<p>【授業概要】 心臓リハビリテーションについて概説する。</p> <p>【参考文献】 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2012年改訂版） 虚血性心疾患の理学療法</p> <p>【key word】 虚血性心疾患、心筋梗塞、狭心症</p> <p>【授業概要】 虚血性心疾患の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。</p>
第6回	<p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社 心不全の理学療法</p> <p>【key word】 心不全</p> <p>【授業概要】 心不全（急性・慢性）の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。</p>
第7回	<p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【小テスト】 循環器系の構造と機能、心疾患病態と理学療法に関する基礎的知識の小テスト実施 腎臓の機能と構造</p> <p>【key word】 腎臓、糸球体濾過、RAS系</p> <p>【授業概要】 腎臓の構造と機能を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。</p>
第8回	<p>【参考図書】 ①解剖学、生理学の教科書 ②シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ③古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社 慢性腎臓病</p> <p>【key word】 慢性腎臓病、血液透析</p> <p>【授業概要】 ①慢性腎臓病の病態・検査と治療について理解する。 ②血液透析を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。</p>
第9回	<p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社 ③一般社団法人日本腎臓学会ホームページ 腎臓リハビリテーション</p> <p>【key word】 腎臓リハビリ、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①腎機能障害に対するリハビリテーションについて理解する。 ②腎臓リハビリテーションの効果を理解する。 ③腎臓リハビリテーションのリスク管理を理解する。</p>
第10回	<p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【小テスト】 腎臓の構造と機能、慢性腎臓病の基礎的知識の小テスト実施 糖尿病</p> <p>【key word】 糖尿病、合併症、低血糖</p>

	<p>【授業概要】 ①糖尿病の病態と分類について理解する。 ②糖尿病の合併症について理解する。 ③低血糖について理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。 糖尿病の治療と評価</p> <p>【key word】 糖尿病、治療、評価</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病の治療について理解する。 ②糖尿病の評価について理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。 糖尿病の理学療法</p> <p>【key word】 糖尿病、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病患者に対する運動療法について理解する。 ②糖尿病患者に対する運動療法のリスク管理を理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。</p> <p>【小テスト】 糖尿病に関する基礎的知識の小テスト実施 末梢動脈疾患</p> <p>【key word】 PAD、Fontaine分類、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①PADの病態と治療、評価を理解する。 ②PADに対する運動療法について理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社 ③末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン（2015年改訂版）</p> <p>【事前学習】 key wordについて予習する。 がんリハビリテーションの概要</p> <p>【key word】 がん、リハビリ</p> <p>【授業概要】 ①がん患者に対するリハビリテーションについて理解する。 ②がんリハビリテーションにおける理学療法評価を理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>がんリハビリテーションのリスク管理</p> <p>【key word】 がん、リハビリ、リスク管理</p> <p>【授業概要】 ①がんリハビリテーションを行う上でのリスク管理を理解する。</p> <p>【参考図書、ページ】 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実習を行う際は、白衣または大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみとすること。 （爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色）

	<p>などは受講を認めない場合がある。)</p> <p>受講のルール</p> <p>①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。</p> <p>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p> <p>③講義</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる(5分程度)。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと(20分程度)。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと(10分程度)。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	筆記試験(客観)60% 課題10% 小テスト30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版:南江堂 ②古川順光・編:内部障害に対する運動療法, メジカルビュー社
参考書	適宜講義時に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床で担当する機会が多い運動器疾患であるが、その病態を理解した上で、評価からプログラムへと進める考え方が求められる。本講義は関節機能障害、関節外機能障害、関節内外複合障害について学び、EBMを元に実際に治療について説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>			
授業の概要	<p>「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対する治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①関節機能障害について説明できる	◎	○	◎	○
②関節外機能障害について説明できる	◎	○	◎	○
③関節内外複合障害について説明できる	◎	○	◎	○
④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる	◎	○	◎	○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 運動器障害とは（運動器障害における基礎：炎症、再生、修復、癒着など） 運動器、疼痛、骨運動器障害について学び、どのような疾患があるか挙げるができる。また、各運動器疾患の特徴を説明し理解する。特に炎症、再生、修復、癒着についての理解を深める。 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P1～15。 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第2回 変形性関節症 ①変形性脊椎症（頸部・腰部） 変形性脊椎症の概要を理解する。また、変形性脊椎症にみられる病的運動について学ぶ。実際の理学療法評価と治療について理解する。 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P36）。</p> <p>第3回 わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。 変形性関節症 ②変形性膝関節症（保存療法・手術療法） 変形性膝関節症に対する各手術療法について理解を深め、理学療法評価およびプログラムを立案できる。 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P37～65。</p>			

	<p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P46、65、76）。</p> <p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>変形性関節症 ③変形性股関節症（保存療法） 変形性股関節症における障害の特徴を理解し、病期に応じた治療目的を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P67～76。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P76）。</p>
第4回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>変形性関節症 ④変形性股関節症（手術療法） 変形性股関節症における障害の特徴を理解し、病期に応じた治療目的を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P77～86。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P86）。</p>
第5回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性 各関節における不安定性の病態を理解し、必要な評価および治療プログラムを立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P127～136。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P136）。</p>
第6回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前・術後） 大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術前のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P143～156。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P156）。</p>
第7回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前・術後） 第1回～第7回までの範囲で小テストを実施する。</p> <p>大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術後のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P157～166。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P165）。</p>
第8回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム） 大腿骨頸部骨折術後の回復期における理学療法プログラムを立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P167～176。</p> <p>資料配布授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P176）。</p>
第9回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>骨性障害 ⑤脊椎の骨折 脊椎骨折後の障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏づけられた治療目標と理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P197～206。</p>

	<p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P206）。</p> <p>まめテストで間違えた箇所については訂正をした上で復習をしておくこと。</p> <p>筋・軟部組織性障害 ①肩関節周囲炎・筋断裂 肩関節周囲炎の概念、特徴ならびに病態像から、その原因となる部位を理解する。 筋断裂やアキレス腱断裂の特徴を理解し、組織の修復過程に応じた治療を行う。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P217～236。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P225、P236）。</p>
第11回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P97～105。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P105）。</p>
第12回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P97～105。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第13回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>関節軟部組織性障害②膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷 第8回～第14回までの範囲で小テストを実施する。</p> <p>膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷の概略を理解し、理学療法評価の想起、プログラムを立案する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P107～116。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P116）。</p>
第14回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p> <p>複合障害 ①関節リウマチ 関節リウマチの病態を理解し、関節リウマチの複合的障害を理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P277～296。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P286、P296）。</p>
第15回	<p>わからない問題についてはオフィスアワー時に確認をすること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	ポートフォリオを用いて配布した資料をまとめる事
オフィスアワー	木曜日の16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験60%，小テスト40%（2回）の総合評価にて判定。筆記試験が60点に達していない場合は再試験対象とする。

教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW
参考書	授業内に随時紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美・柴ひとみ			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 内部障害に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 理学療法を実施するうえで必要となる画像所見、検査値、評価項目を理解し、問題点の抽出や治療プログラムの立案に役立てることができる。</p>			
授業の概要	内部障害患者に対する理学療法実践において実施することがある、検査・測定・臨床検査データの解釈の理論と方法を学び、演習を通し理解する。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、プレゼンテーション 【key word】 講義の受け方、オリエンテーション、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に関するプレゼンテーションを実施する。</p> <p>【事前課題】 課題タイトル：心血管疾患、呼吸器疾患、糖尿病、腎機能障害の症例に対し、臨床検査データを読み取る必要性</p> <p>【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド8枚以内にまとめる（うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名）。 発表時間は1人当たり2分間とする。 作成したスライドはUSBに保存して、当日持参すること。</p> <p>第2回 心電図の読み方①（理論） 【key word】 心電図、刺激伝導系、興奮</p> <p>【授業概要】 心電図波形の読み方を理解する。</p> <p>【事前学習】 心臓の解剖学・生理学を復習して受講すること。</p> <p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社</p> <p>第3回 心電図の読み方②（理論） 【key word】 心電図、刺激伝導系、興奮、異常波形</p> <p>【授業概要】 心電図波形の読み方を理解する。</p> <p>【事前学習】 国家試験出題レベルの異常波形についてもしらべ学習をしておくことが望ましい。</p> <p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社</p>			

第4回	<p>国家試験出題レベルの異常波形について見方を理解する。key words記載ページ参照。心電図の基本波形を書けるようにしておくこと。</p> <p>心電図の読み方③（演習）</p> <p>【key word】 心電図、異常波形、国試問題</p> <p>【授業概要】 ①異常心電図を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【事前学習】 国家試験出題レベルの異常波形について学習すること。</p> <p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社</p> <p>【小テスト】 心電図に関する問題を国試形式にて出題する。</p>
第5回	<p>胸部X線写真の読影①（理論）</p> <p>【key word】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 胸部X線写真の読み方を理解する。</p> <p>【事前学習】 呼吸器疾患、心血管疾患のレントゲンでとらえるべき所見についてしらべておくこと。</p>
第6回	<p>胸部X線写真の読影②（演習）</p> <p>【key word】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 ①胸部X線写真の異常を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【事前学習】 国家試験出題レベルの問題について学習すること。</p>
第7回	<p>検査値の読み方（理論）</p> <p>【key word】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 ①検査値の知識がなぜ必要なのかを理解する。 ②検査値の基本を理解する。</p> <p>【事前学習】 キーワードについて学習すること。</p>
第8回	<p>検査値の読み方（演習）</p> <p>【key word】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 理学療法を実施するうえで身につけておきたい検査に関する知識を理解する。</p> <p>【事前学習】 国家試験出題レベルの問題について学習すること。</p>
第9回	<p>吸引のしくみ（理論）</p> <p>【key word】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行うための基本的知識を理解する。</p> <p>【参考資料】 授業時に配布する。</p> <p>【小テスト】 検査値に関する問題を記述形式にて出題する。</p>

	<p>第10回 吸引のしくみ（演習） 【key word】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行う。</p> <p>【参考資料】 授業時に配布する。</p> <p>第11回 血糖測定（理論） 【key word】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の意義と理論、方法について基礎的知識の整理をする。</p> <p>【参考資料】 授業時に配布する。</p> <p>第12回 血糖測定（演習） 【key word】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の実際について理解する。</p> <p>【参考資料】 授業時に配布する。</p> <p>第13回 心肺運動負荷試験（理論） 【key word】 心肺運動負荷試験、血圧、呼気ガス</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験の目的や方法について理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて学習すること。</p> <p>第14回 心肺運動負荷試験（演習） 【key word】 心肺運動負荷試験、運動処方</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験で得られるデータとそのみかたについて演習を通して学ぶ。</p> <p>【参考資料】 授業時に配布する。</p> <p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社</p> <p>【小テスト】 心肺運動負荷試験に関する問題を記述形式にて出題する。</p> <p>第15回 人工呼吸器 【key word】 人工呼吸器</p> <p>【授業概要】 人工呼吸器のグラフィック波形の基本的な見方を理解する。 人工呼吸器のしくみについて理解する。</p> <p>【事前課題】 下記をA4用紙2枚以内にまとめ、授業開始時に紙面にて提出する。 ①人工呼吸器はどのようなモードがあるのかを調べてくる。 ②IPPV、NPPVとは何かを調べてくる。</p> <p>【参考図書】 ①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実習を行う際は、白衣または大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髮の派手な染色などは受講を認めない場合がある。）</p> <p>受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	筆記試験（客観）60% 課題20% 小テスト20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版，羊土社
参考書	適宜講義時に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法技術論Ⅱを理解した上での科目となる。そのため、各疾患における治療プログラムの立案から実際の理学療法までについて実技を中心に行う。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>
授業の概要	「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。また、実際に実技を通して流れについても理解する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①関節機能障害について説明できる	◎	○	○	△
②関節外機能障害について説明できる	◎	○	○	△
③関節内外複合障害について説明できる	◎	○	○	△
④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる	◎	○	○	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 理学療法介入の目的（理学療法の一時的介入アプローチ） 等尺性収縮、荷重、筋力強化、物理療法理学療法の一時的介入アプローチについて紹介し、実技を通して筋収縮様式を考慮したもの、荷重感覚、開放性運動連鎖、閉鎖性運動連鎖、筋力強化について実施する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P8～15。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第2回 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 変形性関節症 ①変形性脊椎症（頸部・腰部の理学療法プログラム） 変形性脊椎症の一般的な介入アプローチについて紹介し、なぜそれらのアプローチが必要か考察する。アプローチの具体的な意味を理解した上で評価し、アプローチ後との比較のため再評価する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第3回 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 変形性関節症 ②変形性膝関節症（保存療法・手術療法の実際） 変形性膝関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P41～46、P52～56。</p>
------	--

第4回	<p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 変形性関節症 ③変形性股関節症（保存療法の実際） 変形性股関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P73～76。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第5回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 変形性関節症 ④変形性股関節症（手術療法の実際） 変形性股関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P81～86。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第6回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性の理学療法プログラム 個別の筋機能改善エクササイズと神経一筋協調性改善エクササイズを実際に体験し、エクササイズ前後の身体アライメント変化を評価する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P133～136。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第7回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術前の理学療法プログラム 外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P153～156。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第8回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後の理学療法プログラム 第1回～第7回までの範囲で小テストを行う。</p> <p>外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P160～165。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第9回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後回復期の理学療法プログラム 術後のADLの手順、注意点を説明でき、身体レベルに応じたホームプログラムを作成する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P170～176。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第10回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 骨性障害 ④脊椎の骨折の理学療法プログラム 各回復期（急性期、回復期、維持期）を通して注意することと、生活指導を含めたホームプログラムを作成。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P203～206。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第11回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 筋・軟部組織性障害 肩関節周囲炎・・肩板損傷の理学療法プログラム 肩関節周囲炎と筋断裂・アキレス腱断裂に対しての理学療法プログラムを評価結果から解釈し、日常生活指導を含む予防的観点からのホームプログラムを立案する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 肩関節周囲炎P222～224、P233～</p>

	<p>236。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>第12回 関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯損傷の理学療法プログラム 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P93～96、P102～105。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第13回 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯損傷の理学療法プログラム 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P102～105。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第14回 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>関節軟部組織性障害 ③膝内側側副靭帯、半月版および足関節外側側副靭帯損傷の理学療法プログラム 特徴的な障害に対して、具体的なプログラムを立案でき、再発予防のポイントを理解する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P112～116。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>第15回 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>複合障害 ①関節リウマチの理学療法プログラム 第11回～第14回までの範囲で小テストを行う。</p> <p>特有な機能障害を腫脹、疼痛、関節制限、筋力低下との関連を理解し、理学療法プログラムを立案する。</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P288～296。</p> <p>授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます） 学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。</p> <p>解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	ポートフォリオを用いて配布した資料をまとめる事
オフィスアワー	木曜日の16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験60%，小テスト40%（2回）の総合評価にて判定。筆記試験が60点に達していない場合は再試験対象とする。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW
参考書	授業内に随時紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて9年の経験がある者が行う。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	4単位(180)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。 ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。 ④関連職種の役割について説明することができる。 ⑤各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ⑥評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。 ⑦実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>			
授業の概要	<p>臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回</p> <p>臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。 key words:評価実習、臨床技能、臨床思考過程、理学療法</p>			
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうえで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・臨床実習の手引きを熟読すること。 			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告および実習地訪問等を活用			
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技能の定着を図るために自主的に学ぶこと。			
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる。			
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習評価の結果60%、ディリーノート・ケースレポート20%、実習に関する態度等20%			
教科書	適宜紹介する。			
参考書	適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業科目/アクティビティ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p>			

<p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習<input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート<input type="checkbox"/>グループワーク<input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション<input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク<input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴・村山			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①臨床で必要とされる「知識」「技能」「態度」を身に付け、実践することができる。 ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。</p>			
授業の概要	<p>これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成した後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実際の臨床技能の習得に着目して、OSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/臨床実習の手引き 臨床実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。 key words: 臨床実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト 実習手引き予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p> <p>第2回 臨床実習の進めかた 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定、治療プログラムの立案および実施、経過、効果判定の流れについて理解する。また、クリニカルワークシップについて理解する。 key words: 臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法 実習手引き予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p> <p>第3回 臨床実習の進めかた/個人情報保護 理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について再確認をする。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて再確認する。 key words: 臨床実習、個人情報、理学療法 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p> <p>第4回 臨床実習における提出物について① 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジュメの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。 key words: 臨床実習、評価、臨床思考過程、理学療法 実習手引き予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと</p> <p>第5回 臨床実習における提出物について② 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジュメの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。 key words: 臨床実習、評価、臨床思考過程、理学療法 実習手引き予習：実習の手引きを熟読しておくこと 復習：本講義の内容をまとめておくこと 課題：目標シートの提出（I期）</p> <p>第6回 レジュメ発表① 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words: 臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書：奈良 勲監修：理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと</p> <p>第7回 レジュメ発表②</p>			

第8回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表③</p>
第9回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表④</p>
第10回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑤</p>
第11回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑥</p>
第12回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑦</p>
第13回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑧</p>
第14回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑨</p>
第15回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと ケースの振り返り</p>
第16回	<p>レジюме発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、振り返り 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 目標設定 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、次期の臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p>
第17回	<p>key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法 課題:目標振り返りシートの提出 (I期) ・目標シートの提出 (II期) レジюме発表⑩</p>
第18回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:ケースの振り返りを行うこと レジюме発表⑪</p>
第19回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:ケースの振り返りを行うこと レジюме発表⑫</p>

第20回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑬</p> <p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑭</p>
第21回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑮</p>
第22回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑯</p>
第23回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑰</p>
第24回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと レジюме発表⑱</p>
第25回	<p>実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、発表 参考書:奈良 勲監修:理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院 予習:発表の準備をしておくこと 復習:各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと ケースの振り返り</p>
第26回	<p>レジюме発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、振り返り 目標設定 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法 課題:目標振り返りシートの提出(Ⅱ期)</p>
第27回	<p>OSCEの準備 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。これに向けて準備を進めること。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、OSCE</p>
第28回	<p>OSCEの実施 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、OSCE</p>
第29回	<p>OSCEの実施 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、OSCE</p>
第30回	<p>OSCEの振り返り OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験)を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、良かった点、改善すべき点についてまとめること key words:臨床実習、評価、治療、効果判定、理学療法、OSCE 課題:OSCE振り返りシートの提出</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・4年次総合臨床実習対象者が、受講の条件となる。 ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。 [受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況	<p>チャトルカード方式</p>

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。臨床技能を高めるために、積極的に授業時間外において実技練習を重ねること。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。また臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。
------------	---

授業の概要	研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
---	--	--	--

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	第1回	科目オリエンテーション
	第2回	研究計画の立案①
	第3回	研究計画の立案②
	第4回	調査(調査及び資料の収集)①
	第5回	調査(調査及び資料の収集)②
	第6回	研究計画書作成①
	第7回	研究計画書作成②
	第8回	倫理的配慮について(倫理審査書類の作成)
	第9回	研究活動の実践とまとめ①
	第10回	研究活動の実践とまとめ②
	第11回	研究活動の実践とまとめ③
	第12回	卒業研究発表①
	第13回	卒業研究発表②
	第14回	卒業研究発表③
	第15回	卒業研究発表④

受講生に関する情報および受講のルール	・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。 ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。
--------------------	--

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況	-
---------------------	---

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	-
オフィスアワー	担当教員と連絡を取り合いながら、個別に設定すること。
評価方法	提出論文、取り組み、発表状況を総合的に勘案する。目安として研究論文（50%）及び研究発表（50%）
教科書	-
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床においては、評価結果をもとに個々の症例の問題点を改善していくことが必須となる。より良い効果が得られるような治療の選択および実施ができるよう知識・実技を確実に身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①各疾患の特徴が説明できる。 ②問題点を改善するために必要な治療を選択することができる。 ③選択した治療を実施することができる。 ④実施した治療に対する効果判定を行うために必要な検査項目を列挙し、検査の意義を説明できる。</p>			
授業の概要	評価実習で担当した症例について評価結果を整理し、問題点を改善するための治療プログラムを立案する。選択した治療プログラムの根拠を説明できるようにし、効果判定に関わる考え方を学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 症例の振り返り・問題点の整理 理学療法、評価、問題点抽出、関連図理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。 評価実習で担当させて頂いた症例を領域別に分けたうえでグループを作り、個々の症例に対する問題点の整理を行う。ポートフォリオを作成すること 適宜、領域別の担当教員の指導を受けながら進めること key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定</p> <p>第2回 症例検討-発表準備①- 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。 領域別グループ内で、問題点を解決するための効果的な治療プログラムについて個々にまとめる。治療については、客観的かつ科学的な根拠を示す必要があるため、文献等を用いながら考察をする。ポートフォリオを作成すること 適宜、領域別の担当教員の指導を受けながら進めること key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定</p> <p>第3回 症例検討-発表準備②- 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。 領域別グループ内で、問題点を解決するための効果的な治療プログラムについて個々にまとめる。治療については、客観的かつ科学的な根拠を示す必要があるため、文献等を用いながら考察をする。それぞれの治療が実施できるように実技練習を行う。ポートフォリオを作成すること 適宜、領域別の担当教員の指導を受けながら進めること key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定</p> <p>第4回 症例検討-発表準備③- 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。 領域別グループ内で、問題点を解決するための効果的な治療プログラムについて個々にまとめる。治療については、客観的かつ科学的な根拠を示す必要があるため、文献等を用いながら考察をする。それぞれの治療が実施できるように実技練習を行う。また、実施した治療プログラムが効果的であったのか再評価する必要がある。その際の検査測定項目を個々に挙げ、それぞれの検査測定項目の意義も考察し、まとめる。ポートフォリオを作成すること key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定 適宜、領域別の担当教員の指導を受けながら進めること</p> <p>第5回 症例検討-発表準備④- 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。 治療プログラムを実施した後は、効果判定を行うために再評価が必要となる。その際に必要な検査測定項目を個々に挙げ、それぞれの検査測定項目の意義も考察し、まとめる。発表用のレジュメ（A3 1枚、左面：症例紹介、評価結果、関連図、問題点抽出、目標設定、右面：根拠を提示した治療プログラム、効果判定に必要な検査項目とその意義）を提出すること</p>			

第6回	<p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定</p> <p>症例検討-発表①-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第7回	<p>症例検討-発表②-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第8回	<p>症例検討-発表③-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第9回	<p>症例検討-発表④-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第10回	<p>症例検討-発表⑤-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第11回	<p>症例検討-発表⑥-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第12回	<p>症例検討-発表⑦-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
第13回	<p>症例検討-発表⑧-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>

	<p>第14回 症例検討-発表⑨-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p> <p>第15回 症例検討-発表⑩-</p> <p>個々の担当症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分、質疑応答15分以内）を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム（実技を含む、他の発表者と実技内容が重複しないよう調整すること） ・再評価時の検査項目とその意義【優先順位の高い問題点を改善するためのプログラム、その効果を判定するために必要な検査（意義を含む）の実施という一連の過程が明確となるように発表すること】レジュメを基に発表すること <p>key words:理学療法、評価、問題点抽出、治療プログラム、効果判定、発表</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を必ず行い、授業中は自ら積極的に参加し、考え、発言すること。 ・実技を行うときはケーシーを着用し、医療従事者としての身だしなみを整えること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	与えられた課題は、授業時間中では達成できない。授業時間外での予習は必須である。また確実に知識を身につけるためには、復習も必須となるので「自ら学び、学び続ける」努力を怠らないこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	発表100%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。 ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。 ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。 ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。			
授業の概要	総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	第1回 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。 key words: 臨床実習、臨床技能、臨床思考過程、理学療法			
受講生に関わる情報および受講のルール	・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用			
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るよう自主的に学ぶこと。			
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。			
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習評価の結果60%、デリーノート・ケースレポート20%、実習に関する態度等20%			
教科書	適宜紹介する。			
参考書	適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク ■プレゼンテーション			

	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。 ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。 ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。 ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。			
授業の概要	総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	第1回 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。 key words: 臨床実習、臨床技能、臨床思考過程、理学療法			
受講生に関わる情報および受講のルール	・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用			
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るように自主的に学ぶこと。			
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。			
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習評価の結果60%、デリーノート・ケースレポート20%、実習に関する態度等20%			
教科書	適宜紹介する。			
参考書	適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク ■プレゼンテーション			

	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
本田真芳			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら作り出す喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養うことを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①私たちの造形表現の歴史は、私たちが外界と内面とに感じる「美」との対話の歴史であることを知ることができる。 ②造形表現を学ぶ、あるいは教える目的は、まず造形表現の面白さに気づくことができる。 ③版画を歴史的に俯瞰した場合、印刷術の発展とは切っても切れない関係があることを知ることができる。</p>
------------	---

授業の概要	人は生きている限り様々な体験をし、様々な生活感情を持ち、命ある人間がその生活感情に基づき、何かを表そうとする意識を持った時、それが表現の原点であることを身につけ美術技法を通して、美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学び、版画の教育的意義を理解する。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	オリエンテーション	美術技法を考える	版画の材料と用具
	第2回	発想、表現	鑑賞について	版画の種類について
	第3回	美術の概念	木版の伝統技法について	
	第4回	木版のいろいろな技法		
	第5回	版画の歴史について考える	銅版の流	
	第6回	版画の種類について学ぶ	凸版凹版、平板、孔版の確認	
	第7回	版画の種類について学ぶ	直接法と間接法	
	第8回	基本技法を学ぶ	各技法による道具の確認	
	第9回	基本技法を学ぶ	いろいろなものでドライポイントを試みる	
	第10回	製版の準備	ドライポイント	プレートを使用する
	第11回	製版の準備	インクの詰め方、ふき取り方を学ぶ	
	第12回	製版の準備	プレス機の（圧）	いろいろな工夫を学ぶ
	第13回	製版の実践・刷り	インクの硬さ、やわらかさについて学ぶ	
	第14回	製版の実践・刷り	インクの硬さ、やわらかさが適切であったかの確認	
	第15回	製版の実践・刷り	紙による印刷効果の違いを学ぶ	

	<p>第16回 基本技法を学ぶ (メゾチント) について 黒の版面を削り作成する</p> <p>第17回 基本技法を学ぶ (ルーレット) について ルーレットで不規則な点の下地を作る</p> <p>第18回 基本技法を学ぶ (エッチング) について 針で軽く絵を描き腐蝕させる技法</p> <p>第19回 基本技法を学ぶ (ソフトグラウンド) について 亀裂が生じた版を腐蝕する技法</p> <p>第20回 基本技法を学ぶ (アクアチント) について 松ヤニの粉末を使う技法</p> <p>第21回 その他の技法 ステンシル、孔版、穴から絵具を刷り込んで作る技法</p> <p>第22回 その他の技法 謄写版画、ロウ引きの原紙に鉄筆などで描く方法</p> <p>第23回 凸版を刷る 実物版、紙版、木版、ゴム版等で作成する</p> <p>第24回 版画のサインと限定番号 他の復刻作品と区別するために用いる</p> <p>第25回 製版の実践 版材となる金属板を用意する</p> <p>第26回 製版の実践 銅版の切り方、銅版カッターを使う、俗に「ひっかき」ともいう</p> <p>第27回 紙の湿し方 銅版画の刷りのためには、前もって湿らせる必要がある</p> <p>第28回 銅版画におけるプレス圧の決め方 ドライポイントプレートと銅版の違い</p> <p>第29回 銅版画における刷り、インクの詰め方、インクの拭き取りについて</p> <p>第30回 版の保存と構図等はどうであったか、他の作品の鑑賞</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	シラバスを確認し積極的に授業に取り組むこと。他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。次の講義の資料等配布する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	作業内容を十分理解し授業に臨むこと。復習予習を必須とする。
オフィスアワー	授業前後30分対応可能。
評価方法	課題作品 70% (作品の構成、バランス、プロポーション、コントラスト等で評価)、試験 (レポート) 30%。 総合で評価します。
教科書	長谷喜久一 (著) 図画工作 建帛社
参考書	宮脇理 (著) ベーシック造形技法 建帛社
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] 1. レクリエーション活動の意義を理解できる。 2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。 3. 他者への支援(指導)ができるようになる。</p>
------------	--

授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・レクリエーションの理解 【key words】 レクリエーション</p> <p>【授業タイトル】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P62 学習課題の概要を確認しておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アイスブレイキングとして相応しい材料を検討しておくこと</p> <p>第2回 アイスブレイキング(実践) 【key words】 アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレイキングを実践し、その効果を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P246</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。</p> <p>第3回 対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法①アレンジの基本技術 【key words】 アレンジ</p> <p>【授業概要】 対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書304～315</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

	<p>素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。</p>
第4回	<p>対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法②アレンジ法の応用 【key words】 アレンジの方法</p> <p>【授業概要】 アレンジ例を通してもともと素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P316～325</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。</p> <p>対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 室内でできるレクリエーションゲーム(実践)</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 室内でできるレクリエーションゲーム実践する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 対対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと</p>
第6回	<p>対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム 遊びができることを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。</p> <p>支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1(制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2(制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>支援活動演習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ①(企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 クリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこ</p>

	と。
第10回	<p>ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得</p> <p>【key words】 アレンジ キンボール</p> <p>【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。</p>
第11回	<p>ニュースポーツ キンボール ゲーム</p> <p>【key words】 アレンジ キンボール</p> <p>【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。</p>
第12回	<p>支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p>
第13回	<p>支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p>
第14回	<p>支援活動演習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ② (企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p>
第15回	<p>前期の振り返り まとめ</p> <p>【key words】 レクリエーション支援</p> <p>【授業概要】 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第16回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと</p> <p>レクリエーションダンス (地域伝承踊り)</p>

	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること レクリエーションダンス（介護予防体操含む）</p>
第17回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること レクリエーションダンス（介護予防体操含む）</p>
第18回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは</p> <p>【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク</p> <p>【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～P227</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは</p>
第19回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは</p> <p>【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク</p> <p>【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～P227</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方</p> <p>【key words】 レポート ジョイニング トラッキング アコモデーション マイム</p> <p>【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P228～235</p>
第20回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方</p> <p>【key words】 レポート ジョイニング トラッキング アコモデーション マイム</p> <p>【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P228～235</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。レポートの成立している状態等について意識してみる。 ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ルールの理解と基礎技術の獲得</p> <p>【key words】 ユニバーサルホッケー</p> <p>【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P228～235</p>
第21回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ゲーム</p> <p>【key words】 ユニバーサルホッケー</p> <p>【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P228～235</p>
第22回	<p>【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献</p> <p>【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。 支援活動演習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1（制約のある空間での支援方法/企画案の評価及び好評）</p> <p>【key words】</p>

	<p>レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>第23回 支援活動演習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>第24回 支援活動演習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③ (企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p> <p>第25回 目的に合わせたレクリエーションワーク 目的に合わせたレクリエーションワークとは</p> <p>【key words】 よりよい生の実現</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P274～P277</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 CASE STUDY の事例を確認しておくこと</p> <p>第26回 目的に合わせたレクリエーションワーク 素材、アクティビティの選択</p> <p>【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P278～P287</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。</p> <p>第27回 支援活動演習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p>
--	--

	<p>第28回 支援活動演習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>第29回 支援活動演習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④ (企画案の評価及び好評)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p> <p>第30回 1年間の振り返り まとめ</p> <p>【key words】 レクリエーション支援</p> <p>【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	<p>評価の基準：到達目標の達成度を評価する。</p> <p>評価の方法：筆記試験50% レポート等提出物(活動企画書)20% 実技30% として総合的に評価する。</p>
教科書	<p>レクリエーションインストラクター養成テキスト</p> <p>【レクリエーション支援の基礎】楽しさ・心地よさを活かす理論と技術?(財)日本レクリエーション協会編</p>
参考書	必要に応じて紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>地域スポーツクラブでの指導経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位 (60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。 2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。 3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。 4. 安全な活動とそのため危険を回避する能力を身につける。
授業の概要	<p>年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割</p> <p>【key words】 生きがい、基本的人権、良循環</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P2～P7</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる</p> <p>第2回 基礎理論 レクリエーションの意義</p> <p>【key words】 RE-CREATE</p> <p>【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11 参考書 レクリエーション活動援助法P10～P11</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。</p> <p>第3回 基礎理論 レクリエーション運動を支える制度（歴史とその背景）</p> <p>【key words】 厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動</p> <p>【授業概要】 レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。</p>			

	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P11～P24 参考書 レクリエーション活動援助法P12～P16</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。</p>
第4回	<p>基礎理論 レクリエーションへの期待</p> <p>【key words】 生活者 支援者 人を支える</p> <p>【授業概要】 生活者 支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。</p>
第5回	<p>基礎理論 生活のレクリエーション化</p> <p>【key words】 生活のレクリエーション化</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。</p>
第6回	<p>基礎理論 レクリエーションの生活化</p> <p>【key words】 レクリエーションの生活化</p> <p>【授業概要】 日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。</p>
第7回	<p>基礎理論 社会福祉の中でのレクリエーションインストラクターの役割</p> <p>【key words】 劣等処遇原則 ノーマライゼーションとQOL思想</p> <p>【授業概要】 社会福祉の制度変化の中でレクリエーションの役割がどのように変わってきているのかを理解する。またレクリエーションの支援方法について、どんな働きかけができるのか、また支援者の姿勢について理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P26～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの対象ごとに応じたレクリエーションの役割とはどのようなものがあるのか確認しておく。レクリエーションインストラクターに期待される役割について確認しておくこと。</p>
第8回	<p>日常生活におけるレクリエーションの捉え方</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活</p> <p>【授業概要】 近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくことを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P39～P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと</p>
第9回	<p>日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活 ライフスタイル 基本的欲求</p> <p>【授業概要】</p>

	福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の3つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P43～P48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。 コミュニケーションワーク アイスブレーキングの意義と基本技術 ～アイスブレーキングとは意義～ 【key words】 コミュニケーションワーク アイスブレーキング 【授業概要】 アイスブレーキングが、目指すべき対象者の良好な変化、変容に向けたレクリエーション支援の一環として行われるものであることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P246～249 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アイスブレーキングの活用が期待される現場・局面をイメージしてみる。
第10回	コミュニケーションワーク アイスブレーキングの意義と基本技術 ～アイスブレーキングの方法 同時発声 同時動作 合図出し～ 【key words】 同時発声・同時動作 合図出し 【授業概要】 アイスブレーキングを、単に「素材を楽しませる」ものではなく、一体感、安心感を提供するための方法とし展開するための基本的な技術が同時発声・同時動作であることを理解する。また同時発声・同時動作に含まれる合図出し中心に技法を体験的に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P250～255 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P254～255の演習を解いておくこと。
第11回	コミュニケーションワーク アイスブレーキングのプログラミング ～プログラミングの原則～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。
第12回	コミュニケーションワーク アイスブレーキングのプログラミング ～アイスブレーキングモデルの作成～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。
第13回	コミュニケーションワーク アイスブレーキングのプログラミング・実践 発表 【key words】 アイスブレーキングのプログラミング 【授業概要】 アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。
第14回	まとめ(評価・ふりかえり)
第15回	

	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】 前期 授業の振り返りとテストについての確認を行う。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期テストにむけて配付プリント ノートを整理しておくこと</p>
第16回	<p>支援論 ライフスタイルとレクリエーション 乳幼児期～児童期～青年期～老年期</p> <p>【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題</p> <p>【授業概要】 年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P70～P81</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。今回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。</p>
第17回	<p>支援論 少子高齢社会の課題とレクリエーション</p> <p>【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題</p> <p>【授業概要】 少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P92～P141</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何が自分自身で検討してみること。</p>
第18回	<p>支援論 地域とレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）</p> <p>【key words】 コミュニティ、リージョン</p> <p>【授業概要】 身近な地域「コミュニティ」とより広い領域の「リージョン」。それぞれの「地域」が抱える課題を理解し、解決のためのレクリエーションの活用について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きかけることができる課題をあげてみる。</p>
第19回	<p>支援論 治療的意味合いを含めたレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス</p> <p>【key words】 レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション</p> <p>【授業概要】 治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法(中央法規) P150～P168</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。</p>
第20回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 素材アクティビティの提供</p> <p>【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P274～P277</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。</p>
第21回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク ハードル設定 CSSプロセス</p>

	<p>【key words】 素材・アクティビティ、すり合わせ</p> <p>【授業概要】 素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。 レクリエーション実技 リズム手合わせ”</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P278～P287</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。</p>
第22回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 対象者間の相互作用の活用法</p> <p>【key words】 ハードル設定 CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P288～P297</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。</p>
第23回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 指導実習</p> <p>【key words】 ハードル設定 CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと</p>
第24回	<p>事業論 事業計画 レクリエーション事業とは</p> <p>【key words】 マズロー5段階欲求説 生活の快 動機づけ</p> <p>【授業概要】 レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P162～P169 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27</p>
第25回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。 事業論 アセスメントに基づいたプログラム計画 A-PIEプロセス ～ニーズの確認 目標設定 展開 期待される効果 ～</p> <p>【key words】 A-PIEプロセス</p> <p>【授業概要】 A-PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P184～P195 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45</p>
第26回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 A-PIEプロセスについてテキストにでてある事例を確認しておくこと。 事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～集団を介して個人にアプローチする支援計画の作り方～</p> <p>【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 A-PIEプロセス</p> <p>【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>第27回 実際には自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～市民を対象とした事業のつくり方～ 【key words】 Plan Do See プロセス</p> <p>【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。</p> <p>第28回 事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～安全管理～ 【key words】 リスクマネジメント</p> <p>【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。</p> <p>第29回 事業論 事業計画 レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画</p> <p>【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 一年間のまとめ(評価・ふりかえり)</p> <p>第30回 【key words】</p> <p>【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	筆記試験60% 授業中レポート20% グループワーク及び発表20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ?楽しさ・心地よさを活かす理論と技術? (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】 (中央法規)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>地域スポーツクラブでの指導経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">■ディスカッション・ディベート■グループワーク■プレゼンテーション□実習、フィールドワーク□アクティブラーニングは実施していない |
|--|--|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
櫻井秀雄			
基礎科目	初級障がい者スポーツ指導員指 定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①障がい者スポーツの意味、特性、支援・援助方法を理解できる。 ②障がい区分に応じた基本的な支援・援助技法を身に身につけることができる。 ③障がい者スポーツ指導員としての資質を身に付け、スポーツを生活の中で親しめることができる。</p>			
授業の概要	障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策や、スポーツ環境、レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動、スポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者との交流を行いながら、障がい者スポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「日本障がい者スポーツ指導員」野資格取得もおこなう。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション (障がい者スポーツ指導者に求められるもの)</p> <p>【key words】 障害者福祉施策 ボランティア</p> <p>【授業概要】 我が国の障害者福祉施策及び関連法律の設立や、その変遷とスポーツ、障害者の生活と実態や、ボランティアについて学び、障害者自立支援法による福祉サービスや障害者スポーツの位置づけについて習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本 (初級・中級) [改訂版] p1-22</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「障がい者スポーツの意義と理念」について学習しておく。</p> <p>第2回 わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ (障がい者スポーツの意義と理念、障がい者スポーツ指導者制度)</p> <p>【key words】 障がい 区分 スポーツ ノーマライゼーション パラリンピック</p> <p>【授業概要】 障害者スポーツの意義と理念として、基本理念、基本的な用語の理解、意義および社会的効果、障害の概要を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本 (初級・中級) [改訂版] p23-26</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「障害の理解とスポーツ」について学習しておく。</p> <p>第3回 障がいの理解とスポーツ (障がいの分類と概要、障がい区分)</p> <p>【key words】 身体障がい 知的障がい 精神障がい</p> <p>【授業概要】 身体障がい者とスポーツ・レクリエーション、知的障がい者とスポーツ・レクリエーション 精神障がい者とスポーツ・レクリエーションについて、それぞれの障がいの種類と特徴、スポーツの効果を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本 (初級・中級) [改訂版] p27-33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「指導上の留意点と安全管理」について学習しておく。</p> <p>第4回 身体障がい者とスポーツ・レクリエーション (種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点)</p> <p>【key words】 安全管理 指導と配慮</p> <p>【授業概要】 スポーツ指導時の注意点や障がい区分と主な疾患、障がい別の留意点を学ぶ。また、安全面での配慮と活動前後の安全対策や、救急処置での救命および事故を未然に防ぐ安全管理の方法等を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本 (初級・中級) [改訂版] p34-58</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「全国障害者スポーツ大会」について学習しておく。</p> <p>第5回 知的障がい者とスポーツ・レクリエーション (種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点)</p> <p>【key words】 障害者スポーツ 身体障害者スポーツ大会 ゆうあいびっく</p> <p>【授業概要】 全国障害者スポーツ大会の概要として、意義、目的、原則、参加条件、選考・編成、や、各種障害者スポーツ大会の歴史と現在への経過等を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本 (初級・中級) [改訂版] p59-66</p>			

第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「全国障がい者スポーツ大会の選手団の編成とコーチの役割」について学習しておく。</p> <p>精神障がい者とスポーツ・レクリエーション（種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点）</p> <p>【key words】 参加資格 派遣 コーチの資質</p> <p>【授業概要】選手団編成に関わる選手選考方法や個人競技での参加制限、参加人数とともに、コーチとして求められる資質等、現在実施されている全国障害者スポーツ大会の編成やコーチの役割等を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p67-70</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者スポーツの指導法」について学習しておく。</p> <p>安全管理（指導者の安全配慮義務、安全管理の留意点、救命手当・応急手当）</p> <p>【key words】 競走 跳躍 投擲 泳法 リカーブ コンパウンド アキュラシー ディスタンス</p> <p>【授業概要】陸上、水泳、アーチェリー、フライングディスク競技の特徴と指導上の留意点を、各競技の特性や工夫を捉えて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p71-79</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者スポーツの指導法」について学習しておく。</p> <p>全国障がい者スポーツ大会（歴史・意義、目的、実施競技、障がい区分）</p> <p>【key words】 視覚障がい サウンドテーブルテニス マンツーマン ダブルドリブル</p> <p>【授業概要】S T T、グランドソフトボール、車椅子バスケットボール競技の特徴と指導上の留意点を、各競技の特性や工夫を捉えて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p80～p88</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「全国障がい者スポーツ大会の障がい区分」について学習しておく。</p> <p>障がい者スポーツの理解①（視覚障がい者の陸上競技：ウォーク&ラン）</p> <p>【key words】 障がい区分</p> <p>【授業概要】障がい区分の意義と目的、障がい区分の実際、個人競技の障がい区分、団体競技の障がい区分について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p108～114</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「公認障がい者スポーツ指導員制度」を学習しておく。</p> <p>障がい者スポーツの理解②（脊椎損傷者のバレーボール：シッティングバレーボール）</p> <p>【key words】 公認障がい者スポーツ指導員</p> <p>【授業概要】公認障がい者スポーツ指導員制度の目的、発足の経緯、その種類と役割、資格取得後の活動について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p115～p118</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「ブラインドウォーク・フライングディスク」について学習しておく。</p> <p>障がい者スポーツの理解③（視覚障がい者の卓球：サウンドテーブルテニス）</p> <p>【key words】 視覚障がい アイマスク ディスク アキュラシー ディスタンス</p> <p>【授業概要】ブラインドウォークのおこない方やフライングディスクの規則の解釈点や指導の留意点を確認しながら、視覚障がい者の擬似体験を通しアイマスク着用での運動体験や、知的障がい者の競技であるフライングディスクへの導入方法、基本姿勢、投球方法を学び、ゲーム等の運営、審判方法を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p71-79</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「サウンドテーブルテニス、バレーボール卓球」について学習しておく。</p> <p>障がい者スポーツの理解④（視覚障がい者のサッカー：ブラインドサッカー）</p> <p>【key words】 サウンド ラケット 打球音 転球音 チームワーク 声かけ</p> <p>【授業概要】卓球・S T Tの規則の解釈点や指導の留意点を確認しながら、視覚障がい者の卓球への導入方法、基本姿勢、打法練習・感覚練習等を学ぶとともに、車椅子生活者等が卓球台を囲み、バレーボールのルールを工夫したゲームでネットの下を転がすバレーボール卓球の運営、審判方法を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p82-84</p>
第13回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者との交流」について学習しておく。</p> <p>障がい者との交流①（障がい者のスポーツ大会、レクリエーション活動等で交流学習：1回目）</p> <p>【key words】 障がい ふれあい ボランティア 支援 援助</p> <p>【授業概要】障害者との交流をとおして、障害者の日常生活を通じてのコミュニケーション能力の向上や、スポーツ活動を共にする経験を通じて障害者への理解を深め、障害者のスポーツ活動を学ぶ。社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザでの「スポーツ活動」で交流の中で習得することも大いに推奨する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p202-204</p>
第14回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者との交流」についてレポートにまとめておく。</p> <p>障がい者との交流②（障がい者のスポーツ大会、レクリエーション活動等で交流学習：2回目）</p> <p>【key words】 障がい ふれあい ボランティア 支援 援助</p> <p>【授業概要】障害者との交流をとおして、障害者の日常生活を通じてのコミュニケーション能力の向上や、スポーツ活動を共にする経験を通じて障害者への理解を深め、障害者のスポーツ活動を学ぶ。社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザでの「スポーツ活動」で交流の中で習得することも大いに推奨する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕 p202～p204</p>
第15回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者との交流」についてレポートにまとめておく。</p> <p>まとめ</p>

	<p>【key words】 障害者スポーツ</p> <p>【授業概要】 障害者スポーツ論の学習内容のまとめをおこない、障害者との交流や障害者スポーツの実践研究を個々に発表して、障害者スポーツ指導者としての資質を習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：障害者スポーツ指導教本（初級・中級）〔改訂版〕</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者スポーツ指導者としての資質向上と地域貢献活動に積極的に参加できるように理解させる。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講者に関する情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。 ・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。
オフィスアワー	講義終了後30分間 他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく
評価方法	筆記試験・レポート試験（70%） 実技試験（30%）の総合評価
教科書	日本障がい者スポーツ協会編：新版障がい者スポーツ教本（初級・中級）：ぎょうせい：平成29年
参考書	井田朋宏：NO LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2017（年4回発刊）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>教職（保健体育科）管理職、スポーツ行政（体育科、スポーツ振興課）福祉行政（障害福祉課、社会福祉課、保健福祉課）社会福祉事業団・県立ふれあいスポーツプラザ（障がい者スポーツセンター）次長…指導課長等（延べ52年）の経験を元に授業を行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿・山下博子・時田詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割について理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。</p>
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。	◎	○	○	△
②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割について理解・説明できる。	◎	◎	○	△
③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。	◎	◎	○	△
④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。	◎	◎	◎	△

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／「支援するってどんなこと？」—介護福祉からの対人援助—を考える keywords: 支援 パラダイムシフト 視座 視点 解釈 分析 ケア 「支援」ということばと、援助・応援・お手伝いなどはどのように違うと思いますか？ 医療・福祉職はまず「支援」とは何かを理解する必要があります。そのため、「支援」という言葉について介護福祉の視点から考えていく授業です。知識を身につけるのはもちろんですが、体験型学習を通して探求的な学習を行います。 教科書:配布資料 予習:授業時体験、ワークを行うため上記に挙げたキーワードを調べましょう。</p> <p>第2回 学校におけるコミュニケーションの不思議 keywords: 指導言、発問と質問、コミュニケーション 授業を活性化し、子どもに考える力をつけるための必須アイテムである発問とは何か。質問との違いは何か。具体例を通して発問と質問の違いに触れ、実際の学校現場の様子を体感することで、学校におけるコミュニケーションの不思議を学ぶ。 教科書:配付資料 予習:予習として、「発問とは何か」について、調べておくこと。</p> <p>第3回 社会福祉士の専門性とコミュニケーション keywords: 社会福祉士 バイステック 連携 社会福祉士とは、どのような職業なのか概要を講義します。また、社会福祉士として連絡・調整</p>
------	---

	<p>を行なう時に必要なスキルは何かを演習を通して考え、社会福祉士を理解することを目的とします。</p> <p>教科書：配布資料 予習：社会福祉士及び介護福祉士法 第2条 社会福祉士の定義を読んでおくこと。</p>
第4回	<p>人を科学する ―臨床心理学の世界―</p> <p>keywords：多職種連携、守秘義務と情報共有、心理的アセスメント、自己課題発見、生涯学習 「心」を科学的に分析するのが心理学です。人に関わる諸領域における多様な援助には、心理学的視点が重要となります。他者理解には自己理解が前提ですが、自分を知るのは、実はとても難しいことです。科学的に自分を知る方法の一つに人と人との交流パターンを分析する「エゴグラム」という心理テストがあります。授業では実際にやってみましょう。また、臨床現場（保険医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野）における心理師の専門技能と役割を学びましょう。</p> <p>教科書：配布資料 課題：日常生活において、人の行動で気になること（問題）を一つ提案してください。なぜだろう？と疑問を感じることなど。</p>
第5回	<p>生きているってどういうこと～生命徴候を知ろう～</p> <p>keywords：バイタルサイン 救命救急処置 心肺蘇生法 看護師を目指す者として、命の尊さや大切さを講義を通して学びます。また、バイタル測定から生命徴候を観察する方法を習得し、緊急時における救命処置を、本授業により身につけます。</p> <p>教科書：配布資料 事前課題：身の回りのAED設置場所を、10か所以上確認しておく。 事後課題：講義終了時に感想（コメント）カードを提出する。</p>
第6回	<p>認知症高齢者の心をつかむコミュニケーション技法を学ぼう</p> <p>keywords：認知症、ユマニチュード 認知症の特徴を理解した上で効果的なコミュニケーション技術と根拠について学習する。</p> <p>教科書・参考資料：DVD、パワーポイント、講義資料 資料の内容確認をする。</p>
第7回	<p>健康な小児の成長発達 ～アニメキャラクターを通して小児の発達を学ぼう～</p> <p>keywords：乳児、幼児、学童、思春期 新生児から中学までの成長発達を言語・遊び・運動をポイントにアニメキャラクターを通して学んでいく</p> <p>教科書：医学書院 小児臨床看護概論（配布資料） 予習：外出先で見かけた子どもの行動、言動から年齢を予想してください。</p>
第8回	<p>ピア・カウンセリング入門！</p> <p>keywords：思春期、ピア、サポート、カウンセリング、自己決定 ピア・カウンセリングスキルを使った、支援の方法を学ぶ</p> <p>教科書：配布資料 予習：相談しやすい人はどんな人か、自分の体験の中から考えておいてください。</p>
第9回	<p>リハビリテーションと理学療法これから</p> <p>keywords：リハビリテーション、ノーマライゼーション、IL運動、理学療法 リハビリテーションの言葉の意味から始まり、リハビリテーションの根幹となる思想や活動を紹介します。リハビリテーションの多様さと、それを支える専門職、さらにチームで活動する必要性についても説明します。そしてリハビリテーションの中核となる、理学療法についても、将来の方向性も含めて紹介してまいります。</p> <p>教科書：適宜資料を配布いたします。 予習：リハビリという言葉が、どこで良く使われているか、周囲の方々にインタビューしておいてください。</p>
第10回	<p>理学療法士が担う治療と患者との関わり</p> <p>keywords：運動療法、物理療法、徒手療法 理学療法士が担う治療についての知識を深め、多くの選択肢から治療をしていることを学ぶ。また、セラピストの知識や技術が患者さんに与える影響が大きいということや、マネジメント力がどのように問われているなどについて紹介する。</p> <p>教科書：配布資料 予習：日本理学療法士協会のホームページ（http://www.japanpt.or.jp/）から治療に関する内容を確認しておくこと。</p>
第11回	<p>「作業」って何だろう？</p> <p>keywords：作業、生活行為、健康、well-being 「作業」という言葉には、少し泥臭いようなイメージをもつ方もいるかと思いますが、しかし、作業療法の観点から捉える「作業」は、ひとの幅広い生活行為そのものを指します。人が健康的な生活を送るために、作業療法士はどのようなことを考え、どんな支援をしているのか、作業療法の概要についてご紹介いたします。</p> <p>教科書：配布資料 予習：予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。</p>
第12回	<p>作業療法における治療支援と活躍の場</p> <p>keywords：作業療法、治療支援、領域 作業療法の基本的な知識を学んだ上で、具体的な作業療法における治療支援について説明します。また、作業療法の中にも様々な専門性があり、各領域における特徴を説明し、作業療法に関する理解を深めることを目的とします。</p> <p>教科書：配布資料 予習：予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。</p>
第13回	<p>受診時、保険証はなぜ必要？</p> <p>keywords：保険証、保険診療、被保険者、保険者、保険医療機関、一部負担金 医療機関受診時、保険証の提示で自己負担分3割で治療が受けられる仕組み（保険診療の仕組み）を学び、医療保障制度について理解を深める</p> <p>教科書：配布資料 予習：授業時、保険証、医療機関受診時の領収書、明細書がある人は持参して下さい。</p>
第14回	<p>子どもの虐待はどうして起こるの？</p> <p>keywords：児童虐待 養育 家族</p>

	<p>児童虐待の現状をお話しします。その中で、予防、発見防止、支援について、現在の対応システムに沿って理解していきたいと思います。また、専門職の役割についても考えてみたいと思います。</p> <p>教科書：配付資料 予習：新聞やニュースを通じて、児童虐待の実態を把握しておいてください。</p> <p>教師の専門性と指導技術 keywords: 変わる学校、アクティブ・ラーニング、教師に求められる力量 初め、2020年度からの新しいカリキュラムや教師の仕事等基礎的知識について、具体的事例で話します。次に、その知識を受け、「魅力的な先生」とは、どんな力量を持つ人なのか、グループワーク及び全体発表を行い、共有します。</p> <p>教科書：配付資料 予習：学校や教育に関するニュース・新聞記事に目を通しておく。</p>
<p>受講生に関わる情報および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりとすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
<p>毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法</p>	<p>オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。</p>
<p>授業外時間にかかわる情報</p>	<p>授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>講義時に指示する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）</p>
<p>教科書</p>	<p>講義内で適時資料配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>講義内で適時紹介する。</p>
<p>実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>各学部にも所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
柴ひとみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。</p> <p>〔目標〕 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。</p>			
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。 なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。 key words:多職種、連携、チームケア</p> <p>第2回 チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。 チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。 key words:多職種、連携、チームケア、職種理解</p> <p>第3回 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。 key words:多職種、連携、チームケア、自職種の役割</p> <p>第4回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。 チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容を挙げる。 key words:多職種、連携、チームケア、グループワーク</p> <p>第5回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例に対する支援内容を話し合う。 key words:多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>第6回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会① チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例に対する支援内容について共通する項目を挙げる。連携を行う意義について考え、意見をまとめる。 key words:多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>第7回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会② 連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。 key words:多職種、連携、チームケア、発表</p> <p>第8回 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 key words:多職種、連携、チームケア</p>			
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。</p>			

	<p>[受講のルール]</p> <p>①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード・その他（ポートフォリオ）
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む。
オフィスアワー	木曜日の15:30～17:30
評価方法	①グループワークでの取り組み50% ②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版, 2008. 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。</p> <p>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ③レポートを形式に則って作成できる。 ④グループワークを円滑に実施できる。 ⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。 ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。</p>			
授業の概要	<p>本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて</p> <p>【Key Word】 建学の精神、学士力、授業の受け方、ノートの取り方、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 基礎学士力とは何か。また、基礎演習 I において建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。</p> <p>高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を説明する。</p> <p>【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P15～P28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p> <p>第2回 建学の精神と実践教育プログラム②：グループワーク手法、礼儀・挨拶、身だしなみの実践について</p> <p>【Key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、身だしなみ、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布 ①次回身だしなみの実践として制服・ケーシー（実習着）を着用するため、グループワークのまとめを行うこと。～P79 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>第3回 建学の精神と実践教育プログラム③：礼儀・挨拶の実践-身だしなみ-</p> <p>【Key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、身だしなみ、実践</p> <p>【授業概要】 臨床の場面を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。 key words:建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、身だしなみ、実践</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記</p>			

第4回	<p>し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>建学の精神と実践教育プログラム④：図書館の利用、ICTを活用した情報分析について</p> <p>【Key Word】 図書館利用法 情報収集・分析、ICT</p> <p>【授業概要】 図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。さらにICT（情報通信技術）を利用した情報収集・分析について実際におこなってもらおう。</p> <p>【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P57～P79</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する。</p>
第5回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑤：ディズニープロジェクト①事前学習</p> <p>【Key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ</p> <p>【授業概要】 ディズニーといえばその高い「ホスピタリティ」に定評があり、何度も足を運びたくなる場所である。そのホスピタリティはどのように育まれているのか、ディズニーと理学療法・作業療法との共通点について各自で探っていく。まず、事前学習として、各自仮説を立て、それを解く計画をたてる。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ディズニーアカデミー参加までにグループを作り、行動計画書を提出すること。提出期限は後日掲示する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム①：グループワーク手法、レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて</p> <p>【key Word】 レポートの書き方 個人情報 情報モラル</p> <p>【授業概要】 レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱い、また情報モラルについて個別的事例を挙げ学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『知のナビゲーター』P83～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回までに図書館及び大学HPから文献を検索し、各自1点以上の文献を印刷し、次回持参すること。文献は原著論文のみとする。文献検索のテーマは自由とする。 ②情報化社会における情報の取り扱いに関する問題点を二つ以上考えてくる。 ③ポートフォリオを作成する。</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム②：レポートの書き方②</p> <p>【key Word】 学士力、レポートの書き方 文献検索</p> <p>【授業概要】 各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。それをもとに、各自に事前に提出したレポートを振り返り、改善点を見出す。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『知のナビゲーター』P71～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第8回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑥：ディズニープロジェクト②</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル</p> <p>【授業概要】 東京ディズニーアカデミーにてセミナープログラム受講し、ディズニーにおけるホスピタリティについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第9回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑦：ディズニープロジェクト③</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル</p> <p>【授業概要】 事前に各自で立てた仮説をグループで検証するため、東京ディズニーシーにて視察を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回発表までに、各グループで発表用レジュメ（A4用紙1枚、パワーポイントのスライド9枚以内）を作成し提出する。 ②次回発表5分、質疑応答2分とする。各グループで発表の練習をしておくこと。 ③ポートフォリオを作成する。</p>
第10回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑧：ディズニープロジェクト④発表</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、ホスピタリティ、コミュニケーションスキル、発表</p> <p>【授業概要】 仮説の検証結果をまとめ、発表する。また、各グループの発表を聞き、ホスピタリティ、コミュニケーションについての理解を深める。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第11回	<p>①グループ発表をもとに、各自でレポートを作成し、ポートフォリオの最終ページにファイリングし、提出する。レポートの記載方法については、授業および採点基準を参考にすること。提出日は後日掲示する。</p> <p>学士力育成プログラム③：レポートの書き方③</p> <p>【key Word】 学士力、レポートの書き方 文献検索</p> <p>【授業概要】 ディズニー研修のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。</p> <p>【教科書・参考文献】 『知のナビゲーター』P71～P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第12回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑨：個人情報保護について①</p> <p>【key Word】 学士力、個人情報保護、グループワーク</p> <p>【授業概要】 医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、グループワークにより個人情報保護について情報収集を行い、それらを統合し自らの解釈を行う。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回発表までに、発表用レジュメ（A4用紙1枚、パワーポイントのスライド9枚以内）を作成し、事前に提出する。提出期限は掲示する。</p>
第13回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑩：個人情報保護について②</p> <p>【key Word】 学士力、個人情報保護、発表</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、それぞれのグループでの個人情報の定義、またその扱いについて学ぶ。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第14回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑪：礼儀・挨拶、環境美化について①</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、環境美化、感染症予防、標準予防策、グループワーク</p> <p>【授業概要】 学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰も理解しているが、臨床場面(病院での環境衛生)においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①次回の「挨拶・礼儀、環境美化について」の発表用レジュメ（A4用紙2枚 パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日掲示する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑫：礼儀・挨拶、環境美化について②</p> <p>【key Word】 建学の精神、学士力、礼儀、挨拶、環境美化、感染症予防、標準予防策、発表</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、礼儀・挨拶・環境美化の重要性を学び、自己を振り返り、今後の学生生活に活かしていく。</p> <p>【教科書・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①1年を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。 ②ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。</p> <p>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ④内容が類似した課題は受け付けられないため、自己の努力で作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。
オフィスアワー	木曜日16：00～17：00
評価方法	<p>◆レポート30%◆発表30%◆ポートフォリオ40% <レポート採点基準></p> <p>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点） 必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点） ②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点）</p>

	<p>③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点）</p> <p>④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点）</p> <p>⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点）</p> <p>⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点）</p> <p><発表評価基準></p> <p>①声の大きさ・明瞭度：聞きやすいこの大きさと明瞭度で発表できた（3点）</p> <p>②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点）</p> <p>③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点）</p> <p>④時間：4分30秒以上5分以内（5点） 4分以上4分30秒以内（3点） 4分未満、5分以上（1点）</p> <p>⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点） 所々不十分（3点） 不十分（1点）</p> <p><ポートフォリオ評価基準></p> <p>①ポートフォリオの基本事項が守られている</p> <p>1)全ての資料に日付が記載されている（5点）</p> <p>2)日付順にファイリングしてある（5点）</p> <p>3)全ての資料に出典が記載されている（5点）</p> <p>4)全ての資料に考察が書かれている（10点）</p> <p>②資料</p> <p>1)各階の全ての配布資料がファイリングされている（5点）</p> <p>2)自ら収集した資料がファイリングされている（10点）</p>
教科書	基礎演習テキスト、地へのステップ、学生生活G U I D E
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>効果的な教育方法について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。 ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。 ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。</p>
------------	--

授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。	◎			
②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。		◎		○
③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。		◎		○

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度</p> <p>学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア・学士力とボランティアの関わりについて説明する。</p> <p>①目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明と記入 ②ボランティアの種類及び参加方法の説明 ③ボランティアに臨む姿勢や態度について考える 「学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア」</p> <p>〔課題〕 ①目標シートを完成させて提出する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
	第2回	<p>車椅子体験</p> <p>3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。</p> <p>車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。 「車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク」</p> <p>〔課題〕 ①次回のグループ発表用のレジュメ (A4用紙1枚) を指定した期日までに提出すること。詳細は後日掲示する。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
	第3回	<p>車椅子体験まとめ</p>

	<p>車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、正しい・安全な車椅子の使用方法・介助方法を学ぶ。 「車椅子、介助者、心理・精神、発表」</p>
第4回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ボランティア講和 上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、またボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。 「ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア」</p>
第5回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。 前期の振り返り 前期に参加したボランティアについて、ポートフォリオをもとに振り返り、自分が体験したこと、学んだことについて2分間スピーチを行う。 また、夏季休暇中のボランティア活動計画を立案する。 「2分間スピーチ、発表、活動計画」</p>
第6回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②夏季休暇中のボランティア活動については、活動報告書・ポートフォリオを随時記入・作成し、後期開始後に提出すること。 クリスマス会の企画 上級生から昨年度のクリスマス会の内容・様子、反省点について話を聞き、今年度のクリスマス会の内容を検討する。ボランティア委員を中心に、各専攻での企画・担当を考える。 「企画、運営」</p>
第7回	<p>[課題] ①夏季休暇中に参加したボランティア活動を踏まえて、後期のボランティア活動計画を立案する。 ②夏季休暇中に参加したボランティア活動を含めた前期の活動について、各自中間振り返り票に記入する。 ③中間振り返り票を記入した日付の所にファイリングし、ポートフォリオを提出する。 クリスマス会の企画、内容の検討 ボランティア委員を中心に、各専攻で企画を考え、クリスマス会の内容・流れを決める。 「企画、構成、グループワーク」</p>
第8回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担 クリスマス会について事前・当日の役割分担を行う。当日までのスケジュールを決め、各担当で行動計画を立てる。 「企画、役割分担、グループワーク」</p>
第9回	<p>[課題] ①各専攻の企画及び全体の企画書（予算案を含む）を作成し、提出する。 ②ポートフォリオを作成する。 ③企画書が受理され、予算が配布されてから、各グループで準備を開始すること。 ④広報担当はクリスマス会のチラシ・ポスターを作製し、広報活動を行う。詳細は後日説明する。 クリスマス会予演会① 各専攻で準備した企画を実施する。他専攻の企画に参加し、気づいたことや注意点を伝え、改善点を共有する。各企画及び全体の流れについて、次回までの修正点を確認する。</p>
第10回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 クリスマス会予演会② 前回の反省を踏まえ、クリスマス会を模擬的に実施する。各企画、全体の流れ、役割分担について再確認する。</p>
第11回	<p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会前日に全ての準備を終了すること。 クリスマス会 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。 「地域交流、コミュニケーション、企画運営」</p>
第12回	<p>クリスマス会 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。 「地域交流、コミュニケーション、企画運営」</p>
	<p>[課題] ①クリスマス会における担当の企画および全体について、良くできた点・反省点とその改善策について、各自でまとめておく。 ②ポートフォリオを作成する。</p>

	<p>第13回 クリスマス会の振り返り、まとめ クリスマス会の取り組みを通して良くできた点、反省点とその改善策を各専攻で話し合い、まとめ、両専攻で共有する。 「振り返り、改善策」</p> <p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。</p> <p>第14回 1年の振り返り（コミュニケーション、対人） 1年間のボランティア活動を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。 次回のグループ作成、課題を提示する。 「2分間スピーチ、発表」</p> <p>[課題] ①ポートフォリオを作成する。 ボランティア活動のまとめ（自己分析・他者評価） グループ内で車椅子の介助を行う。1年間のボランティア活動で学んだことをもとに、対象者への対応、車椅子の操作を実践し、自己分析、他者評価を行う。 「自己分析、他者評価、介助技術、配慮」</p> <p>第15回 [課題] ①1年間のボランティア活動の経験を振り返って、成長報告書を記載し、ポートフォリオにファイリングする。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意</p> <p>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていきます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。 依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	木曜日16:00～17:00
評価方法	<p>ポートフォリオ70% ボランティア参加状況18% 授業内発表12%</p> <p><ポートフォリオ採点基準></p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）</p> <p>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）</p> <p>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点）</p> <p>④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点）</p> <p>⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やかに提出できている（12点）</p> <p><ボランティア参加状況評価基準></p> <p>①年間6回以上の依頼ボランティア・継続ボランティアに参加（18点）</p> <p><授業内発表評価基準></p> <p>①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点）</p> <p>②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点） 所々不十分（3点） 不十分（1点）</p> <p>③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点）</p> <p>④時間：1分45秒以上2分以内（3点） 1分30秒以上1分45秒以内（2点） 1分30秒以内、2分以上（0点）</p>
教科書	ボランティアハンドブック
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
------------	--

授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成31年8月28日～9月7日
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2) レジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。
	第3回	カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について カナダの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。
	第6回	英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。
	第7回	英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。
	第8回	英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。
	第9回	英語研修(5) 日常英会話 危機管理

	<p>研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p>
第10回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第11回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Welcome & Program Orientation レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第12回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation & Tour レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第13回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ① レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第14回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ② レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第15回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第16回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language History ① レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第17回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language History ② レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第18回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Farmer, s Market and Regina Down Town Tour レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第19回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ① レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第20回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture② レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第21回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of Sa skatoon & Western Development Museum レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第22回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ① レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第23回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ② レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第24回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第25回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ① レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第26回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ② レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第27回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第28回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Program Closing Ceremony レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p>
第29回	<p>研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。</p>
第30回	<p>研修成果 報告会 (まとめとふりかえり) 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい</p>

	⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦・小林洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院）にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成32年3月15日～3月23日

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2) アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1) 世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1) ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
	第6回	医療福祉研修(2) ボランティア先でのレクリエーション企画について 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3) 医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイ

	<p>を行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p> <p>第10回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学 医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>第11回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>第12回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>第13回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第14回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第15回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第16回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第17回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第18回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services 高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第19回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation 身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第20回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation therapiesを訪問し リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>第21回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。</p> <p>第22回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。</p> <p>第23回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 "マニラおよび近郊の文化、観光施設</p> <p>第24回 "現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 "マニラおよび近郊の文化、観光施設</p> <p>第25回 "現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 "マニラおよび近郊の文化、観光施設</p> <p>第26回 "現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>第27回 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。</p> <p>第28回 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。</p> <p>第29回 研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。</p> <p>第30回 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり) 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。</p> <p>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。</p> <p>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p> <p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p>

	⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input checked="" type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木利定			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかにかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれではよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係				
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	第1回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。 論語 史記 信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きな者について、学問について。		
	第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 命の使い方P1、P174		
	第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 プロタゴラス (真理なし) ソクラテス プラトン (イデア論) (真理あり) プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。		
	第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句 (右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明		
	第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) コメントカードの質問に答える。		
	第6回	① 形物上学他、② ギリシャの愛についてプリント配布して説明成一徳 P14~22 家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学その伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)		
	第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)		
	第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 大学の道についての孔子の説明。大学辛句 (右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。		
	第9回	国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。(右第十、十一章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学その伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。		
	第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 後世へ残すもの、1、お金 2 事業 3、 思想、 祈 4、元氣 結論 誰にでも出来て 害にならないもの		
	第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。		

	<p>第12回 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマンイズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 ①西洋の2聖人 アリストテレス イエスキリストのその後の影響 ②宗教と哲学の違い 宗教は信ずること 哲学は問うこと P8</p> <p>第13回 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。</p> <p>第14回 老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。</p> <p>第15回 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 現代のみだれ 宗教・道徳が必要 宗教の問題 1、救済の問題 2、続行者の問題 3、 信仰者の問題 (行為) 「親鸞」についても話すプリント 日本の仏教一覧表</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視し、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(2回以上のもの)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10時30分～12時。
評価方法	■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □その他評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究一修正版」(明治図書) 咸有一徳(中央法規)
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。 			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとつ（事象の論説・事実把握・論述すること）</p> <p>【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとつをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表してもらいます。何人かに発表してもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。</p> <p>【Key Word】 受講の際の留意事項 はちどり 自分にできること 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にありませんが、遅刻をしないようにしてください。</p> <p>第2回 咸有一徳とは 学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ</p> <p>【授業概要】 これから2週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躰と習慣」についてともに考えていきましょう。</p> <p>【Key Word】 咸有一徳 仁 習慣 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P13～P26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。</p> <p>第3回 咸有一徳とは 学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ</p> <p>【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。</p> <p>【Key Word】 古典 論語 仁 建学の精神 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P26～P37</p>			

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。</p> <p>「仁」とは何か 「真心」とは何か</p> <p>【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう</p> <p>【Key Word】 仁 真心 惻隱の心 四端</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P39～P56</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。</p> <p>「至誠」とは何か</p> <p>【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善々至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。</p> <p>【Key Word】 至誠 尽くす 儒教 儒学</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P57～P70</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。</p> <p>王陽明『伝習録』と建学の精神—仁について—</p> <p>【授業概要】 本学の建学精神は『論語』に現れる「仁」です。この「仁」の言葉の意味が、時代とともに深化していき思想的な意味が付与されていきます。なかでも王陽明の仁解釈「万物一体の仁」は、思想的にも大きな意味と影響を後世にもたらしました。『伝習録』の中から「仁」に関する言及をピックアップし、考えてみましょう。</p> <p>【Key Word】 王陽明 伝習録 万物一体の仁</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P14・P15『王陽明徐愛「伝習録集評」』P62～P88</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回・次回ともに中国思想の分野に比重が高くなります。また普段馴染みのない語が多々現れます。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、キーワードを必ず図書館にある辞書類で調べておいてください。</p> <p>王陽明『伝習録』と教育理念—知行合一について—</p> <p>【授業概要】 本学の教育理念である「知行合一」は明代の思想家王守仁（王陽明）によって唱えられた思想です。「知」は知識、「行」は行動といった意味です。知識と行動を本来一つであることを王陽明は主張しております。これは哲学の観点から言えば認識論に関わります。また実践という視点からも論ずることができる問題です。我々は知識と行動の関係をどのように把握するのがよいのか、例題を通して考えてみましょう。</p> <p>【Key Word】 知行合一 致良知</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 『王陽明徐愛「伝習録集評」』P90～P116</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回も中国思想の分野に比重が高くなります。また普段馴染みのない語が多々現れます。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、キーワードを必ず図書館にある辞書類で調べておいてください。</p> <p>小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」—各年代における位置づけ—、明治以降の教育界における道徳教育の変遷</p> <p>【授業概要】 この回より5週にわたり、学習指導要領に記されている「道徳」について考察していきます。この回では近代以降の日本の公教育の変遷について概説します。</p> <p>【Key Word】 修身 道徳</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学制百年史』等から日本における公教育変遷の概略を理解しておくこと。</p> <p>小学校・中学校における道徳課題について</p> <p>【授業概要】 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から道徳教育の教科化が始まりました。小学・中学生にはどのような道徳的課題があるのでしょうか。また教師としてどのように日常生活で生徒に接するべきなのか考えてみましょう。</p> <p>【Key Word】 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領の中から関連部分を抜き出したプリントを配布します。</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 その日のうちに、講義で触れた学習指導要領の部分を再度読み直し、意味を定着させてください。</p> <p>道徳課題に基づき指導案を作成してみる</p>

	<p>【授業概要】 次回以降の模擬授業に備え指導案を作成してもらいます。指導案・模擬授業で使用する題材は、中学校「道徳」の教科書に必ず収録されている「足袋の季節」です。どのようにして生徒が多面的な発想をもたらし、また道徳心を育むか。グループに分かれ指導案を作成し、次週以降の模擬授業に備えてもらいます。</p> <p>【Key Word】 指導案作成 足袋の季節 【教科書ページ・参考文献】 「足袋の季節」はプリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学習指導要領』の授業を進める際の注意点をよく読んでください。</p> <p>第11回 模擬授業 【授業概要】 各班が作成した指導案に基づき「足袋の季節」の模擬授業をしてもらいます。模擬授業を見ている側にも、問題点の指摘や、参考になった点を発表してもらいます。発表・見学ともに積極的に参加して意見を出してもらいます。</p> <p>【Key Word】 指導案 模擬授業 足袋の季節 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。</p> <p>第12回 統模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます） 【授業概要】 前回は続き発表してもらいます。発表済みの班はこの日に訂正を加えた指導案を提出してもらいます。（この日、発表の版は次週に提出）指導案を作成したままでなく、見直し・訂正を加えた上で各班に提出してもらいます。</p> <p>【Key Word】 指導案 模擬授業 足袋の季節 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。</p> <p>第13回 家庭生活の基本マナー 福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察） 【授業概要】 社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。</p> <p>【Key Word】 家族 あいさつ 服装 ホウレンソウ 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P71～P86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。</p> <p>第14回 学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察）マナーについて 前回は続き、今回は学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。</p> <p>【Key Word】 学校生活 服装 環境美化活動 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P87～P102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。</p> <p>第15回 時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える） 最近（2019・2.28現在）の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。</p> <p>【Key Word】 時事問題 【教科書ページ・参考文献】 各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んでください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてみてください。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

オフィスアワー	毎週火曜14 時～ 16 時。
評価方法	期末試験60%、課題20%、発表20%。
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2 版、中央法規、2014 年5 月 鈴木利定関 中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明德出版社、2016 年6 月
参考書	『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (30)	選択
担当教員			
橋本広信			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 人の心を成立させている機能や基本的なメカニズムを理解し、幅広く人間を理解する知識と視点を得る。</p> <p>【到達目標】 ①知覚と認知のメカニズムの理解を通し、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習と記憶の仕組みの理解を通し、人の人格や生活世界の心理的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職として出会う患者の心理を直接当事者から学ぶことで、学びへの姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。</p>
------------	---

授業の概要	<p>広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学や、人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：心理学が明らかにしようとしてきたことは何か ・心身二元論、ヴント、マズロー、ロジャーズ、ワトソン、フロイト、レヴィン、実験、観察、面接、心理テスト、事例研究 等 ・現在までに至る心理学に至る歩みを知ることで、心理学という学問が明らかにしようとしてきたものについて解説する。 本時の目標としては、①心理学は何を明らかにしようとしてきたのか、その概要を知る。②心理学では、どのような方法を用いているのかを知る。 (pp. 204-215) キーワードで挙げられている心理学者の人生と業績について辞典、ネット等で調べておくこと</p> <p>第2回 人にはなぜ目があるのか？：感覚、知覚、錯視 ・人が生活している環境に適応的に生きていくため、どのように環境を知り、それにどのように対応しているのかについて、「感覚」と「知覚」、「錯視」などを手掛かりに学んでいく。 (教科書 pp. 2-9) ・様々な錯視現象について紹介したサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。</p> <p>第3回 人がスムーズに動けるのはなぜか？：空間・運動知覚と認知 ・人間が生きている三次元空間に対応した知覚として、奥行きや運動を捉える知覚について学ぶ。そして、それぞれの人が発達させる知覚傾向と個人の生きている環境との関連性について理解する。 (教科書 pp. 10-14)</p> <p>第4回 人はいかにして状況に対応をしていくか？：学習の理論と記憶の基礎 ・人の多くの行動は生後学習されたものであり、そのメカニズムを学ぶことで、人の適応の過程を理解する。 ・また、学習や経験が保持をされ、人の永続的な行動を可能にする記憶のメカニズムの基礎を理解する。 (教科書 pp. 16-26)</p> <p>第5回 人の行動を引き起こすのは何か？：動機づけ ・マズローの理論、自己効力感、学習性無力感 ・人の行動を引き起こす原因として想定される動機や欲求について学ぶ。 ・この学習を通して、動機づけのメカニズムや種類を知り、動機を引き起こす欲求とその特徴は何かを理解する。 (教科書 pp. 28-38) ・提出予定課題①「自分や友人の体験を振り返り、学校で体験した「学習性無力感」と、病院で人が体験するかもしれない「学習性無力感」について調べ、事例として報告しなさい」 (A4)</p>
------	---

	<p>用紙1枚以上)</p> <p>第6回 心が動くのはなぜか? : 感情 ・コンフリクト、フラストレーション、防衛機制、ストレスコーピング ・人に備わる感情の分類や役割の基礎について学び、感情を持って生きる意味について理解する。 ・特に負の感情が強く働く状態について理解し、感情と人との関係性について理解を深める。 (教科書 pp.40-52) ・防衛機制をしっかり復習し、理学療法・作業療法士国家試験で防衛機制が出てきた過去問題を調べ、ノートに写しておくこと。</p> <p>第7回 私は、なぜ私であるのか? : パーソナリティ ・同じ環境下であっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ(人格)として捉える視点と、様々なパーソナリティ論について理解する。 ・類型論、特性論、ビッグファイブ、パーソナリティ検査 (教科書 pp.54-66) ・授業に臨む前に、教科書66頁の「自己概念の測定: 20 答法回答用紙」を実施しておくこと。</p> <p>第8回 人に備わる、知る・考える・学ぶ力とは? : 知能と知能検査 ・頭(知的能力)を使って課題を解決すること全般について、「知能」という概念によって理解する。 ・知能検査について学び、知的能力を測るということについての理解を深める。 (教科書 pp.68-80)</p> <p>第9回 人に備わる、考える力とは? : 思考 ・集中的思考、拡散的思考、問題解決、創造性 ・感覚・感情的に生きるのみではなく、人は概念を駆使しながら思考する力を持つ。 ・物事を認識したり、推理・判断をしたりする過程について理解し、人らしさの源を考える。 (教科書 pp.82-92)</p> <p>第10回 人はどのように変化をするのか? : 発達① ・発達段階論(前半) ・誕生してから人は絶えず変化を続ける。そうした一定の変化を発達と捉え、身体的な面に限らず、精神的、社会的な発達の変化について概観する。 ・第一回目は子ども時代における発達の主な特徴について学んでいく。 (教科書 pp.94-110)</p> <p>第11回 人はどのように変化をするのか? : 発達② ・発達段階論(後半) ・発達の変化について扱う第二回目。 ・今回は、青年期と初期成人期についてその特徴を解説する。今回は青年期に主な焦点を当て、アイデンティティをキーワードに、人が大人へと変化する過程で起きる内面的変化について学んでいく。 (教科書 pp.112-116)</p> <p>第12回 人はどのように変化をするのか? : 発達③ ・大人として社会で生きようになった(一定の発達の終了)のち、喪失や衰退を体験する人生後半の課題に人はどのように向き合うのかについて学んでいく。 ・人生後半にこそ創造的に変化をしていながら適応してこそ精神的健康を維持できる。 ・中年期以降、死に至るまで生き続ける営みが続いていくが、そこで人が出会う内面的な課題について理解する。 (教科書 pp.117-124)</p> <p>第13回 人は人との間でどのような関係をつくるのか? : 人間関係の心理学 ・人との関わりの中で生まれ育ち、人との関わりのある方をそれぞれが形成していく。ここでは、人間関係の性質や、そこに働く心理的な力や法則について学んでいく。 ・対人認知、印象形成、バランス理論、認知的不協和理論、原因帰属、対人魅力の心理 (教科書 pp.126-134)</p> <p>第14回 人の心が健康である状態とは? : 精神的健康 ・こころが健康な状態について、それが損なわれている状態を学ぶことで理解を深める。 ・抑うつ、不安 ・抑うつ尺度、ストレス尺度 ・気分障害、不安障害、適応障害、物質関連性障害、心身症 等 (教科書 pp.150-164)</p> <p>第15回 心理学の応用分野 ・これまで学んだことのまとめとして、心理学が応用されている多くの分野や広がりについて学び、人間理解の視野を広げる。 ・教育心理学、スポーツ心理学、健康心理学、犯罪心理学、司法心理学、障害心理学、福祉心理学 ・環境心理学、災害心理学、産業・組織心理学 等 (教科書 pp.184-201) ※ テスト課題解説</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関する情報] ・医療・福祉職を目指す者にとって、人とは何かという人間観の基礎教養を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目となるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。</p> <p>[受講のルール] ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、スマホなどの使用)は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>シャトルカード方式(疑問・質問に限らず、聞いてみたい伝えてみたいことはなんでも書いてよいので、積極的に書いて下さい。)</p>

授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。 ・用語調べをしてA4用紙などにまとめて授業時に提出するなどの努力に対しては、1回1点の加点をする。 ・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。 ・図書や映画などの感想文を提出した場合も、1回1点の加点をする。
オフィスアワー	火曜日11:00～13:30
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：C、70-79点：B、80-89点：A、90点以上S ・期末試験70点、小レポート・課題提出30点（30÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点満点：提出により得点）
教科書	二宮克美（2016）『ベーシック心理学 第2版』（医歯薬出版）
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2015）『心理学（第5版）』（東京大学出版会） 他適宜指示をする
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山宗彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 国際文化論（intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。 〔到達目標〕 国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	第1回 「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～
	第2回 和の文化（1）～その構造について～
	第3回 和の文化（2）～神の文化との比較～
	第4回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
	第5回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
	第6回 日本外交の原点に位置する聖徳太子
	第7回 ヨーロッパ文明とEU
	第8回 日本と中東（1）
	第9回 日本と中東（2）
	第10回 湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動
	第11回 ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて
	第12回 「平和」実現への第一歩とは（1）
	第13回 「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～
	第14回 国際文化論として考えるリハビリテーション
	第15回 個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	世界の国々に関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田隆夫			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。</p> <p>【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。</p>			
授業の概要	法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらいます。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範 【key words】 社会規範、法源、法の解釈 【授業概要】 “授業の進め方（シラバスの説明） 法の市民生活との関わり合い（日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理綱領」） 「法源」、「法の解釈」について 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 2～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P 9～19</p> <p>第2回 概論2：市民生活の各領域と主な関係法 【key words】 クーリングオフ、不法行為、労働三法 【授業概要】 “日常生活や仕事上、生活上の法律関係（消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等） 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 9～19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P 22～33</p> <p>第3回 憲法1：憲法総論、基本的人権総論1 【key words】 基本的人権の尊重、国民主権、平和主義 【授業概要】 “憲法一般の概念・歴史・基本原理 日本国憲法の歴史・基本原理、国民主権、平和主義等 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P 33～37</p> <p>第4回 憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由 【key words】 新しい人権、平等権、思想良心の自由、信教の自由 【授業概要】 “人権についての思考方法 新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等</p>			

第5回	<p>関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 33 ～ 37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P 38 ～ 41 憲法3：表現の自由、経済的自由 【key words】 表現の自由、知る権利、職業選択の自由 【授業概要】 ”民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等 経済的自由（精神的な自由との比較も含めて） 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 38 ～ 41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習 P 41、P 44 ～ 46</p>
第6回	<p>憲法4：財産権、社会権 【key words】 財産権、生存権 【授業概要】 ”財産権 「国家による自由」という性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら） 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P P 41、P 44 ～ 46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P 41 ～ 43、P 45 ～ 51</p>
第7回	<p>憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務 【key words】 人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務 【授業概要】 ”人身の自由 その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P P 41、P 44 ～ 46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P 41 ～ 43、P 45 ～ 51</p>
第8回	<p>憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣 【key words】 権力分立、国会、二院制、議決 【授業概要】 ”統治機構の概説（権力分立を中心として） 国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等 行政を担当する内閣の地位、組織、権能等 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 50 ～ 59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P 59 ～ 70</p>
第9回	<p>憲法7：裁判所、財政、地方自治 【key words】 裁判所、財政民主主義、地方自治の本旨 【授業概要】 ”裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。 財政における民意を反映方法 法地方自治につき、その本旨から考える 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 59 ～ 70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P 72 ～ 82</p>
第10回	<p>民法1：民法総則 【key words】 自然人、法人、法律行為 【授業概要】 ”法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力 その他、代理、時効等 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 72 ～ 82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P 96 ～ 102</p>
第11回	<p>民法2：契約総論 【key words】 契約自由の原則、契約の成立、効力、解除 【授業概要】 ”法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 96 ～ 102 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第12回	<p>予習 : P 102 ~ 115 民法3: 契約各論 【key words】 典型契約、不法行為 【授業概要】 ”売買、貸借権等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 102 ~ 115 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>予習 : P 130 ~ 159 民法4: 親権 【key words】 親族、婚姻、親子 【授業概要】 ”夫婦の関係、親子の関係 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 130 ~ 159 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第14回	<p>予習 : P 162 ~ 180 民法5: 相続 【key words】 法定相続、遺言 【授業概要】 ”自らの意思に基づいて遺言、遺言のない場合のための法定相続 関連する事例についての討論” 【教科書ページ・参考文献】 P 162 ~ 180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、プリント等の見直し</p>
第15回	<p>まとめ 【key words】 法学概論、憲法、民法 【授業概要】 法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめ 【教科書ページ・参考文献】 P 2 ~ 180 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	月曜日 9時～12時
評価方法	定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館、2015年、有斐閣「ポケット六法」
参考書	授業中に随時紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①パソコンの基本的な操作を理解する。 ②インターネットを正しく利用できる。 ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。 ④Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。 ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションを行うことができる。</p>			
授業の概要	<p>授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、Word/Excel/PowerPointを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。 また、情報の検索など、インターネットの活用方法も理解できるようにする。 他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWord/Excel/PowerPointを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 (概論) オリエンテーション、パソコンの基本操作 ・講義のオリエンテーション ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用</p> <p>第2回 (Word) 基本的な文章の入力 ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存 ・ファイルを開く</p> <p>第3回 (概論) ホームページの利用と情報セキュリティ ・ホームページの見方 ・Googleを利用したホームページの検索 ・ファイルのダウンロードと保存 ・よく見るホームページのブックマーク ・インターネットのセキュリティ(ウイルス対策、各種詐欺対策等)</p> <p>第4回 (Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式) ・ページレイアウトの設定(用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き/横書き) ・文字書式の設定(太字、斜体、下線、フォント、色) ・段落書式の設定(揃え、行間、インデント)</p> <p>第5回 (Excel) Excelの基本操作 ・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等) ・行、列の操作(行/列の挿入、削除等) ・データのコピーと貼り付け ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)</p> <p>第6回 (PowerPoint) プレゼンテーション作成の基本 ・プレゼンテーションの作成 ・スライドの作成と編集(コピー、移動、削除等) ・レイアウトの変更 ・インデントとアウトライン ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)</p> <p>第7回 (Word/PowerPoint共通) 表を含む文書の作成 ・表の作成とデータ入力 ・表の操作(行/列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作) ・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)</p> <p>第8回 (Word/Excel/PowerPoint共通) 図形や写真を含む文書の作成 ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 <p>第9回 (Word) 複数ページ文書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 <p>第10回 (Excel) グラフの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど)と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの <p>第11回 (Excel) 基本的な計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け) ・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など) ・よく使う関数(COUNT, ROUND, IF など) <p>第12回 (PowerPoint) 画面切り替えとアニメーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画と音声の利用 <p>第13回 (PowerPoint) プレゼンテーションに関する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フッターとスライド番号の挿入 ・ノートの作成 ・スライドショーの実行 ・リハーサル機能 ・資料の配布 <p>第14回 (Word/Excel/PowerPoint共通) アプリケーションにまたがる操作とファイル操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション化のコピーと貼り付け ・ドライブ/フォルダ/ファイルの概念 ・フォルダ/ファイルの操作(コピー、移動、削除など) <p>第15回 課題説明・作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題内容の説明 ・課題作成実習 ・課題を作成して期限までに提出
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること。
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題による評価(100%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	できるWord&Excel 2016 Windows 10/8.1/7対応、インプレス、2015年
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
デイビス ウォーレン			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
------------	--

授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> • Class orientation • 'Getting to know you' exercise • Grammar: Present simple of be • Conversation 1 • Textbook p4 & 5 • Homework: Review conversation 1 <p>第2回 Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 1 • Grammar: Present simple • Numbers & time expressions • Textbook: p6 & 7 • Homework: Review conversation 1 <p>第3回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review time expressions • Conversation 2 • Listening practice • Textbook: p7 & 8 • Homework: Review conversations 1 & 2 <p>第4回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 2 • Family vocabulary • Visitor's code • Grammar: Imperative • Conversation 3 • Textbook: p8 & 9 • Homework: Review conversations 1 ~ 3 <p>第5回 Meeting Colleagues IV - Escorting a Patient for Tests</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 3 • Ordinal numbers & dates (handout) • Hospital equipment and giving comfort expressions • Conversation 4 • Textbook: p10 & 11 • Homework: Review conversations 1 ~ 4 <p>第6回 Nursing Assessment I - Checking Patient Details</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 4 • Asking for personal details • Grammar: Wh- questions • Patient details interview • Textbook: p12 & 13 • Homework: Review conversations 1 ~ 4
------	---

	<p>第7回 Nursing Assessment II- Describing Symptoms</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review patient details • Symptom vocabulary • Describing and asking about symptoms • Conversation 5 • Textbook: p14 & 15 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第8回 The Patient Ward I- The Patient Ward</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Patient ward vocabulary • Prepositions of place • Grammar: There is/There are • Textbook: p22 & 23 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第9回 The Patient Ward II- Nursing Duties</p> <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Conversation 6 • Grammar: Present continuous • Textbook p24 & 25 • Prepare for next week's test <p>第10回 Review Test ① ・ノート提出 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes) • Go over answers <p>第11回 The Body and Movement I- The Body: Limbs and Joints</p> <ul style="list-style-type: none"> • Body parts vocabulary • Body movement vocabulary • Conversation 7 • Giving exercise instructions • Textbook p36 & 37 • Homework: Review body parts vocabulary <p>第12回 The Body and Movement II- The Body: Torso and Head</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 7 • More body parts vocabulary • Giving body movement instructions (pairwork) • Textbook: p38 & 39 • Homework: Review conversations 1 ~ 7 <p>第13回 The Body and Movement III- Setting Goals and Giving Encouragement</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Grammar: Comparative adjectives • Asking patients about their goals • Conversation 8 • Textbook: p40 & 41 • Homework: Review conversations 1 ~ 8 <p>第14回 The Body and Movement IV- Documenting ROM Exercises</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Review conversation 8 • Review body movement • ROM exercise vocabulary • Textbook p42 & 43 • Prepare for review test <p>第15回 Review Test ② ・ノート提出 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Japanese things quiz (speaking practice) • Revise for final test
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業をよく聞いて、ノートをとる。 • ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 • 英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> • Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 • 分からない単語があれば、調べておくこと。
オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p>

グ	<p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート<input type="checkbox"/> グループワーク<input type="checkbox"/> プレゼンテーション<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない
---	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。 韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。</p> <p>[到達目標] 1) ハングル文字が書けて正しく読める。 2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 3) 韓国語で自己紹介が出来る。 4) パソコンで韓国語の入力が出来る。</p>
------------	--

授業の概要	<p>ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様になり繰り返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	第1回	オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴
	第2回	ハングルの母音、出会いの挨拶
	第3回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶
	第4回	ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点） 感謝、謝罪の際の会話
	第5回	ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話
	第6回	ハングルのパッチム、お願いの時の会話
	第7回	ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶
	第8回	ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化
	第9回	ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
	第10回	パソコンでのハングルの入力の仕方
	第11回	～は～ですの文型、自己紹介
	第12回	～は何ですか？の文型 指示代名詞
	第13回	疑問詞を用いての分の表現（いつ、どこ、なに、だれ）
	第14回	ある、ない、分かる、分からないの表現
	第15回	読み書きのまとめ、日常会話の復習

受講生に関わる情報 および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう（初級）』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ピンインを見て発音ができるようになる。 中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。 			
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 諸注意 読みなれている言葉を中国語で発音してみよう</p> <p>【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指しています。</p> <p>【Key Word】 受講にあたっての諸注意 中国語 漢語 簡体字 繁体字 ピンイン</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P2</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。</p> <p>第2回 発音の決まりごと（1）</p> <p>【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語 発音よければ 半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音練習していきます。</p> <p>【Key Word】 ピンイン 声調（四声） 単母音 複合母音</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P2・P3</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第3回 発音の決まりごと（2）</p> <p>【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。</p> <p>【Key Word】 声調 併音</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～P7</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第4回 第0課 你好！（こんにちは その1）</p>			

	<p>授業概要】 外国語を学ぶ際にあいさつほどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりとやっ ていきます。またピンインの綴り方を学習します。</p> <p>【Key Word】 你好 併音</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4・P5</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第5回 第0課 你好！（こんにちは その2）</p>
	<p>【授業概要】 今回より意味も含め本格的に中国語を学んでいきます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさ つ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕 方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう</p> <p>【Key Word】 你好 併音 名前の尋ねかた</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4・P5</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第6回 第1課 你是日本人吗？（あなたは日本人ですか その1）</p>
	<p>【授業概要】 この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述 語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。</p> <p>【Key Word】 是構文（名詞述語文）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10・P11</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第7回 第1課 你是日本人吗？（日本人ですか その2）</p>
	<p>授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかりと植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定 文のつくり方と副詞“也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み 自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】 是 不是 也 吗</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～P13</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第8回 第2課 这是什么？（これは何ですか その1）</p>
	<p>【授業概要】 この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文 を使って会話と作文をしていきます。</p> <p>【Key Word】 这个 那个 哪个</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P14・P15</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第9回 第2課 这是什么？（これは何ですか その2）</p>
	<p>【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかりと植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪 里”を使って疑問 文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問 題にも取り組み自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】 什么 谁 哪里 的</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P14～P17</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発 音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能 性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際に は、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第10回 第3課 今天几月几号？（今日は何月何日ですか その1）</p>

	<p>【授業概要】 日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付・曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。</p> <p>【Key Word】 曜日の言い方</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P18・P19</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第3課 今天几月几号？（今日は何月何日ですか その2）</p> <p>【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかりと植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊かにしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】 動詞文 S+V+O</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P18～P21</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第4課 你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？ その1）</p> <p>【授業概要】 年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代・年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おとし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。</p> <p>【Key Word】 年齢の尋ね方</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P22・P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。</p> <p>第13回 你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？ その2）</p> <p>【授業概要】 小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかりと植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】 年の言い方 数の数え方</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P22～P25</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、小テストで間違えたところを中心に、再度テストをしますので、よく今回の小テストを見直してください。</p> <p>第14回 现在几点？（いま何時）</p> <p>【授業概要】 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。</p> <p>【Key Word】 時間</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P26～P29</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。</p> <p>第15回 前期総復習</p> <p>【授業概要】 前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。</p> <p>【Key Word】 総復習 発音 併音の綴り方</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P3～P29</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違った部分を再度やり直して講義に臨んでください。</p>
--	---

受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	川邊雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、2019年1月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。 ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。 ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。 ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。 ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。 ⑥骨の連結</p>
------------	---

授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語 正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc授業の進め方、復習の仕方を説明。 人体の部位名等を説明。トレーニングノート p 2 - 13身体の断面、上肢、下肢の暗記</p> <p>第2回 骨格系-1 上肢の骨 ・骨の構造と機能 ・上肢帯の骨についてトレーニングノート p 43 - 46, p 17 - 18鎖骨、肩甲骨の関節部や筋の付着部の名称の暗記</p> <p>第3回 骨格系-2 上肢の骨 ・前回の内容の確認試験 ・上腕骨、尺骨、橈骨についてトレーニングノート p 17 - 20上腕骨、前腕の骨の名称の暗記</p> <p>第4回 骨格系-3 骨盤、下肢の骨 ・前回の内容の確認試験 ・寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨についてトレーニングノート p 35 - 36, 21 - 26寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨の名称の暗記</p> <p>第5回 骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造トレーニングノート p 37 - 42頭蓋骨を構成する骨の名称と構造の暗記</p> <p>第6回 骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成 胸部の構造、椎骨の構造トレーニングノート p27 -34椎骨の構造の暗記</p> <p>第7回 筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結 関節の構造と種類、筋の構造と種類についてトレーニングノート p 47関節の構造と種類、筋の構造と種類の暗記</p> <p>第8回 筋系-2 体幹の筋、胸部の筋 体幹、胸部の筋についてトレーニングノート p 134 - 149胸部の筋、腹部の筋の暗記</p> <p>第9回 筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節 体幹、胸部の筋についてトレーニングノート p 134 - 149胸部の筋、腹部の筋の暗記</p> <p>第10回 筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 脊柱起立筋、肩関節の構造と作用についてトレーニングノート p 146 - 151浅背筋群、脊柱起立筋、肩関節の構造の暗記</p> <p>第11回 筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋についてトレーニングノート p 151 - 155上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記</p> <p>第12回 筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋についてトレーニングノート p 151 - 155上肢帯、上肢後</p>
------	---

	<p>面・全面の筋、肘関節の構造の暗記</p> <p>第13回 筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 骨盤、下肢の骨についてトレーニングノート p 156 - 166骨盤、下肢の筋について暗記</p> <p>第14回 筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について 下肢の筋、下肢の連結と運動について、試験勉強についてトレーニングノート p 156 - 166下肢の筋について暗記</p> <p>第15回 筋系-9 まとめ、試験について 前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気を乱
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村嶺【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著） 南江堂 ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論 ・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>① 内臓器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>
授業の概要	生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 生命現象と人体① 生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第2回 生命現象と人体② 水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第3回 細胞の構造と機能 細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第4回 神経の興奮伝導と末梢神経① 神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第5回 神経の興奮伝導と末梢神経② 自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第6回 中枢神経系① 中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第7回 中枢神経系② 小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第8回 中枢神経系③ 脳の高次機能、大脳基底核と脳梁 についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第9回 中枢神経系④ 辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。</p> <p>第10回 筋と骨①</p>
------	---

	筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 第11回 筋と骨② 平滑筋、骨についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 第12回 感覚① 感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 第13回 感覚② 内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 第14回 血液① 血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 第15回 血液② 血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
受講生に関わる情報 および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起こっているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。</p>		
授業の概要	<p>将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー(DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉
	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・医学とは？ 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール) <p>配布されるKey words 集を参照することまずシラバスを確認しながら、授業の流れ、日常の学習方法を理解する。その後、医学の大まかな歴史、分類や医療を行う上での約束事を知る。授業時に配布するプリントにより実施配布されるKeyWords集に従って、その日に行われる授業の重要事項を確認しておく(予習)。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中！授業後に、A4のノートの左頁にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。この作業のあと、適宜配布される過去の国家試験</p> <p>第2回</p> <p>生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液、 生体を構成する基本である細胞の構造とその仕組み、その細胞の集合体である組織、そしてそれらを養う血液について理解学習する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p> <p>第3回</p> <p>生命維持のしくみ II 循環器(心臓、血管) 第2講で学習した血液が、全身に循環することにより臓器が働き、生命が維持される。この、血液が循環する仕組みである、心臓、血管の構造と機能を学習する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p> <p>第4回</p> <p>生活習慣病 I 動脈硬化のメカニズム (高血圧症) 細胞への物質運搬路である動脈硬化は、さまざまな病気を引き起こし障害を発生させる。その入り口となる、高血圧症をとりあげ、生活習慣病と呼ばれる中高年に身近な疾患を理解し、最終的な障害発症防止の指導ができるようになることを目的とする。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p> <p>第5回</p> <p>生活習慣病 II 動脈硬化のメカニズム (糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群) 第4講で学習した高血圧症に引き続き、中高年にとって身近でかつ強力な動脈硬化発症因子である、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群を学習する。これらの疾患の発症防止、進行防止をいかにするか理解する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p> <p>第6回</p> <p>生活習慣病 III 動脈硬化の末路 (脳血管障害) 第4、5講で学習した、高血圧症や糖尿病により動脈硬化が進行する結果発症する、リハビリテーション領域において最も重要な疾患の1つである、脳血管障害の病態生理を学習する。将来、諸君の目の前に現れる患者さんに、どのようなことが起きてきたのかを考える糸口を身につける。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p> <p>第7回</p> <p>生活習慣病 IV 動脈硬化の末路 (狭心症・心筋梗塞) 第6講に引き続き、動脈硬化が進行する結果発症する疾病である虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)を学ぶ。死に直結する病である心筋梗塞をどうやって早期に治療し、死に至らないようにするのか考える。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>		

第8回	<p>小テスト①（第1講から第6講までの範囲）、生命維持のしくみ III 呼吸器（口腔、鼻咽腔、気管、肺）</p> <p>全身の細胞が必要とする酸素、そしてその細胞が排出したごみともいえる二酸化炭素、その出入れを行う経路である呼吸器の構造と機能を学習する。肺だけでなく、そこに至るまでの鼻咽腔、口腔、気管の知識も重要であることを認識する授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第9回	<p>呼吸器の障害：炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題</p> <p>異物（細菌、ウイルス）の侵入や細胞の破壊によって生ずる炎症という重要な病理学的用語を理解する。その炎症が呼吸器に発生するとどのようなことが起こり、その末路はどのようになるのかを理解する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第10回	<p>細胞の暴走＝がん：がんとは？がんの問題点、治療方法</p> <p>日本人の死亡原因の第1位、日本人の2人に1人が、がんで死ぬ時代、高齢者にとって身近ながんを学習する。よく聞く言葉ではあるが、若い学生諸君には縁遠い「がん」を理解する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第11回	<p>生命維持のしくみ IV 消化器（消化管、腹腔内臓器）</p> <p>細胞を作る、動かすための糖質、蛋白、脂質の取り入れ口である消化器の構造と機能を学習する。どのような異常が発生すると機能が障害されるのかを考える。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第12回	<p>消化器の障害：消化管のがん、潰瘍、肝炎</p> <p>食道がん、胃がん、大腸がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、肝炎といった、罹患者数の多い消化器疾患を学習する。諸君の目の前に現れる患者さんの多くが、これらの疾患を合併している可能性があることを理解する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第13回	<p>小テスト②（第7講から第12講までの範囲）、外敵の侵入：感染症</p> <p>まず微生物学の基礎知識を学習する。感染症の中でも特に問題となる、日和見感染症、MRSAをはじめとする多剤耐性菌、結核、AIDS、感染症対策などの問題をとりあげ、医療関係者として必須の知識を理解する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第14回	<p>次世代につなぐ命Ⅰ：生殖（妊娠、不妊症）</p> <p>生殖器官の構造と機能を学習し、妊娠成立までの道筋を理解する。その過程の障害によって発生する不妊という問題もとりあげる。近い将来、学生諸君が身近に経験するであろう内容である。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
第15回	<p>次世代につなぐ命Ⅱ：臓器移植、細胞移植</p> <p>30年前には助からなかった命が、臓器移植で救われるようになった。しかしその臓器は不足している。助ける方法があっても助けられない現状がある。臓器移植の現状と問題点を学習し、学生諸君の問題として深く考えてもらう。そして臓器不足を補う切り札として、すでに実施されている幹細胞移植、iPS細胞を利用した医療についても学習する。授業時に配布するプリントにより実施第1回に記した内容に従って、予習復習を実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。</p> <p>テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、KeyWordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeyWordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。なお配布資料に</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	第1回の授業で配布するKeyWordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeyWordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日
教科書	広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
大竹勤			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。</p>			
授業の概要	<p>講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、自己紹介カード 【授業概要】 授業計画について説明する 予習・復習について説明する 評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【keywords】 授業の進め方 自己紹介 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える</p> <p>第2回 障害者の理解、DVD 視聴（障害者の自立について） 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【keywords】 障害者の自立 筋ジストロフィー 難病 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく</p> <p>第3回 対人援助技術の原則 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの7原則について学ぶ 【keywords】 ソーシャルワーカー バイスティック 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの7原則に関する資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 バイスティックについて事前に調べておくこと ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する</p> <p>第4回 コミュニケーションスキルを磨こう DVD 視聴 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【keywords】 コミュニケーションスキル ア行トーク サイレントトーク 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう</p> <p>第5回 情報を共有し合意するという事 【授業概要】</p>			

	<p>グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる 【keywords】 コンセンサス 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける リハビリテーションを通しての援助支援について考える DVD 視聴 【授業概要】 ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する 【keywords】 スポーツ リハビリテーション 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備】 人の一生と社会福祉 事例検討 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ 【keywords】 相談援助 社会福祉 児童福祉 老人福祉 障害者福祉 生活保護 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう 援助の基本原則 まとめ 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習 【keywords】 バイステティックの7原則 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	2回に1回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業終了後20分ほど、対応可能。
評価方法	筆記試験（レポート試験）80%と授業中に出すレポート課題等の提出物20%により評価する。レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
江島正子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。</p> <p>〔到達目標〕 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>
授業の概要	<p>1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）－ 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観－「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。</p> <p>第2回 教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点</p> <p>第3回 教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点</p> <p>第4回 学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム</p> <p>第5回 学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型</p> <p>第6回 義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる</p> <p>第7回 義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程</p> <p>第8回 教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題</p> <p>第9回 教育課程の編成</p> <p>第10回 子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか－事例を通して考える－</p> <p>第11回 子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか－事例を通して考える－</p> <p>第12回 学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか－近言語的、非言語－</p> <p>第13回 学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか－空間の行動、人工</p>			

	物、物理的環境等一
	第14回 言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
	第15回 教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。
受講生に関わる情報および受講のルール	1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式、その他（ミニレポート）
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日 9時～11時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原章			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。			
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 国際社会における議論 第3回 日本での議論・政策 第4回 生涯学習の理念と理論（その1） 第5回 生涯学習の理念と理論（その2） 第6回 生涯学習の内容と形態 第7回 学校教育と生涯学習 第8回 外国の生涯学習（その1） 第9回 外国の生涯学習（その2） 第10回 生涯学習の先駆け（その1） 第11回 生涯学習の先駆け（その2） 第12回 社会教育制度 第13回 生涯学習支援の動向と課題 第14回 まちづくりと生涯学習 第15回 グローバリゼーションと生涯学習			
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 小論文、レポートは必ず提出すること。 5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式			

授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分。
評価方法	定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。（目安）定期試験70%、小論文・レポート30%。
教科書	「テキスト生涯学習 新訂版」学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
栗原秀司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。</p>
授業の概要	<p>物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、「物理を理解するための道具とルール」 物理で扱う文字式や数式など、物理で必要な最低限の数学の知識と、物理量の注意点について学ぶ。 単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル物理量には単位が必要。測定値の有効数字と計算の仕方。三角比の復習、ベクトルの表し方と計算の仕方。以上を説明し、章末問題を解く。教科書 1～8ページ第1章 章末問題の出来なかった問題をやり直しておく。</p> <p>第2回 「力学の基本ー物体の運動を数式で表すー」 身近な物体の運動を観察し、数式やグラフで表す方法について学ぶ。 速さと速度の違い、等速直線運動のv-t図、x-t図の見方を説明する。 加速度の定義、等加速度直線運動の式を導出し、その応用として、自由落下・鉛直投射運動を考える。教科書 9～17ページ第2章 章末問題を解く。</p> <p>第3回 「物体の運動と力の関係(1)ー力の表し方と力の種類ー」 物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。 力はベクトルなので、矢印で表す。力のつり合い、作用反作用の法則の説明。力には重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などがある。力の合成、分解の仕方(作図)の説明をする。プリントで演習をする。教科書 18～23ページ力の演習プリントの残った問題をやっておく。(次回最初に解説する。)</p> <p>第4回 「物体の運動と力の関係(2)ー運動方程式ー」 物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、式の立て方を学ぶ。 前時の力の演習プリントの残りの問題を解説。運動の法則、質量と重さの違いについての説明。運動方程式の立て方を説明し、1物体、2物体の運動について実際に立てられるようにする。教科書 18～20ページ、23～25ページ第3章 章末問題を解く。</p> <p>第5回 「圧力のはたらきと物を回転させる力」 気圧や水圧など身近な圧力を知る。大きさのある物体はたらく力や力のモーメント、三種類のてこについて学ぶ。 圧力の定義。大気圧や、水圧の求め方。浮力が生じる理由及びその大きさの求め方。力のモーメントの意味とその求め方。物体が回転しない条件。物体の重心の求め方。3種のテコとその応用例。以上について説明する。教科書 26～33ページ第4章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>第6回 「エネルギーとその保存法則」 エネルギーとは何か、力と仕事、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。 物理の「仕事」の定義。「仕事の原理」とその例。仕事率の定義。エネルギーの様々な例とそれらの求め方及びそれらの関係について。以上の説明をし練習問題を解く。教科書 34～40ページ第5章 章末問題を解く。</p> <p>第7回 「運動量と視点の違いにより感じる力」 運動量とは？衝突や分裂など瞬間的な力がはたらいたときの運動の扱い方や、見る位置の違いで速度や力のはたらき方の違いについて学ぶ。 運動量の定義、運動方程式から、運動量の変化が力積に等しいことを導く。衝突や分裂の際に運動量が保存されることから簡単な問題を解く。相対速度の求め方と、視点によって慣性力があることを説明する。教科書 41～47ページ第6章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>第8回 「気体分子の運動と熱エネルギー」 温度と熱の違いやその関係、気体の温度・圧力・体積についての法則などについて学ぶ。</p>			

第9回	物質の三態変化とその時に出入りする熱、。比熱、熱容量の定義と熱量保存の法則。気体の体積は圧力や温度によって変化し、ボイルの法則、シャルルの法則が成り立っていること。内部エネルギーの定義とその変化について熱力学第一法則が成り立っていることを説明する。章末問題を解く。教科書 48 ～ 56ページ授業で扱えなかった第7章 章末問題を解く。 「波の性質とその表し方」 波の伝わり方や波の種類、その性質などを学ぶ。
第10回	波とは何か。媒質の振動の様子や進み方のグラフ。波について成り立つ周期・振動数・速さの関係式。縦波・横波の違い。波の性質(反射・屈折・回折)について。定常波とはどのような波か。以上を実験を交えて説明する。教科書 57 ～ 65ページ授業で扱えなかった第8章 章末問題を解く。 「波で理解する音と光の現象」 身近な音や光は波の性質を持っていることを、一部実験や観察を交えて学ぶ。
第11回	音の三要素について。音叉のうなり。ドップラー効果が起こる理由。光の分散によるスペクトルの観察。光の反射・屈折及び全反射。レンズの作図及びレンズの式。光の干渉・散乱の例とその理由。以上を実験を交えて説明する。教科書 66 ～ 78ページ授業で扱えなかった第9章 章末問題を解く。 「静電気力とその表し方」 目に見えない電気を表すための「電場」や「電位」という考え方を学ぶ。
第12回	原子の構造。電気量保存の法則について。電荷の間にはたらく力(クーロンの法則)。電場の考え方とその表し方。電位の意味とその求め方。以上について説明し章末問題を解く。教科書 79 ～ 83ページ授業で扱えなかった第10章 章末問題を解く。 「オームの法則から理解する電気回路」 電流と電気回路について理解し、電気エネルギーの表し方を学ぶ。
第13回	金属中の自由電子の運動と電流。電気回路(オームの法則)の水流によるイメージ。抵抗の直列接続と並列接続の合成抵抗。アースの役割。コンデンサーの原理とそのはたらき(実験を含む)。以上について説明し、章末問題を解く。教科書 84 ～ 93ページ授業で扱えなかった第11章 章末問題を解く。 「電流と磁場の関係」 電流が作る磁場、磁場から電流が受ける力、荷電粒子が磁場から受ける力などを学ぶ。
第14回	磁場の表し方と磁力線。電流によって生じる磁場の例と右ねじの法則。磁場から電流にはたらく力(フレミングの左手の法則)。磁場の中で運動する荷電粒子にはたらく力(ローレンツ力)。直流モーターの仕組み。以上を説明し章末問題を解く。教科書 94 ～ 100ページ冬休み中に今までの復習をしておく。 「電磁誘導と交流」 磁石やコイルを動かすと電流が生じる現象、日常使用している交流や電磁波について学ぶ。
第15回	電磁誘導についてレンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則(実験を含む)。交流の作り方とその利用について。コイルのはたらきと自己誘導、相互誘導について。以上の説明をし、章末問題を解く。教科書 101 ～ 108ページ授業で扱えなかった第13章 章末問題を解く。次回の授業の後半で今までの全てについて質問を受ける。 「原子の構造と放射線」 原子の構造、3種の放射線の発生とその性質、核反応の仕組みについて学ぶ。全体のまとめをする。 原子の構造とその表し方。放射線(α 線・ β 線・ γ 線)の本体と放射性崩壊のしかたについて。崩壊の法則により半減期の式と意味を考える。核分裂・核融合によるエネルギーの解放。放射線の利用例。以上の説明をし、残った時間で全範囲についての質問を受け解説する。教科書 109、111 ～ 114ページ試験に備えて、今までの復習をする。授業中に扱った問題やプリント、章末問題等を解けるようにしておくこと。
受講生に関する情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。 ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。 〔受講のルール〕 ・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。 ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。
オフィスアワー	・授業終了後30分間 ・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。
評価方法	確認テスト15%、筆記試験85% (総合評価は筆記試験が60点以上であることが前提となる。)
教科書	時政孝行監修、菓子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂
参考書	佐藤和良著：看護学生のための物理学、医学書院
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石憲一			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 〔到達目標〕 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。</p>			
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>第2回 貧困</p> <p>第3回 社会保障と経済</p> <p>第4回 医療経済学</p> <p>第5回 格差</p> <p>第6回 GDP</p> <p>第7回 幸福の経済学</p> <p>第8回 ストック経済学</p> <p>第9回 経済成長</p> <p>第10回 教育の経済学</p> <p>第11回 福祉と経済学</p> <p>第12回 国際収支</p> <p>第13回 国際金融</p> <p>第14回 金融</p> <p>第15回 経済学と日本経済</p>			
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式			

授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4 限。
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巖「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 情報処理Iに続き、パソコンのより詳しい使い方や、PowerPointを使った発表の方法を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①Word/Excel/PowerPointをより深く使いこなすことができる。 ②基本的なプログラミングやホームページ作成ができる。 ③PowerPointで作成したプレゼンテーションを使って発表できる。</p>			
授業の概要	<p>WordおよびExcelのより詳しい使い方を学び、Word/Excelを深く使いこなせるようになることを目標とする。</p> <p>PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成し、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。</p> <p>また、Scratchによるプログラミングやホームページ作成の基本を学び、順序立てて物事を考えられるようになることも目標とする</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	第1回	<p>[Word]長文関連の機能 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注) ・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照) ・テンプレートの作成スライド資料レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する 		
	第2回	<p>[Word]長文関連の機能 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段組みの設定(2段組み等) ・セクションで文章を複数のブロックに区切る ・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入 ・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する) ・引用文献の挿入 		
	第3回	<p>[Word]差し込み印刷関連の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差し込み印刷の基本 ・差し込み印刷ウィザードの使い方 ・はがき宛名印刷ウィザードの使い方 ・封筒やラベルへの差し込み印刷 		
	第4回	<p>[Excel]データベース的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース用のデータ入力 ・データの並べ替え ・データの抽出 ・ピボットテーブルを使った集計 		
	第5回	<p>[Excel]複雑な計算 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相対参照と絶対参照 ・順位(RANK関数) ・複合条件(AND関数/OR関数) 		
	第6回	<p>[Excel]複雑な計算 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルに名前を付けて数式で利用する ・セルにふりがなを表示する ・日付に関する関数 ・文字列に関する関数 		
	第7回	<p>[PowerPoint]プレゼンテーションの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの作成 ・スライドの作成と編集(コピー、移動、削除等) ・書式の設定 ・画面切り替えとアニメーション 		
	第8回	<p>[PowerPoint]プレゼンテーションの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの作成 ・スライドショーの実行 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル機能 ・資料の配布 <p>第9回 [PowerPoint]プレゼンテーション作成実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題内容の説明 ・課題作成実習 <p>第10回 [プログラム]ホームページ作成(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HTMLの考え方 ・段落と見出しの作成 ・文章に意味を持たせる(強調、引用など) ・他のページにリンクする <p>第11回 [プログラム]ホームページ作成(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに画像を入れる ・ホームページに表を入れる ・CSSで書式を設定する <p>第12回 [プログラム]Scratchでのプログラム作り(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Scratchの基本操作 ・キャラクタを動かす ・キャラクタを変える <p>第13回 [プログラム]Scratchでのプログラム作り(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理を繰り返す ・条件によって処理を変える ・変数を扱う <p>第14回 [プログラム]Scratchでのプログラム作り(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態を調べる ・イベントに応じて処理を行う <p>第15回 プレゼンテーション発表実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人ずつ順に発表
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること。
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題(70%)、レポート発表(30%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	できるPowerPoint 2016 Windows 10/8.1/7 対応、インプレス、2015年
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニ ング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井英司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。</p> <p>[到達目標] ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。</p>
------------	--

授業の概要	テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 おしゃべりは明るく元気にありがとう</p> <p>第3回 恥かき、汗かき、原稿書き</p> <p>第4回 3分間スピーチは四コママンガ</p> <p>第5回 番組づくりは八木節音頭</p> <p>第6回 身近なところにヒントあり</p> <p>第7回 地名は知らないとチメイの</p> <p>第8回 ニュースとは何か</p> <p>第9回 客観報道とメディア・リテラシー</p> <p>第10回 たかが順番、されど順番</p> <p>第11回 スタッフの複眼生きるナマ中継</p> <p>第12回 実況は大和言葉で花盛り</p> <p>第13回 アブになれ</p> <p>第14回 人生はミスマッチ、三日三月三年</p> <p>第15回 満点を狙わぬ結果が合格点</p>
------	---

受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を发表い合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後30分は対応可能。
評価方法	筆記試験100%。
教科書	テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
デイビス ウォーレン			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> Medication vocabulary Prepositions Talking to patients about medication (listening) Conversation 1 Textbook p44 & 45 Review conversation 1 <p>第2回 Medication II - Dosages and Frequency</p> <ul style="list-style-type: none"> Review conversation 1 Dosage and frequency vocabulary Expressions of frequency Textbook p46 & 47 Review conversation 1 <p>第3回 Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication</p> <ul style="list-style-type: none"> Side effects vocabulary Talking to patients about medication and side effects Grammar: Auxiliary verbs (may/might) Conversation 2 Textbook: p48 & 49 Review conversations 1 & 2 <p>第4回 Communicating with Relatives by Phone</p> <ul style="list-style-type: none"> Telephone etiquette Grammar: Auxiliary verb (will) Conversation 3 Textbook p50 & 51 Homework: Review conversation 1 ~ 3 <p>第5回 Moving and Handling Patients</p> <ul style="list-style-type: none"> Equipment for moving and handling patients vocabulary Grammar: Phrasal verbs, be + going to, will Conversation 4 Textbook: p52 & 53 Homework: Review conversation 1 ~ 4 <p>第6回 The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone</p> <ul style="list-style-type: none"> Listening Talking on the phone: procedures and phrases Conversation 5 Grammar: Past simple of be Textbook: p54 & 55 Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第7回 Ordering Supplies</p> <ul style="list-style-type: none"> Review conversation 5
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> • Listening • Supplies vocabulary • Grammar: Quantifiers (any, enough, much, many) • Textbook: p55 ~ 57 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第8回 Hospital Food and Beverages</p> <ul style="list-style-type: none"> • Food and beverages vocabulary • Grammar: a/an, some • Conversation 6 • Textbook: p28 & 29 • Homework: Review conversations 1 ~ 6 <p>第9回 Measurements and Quantities</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 6 • Listening • Numbers & measurements vocabulary • Textbook p30 • Homework: Prepare for review test <p>第10回 Review Test ① ・ノート提出 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test (40 minutes) • Go over answers • Review test answers <p>第11回 Caring for a Patient in the Recovery Room ①</p> <ul style="list-style-type: none"> • Recovery room questions • Grammar: Past simple, irregular verbs • Textbook p60 & 61 • Review conversations 1 ~ 6 <p>第12回 Caring for a Patient in the Recovery Room ②</p> <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Review past simple (negative and questions) • Conversation 7 • Christmas Listening Activity • Textbook: p61 • Homework: Review conversation 1 ~ 7 <p>第13回 Removing Sutures</p> <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Sequencers • Removing sutures vocabulary • Conversation 8 • Textbook: p62 & 63 • Homework: Review conversations 1 ~ 8 <p>第14回 Assessing an Elderly Care Home Resident</p> <ul style="list-style-type: none"> • Care home resident vocabulary • Assessment form Q & A • Assessment form pairwork • Textbook: p66 & 67 • Homework: Prepare for review test <p>第15回 Review Test ② ・ノート提出 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Students study by themselves and ask me questions • Revise for final test
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業をよく聞いて、ノートをとる。 • ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 • 英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> • Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 • 分からない単語があれば、調べておくこと。
オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> • 筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% • ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>プレゼンテーション<input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク<input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない |
|--|--|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。</p> <p>[到達目標] 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2) 月・日・番号・値段が言える。 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。</p>
------------	--

授業の概要	<p>韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>

授業計画	<p>第1回 否定文の表現 助詞～も</p> <p>第2回 指示代名詞 (事物・場所) 身の回りの単語</p> <p>第3回 家族の呼び名 助詞～の</p> <p>第4回 この～は誰の物ですかの文型</p> <p>第5回 位置関係の言葉</p> <p>第6回 何処に～がありますの文型 助詞～が (主格助詞)</p> <p>第7回 助詞～に (場所)、～と (並列・羅列)</p> <p>第8回 動詞、形容詞の会話体 (です、ます) の活用 助詞～を (目的格)</p> <p>第9回 ～で～をしますの文型 助詞～で</p> <p>第10回 体の名称の単語 主要副詞語</p> <p>第11回 時を表す言葉 疑問を表す言葉</p> <p>第12回 映像で学ぶハングル</p> <p>第13回 尊敬型の活用 曜日</p> <p>第14回 リウル変則用言、助詞～しに</p> <p>第15回 まとめ (助詞 活用 変則活用の復習)</p>
------	---

受講生に関わる情報 および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう（初級）』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身の周りの日常的な事柄を表現できるようにする。 中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 語学学習を通して、異文化理解を深めます。 <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
------------	---

授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 第6課 你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか その1）</p> <p>【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では10以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい10人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。</p> <p>【Key Word】 家属 几</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P30・P31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。</p> <p>第2回 第6課 你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか その2）</p> <p>【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文・疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】 動詞“有”</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P30～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。</p> <p>第3回 第7課 体育馆在哪儿？（体育馆はどこですか その1）</p> <p>【授業概要】 所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文・疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。</p> <p>【Key Word】 動詞“在” 所在・在所を表す</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P34・P35</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備】 P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。</p> <p>第4回 第7課 体育馆在哪儿？（体育馆はどこですか その2）</p> <p>【授業概要】 動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育馆に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。</p> <p>【Key Word】</p>
------	---

	<p>連動文 【教科書ページ・参考文献】 P34～P37 【課題・予習・復習・授業準備】 P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。</p>
第5回	<p>第8課 山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか その1） 【授業概要】 この回では100以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。 【Key Word】 100以上の数の数え方 動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文） 【教科書ページ・参考文献】 P38・P39 【課題・予習・復習・授業準備】 P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。</p>
第6回	<p>第8課 山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか その2） 【授業概要】 電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 電話 番号として言うときの“一”の発音 【教科書ページ・参考文献】 P38～P41 【課題・予習・復習・授業準備】 p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。</p>
第7回	<p>第9課 你喜欢什么？（あなたは何が好きですか その1） 【授業概要】 中国語の基本構文はS+V+O（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。 【Key Word】 S+V+O 喜欢 【教科書ページ・参考文献】 P42・P43 【課題・予習・復習・授業準備】 P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。</p>
第8回	<p>第9課 你喜欢什么？（あなたは何が好きですか その2） 【授業概要】 “喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 喜欢 動詞 【教科書ページ・参考文献】 P42～P45 【課題・予習・復習・授業準備】 p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。</p>
第9回	<p>第10課 你身体真棒！（あなたの体は本当に素晴らしい その1） 【授業概要】 形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。 【Key Word】 副詞 很 真 【教科書ページ・参考文献】 P46・P47 【課題・予習・復習・授業準備】 P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。</p>
第10回	<p>第10課 你身体真棒！（あなたの体は本当に素晴らしい その2） 【授業概要】 主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は3種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 主述述語文 吧 【教科書ページ・参考文献】 P46～P47 【課題・予習・復習・授業準備】 p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。</p>
第11回	<p>第11課 您要什么？（あなたは何が欲しいですか その1） 【授業概要】 助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。 【Key Word】 助動詞 要（要には二つの意味があるので気をつけてください） 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>P50・P51 【課題・予習・復習・授業準備】 P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 第11課 您要什么?? (あなたは何が欲しいですか その2) 【授業概要】 お金の教え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 金額の教え方 【教科書ページ・参考文献】 P50～P53 【課題・予習・復習・授業準備】 p53の単語帳(色)を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 第13回 第12課 你打羽毛球打得很好! 【授業概要】 様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。 【Key Word】 様態補語 得 【教科書ページ・参考文献】 P54・P55 【課題・予習・復習・授業準備】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 第14回 第12課 你打羽毛球打得很好! 【授業概要】 助動詞“会”(できる)は学習・練習の結果何らかの技能が「できる」という意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 助動詞 会 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備】 p57の単語帳(動作)を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 第15回 ドリル 総復習中国語のまとめ 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定4級のレベルになります。4級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験4級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【Key Word】 復習 外国語を学ぶ意義 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。(即ち宿題を意味します)</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	川邊雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、2019年1月
参考書	相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月 倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。 ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。 ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。 ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。</p>			
授業の概要	<p>生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。</p>			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり 中枢神経、脳神経、脊髄神経、etc神経系と筋系との関わりについて配布プリント神経のしくみと働きの図の理解・暗記</p> <p>第2回 脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造 中枢神経の全体的な構造についてトレーニングノート p 190 - 202脳葉の名称、大脳皮質にある機能局在の暗記</p> <p>第3回 脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造 中枢神経の全体的な構造についてトレーニングノート p 190 - 202脳大脳基底核・大脳辺縁系の構造の暗記</p> <p>第4回 脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について。トレーニングノート p 204 - 209大脳核、脳幹の構造について暗記</p> <p>第5回 脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路についてトレーニングノート p 210 - 213感覚系の上行路、運動系の下行路の復習</p> <p>第6回 脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝 脊髄神経の構造とその枝についてトレーニングノート p 214 - 215、p 170 - 171ベル・マジャンディーの法則、脊髄神経叢の暗記</p> <p>第7回 脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝についてトレーニングノート p 172 - 174腕神経叢の構造と枝について暗記</p> <p>第8回 脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋 腕神経叢の枝と支配筋についてトレーニングノート p 174 - 179腕神経叢の構成と枝、支配筋について暗記</p> <p>第9回 脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ 腰神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p181 - 183大腿神経、閉鎖神経、伏在神経の暗記</p> <p>第10回 脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p183 - 187上殿神経、下殿神経、坐骨神経の暗記</p> <p>第11回 脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋 坐骨神経の枝、支配筋についてトレーニングノート p 183 - 187脛骨神経、内側足底神経、外側足底神経、総腓骨神経、浅腓骨神経、深腓骨神経の暗記</p> <p>第12回 脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋 肋間神経の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p 152 - 152皮節（T5、T7、T10）の暗記</p> <p>第13回 脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋</p>			

	<p>脳神経についてトレーニングノート p 234 - 245脳神経の名称の暗記</p> <p>第14回 脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ 自律神経（交感神経、副交感神経）についてトレーニングノート p 248 - 252自律神経の暗記</p> <p>第15回 脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強 試験勉強について講義内容すべて試験勉強について</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気を乱
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著） 南江堂 ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
多田真和・栗原卓也			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり、医療従事者として必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①人体の構造を、器官系別に分類し理解できる。 ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。 ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。</p>
------------	---

授業の概要	<p>「解剖学 I / II」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、「脳神経系」に加え、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	<p>第1回 大脳半球、脳室、脳脊髄液、上行・下行伝導路、間脳 (栗原) 衷心構、外側構、中心前回Areu4, 中心後回Areu6, 大脳基底核上記の位置関係、相互関係を考えること。 配布資料の色塗りを解説配布するプリントによる本日の作業を行ったプリントから、各構造の位置関係をイメージできるようにしておくこと。</p> <p>第2回 脳血管 (栗原) 脳内血流の分布図、脳卒中動脈の理解配布するプリントによる授業内容の復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習。</p> <p>第3回 CT, MRI の読影 (栗原) 正常CTで見える物を確認した後、各種症例(出血梗塞)の部位を考えて、診断させた。配布するプリントによる授業内容の復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習。</p> <p>第4回 大脳週縁系、交感神経、副交感神経、脳神経 (栗原) 配布したプリントに色を塗りかけ、各部位の説明、位置関係を視覚的に学習した。配布するプリントによる授業内容の復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習</p> <p>第5回 呼吸器系 (鼻、喉頭、気管・気管支、肺) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支および肺についての解説 P 384~391本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習</p> <p>第6回 循環器系 I (動脈・静脈・毛細血管、心臓) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた血管系および心臓についての解説(心臓の位置、区分、弁および心臓壁の構成) P 339 ~345本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習</p> <p>第7回 循環器系 II (肺循環、体循環、全身の動脈系、全身の静脈系) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた心臓(心膜、刺激伝導系、心臓の栄養血管・神経)および動脈系(上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈および腹大動脈等)についての解説P 345 ~ 357</p>
------	--

第8回	本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習 循環器系 III (胎生期の循環系、リンパ系) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた静脈系およびリンパ系についての解説P 357 ~ 368 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第9回	消化器系 I (口腔) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた口腔、咽頭についての解説P 371 ~ 374 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第10回	消化器系 II (咽頭、食道、胃、小腸、大腸) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた食道、胃および小腸についての解説、消化管検査機器(内視鏡)についての解説P 374 ~ 377 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第11回	消化器系 III (肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた大腸、肝臓、胆嚢、膵臓および腹膜についての解説P 378 ~ 383 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第12回	泌尿器系 (腎臓、尿管、膀胱、尿道) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた腎臓、尿管、膀胱および尿道についての解説P 392 ~ 398 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第13回	内分泌系 I (ホルモン・標的器官、下垂体、甲状腺、上皮小体) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いたホルモン、標的器官、下垂体、松果体、甲状腺および上皮小体についての解説P 406 ~ 408 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第14回	内分泌系 II (副腎、膵臓、腎臓、視床下部、胸腺) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた副腎、膵島、腎臓、視床下部、消化管ホルモン、hANPおよび胸腺についての解説P 408 ~ 410 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
第15回	平衡聴覚器 (外耳、中耳、内耳) (多田) パワーポイント及びビデオ画像を用いた外耳、中耳および内耳についての解説、解剖学実習で学んだ内容の総まとめ(該当分野の国家試験問題の解説) P 334 ~ 337 本日の講義内容の予習および復習、興味を抱いた内容についての発展的自己学習
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] 授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行ってこよう。体内の位置と機能については、必須である。 [受講のルール] 将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。
評価方法	筆記試験100%
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 野村巖【編】 医学書院 J I Nブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅 著 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>
授業の概要	生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 心臓と循環① 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第2回 心臓と循環② 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第3回 心臓と循環③ 心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換と収縮性図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第4回 心臓と循環④ 静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第5回 呼吸とガスの運搬 ① 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第6回 呼吸とガスの運搬 ② 呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第7回 呼吸とガスの運搬 ③ 呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第8回 尿の生成と排泄 腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、排尿、尿の性状と排尿の異常について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第9回 酸塩基平衡 血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第10回 消化と吸収 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>第11回 内分泌 内分泌機能とホルモン、各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。</p>
------	---

	<p>第12回 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 代謝と体温 栄養素、エネルギー代謝、体温について講義・解説を行う。</p> <p>第13回 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 生殖と発生・成長と老化 男性生殖機能、女性生殖機能、受精、着床、胎児の発生、成長と老化 について講義・解説を行う。</p> <p>第14回 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 運動生理① 筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化 について講義・解説を行う。</p> <p>第15回 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 運動生理② トレーニングの効果、加齢変化 について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習復習は必ず行うこと。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹一男			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。 〔到達目標〕 ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。 ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。 ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。
授業の概要	実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
	第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
	第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
	第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
	第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
	第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
	第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
	第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。
	第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
	第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
	第11回	神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性
	第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
	第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
	第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
	第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

受講生に関わる情報 および受講のルール	実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の实習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業前後10分程度
評価方法	実習レポート30% 期末レポート試験70%
教科書	生理学の講義で使用する教科書を持参すること
参考書	その都度指示する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
榊原清			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。 ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。 ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。 ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。</p>
授業の概要	ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①発達の諸段階と発達課題について説明できる。	◎	○	○	△
②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。	◎	○	○	△
③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。	◎	○	○	△
④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。	◎	○	○	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、人間発達の概念 【key word】 正常運動発達・胎芽期・胎児期 【授業概要】 発達と成長、運動発達の原則を捉え、胎芽期から胎児期の運動発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次の授業の始まりに今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】ディスカッション：「生命誕生」の映像を見て、わかったことについて、他者に説明し合う。</p> <p>第2回 新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達 【key word】 乳児期・正常運動発達・原始反射 【授業概要】 新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動・巧緻運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。</p>
------	--

<p>第3回</p>	<p>次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 ディスカッション：正常運動発達の種類や特徴について、他者に説明し合う。 乳児期の反射、神経系の発達 【key word】 乳児期・正常運動発達・原始反射・反応 【授業概要】 新生児期・乳児期（6～12か月）の粗大運動・巧緻運動の正常発達、原始反射、反応の関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 ディスカッション：正常運動発達の種類や特徴について、他者に説明し合う。</p>
<p>第4回</p>	<p>発達・運動発達の評価と正常運動発達 乳児期の神経発達に伴う原始反射、反応の統合について。 抗重力肢位の獲得と移動準備、正中位指向について。教科書：pp34-38 参考書 ①運動発達と反射-反射検査の手法と評価-：真野行生監訳、医歯薬出版 ②基礎運動学第6版：中村隆一 他 【key word】 乳児期・正常運動発達・原始反射・反応 【授業概要】 新生児期・乳児期（6～12か月）の粗大運動・巧緻運動の正常発達、原始反射、反応の関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 ディスカッション：正常運動発達の種類や特徴について、他者に説明し合う。著、医歯薬出版、2003</p>
<p>第5回</p>	<p>正常姿勢反射と運動発達 【脊髄レベル～脳幹レベル】 【key word】 原始反射・脊髄レベル・脳幹レベル 【授業概要】 神経系の成熟と姿勢反射（原始反射・反応）の発達、および運動発達との関連について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：それぞれの反射・反応の特徴、運動発達との関連について、自身または他者の体で表現し合う。</p>
<p>第6回</p>	<p>正常姿勢反射と運動発達 【中脳レベル～大脳皮質レベル】 【key word】 原始反射・中脳レベル・大脳皮質レベル 【授業概要】 神経系の成熟と姿勢反射（原始反射・反応）の発達、および運動発達との関連について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 実習：それぞれの反射・反応の特徴、運動発達との関連について、自身または他者の体で表現し合う。</p>
<p>第7回</p>	<p>学童期・青年期の発達 【key word】 学童期・青年前期・青年後期 【授業概要】 学童期における行動について学ぶ。 青年前期～後期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】 ディスカッション：それぞれの時期の発達の特徴について、他者に説明し合う。</p>
<p>第8回</p>	<p>成人期・高齢期の発達 【key word】 成人前期・成人後期・高齢期 【授業概要】 成人前期～後期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。</p>

	<p>高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は配布資料を基に展開します。 参考文献：イラストでわかる小児理学療法学演習 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の確認テストを行う。 次の授業の始まりには今回の授業内容の確認テストを行うので十分に復習しておくこと。 【アクティブラーニング】ディスカッション：それぞれの時期の発達の特徴について、他者に説明し合う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。 ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントシート方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後
評価方法	筆記試験100%
教科書	指定しない
参考書	細田多穂監修：小児理学療法学テキスト，南江堂，2018 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習，医歯薬出版，2019
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。 アクティブラーニング要素 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本広信			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。 ・集団としての人というより、一人ひとり独自の存在として生きる個人が出会う心の問題に対する見方を学ぶ。 ・心の健康を阻害する問題を多面的に理解し、その対処のあり方の基本を理解することを目的とする。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①代表的な心理療法の理論と実際についてその基礎を理解できる。 ②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。 ③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。 ・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスへを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。 ・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 臨床心理学とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理療法モデル、対話的關係、wholeness (全体性) ・「臨床」の言葉の意味から、語られない心の物語を聴き、受けとめることの意義を解説。 ・多種多様な理論の基本となる、セラピストに求められる資質などを概観し、心理療法に対する理解を深める。(教科書 pp. 1-13) <p>※フロイトについて調べておくこと</p> <p>第2回 精神分析の理論と技法：フロイトと無意識の発見・心の局所論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロイト、催眠、ヒステリー、意識、前意識、無意識、心理的発達理論、防衛機制 ・無意識の発見者であるフロイトの生涯を概観する。 ・彼の無意識へのアプローチから、彼が提起した心理-性的発達段階説や心の構造論について解説する。 ・また、意識、前意識、無意識など、彼が想定した心のモデルを学習することで、心の力動的な理解の仕方を学び、「防衛機制」のメカニズムを理解する。(教科書 pp. 14-31) <p>※C. G. ユングについて予習</p> <p>第3回 フロイト以後の無意識の探究①：C. G. ユングと分析心理学を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドラー、ライフスタイル、権力への意志、ユング、個人的無意識、普遍的無意識、元型、個性化 ・今回は、フロイトの心理的発達理論に注目した。そこでは、人を動かす中心として、「生の本能」が設定されていた。今回は、性重視の理論を修正して生まれていった、フロイト以後の理論を見ていく。特にフロイトとは別の無意識の力動を仮定したアドラーとユングについて学んでいく。(教科書 pp. 46-53) <p>第4回 フロイト以後の無意識の探究②：フロイト理論の発展と修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メラニー・クライン、ウィニコット、妄想-分裂ポジション、抑うつポジション、移行対象、スクイグル、スクリブル ・イギリスにおいて発達した、クラインとウィニコットの対象関係理論を中心に解説する。 ・母子関係に重点を置き、内的な表象の次元で生じる早期のパーソナリティ形成について学習する。(教科書 pp. 56-64) <p>第5回 人間関係を分析する 交流分析ロジャーズの人格理論とクライアント中心療法 自己論、セラピ</p>
------	--

	<p>ストの三条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バーン、デュセイ、自我状態、エゴグラム、ゲーム分析、シナリオ分析 ・エリック・バーンにより創始された心理療法である交流分析について学ぶ。エゴグラムにとどまらず、個人の成長と変容を引き出す。システムティックアプローチ全体を概観する。自分のコミュニケーションの問題に気づき、他者への関わり方に注意を払うことで、真のコミュニケーションができることを目指す。(pp. 67-82)
第6回	<p>※教科書第5章 来談者中心療法について予習すること</p> <p>ロジャーズの人格理論とクライエント中心療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジャーズ、自己実現傾向、自己論、純粋性、受容、共感的理解、ポーターの態度分析 ・本来人には、「自己実現への動機」が心に備わっていると考える、ロジャーズの来談者中心療法を学ぶ。 ・心の機能不全に陥っている人に対し、治療的な態度で関わることで「完全に機能する人間」として変われるとする、彼の理論の骨格を学ぶ。(教科書 pp. 83-97)
第7回	<p>行動療法：学習理論、系統的脱感作法、不安階層表、オペラント法 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動療法、レスポデント条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論、系統的脱感作法(ウォルピ)、不安階層表、フラッディング法、オペラント法、モデリング、自立訓練法、漸進的筋弛緩法 ・悩みや問題の背景には、不適応な形で身に付けた行動があり、適応的な行動を再学習することによって回復を支援できるとする、学習理論に基づく行動療法の基礎を学ぶ。 ・行動療法を支える、リラクゼーション方法についても学ぶ(教科書 pp. 106-118)
第8回	<p>認知行動療法：思い込みを修正する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベック、抑うつ尺度、エリスの論理情動療法 (RET、REBT)、ベックの認知療法、マイケンバウムの自己教示訓練 ・人生で出会う辛く苦しい出来事や不適応状況に対し、それを捉える認知過程に着目して適応的対処が出来るようになることを目指す心理療法として、認知行動療法 (CBT) について学習する。(教科書 pp. 129-146)
第9回	<p>※国試過去問に関して、行動療法、認知行動療法に関する部分を確認しておくこと</p> <p>森田療法・内観療法：日本で生まれた心理療法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動 ・二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。 ・人はいつの間にか自分の不安や身体症状にとらわれてしまう。また、生きていくうちに、否定的な自己や他者像を形成し、満たされない思いに振り回されて生きていく。この状態から、いかに主体性を回復するかについて考えた二人の人物とその思想、技法について学ぶ。(教科書 pp. 178-194)
第10回	<p>家族療法：IPという考え方、家族システム、構造派家族療法、戦略派家族療法、解決志向短期療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IP、リフレミング、ブリーフセラピー、構造派家族療法、戦略派家族療法 ・家族を、その成員すべてが相互に影響を与えあう一つのシステムとみなし、心理的な問題を抱える人を、家族システムの機能不全という視点から捉える家族療法を学ぶ。 ・また、ここから派生した、具体的な問題解決を目指す短期療法などについても学習する。(教科書 pp. 147~161)
第11回	<p>集団心理療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性訓練法、心理劇(モレノ)、SST(リバーマン)、自助グループ ・人と関わることで人は人として形成され、人に認められて世の中に根付いて生きていける。集団の中で生きるから葛藤に出会うが、そこで得られる生きる技術や役割が、人を支える力にもなりうる。ここでは集団の特性や力を活かし、集団との関わり方の技術を磨くことで、生きる課題を解決しようとする心理療法について学ぶ。(教科書 pp. 195-207)
第12回	<p>各種心理検査と芸術療法について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知能検査、人格検査、質問紙法検査、作業検査法、投影法検査、芸術療法 ・国家試験の範囲に入ってくる各種心理検査について、全般的に概観する。 ・検査の種類や質の違いによって、正しく分類できることを目指す。(資料・プリント) ・絵など非言語的表現活動には、それ自体に治癒力があると想定される。 ・それを心理検査として利用したり、心理療法に用いていく方法について概観する。(教科書 pp. 162-177) ・箱庭療法、バウムテスト、風景構成法、コラージュ療法 等
第13回	<p>障害受容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害受容、キューブラ・ロス、受容の5段階、ストレス尺度、人生コース図 等 ・ここから3回の時間を使って、「障害受容」とリハビリ患者の心理について考え、将来関わる方々とのコミュニケーションのあり様を学ぶ。 ・まず、一般的な障害受容の流れと、それに対する批判の理論を含めて学習する。 ・その上で、仮に、一人ひとりが自らの人生を賭けて取り組む、生活と人生と命のあり方の再構築を最終的な障害受容の姿として設定し、そうした道を歩んだ実際の患者の例を通して、リハビリ患者の心理と障害受容について考えていく。 ・(参考文献) 千秋実 (1979) 『生きるなり』(文芸春秋)、池ノ上寛太 (2009) 『リハビリの結果と責任』(三輪書店)、森山志郎 (2001) 『心が動く』(荘道社) 等
第14回	<p>リハビリ患者の心理と障害受容を考える①(当事者によるリハビリ患者の心理：身体障害を生きる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、ゲスト講師としてリハビリを受けた体験のある方々を招き、学生と対話形式でリハビリ患者の心理と障害受容について学ぶ。 ・PT・OTへわかってもらいたい、本当の気持ちとは何か。全員で学ぶ機会を作る。 <p>※当日までに一人一つは質問ができるように準備して参加すること。</p>

	<p>第15回 リハビリ患者の心理と障害受容を考える②（当事者によるリハビリ患者の心理：難病を生きる）、障害の社会モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と続けた時間（2時間連続）で最終講義を行う。 ・最終講義として、実際に大きな事故によりリハビリテーションを受けるなどし、現在障害者として生活を送る方をお呼びし、障害受容のテーマを中心に直接お話を伺う。 ・また、これまで学んだことをふまえて、学生との直接対話の時間を設け、今後の勉強と実践の糧としていく。 <p>※感想文を課題として提出する（評価に含まれるので必ず提出すること）</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に関連する科目である。国家試験参考書を活用し、授業で扱った用語や概念が、実際にどのように出題されているかを随時調べること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業5回ごとの区切りで提出する予定の課題について、小レポート・感想文等を作成し提出させる予定。 ・毎回の授業では、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。 ・用語調べをし、A4用紙にまとめて報告したものや、授業に関連した図書や映画を見ての感想をまとめたものを提出したものは、その努力に対して、評価に際して、1回1点を加点する（最高15点）。
オフィスアワー	月曜 9:00～10:30、12:00～13:00
評価方法	<p>〈総合評価〉総合得点60～69点：C 70～79：B 80～89：A 90点以上：S で評価。</p> <p>〈評価割合〉期末試験70点、小レポート・感想文等提出物 30点 30点÷提出回（予定3回）=1提出物得点（1回10点）</p>
教科書	・窪内節子・吉武光世（2003）『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館）
参考書	・松島恭子（2004）『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』（創元社） その他適宜指示をする。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
------------	---

授業の概要	2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ（歴史、理念、位置づけ、評価） ・急性期、回復期、維持期、・リハ医学4つの側面・ADL評価リハビリテーション医学の講義スケジュールならびに受講上の注意、Keywordsによる学習方法を説明する。総論Ⅰでは、リハビリテーション医学の歩み、他の医学との関連、位置づけ、急性期、回復期、維持期の定義とそこで行うべきことを解説する。p1-17 + プリント配布されるKeyWords集に従って、その日に行われる授業の重要事項を確認しておく（予習）。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中！授業後に、A4のノートの左頁にKeywordを</p> <p>第2回 リハビリテーション医学総論Ⅱ（医療経済学） 社会保険制度の中で、リハビリテーション医療を行うに当たって避けて通れない、医療保険、介護保険、身体障害者手帳などの各種制度の概要を解説する。患者さんのためになるようアドバイスできることはもちろんであるが、将来の君たちの生活に直結する内容でもある。p18-23 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第3回 リハビリテーション医学総論Ⅲ（評価、廃用症候群） リハビリテーション医療で使われる各種評価項目を解説。リハビリテーションの計画、実施後の評価をするうえで重要な項目である。また、廃用症候群についても解説。p36-42、p74-85、p141-147第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第4回 運動器リハビリテーションⅠ（骨疾患、骨折） 高齢者の代表的運動器疾患であり、かつ寝たきりの原因となる上記疾患についての病態、治療方法、問題となる合併症とその対策について解説する。p336-346 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第5回 運動器リハビリテーションⅡ（関節疾患 1） 痛みのために、日常生活に支障をきたすことの多い上記疾患の病態生理ならびにリハビリテーションを解説。 なぜ痛むのか、どうしたら痛まないようになるのか。そのための予防は、などを学習する。p262-270、p330-335 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第6回 運動器リハビリテーションⅢ（関節疾患 2） 肩関節周囲炎の病態ならびにリハビリテーション、股関節置換術後の後療法について解説p262-270、p330-335第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第7回 運動器リハビリテーションⅣ（腰痛、頸肩腕痛） 腰痛ならびに肩こりの病態、治療方法、物理療法について解説。なぜ痛むのか、繰り返さないためにはどうしたらよいか学習する。手術に至るケースはわずかであり、リハビリが治療の主役である。p347-355 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p> <p>第8回 運動器リハビリテーションⅤ（スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群） スポーツ外傷の初期治療、リハビリテーションの実際、痛みの評価方法としてのVAS、CRPSのリハビリテーションについて解説する。早く痛みをとるには？早期に復帰するには？を学習する。p356-368第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。</p>
------	---

第9回	小テスト①(第1回から第8回までの内容) 脳神経リハビリテーションⅠ(脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション) 授業に先立ち、小テスト①(第1回から第8回までの内容、25点満点)を実施する。その後、脳血管障害のさまざまな病態と、そこに起こる問題点、それらの評価方法、急性期に行うべきことを概説する。p210-217、p148-155 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第10回	脳神経リハビリテーションⅡ(脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション) 脳血管障害の回復期で起こる様々な問題の病態を理解し、それらの評価方法、対策(リハビリテーション)を概説する。p219-227、p121-140 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第11回	脳神経リハビリテーションⅢ(高次脳機能障害) 脳血管障害や頭部外傷に発生する高次脳機能障害について学習する。p229-236 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第12回	脳神経リハビリテーションⅣ(認知症) 高次脳機能障害の1つである認知症、日本で急増する認知症、認知症の早期発見と対応について学習する。プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第13回	脳神経リハビリテーションⅤ(神経変性疾患) 神経内科領域の代表疾患であるパーキンソン病の病態、評価方法、リハビリテーションの注意点を学習する。p253-261 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第14回	小テスト②(第9回から13回までの内容) 内科領域のリハビリⅠ(心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ) 虚血性心疾患へのリハビリテーションについて学習。引き続き、高血圧、糖尿病などの生活習慣病に対するリハビリテーションを学ぶ。p104-113、p313-329 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
第15回	内科領域のリハビリⅡ(呼吸器リハビリテーション) 閉塞性ならびに拘束性肺疾患の病態を学んだ後、その障害に対するリハビリテーションの実際を学習する。現場で呼吸リハビリテーションを実践している理学療法士による特別講義を行う。p303-312 + プリント第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日
教科書	最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社
参考書	授業中に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
大竹一男			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的な能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会			
授業の概要	人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	第1回 生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ 第2回 家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ 第3回 公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ 第4回 疫学的方法による健康の理解について学ぶ 第5回 人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ 第6回 母子保健統計について学ぶ 第7回 地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ 第8回 ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ			
受講生に関わる情報および受講のルール	配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式			
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。			
オフィスアワー	授業前後10分程度			
評価方法	講義中の輪読や簡単な口頭試問を行い(10%)、最終筆記試験(90%)で評価する。			
教科書	みるみるナーシング最新版			
参考書	授業内で適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素			

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート
<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない |
|--|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
宮寺亮輔・新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>ねらい： 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」</p> <p>目的： 事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと</p>
------------	--

授業の概要	<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。		△	◎	○
②事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。	△	○	◎	
③多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと	○		◎	△

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携</p> <p>【教科書・参考文献】</p> <p>配布資料(事前に配布)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。</p> <p>【アクティブラーニングについて】</p> <p>グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。</p> <p>第2回 事例展開に関する調べ学習</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、社会資源</p> <p>【教科書・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。 事例展開に関する調べ学習 【授業概要】 ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎) 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション 【教科書・参考文献】</p>
第4回	<p>配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 事例について各学部毎に課題 【授業概要】 ・第1, 2回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、社会資源 【教科書・参考文献】</p>
第5回	<p>配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。 事例について各学部毎に課題 【授業概要】 ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション 【教科書・参考文献】</p>
第6回	<p>配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。 明確化した課題 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点 【教科書・参考文献】</p>
第7回	<p>配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。 明確化した課題 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定 【教科書・参考文献】</p>

第8回	<p>話し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。 事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気づき課題を達成するための方法を考えることができる。</p> <p>【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 ・事例発表。総括。</p> <p>【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定</p> <p>【教科書・参考文献】 配布資料(事前に配布)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【アクティブラーニングについて】 グループディスカッション。共通の事例に対して、多職種(社会福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士)で支援方法を検討する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 【受講のルール】 ①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他
授業外時間にかかわる情報	関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	水曜日の15:30～17:30
評価方法	1. グループワークでの取り組み50%, 2. ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	<p>1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版, 2008. 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 総合病院で作業療法士として13年務める中で、脳血管障害患者に対する作業療法(利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など)を展開してきた実務経験を活かし、患者の情報をとりまとめ、他職種と協同して、生活行為をマネジメントしていく手法について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位 (30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
基礎科目	基礎科目「総合科学」		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。</p> <p>【到達目標】 ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。 ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。</p>
授業の概要	基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項</p>				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①大学生として正しい日本語を理解し、場面に応じて使い分けすることができる。	○	△	△	○
②リハビリ職として質の高い医療を提供するための対応力や判断力を併せ持つことができる。	○	○	○	○
③グループ活動の中で、計画的に進め、積極的な活動ができる。	△	○	○	○
④国際福祉機器展に興味を持ち、最先端の機器を見学し、興味を持つことができる。	○	○	△	○
⑤グループ発表に向けた準備と、工夫した発表を行うことができる。	○	○	○	○

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム 1：科目オリエンテーション 学士力、建学の精神基礎演習Ⅱの位置づけやボランティア活動Ⅱとの関連性についてレクチャーを行う。また、学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ。基礎演習テキスト、学生生活GUIDE基礎演習Ⅰおよびボランティア活動Ⅰの振り返りをしておくこと。</p> <p>第2回 学士力育成プログラム1：1) 敬語 スキルアップ！日本語力（大学生のための日本語練習帳）P5-30 敬語・文法・語彙力の基礎的知識を学ぶ。配布資料以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p> <p>第3回 学士力育成プログラム2：2) 文法 スキルアップ！日本語力（大学生のための日本語練習帳）P32-56 言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。配布資料以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
------	--

第4回	<p>学士力育成プログラム3：3) 語彙力・言葉の意味 スキルアップ! 日本語力(大学生のための日本語練習帳) P58-82 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
第5回	<p>学士力育成プログラム4：4) 表記・漢字 スキルアップ! 日本語力(大学生のための日本語練習帳) P84-96 小テスト 事前に配布した資料の復習を十分に行い理解しておくこと。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム5：1) リハビリテーション職種のマネジメント 現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。 ①第一印象に二度目は無い P12-14 ②タイムマネジメントができない P41-43</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム6：2) リハビリテーション職種のマネジメント 現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。 ①利用者は何を求めているのか P18-20 ②多職種連携を成功させるコツは? P21-23</p>
第8回	<p>学士力育成プログラム7：1) 国際福祉機器展の事前学習 国際福祉機器展の概要、過去の展示会の状況などを理解する。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/第44回 国際福祉機器展 H.C.R.2017での学外学習後に、学習の成果をグループごとにプレゼンテーションする。 各グループで、当日に見学・学習する内容を明確にしておくこと(事前学習が重要である)。</p>
第9回	<p>学士力育成プログラム8：2) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第10回	<p>学士力育成プログラム9：3) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム10：4) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム11：5) 国際福祉機器展 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p>
第13回	<p>学士力育成プログラム12：6) 国際福祉機器展の振り返り 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第14回	<p>学士力育成プログラム13：7) 国際福祉機器展の振り返り 第46回 国際福祉機器展 H.C.R.2019での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 ホームページ https://www.hcr.or.jp/グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム2：基礎演習まとめ 第1回～第14回までの建学の精神と実践教育プログラムと学士力育成プログラムを通して学んだ事のまとめをおこなう。ここでは、今まで学んだ事を整理し、各グループにて口頭で自分の考えを説明することができる。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。
オフィスアワー	木曜日の13時以降。また、可能な日については授業時に指示する。
評価方法	レポート60%(国際福祉機器展課題20%、リハビリテーション職種のマネージメント20%)、国際福祉機器展プレゼンテーション30%、日本語能力テスト30%、
教科書	基礎演習テキスト、学生生活GUIDE、スキルアップ! 日本語力、リハビリテーション職種のマネージメント。
参考書	参考書については、授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p>

アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。

アクティブラーニング要素

- 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。 ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。 ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。 ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。 ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる</p>
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係				
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項 △＝DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。	◎			
②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。	○	△		△
③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。	○		○	○
④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。	○			◎
⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる		△	◎	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/ポートフォリオとは</p> <p>【授業概要】 ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。</p> <p>【key words】 ボランティア、目標、学士力、ポートフォリオ</p> <p>【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。</p>
	第2回	<p>マナー</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける挨拶、敬語、身だしなみについて、社会人としての心構えに加え、医療従事者としての態度や対象者への関わり方の実践について説明する。</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、挨拶、敬語、身だしなみ</p> <p>【教科書・参考文献】</p>

第3回	<p>シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身だしなみについて体験学習を行うため、授業態度として適切な服装を調べた上で参加すること。</p> <p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおける電話対応、来客対応、訪問マナーについて、社会人としての基礎対応に加え、医療従事者としての態度など医療や介護施設スタッフの一員として相手に与える影響を考へる機会を作りながら説明する。 【key words】 ビジネスマナー、電話対応、来客対応、訪問マナー 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 案内などを体験学習するため、大学の設備や教室の配置を学生ハンドブックなどで確認しておくこと。</p>
第4回	<p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおけるメール作成、文書作成、FAX送信について、臨床実習やボランティア参加を想定した作成例を提示しながら、文章作成方法や送信方法を説明する。 【key words】 ビジネスマナー、文書作成 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器を持参すること。</p>
第5回	<p>マナー 【授業概要】 ビジネスマナーにおけるハウレンソウ、個人情報保護について、法令などを提示しながら、チーム医療の中で必要な情報の取り扱い方法について説明する。 【key words】 ビジネスマナー、ハウレンソウ、個人情報保護 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人情報保護法について調べておくこと。</p>
第6回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 コミュニケーション技法の基礎について、対人援助職における必要性を踏まえて、臨床実習における対象者との面接で行う対話方法や環境設定について説明する。 【key words】 コミュニケーション、面接、積極的質問 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問診や初回面接で質問する内容を調べておくこと。</p>
第7回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 第6回で学んだコミュニケーション技法を活用し、1対1の面接(テーマ:現在抱えている問題)を体験しながら学習する。面接でのやりとりを記録し、逐語録を作成し、第8回で分析する資料を作成する。 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【教科書・参考文献】 シラバス、第6回の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接の記録に使用する録音機器を持参する。次回の授業までに逐語録を作成してくること。</p>
第8回	<p>コミュニケーション技能 【授業概要】 第7回で作成した逐語録を見ながら、面接時の、自身の応答の傾向を分析する。 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録 【教科書・参考文献】 シラバス、第7回で作成した逐語録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で作成した逐語録を印刷準備して授業に参加すること。</p>
第9回	<p>講話：学生ボランティア経験について 【授業概要】 挨拶・礼儀・環境美化、ボランティア・これまでのボランティア経験と臨床との繋がり等に関して、各専攻の先輩からの体験談を聞き、今後のボランティア活動の取り組みについて内省する。 【key words】 ボランティア経験、目標 【教科書・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動記録簿を見直し、未記入の欄があれば埋めておくこと。</p>
第10回	<p>資料の作成方法 【授業概要】 分かりやすいプレゼンテーションを行うための資料作成の基礎(パワーポイント等を中心に)を学ぶ。</p>

	<p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 分かりやすい資料作成の条件などが記載されている資料を印刷準備しておくこと。 【アクティブラーニングについて】ディベート・ディスカッション。調べてきた用語を他者に説明し合う。共有した知識をもとに、第12回で発表する資料をパワーポイントで作成する。</p> <p>資料の作成方法 【授業概要】 第10回で共有し知識をもとに、プレゼンテーション用資料を作成する。</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回スムーズに発表ができるように、発表スライドの確認や発表の際の役割分担などを話し合っておくこと。</p> <p>資料の作成方法 【授業概要】 第10・11回で準備したプレゼンテーションを、4人一組のグループで行う。グループ内で各プレゼンテーション用資料に対し、良かった箇所や改善案を挙げる。</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に配布資料を行う場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>グループワークの進め方 【授業概要】 与えられたテーマに基づき、グループワークのプロセスを学ぶ。</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー分類、構造化 【教科書・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティアについて自信の考えを整理しておくこと。 【アクティブラーニングについて】 与えられたテーマに基づき、グループワークを行う。作業を役割分担し、各グループメンバーから出た意見をカテゴリー化し、構造化して発表資料を作成する。</p> <p>グループワークの進め方 【授業概要】 与えられたテーマに基づき、第13回でまとめた内容を発表し、グループ間で意見交換を行う。</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー化、構造化 【教科書・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に資料を配布する場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>学んだことの振り返り 【授業概要】 第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。</p> <p>【key words】 目標、ボランティア 【教科書・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に係る情報〕 A4クリアブック(40ポケット)を用意 〔受講のルール〕 積極的なボランティア活動の実践が前提である。 ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	各専攻担任より指示
評価方法	ポートフォリオ30%、授業内課題など40%、ボランティア参加30%
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006 尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解、サンクチュアリ出版、2010
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目の配置について】総合病院で作業療法士として13年務める中で、院内での接遇マナーインストラクター（株式会社ウィ・キャン）を取得し、接遇サービス向上の研修や啓発を行ってきた実務経験を活かし、医療従事者としての態度について実演・講演する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない
---------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
前島 俊孝			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生病序や病態について学び、理解することを目的とする。 〔到達目標〕 ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。 ・基本的な疾患の病態について説明できる。
------------	--

授業の概要	細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
---	--	--	--

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	第1回	オリエンテーション 解剖学、病理学病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明など。 (病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること)
	第2回	解剖学の復習 病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。 細胞増殖能からみた、各種細胞の特徴について学習し、様々な疾患との関連を意識する。(解剖学の教科書) 教科書(病理学): p.31
	第3回	病因 様々な疾患の原因について、また、細胞死に関する用語を理解する。教科書: p.27-31
	第4回	細胞傷害 細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。教科書: p.50-52教科書 p.27-52を読んでみる。 講義を受けることで、教科書を理解して読み込むことが可能となるはずである。月に2回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。
	第5回	循環障害 循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。教科書: p.65-71
	第6回	循環障害 循環障害に関する用語を理解し、説明できるようにする。 また、スライドで、循環障害性の疾患について学ぶ。教科書: p.65、71-75教科書 p.65-75「循環障害」について復習する。
	第7回	炎症 炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。教科書: p.76-87
	第8回	免疫、アレルギー 免疫機能、アレルギー反応について理解する。教科書: p.88-97教科書p.76-102を復習する。
	第9回	腫瘍 1 腫瘍の定義、分類について理解する。教科書: p.118-121
	第10回	腫瘍 2 腫瘍発生の原因や、転移様式を理解する。教科書: p.118-134
	第11回	腫瘍 3 腫瘍の診断、治療の流れを理解する。スライドを用いて、腫瘍の肉眼、顕微鏡像を観察する。教科書: p.118-134教科書p.116-132を復習する。
	第12回	代謝異常、糖尿病 代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。教科書: p.317-323

	<p>また、課題を与えるので、レポート作成に取り組む。</p> <p>第13回 先天異常 主な染色体異常、遺伝性疾患について学習する。教科書： p. 53-64</p> <p>第14回 感染症 特徴的な感染症をいくつか取り上げて、感染症について学習する。教科書： p. 97-100, 103-117, 201-205</p> <p>第15回 まとめ 補足、講義のまとめ、試験について</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に2回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。
オフィスアワー	講義の際に指示する。
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%
教科書	堤 寛：クイックマスター 病理学 第2版，サイオ出版，2018
参考書	解剖学の教科書（病理学概論の講義でも使用する）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>[到達目標] ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断においての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
------------	--

授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、骨 I：骨の基礎 配布される整形外科学チェックシートを参照授業の展開とその意義、チェックシートを使用した学習方法について解説する。 その後骨の発生、成長、構造について学習する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要配布される整形外科学チェックシートに従って、その日に行われる授業の重要事項を予めテキストで確認しておく（予習）。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中すること。授業後に、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。その後、適宜配布され</p> <p>第2回 骨 II：骨疾患、骨折総論① ・各種骨疾患の症状と特徴を学習。 ・骨折の分類と症状を学ぶプリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第3回 骨 III：骨折総論② 骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第4回 骨 IV：骨折各論① 体幹部の骨折 体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について解説プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第5回 骨 V：骨折各論② 上肢の骨折 ・上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について解説する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第6回 骨 VI：骨折各論③ 下肢の骨折 下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頸部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第7回 関節 I：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼 関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第8回 小テスト①（骨 I から VI までの範囲）、関節 II：変形性関節症総論 講義に先立ち、第1講から第6講までの内容（骨 I - VI）の小テストを実施する。その後変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を学ぶ。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
------	---

第9回	<p>関節 III：変形性関節症各論 変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第10回	<p>関節 IV：関節リウマチ 関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ADLを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第11回	<p>関節 V：外傷性疾患① 関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第12回	<p>関節 VI：外傷性疾患② 第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第13回	<p>小テスト②（関節IからVIまでの範囲）、脊椎 I：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患① 授業に先立ち、第7講から第12講までの範囲（関節Iから関節VIまで）に関する小テストを実施する。その後脊椎と脊髄の構造を理解した後・1次ニューロン障害、2次ニューロン障害について理解する。その後、脊椎疾患の代表である、頸椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第14回	<p>脊椎 II：脊椎疾患② 脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、リハビリテーションによる保存的治療で改善することに気付く。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第15回	<p>脊椎 III：脊椎疾患③ 側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。プリントによる授業、参照用にテキスト必要第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>コメントカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日の授業終了後の休憩時間。</p>
評価方法	<p>筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日</p>
教科書	<p>標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院、1年次で使用した、リハビリテーション医学（医歯薬出版）も適宜使用する</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。			
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行う小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳① 配布される神経内科学チェックシートを参照授業の展開とその意義、チェックシートを使用した学習方法について解説する。 その後、大脳の構造と機能について学習する。絵で見る脳と神経 p16 - 35配布される神経内科学チェックシートに従って、その日に行われる授業の重要事項を予めテキストで確認しておく（予習）。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中すること。授業後に、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。その後、適宜配布される過去の</p> <p>第2回 中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳 前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学ぶ絵で見る脳と神経 p35 - 43第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第3回 中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄 生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する絵で見る脳と神経 p44 - 56第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第4回 中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環 脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する絵で見る脳と神経 p57 - 68第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第5回 小テスト①（第1回から4回までの内容：20点満点）、障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア 授業に先立ち、第1講から第4講までの範囲の小テストを実施する。その後意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。絵で見る脳と神経 p70 - 94第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第6回 障害のメカニズム II 言語障害、認知症 高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。絵で見る脳と神経 p95 - 110第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第7回 小テスト②（第5、6回の内容：10点満点） 障害のメカニズム III 運動麻痺 運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。絵で見る脳と神経 p111 - 136第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第8回 障害のメカニズム IV 知覚障害 皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。絵で見る脳と神経 p137 - 156第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第9回 小テスト③（第7、8回の内容：10点満点） 障害のメカニズム V 脳神経障害① 脳神経障害（IからVI）の発症機序ならびにその症状について学習する。絵で見る脳と神経 p158 - 175第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第10回 障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害</p>			

	<p>脳神経障害（ⅦからⅩⅡ）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生部位とその症状を学ぶ。絵で見る脳と神経 p176-197第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第11回 小テスト④（第9、10回の内容：10点満点） 障害のメカニズム Ⅶ 小脳の障害 小脳障害の病態を学ぶ。絵で見る脳と神経 p199 - 202第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第12回 障害のメカニズム Ⅷ 排尿障害 授業に先立ち、小テスト②（第5から10回までの内容【30点満点】）を実施。その後排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。絵で見る脳と神経 p203 - 208第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第13回 障害のメカニズム Ⅸ 脳血管障害① 授業に先立ち、第11講から第12講までの範囲の小テストを実施する。その後高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。絵で見る脳と神経 p209 - 222第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第14回 障害のメカニズム Ⅹ 脳血管障害② 閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する絵で見る脳と神経 p222 - 230第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第15回 障害のメカニズム ? 脳脊髄液障害 脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。絵で見る脳と神経 p231 - 240第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（20点×1回+30点×1回=合計50点）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可
教科書	① JJNブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第3版 馬場元毅 著 医学書院（1年次の解剖学実習で使用したテキストである） ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎義昭 著 南山堂
参考書	授業中に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
諸川由実代、石関圭			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。 〔達成目標〕 ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。 ②現代社会とストレスおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。 ③“脆弱性—ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。 ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。 ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。 ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。 ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。 ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。			
授業の概要	理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類 教科書第1章・第2章 (P1~15)</p> <p>日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。</p> <p>第2回 精神機能の障害と精神症状 (1) 第3章 (P16~45) 精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。</p> <p>第3回 精神機能の障害と精神症状 (2) 第3章 (P16~45)</p> <p>精神機能の障害のうち、知覚、思考および感情の障害について学ぶ。</p> <p>第4回 精神障害の診断と評価 第4章 (P46~67)</p> <p>精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。 (WAIS、kohs 立方体テスト、HDS-R、BPRS、GAF、Hamilton うつ病評価尺度、WHO/QOL26など)</p> <p>第5回 脳器質性精神障害/てんかん 第5章 (P68~93)、第8章 (P114~124)</p> <p>・認知症の症状は、中核症状 (基本症状)、周辺症状があることを学ぶ。 ・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。 ・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。</p> <p>第6回 症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害 第6章 (P94~99)、第7章 (P100~113)</p>			

第7回	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要である。症状精神病の概念と主な症状精神病について学ぶ。 精神作用物質による精神および行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。 統合失調症およびその関連障害 第9章（P125～146）
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーションの重要性を認識する。 気分（感情）障害① 第10章（P147～161）
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。 気分（感情）障害② 第10章（P147～161）
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。 神経症性障害 第11章（P162～173）
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。 神経症性障害の治療について学ぶ。 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害 第12章（P174～178）、第13章（P179～185）
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。 睡眠障害の分類と症状について学ぶ。 パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学 第14章（P186～194）、第15章（P196～204）、第16章（P205～209）
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。 精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。 リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学 第17章（P210～212）、第18章（P213～228）
第14回	<ul style="list-style-type: none"> 心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。 ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。 精神障害の治療とリハビリテーション 第19章（P229～251）
第15回	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス 第20章（P252～270）、第21章（P271～277）
	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。 社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] 極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。 [受講のルール] 携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。
オフィスアワー	授業終了後20分対応可能
評価方法	出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。
教科書	上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学（第4版）. 医学書院, 2015
参考書	上島国利 立山万里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション

- | | |
|--|---|
| | <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない |
|--|---|

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>			
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。			
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、内科学の概念 症候学 I 内科学概論、診察法、臨床検査. 内科的治療内科学概論、診察法、臨床検査. 内科的治療について概説. P1-37講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第2回 症候学 II 内科領域の主要な症候について概説. P38-54講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第3回 循環器 I 循環器疾患の主要症候、診断法を概説. P55-70講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第4回 循環器 II 高血圧症、低血圧症、虚血性心疾患について概説. P70-78講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第5回 循環器 III 心筋疾患、心筋炎、弁膜症、先天性心疾患について概説. P78-83講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第6回 循環器 IV 心不全、不整脈、肺性心、大動脈疾患、末梢血管疾患、末梢静脈疾患について概説. P83-101講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第7回 呼吸器 I 呼吸器疾患の主要症候、診断法を概説. P102-112講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第8回 呼吸器 II 感染性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患について概説. P112-120講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第9回 呼吸器 III びまん性汎細気管支炎、気管支喘息、サルコイドーシス、拘束性肺疾患について概説. P121-127講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第10回 呼吸器 IV 肺腫瘍、肺循環障害、胸膜疾患、横隔膜疾患、異常呼吸、呼吸不全について概説. P127-141講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する.</p> <p>第11回 消化器 I</p>			

	<p>第12回 消化器疾患の主要症候，診断法を概説．P142-156講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する．</p> <p>消化器Ⅱ 口腔疾患，食道疾患，胃疾患について概説．P156-167講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する．</p> <p>第13回 肝 胆 膵 I 小腸・大腸疾患，肝胆膵疾患検査法について概説．P167-186講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する．</p> <p>第14回 肝 胆 膵 II 急性ウイルス性肝炎，劇症肝炎，慢性肝炎について概説．P186-191講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する．</p> <p>第15回 肝 胆 膵 III 肝硬変，肝癌，胆嚢炎，胆道癌，膵炎，膵癌，膵内分泌，腹膜炎について概説．P192-200講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する．</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学・作業療法士として活躍するために必要な内科および老年医学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞って学習する。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 血液 造血器 I 血液疾患の主要徴候、赤血球疾患血液疾患の主要徴候、赤血球疾患について概説。P201-213 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第2回 血液 造血器 II 白血球疾患、リンパ網内系疾患、M蛋白血症、出血性疾患、血栓性素因について概説。P213-227 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第3回 代謝 I 糖尿病、インスリンノーマについて概説。P228-245 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第4回 代謝 II、内分泌 I (総論) 脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風・高尿酸血症、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症・過剰症、糖原病について概説。P245-259 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第5回 内分泌 II (各論) 視床下部疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患について概説。P260-265 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第6回 内分泌 III (各論) 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について概説。P265-269 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第7回 腎、泌尿器 I 尿の異常、腎検査、腎不全、糸球体疾患について概説。P270-283 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第8回 腎、泌尿器 II 二次性腎障害、尿路疾患、腎泌尿器系腫瘍、前立腺疾患、電解質異常について概説。P283-296 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第9回 アレルギー疾患 気管支喘息、花粉症、アナフィラキシーショック、アレルギー、関節リウマチについて概説。P297-311 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第10回 膠原病 リウマチ熱、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症について概説。</p>
------	--

	<p>P310-316 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第11回 感染症 I 総論 免疫不全症、感染症総論について概説。P317-327 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第12回 感染症 II 各論 グラム陽性細菌、グラム陰性細菌、嫌気性細菌、ウイルス、真菌について概説。P327-339 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第13回 老年学 I (総論) 加齢、老化について概説。P1-78 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第14回 老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患) 高齢者に特徴的な症候と疾患について概説。P81-272 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p> <p>第15回 老年学 III (高齢者をとりまく環境) 高齢者をとりまく環境について概説。P275-334 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度は対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院 ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内 尉義 編集 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>		
授業の概要	<p>運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉
授業の到達目標	<p>1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。</p>	<p>2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。</p>	<p>3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。</p>
授業計画	<p>4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。</p>		
	<p>第1回 脊髄損傷 I 配布される整形外科学チェックシートを参照脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。配布するプリント + リハビリテーション医学 p237-240配布される整形外科学チェックシートに従って、その日に行われる授業の重要事項を予めテキストで確認しておく（予習）。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中すること。授業後に、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。その後、適宜配布される過去の国家試験問題を演習する。これで重要</p>		
	<p>第2回 脊髄損傷 II 脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。配布するプリント + リハビリテーション医学 p241-246第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第3回 脊髄損傷 III 脊髄損傷におけるリハビリテーションについて学ぶ。配布するプリント + リハビリテーション医学 p246-252、p195-203第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第4回 末梢神経 I 末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第5回 末梢神経 II 第4講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第6回 神経・筋疾患 脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、DVDにより目で見て確認する。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第7回 小テスト①（脊髄損傷IからIIIと末梢神経IからIIが範囲）、骨・軟部腫瘍 授業に先立ち、小テスト①（第1講から5講までの範囲、脊髄損傷、末梢神経）を実施する。その後、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第8回 四肢の循環障害と壊死性疾患 保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>		
	<p>第9回 切断および離断と義肢 I</p>		

第10回	・切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。配布するプリント + リハビリテーション医学 p280-302第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 切断および離断と義肢 II
第11回	切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。配布するプリント + リハビリテーション医学 p280-302第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 切断および離断と義肢 III
第12回	義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。実習室で義手、義肢の実物に触れながら、第10講と11講の重要点を再確認する。配布するプリント + リハビリテーション医学 p280-302第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 小テスト②(神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲)熱傷、手の外科
第13回	授業に先立ち、小テスト②(第6講から11講までの範囲、神経・筋疾患、骨・軟部腫瘍、四肢の循環障害と壊死性疾患、切断および離断と義肢)を実施する。その後、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。配布するプリント + リハビリテーション医学 p369-375第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 スポーツ外傷・障害 II
第15回	スポーツ障害の対処方法について学習する。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 整形外科的治療法
受講生に関わる情報および受講のルール	整形外科領域で行われる保存的治療から各種手術まで、適応と実際を学習する。1年間学習してきたことの総復習を兼ねる。配布するプリント + 参照用の教科書第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日
教科書	標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院、1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する
参考書	授業中に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。		
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行う小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。
	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。		
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児神経疾患 配布される神経内科学チェックシートを参照脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ神経内科学 第4版 p301-322配布される神経内科学チェックシートに従って、その日に行われる授業の重要事項を予めテキストで確認しておく（予習）。授業中は、重要事項を聞き漏らさぬよう集中すること。授業後に、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。その後、適宜配布される過去の国家試験問題を演習する。これで</p> <p>第2回 てんかん 小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ神経内科学 第4版 p291-293第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第3回 筋疾患 筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。神経内科学 第4版 p274-286第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第4回 脳腫瘍、外傷性脳損傷 脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。神経内科学 第4版 p214-225第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第5回 小テスト ①（第1回から4回までの内容）、脳血管障害① 脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。神経内科学 第4版 p167-181第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第6回 脳血管障害② 脳血管障害のリハビリテーションについて学ぶ。神経内科学 第4版 p181-196第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第7回 小テスト ②（第5、6回の内容）、認知症 授業に先立ち、第5講から第6講までの範囲の小テスト（30点満点）を行う。その後、認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。神経内科学 第4版 p197-213第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第8回 変性疾患、脱髄疾患 Parkinson病（症候群）と脱髄疾患について学ぶ。神経内科学 第4版 p241-261第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第9回 小テスト ③（第7、8回の内容） 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患 髄膜炎、脳炎を代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。神経内科学 第4版 p287-300第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第10回 脊髄疾患、末梢神経疾患 脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。神経内</p>		

	<p>科学 第4版 P226-P240、P262-P270第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第11回 小テスト ④ (第9, 10回の内容) 廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性功能障害 神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性功能障害について学ぶ。神経内科学 第4版 p323-345第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第12回 高次脳機能障害 (失認、失行、注意障害、遂行機能障害) 授業に先立ち、第7講から第11講までの範囲の小テスト (20点満点) を行う。その後、高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。神経内科学 第4版 p103-131第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第13回 脳神経外科領域の疾患 (頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状)、構音障害、嚥下障害 高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。神経内科学 第4版 p132-146第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第14回 小テスト ⑤ (第11, 12, 13, 回の内容) 総復習① 神経診断技術から診る神経疾患① はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患 (頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状) についても学習する。神経内科学 第4版 p147-166第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>第15回 総復習② 神経診断技術から診る神経疾患② 神経診断学的手法を復習し、そこから得られる情報をもとに考えられる疾患について学ぶベッドサイド神経の診かた 第17版第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと (予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う (復習)。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験 (前期講義の全範囲) で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50% (10点×5回)、期末テストの点数に50% (50点) の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定 (CまたはD評価)
教科書	① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第3版 川平和美 編集 医学書院 ② ベッドサイド神経の診かた第17版 田崎義昭 著 南山堂
参考書	授業中に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/> デイスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じるような様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。②先天異常と遺伝病の概要と各疾患</p>
------------	--

授業の概要	<p>物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達 Scamonの成長曲線、原始反射、発達診断小児科学の授業の展開と重要事項チェックシートを用いた学習方法を解説。その後、小児の発達（身長・体重・脳重量）と発達と各種運動反射について解説する。p1 - 13重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第2回 小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要 小児の離乳までの過程、小児保健の重要事項、について解説。また小児におこりやすい、発熱や痙攣などの対処法を学習する。p14 - 36 重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第3回 新生児・未熟児疾患 Ⅰ 新生児の評価と問題の把握について解説p37 - 43重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第4回 新生児・未熟児疾患 Ⅱ 新生児の呼吸全身所見と神経学的所見を学習する。その後、代表的中枢神経障害とその疾患について学習。p43 - 56重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第5回 先天異常と遺伝病 ・先天異常と遺伝のメカニズム、頻度の高い遺伝病、染色体異常について、その遺伝形式、代表的症状について学習する。p57 - 75重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第6回 神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患 中枢神経疾患の診断方法、代表的疾患の病態、症状などを学習する。p76 - 94重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第7回 小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん 小テスト①（第1回から5回までの内容）を行う。 その後、てんかんについてのDVDを供覧する。難解な用語や症状を、目でみて理解する。併せて、抗てんかん薬の副作用についても学習する、p94 -98 + プリント重要事項チェックシートによる予習、復習</p> <p>第8回 神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺 脳性麻痺の診断から発育、発達の過程をDVDにて学習。聞きなれない、なじみのない用語を、目で見て学習する。発育の過程でおこる様々な問題について、どう対処してゆくかを考えてゆく。p98 - 101 + リハビリテーション医学 p376 -380重要事項チェックシートによる予習、復習</p>
------	---

第9回	神経・筋・骨系疾患 IV 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患 知的障害、精神遅滞、の定義、指標を知り、近年、学童教育の現場で問題となっている発達障害（多動症候群、学習障害、Asperger症候群、）を学ぶ。頻度は少ないものの、臨床的に重要な、筋ジストロフィーについても学習する。p101 - 117 + リハビリテーション医学 p381 - 384重要事項 チェックシートによる予習、復習
第10回	循環器疾患 胎児期から出生にあたっての血液循環の変化を学習したのち、代表的な先天性心疾患（VSD、ファロー四徴症）について学習する。川崎病については、問題となる合併症を理解する。p118 - 128 重要事項チェックシートによる予習、復習
第11回	小テスト②（第6階から第9回までの範囲） 呼吸器疾患、 感染症 まず 小テスト②（第5回から9回の範囲）を実施する。その後、乳幼児、学童期の呼吸器疾患と、感染症について学習する。p129 - 151重要事項チェックシートによる予習、復習
第12回	消化器疾患、代謝内分泌疾患 消化器疾患については、年齢ごとにつきやすい疾患を理解し、外科的対処方法を学習する。発達、発育障害をきたす大きな原因となる内分泌代謝疾患については、早期発見のための注意点と対処法について学習する。p152 - 172重要事項チェックシートによる予習、復習
第13回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病 多能性造血幹細胞から、各血球への分化を理解した後、貧血、白血病、出血性疾患を学習する。1年生で学んだ、免疫システムを再復習した後、アレルギー疾患（特にI型アレルギー）や自己免疫疾患を学習する。p173 - 191重要事項チェックシートによる予習、復習
第14回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患 小児に特徴的な、腎疾患、生殖器疾患、腫瘍を学習する。p192 - 200重要事項チェックシートによる予習、復習
第15回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患 習癖、睡眠関連障害、心身医学的疾患を学び、その背後にあるものを感じ取るセンスを学ぶ。虐待の気づき、気づいた時の行動を学習する。重症心身障害児については、その定義と特有の問題を学ぶ。最後に、幼児期、学童期に注意すべき眼科的、耳鼻科的疾患を知る。p201 - 221重要事項チェックシートによる予習、復習
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日
教科書	標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 編集 富田 豊 医学書院 （第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。
参考書	授業中に適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美・小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。 ②運動が循環器系に与える影響を説明できる。 ③運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。</p>
授業の概要	運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係

◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 【key word】 講義の受け方、オリエンテーション、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に関するプレゼンテーションを実施する。</p> <p>【事前課題】 課題タイトル：運動に対する生理反応を理解することがリハビリテーションを実践するセラピストにとって重要である理由 【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド6枚以内にまとめる（うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名）。 発表時間は1人当たり1分間とする。 作成したスライドはUSBに保存して、当日持参すること。</p> <p>第2回 運動と循環① 【key word】 循環系の構造、心周期</p> <p>【授業概要】 ①循環系の構造を理解する。 ②心周期について理解する。</p> <p>【小テスト】 循環に関連する領域について、記述式で出題する。</p> <p>【教科書・参考図書】 ・リハビリテーション運動生理学 P54～91 ・入門運動生理学 P44～50</p> <p>第3回 運動と循環② 【key word】 心周期、心拍出量</p> <p>【授業概要】 ①心周期について理解する。 ②一回拍出量、心拍数、心拍出量、フランクスターリングの法則を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについてそれぞれ学習しなさい。</p>
------	--

第4回	<p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション運動生理学 P54～91 ・入門運動生理学 P44～50 <p>運動と循環③</p> <p>【key word】</p> <p>血圧、血圧調節</p> <p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①血圧の定義を理解する。 ②血圧を調節する機構を理解する。 ③演習を通して血圧測定を理解する。 <p>【事前学習】</p> <p>key wordについてそれぞれ学習しなさい。</p>
第5回	<p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション運動生理学 P54～91 ・入門運動生理学 P44～50 <p>運動と循環④</p> <p>【key word】</p> <p>運動時の血流分配、漸増運動負荷時の変化、最大酸素摂取量を規定する因子</p> <p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①安静時と運動時の血流分配を理解する。 ②漸増運動負荷時の変化を理解する。 ③最大酸素摂取量を規定する因子を理解する。 <p>【小テスト】</p> <p>2年次までに学習した循環に関連する領域について、国試形式で出題する。</p>
第6回	<p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション運動生理学 P54～91 ・入門運動生理学 P44～50 <p>運動と呼吸①</p> <p>【key word】</p> <p>呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換</p> <p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸器系の構造を理解する。 ②呼吸運動、ガス交換を理解する。 <p>【小テスト】</p> <p>2年次までに学習した呼吸に関連する領域について、穴埋め形式で出題する。</p>
第7回	<p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門運動生理学 P51～64 ・リハビリテーション運動生理学 P18～53 ・1年時に学習した解剖学・生理学・運動学の教科書 ・クエスチョンバンク など <p>運動と呼吸②</p> <p>【key word】</p> <p>酸塩基平衡、酸素解離曲線、スパイロメトリー</p> <p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①酸塩基平衡、酸素解離曲線を理解する。 ②呼吸機能検査を理解する。 <p>【事前課題】</p> <p>「酸素解離曲線」を調べ、A4用紙2枚以内に手書きでまとめなさい。 使用する図表等があれば、その部分は引用元のコピーした資料を貼付しても構わない。</p>
第8回	<p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション運動生理学 P18～53 ・1年時に学習した生理学の教科書 ・その他書籍 <p>運動と呼吸③</p> <p>【key word】</p> <p>呼吸商、酸素摂取量、酸素負債量、無酸素性作業閾値</p> <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸商、酸素摂取量、酸素負債量、無酸素性作業閾値を理解する。 ②運動が呼吸器系に与える影響を理解する。 <p>【事前課題】</p> <p>key wordについてそれぞれ調べ、A4用紙に手書きでまとめなさい。 枚数制限はなし。 使用する図表等があれば、その部分は引用元のコピーした資料を貼付しても構わない。</p> <p>【教科書・参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション運動生理学 P18～53 ・入門運動生理学 P51～64

第9回	<p>運動負荷試験 【key word】 運動負荷試験</p> <p>【授業概要】 ①運動負荷試験の目的を理解する。 ②運動負荷試験の方法を理解する。 ③心肺運動負荷試験を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて学習しなさい。</p>
第10回	<p>運動とエネルギー 【key word】 代謝、エネルギー供給機構、運動</p> <p>【授業概要】 ①エネルギー代謝とは何かを理解する。 ②運動が代謝機能にもたらす効果を理解する。</p> <p>【事前課題】 3種類の「エネルギー供給機構」を調べ、A4用紙2枚以内に手書きでまとめなさい。 使用する図表等があれば、その部分は引用元のコピーした資料を貼付しても構わない。</p>
第11回	<p>運動と筋力 【key word】 筋線維、筋収縮、運動</p> <p>【授業概要】 ①筋線維の種類と組成について理解する。 ②筋の収縮様式と各収縮様式の特徴を理解する。 ③運動による筋線維組成や筋力の変化を理解する。</p> <p>【小テスト】 生理学、運動学の領域から「筋」について国試形式で出題する。 過去の国家試験問題を勉強すること。</p>
第12回	<p>運動とホルモン 【key word】 ホルモン、漸増運動負荷時の変化、最大酸素摂取量を規定する因子</p> <p>【授業概要】 ①ホルモンの種類を理解する。 ②ホルモン分泌の調節を理解する。 ③身体活動に関与するホルモンの作用を理解する。</p> <p>【小テスト】 内分泌に関連する領域について、国試形式で出題する。</p>
第13回	<p>運動処方 【key word】 運動強度、運動処方</p> <p>【授業概要】 ①運動処方を理解する。 ②運動強度の表し方、計算方法を理解する。</p> <p>【事前学習】 key wordについて学習しなさい。</p>
第14回	<p>【教科書・参考図書】 ・リハビリテーション運動生理学 P234～242 ・入門運動生理学 P158～171</p> <p>グループ課題発表準備 講義時に班分けを発表する。 テーマは下記とする。</p> <p>①心肺運動負荷試験の目的、心大血管疾患理学療法診療ガイドラインにおける理学療法（評価）では運動耐容能に関する指標・推奨グレードが意味すること</p> <p>②（心肺）運動負荷試験の目的と禁忌</p>

	<p>③6分間歩行試験の測定方法、6分間歩行距離の基準値の算出方法</p> <p>④心肺運動負荷試験で使用する機器と負荷様式の比較</p> <p>⑤呼気ガス分析装置の基本的測定項目（一回換気量、呼吸数、酸素濃度、二酸化炭素濃度、分時換気量、酸素摂取量、二酸化炭素排出量）の意味</p> <p>⑥各種検査における診療報酬点数と注意事項（スパイログラフィー等検査、トレッドミルによる負荷心肺機能検査、シャトルウォーキングテスト）</p> <p>⑦嫌気性代謝閾値を基準にした運動療法が勧められる生理学的根拠</p> <p>⑧循環器病の診断と治療に関するガイドライン心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2012年改訂版）で示される、慢性心不全に対する運動療法の効果の生理学的機序（左室機能・冠循環・自律神経機能・換気応答に関して）</p> <p>グループ課題発表</p> <p>【発表方法】</p> <p>①パワーポイントを用いてスライド10枚以内にまとめる。</p> <p>②各班の発表時間は4分、質疑応答は4分とする。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <p>講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は注意すること。演習を行う際は、大学指定体操着着用とし、臨床実習に準じた身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。）</p> <p>受講のルール</p> <p>①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。</p> <p>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p> <p>③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。</p> <p>②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておく（20分程度）。</p> <p>③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。</p> <p>④グループ課題の発表に向けての準備のため①～③以外にも時間外学習が必要となる。</p>
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	小テスト10%、課題10%、課題発表20%、筆記試験60% 60%以上であることが前提となる。総合評価は筆記試験が
教科書	勝田 茂・編著：入門運動生理学第4版、杏林書院
参考書	玉木 彰・監修：リハビリテーション運動生理学、メジカルニュー社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。			
授業の概要	総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「ディベート」をグループワーク等を通して身につけていく。			
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項				
	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討することができる。
授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／学長講話および建学の精神について シラバス、ポートフォリオ、学士力シラバスの説明、成績の評価基準、大学生における学士力について理解する。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第2回 学習統合プログラム①：セルフマネジメント・セルフコントロール① セルフマネジメント・セルフコントロールの概要を学び、他者に説明できるようにする。医療（リハビリ）を学ぶ大学生にとって有益と思われる、1日の過ごし方を各自で考える。配布した資料ポートフォリオ作成</p> <p>第3回 学習統合プログラム②：セルフマネジメント・セルフコントロール② 利他的な言動・利己的な言動について、各自で説明できるようにする。医療（リハビリ）を学ぶ大学生にとって有益と思われる、1年の過ごし方を各自でディスカッションをし考える。配布した資料ポートフォリオ作成 レポート課題（1回目）の提出</p> <p>第4回 学習統合プログラム③：リベラルアーツ（応用編） リベラルアーツについて学び、他者に説明できるようにする。「なぜ勉強するのか？」の問いに対する答えを各自でグループワーク、ディスカッションを行う。「一流の人とはどのような人ですか？」の問いに対する答えを各自で検討できる。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第5回 学習統合プログラム④：問題解決スキル① 問題解決のフレームワークの概要を学び、説明できるようにする。「感謝」と「謝罪」の意義についてグループワークをしながら考える。「成功体験」と「失敗体験」の功罪について考える。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第6回 学習統合プログラム⑤：問題解決スキル② 問題解決のフレームワークの概要を学び、実践できるようにする。「どのような相談が良い相談か？」の問いに対する答えを各自で検討できる。「解決できそうにない問題に直面した場合はどのように行動するべきか？」の問いに対する答えをグループで検討できる。配布資料ポートフォリオ作成 レポート課題（2回目）の提出</p> <p>第7回 学習統合プログラム⑥：学士力と問題解決、ディベートに向けて～学びと探求～ 学士力とは何かを改めて考えるとともに、建学の精神を踏まえて、自分たちの専門性をどの様に地域社会に活かしていくべきか。そのために、現時点で自分たちが行うべきことは何か？次回以降で実施するディベートに向けて基本的な学びの姿勢について改めて考える。配布資料ポートフォリオ作成 次回のディベートに向けて準備を進める。</p> <p>第8回 学習統合プログラム⑦：ディベート① 配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第9回 学習統合プログラム⑧：ディベート② いくつかの与えられたテーマを基に、専攻混合のグループに分かれてディベートを行う。ディベートを通して様々な立場で物事を考え、議論することの重要性を認識する。テーマについては、随時こちらで紹介をする。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第10回 進路・資格取得プログラム①：救急救命について（心肺蘇生法、AEDの方法について） 救急救命の目的とその意義について学ぶ配布資料ポートフォリオ作成</p>			

	<p>第11回 進路・資格取得プログラム②：救急救命について（心肺蘇生法、AEDの方法について） 救急救命の目的とその意義について学ぶ配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第12回 進路・資格取得プログラム③：就職活動の準備～①就職説明会に向けて 在住地域の病院や施設を調べる。就職説明会に参加する病院・施設の特徴を調べ準備する。配布資料ポートフォリオ作成 次回の発表に向けて準備を進める。</p> <p>第13回 学習統合プログラム⑨：発表① 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループでまとめたものをプレゼンテーションする。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第14回 学習統合プログラム⑩：発表② 大学生における学び、学士力とは。将来社会に貢献できる人材として活躍するために必要なこと、そのために今自分がすべきこととはにか？ 専攻混合グループでまとめたものをプレゼンテーションする。配布資料ポートフォリオ作成</p> <p>第15回 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ これまでの授業の振り返り配布資料全てのポートフォリオ提出 レポート課題（3回目）の提出</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	グループワークが多いので休まないこと。 ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。 NPO法人 日本未来問題解決プログラム F P S P問題解決力検定 受験料3000円
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	木曜日の授業間の休憩時間。その時間以外は要予約。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■レポート60% ■授業内発表40%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員 による授業科目/ア クティブ・ラーニン グ	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神を持つ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。</p> <p>〔到達目標〕 ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。 ②社会人としてのマナーを身につける。</p>
授業の概要	総合演習Ⅱでは、進路・資格取得プログラムとして、目前に迫る就職と資格取得における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り、自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。	2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。	3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。	4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。
①	△	△	◎	
②	△	△	◎	

授業計画	第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について 授業の流れと建学の精神について説明を行う。 課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。
	第2回	進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ 就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。
	第3回	進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座① 就職活動に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。
	第4回	進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座② 就職活動に必要な社会人としてのマナーを学ぶ。
	第5回	進路・資格取得プログラム④：求人票の見方 求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見定める。 気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。
	第6回	進路・資格取得プログラム⑤：情報収集① 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
	第7回	進路・資格取得プログラム⑦：自己分析① 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
	第8回	進路・資格取得プログラム⑦：自己分析① 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
	第9回	進路・資格取得プログラム⑧：自己分析② 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
	第10回	進路・資格取得プログラム⑨：履歴書① 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
	第11回	進路・資格取得プログラム⑩：履歴書② 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
	第12回	進路・資格取得プログラム⑪：面接① 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。
	第13回	進路・資格取得プログラム⑫：面接② 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。
	第14回	進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ (国家試験編) 卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもら

	<p>第15回 進路・資格取得プログラム⑭：まとめ これまでの振り返りとポートフォリオを用いた自己評価を行う。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 教室指定をしますので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。</p> <p>[受講のルール] 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	ポートフォリオ100%
教科書	進路の手引き
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。特に、多職種連携などの人材マネジメントを得意としている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない